2018年6月号（毎月20日発売）5月19日発売
第19巻 第6号 通巻213号

今年の夏は夜の撮影に挑戦してみませんか？

デジタルカメラマガジン

6 2018 June



［特集1］
テクニック・スポット・アイテムで夏の夜を完全攻略

真夏の夜の撮影大全99

総力48ページ

［特集2］
いま話題のアイテムを分かりやすく解説

はじめてのハーフND活用術

［対談］

富士山に魅せられた2人のアマチュアフォトグラファー

橋向 真×成瀬 亮

CONTENTS 1

デジタルカメラマガジン
2018年6月号（毎月20日発売）
5月20日発売
「デジタルカメラマガジンWeb」https://digitalcamera.impress.co.jp/
表紙撮影•中原一雄　商品撮影•加藤丈博
表紙デザイン•平岡和之（ビーワークス）

CONTENTS 2

6 2018 June

2018年6月号（毎月20日発売）
5月20日発売

TECHNIQUE

NEW PRODUCT REVIEW

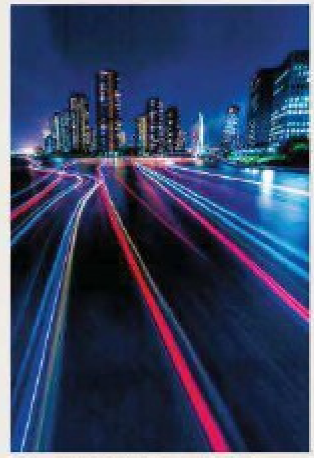
連載

多相航路

COVER

中原一雄（なかはら かずお）

1982年、北海道生まれ。化学メーカー勤務を経て写真の道へ。バンタンデザイン研究所フォトグラフィ専攻卒業。広告写真撮影のほかワークショップやセミナー講師として活動。写真情報サイトstudio9を主宰。近著に『写真のことが全部わかる本』（インプレス）などがある



キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／EF16-35mm F2.8L Ⅲ USM／21mm／マニュアル露出（F18、300秒）／ISO 160／WB：オート／撮影地：隅田川（東京都）

隅田川をゆく屋形船の色とりどりの航跡を写すためにNDフィルター使って5分間長時間露光させた。画面内のどこに船が通るか、何艘通るかは運次第。何度も同じ場所に通ってようやくイメージ通り、全体のバランスが良い1枚が撮れた。肉眼では一艘の屋形船が進んでいるシーンとしか認識できないが、カメラを使えば露出の長さの分だけ目の前に見える多くの表情を1枚に閉じ込めることができるのだ。

撮影情報の読み方 本誌の撮影情報は項目名を省略して以下の順番で記載しています。
カメラ名／レンズ名／焦点距離（35mm判換算）／露出モード（絞り、シャッター速度、露出補正）／ISO感度／ホワイトバランス／記録モード／撮影地

※本誌での実勢価格は、2018年5月上旬にすべて編集部で独自調査したものです。標準価格、実勢価格、定価など価格表記については特に断りのない限り、すべて税込の価格になっています。©®™など商標は省略しています。

Canon 写真家2人がいま一番お気に入りのEFレンズで撮る

EF LENS. Technics

vol.03



90 million EOS 130 million EF

EOSは2017年9月20日に累計生産台数9,000万台、EFレンズは2017年10月12日に累計生産本数1億3,000万本を達成しました。



原 朋士

Tomoshi Hara

Profile

東京都出身。2009年鈴鹿サーキットで行われるイベントに向かう途中で見た四日市コンビナートの光景に魅せられ、工場夜景をメインに写真を始める。ドラマチックかつ幻想的に表現することをテーマにしてRAW現像、HDR処理、レタッチ加工などのポストプロセッシングに興味を持ち、現在に至る。夜景の撮影をメインとしながらも建築写真やミニマル・アートなど、幅広く写真を楽しんでいる。2012年東京カメラ部10選

① キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm／絞り優先AE(F2.8、1/400秒、−0.3EV)／ISO 100／WB：オート

横浜みなとみらいをミニチュア風に撮影。＋8.5°ティルトして画面上部をぼかす。開放F2.8でありながらピント面の解像は申し分ない。緩やかにぼけていくファンタジックな描写が得られた

③ キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm／絞り優先AE(F4.5、2.5秒、−0.3EV)／ISO 100／WB：オート

車両にピントを合わせて＋8.5°ティルト。ある程度の被写界深度が欲しかったのでF4.5とした。50mmの標準域だと架線や線路が圧縮されてしまうが、ティルトすることで主題を際立たせた

② キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm／絞り優先AE(F2.8、1秒、−0.3EV)／ISO 100／WB：オート

マジックアワーに横浜の高層ビル群を−8.5°ティルト。ピントを合わせた画面右上の横浜卸売市場は浮き立ち、手前のビル群の玉ボケの滑らかさと相まって柔らかな印象の夜景となった

④ キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm／絞り優先AE(F16、6秒、−0.3EV)／ISO 200／WB：オート

夕暮れどきのビル群を＋10mmライズ方向にシフトして撮影。撮影後にデジタル補正をすれば周辺の描写は甘くなるが、このレンズなら水平垂直を保ちつつ周辺の描写もしっかりしている



1



2

3



4




5

Profile

1983年、東京都生まれ。人物写真、ポートレートを中心に広告や雑誌、企業のビジネス写真で活動中。自然光ポートレート、撮影テクニックやライティング、RAW現像とレタッチなど、セミナー登壇や書籍執筆などで活動中。自分が写真を学ぶにあたり、独学で苦労した思い出があるため、共有知をテーマにSNS時代のフォトグラファー世代に向けた「WEBマガジン ヒーコ」https://xico.media/ を立ち上げた。https://artratio.net/

黒田明臣

Akiomi Kuroda



⑤ キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm／マニュアル露出（F2.8、1/1,250秒）／ISO 200／WB：オート

夕日によるオレンジ色の光が顔の輪郭を照らしていた。服を大胆にぼかせばその様子はより強調できる。目元のみにピントが合うように＋8.5°ティルトして大きくぼかす。夕暮れ時の微妙な空の階調を美しく再現してくれた

⑥ キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm／マニュアル露出（F2.8、1/800秒）／ISO 200／WB：オート

最大の－8.5°ティルトして画面の中心部分のみピントが合うように被写界深度をコントロールした。広い風景の中でモデルがミニチュアのように見える効果を狙った。緑と空の発色が良く、レンズとしての基本性能がとても高い

⑦ キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm／マニュアル露出（F2.8、1/400秒）／ISO 200／WB：オート

真俯瞰での撮影でボケを演出することは難しいが、このレンズならそれもたやすい。瞳にピントを合わせてから－8.5°ティルトし、＋12mmライズ。同じ撮影距離でもぼけている部分とシャープな部分が発生している

モデル●SHO-NO


6


7

無限に広がる表現領域は静物撮影だけにとどまらない

TS-E50mm F2.8L マクロ

希望小売価格
315,000円（ケース・フード付き、税別）

SPECIFICATION

- レンズ構成：9群12枚
- 絞り羽根枚数：9枚（円形絞り）
- 最短撮影距離：0.273m
- 最大撮影倍率：0.5倍
- フィルター径：φ77mm
- ティルト角度：±8.5°
- シフト移動量：±12mm
- 最大径×全長：約φ86.9×114.9mm
- 質量：約945g





HARA's technics

被写界深度のコントロールが イメージ優先のランドスケープ表現を可能にした

Technic 01

開放F値のボケをティルトで倍増

F2.8と最大ティルトで 玉ボケを敷き詰める

明るいF値とティルトによって被写界深度を極端に浅くすれば夜景のアクセントとなる玉ボケを大きく強調することができる。なるべく手前に点光源がたくさん入る撮影ポジションを探し、F値は開放のF2.8にして遠景にピントを合わせた。手前に向かって大きくぼけるようティルト角度は－8.5°にしている。より多くの点光源が玉ボケになるように一番左奥に位置する建物にピントを合わせている。



キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm／絞り優先AE（F2.8、1秒、－0.3EV）／ISO 100／WB：オート



開放F値でもティルトしない場合の玉ボケは小さい。ティルトして玉ボケをさらにぼかすことが大切



下方向に最大にティルト。ティルトつまみは大きくて操作しやすい

Technic 02

上すぼまりになるパースを垂直に

シフト機能を使って 建物のゆがみを矯正

一般的なレンズを使って高いビルなどの建築物を撮影する場合、下からあおって撮影するため、上すぼまりにその形は強調されて本来の形どおりに描写することが難しい。そのゆがみを矯正するためには、シフト機能を使う。周辺の建物の水平と垂直が出るように三脚をセットし、建物全体がフレームに入るようにライズ方向に＋10mmにシフト。F11まで絞っているため周辺の描写も申し分なく、ゆがみもしっかりと矯正されている。



キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm／絞り優先AE（F11、1/320秒、－0.3EV）／ISO 100／WB：オート



シフト機能を使わないと、上にいくにつれて建物はすぼまって行き、本来の形とは違うものになってしまう



シフトつまみを回してシフト量を調整する。ここでは＋10mmライズした

Technic 03

ミニチュア写真を撮る方法

ティルトを最大にして ミニチュア写真を撮る

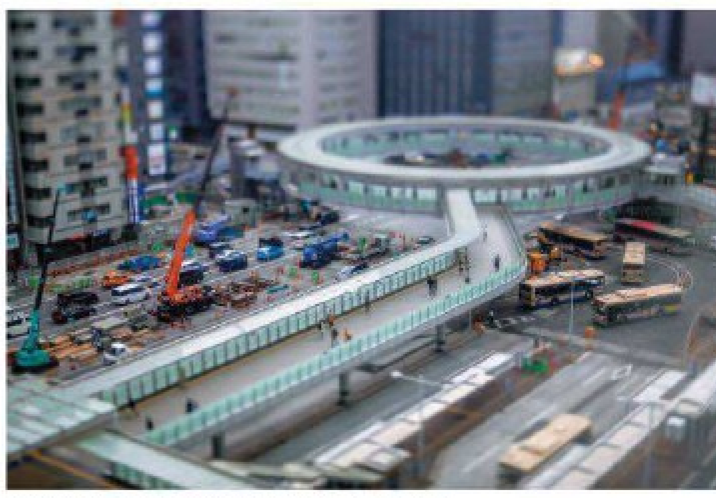
ミニチュア風の写真を撮るためのポイントは、撮影する景色を見下ろすような高い場所から撮影すること。そして極端に浅い被写界深度で、画面の前方と後方を大きくぼかすことだ。特に前方が大胆にぼけているとその効果は高い。レンズを思い切りティルト（－8.5°）して、特に強調したい部分にピントを合わせた。右の写真のように、建築物や道路などが斜めにラインを作る構図にするとミニチュアらしさが出る。さらに、カメラの設定で彩度を上げるとよりミニチュア効果が強調できる。



ティルトしないと開放F値でもボケ量が少なくなってしまって、ミニチュアのようには見えない



三脚にカメラを据えて撮影。構図を決めたら被写界深度のラインをティルトする角度で調整する



キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm／絞り優先AE（F2.8、1/500秒、－0.7EV）／ISO 100／WB：オート

Technic 04

見せたいものだけを浮かび上がらせる

前ボケの量を増やすために ティルトして両サイドをぼかす

モデルのすぐ後ろには生け垣が広がっていた。このようなシーンでは、背景からモデルを浮かび上がらせようと開放F値で撮影しても、通常は手前のボケ量が甘くなって中途半端な描写になりがちだが、ティルトシフトレンズであればボケ量をコントロールすることができる。＋8.5°ティルトしてモデルの両サイドにある生け垣をぼかした。この大きなボケはモデルへの視線誘導を狙っている。背景となる奥にある榎や葉の間から見える建物の壁も認識しにくくなっているのは狙いどおり。



キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ ／ TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm ／マニュアル露出（F2.8、1/500秒）／ ISO 200 ／ WB：オート





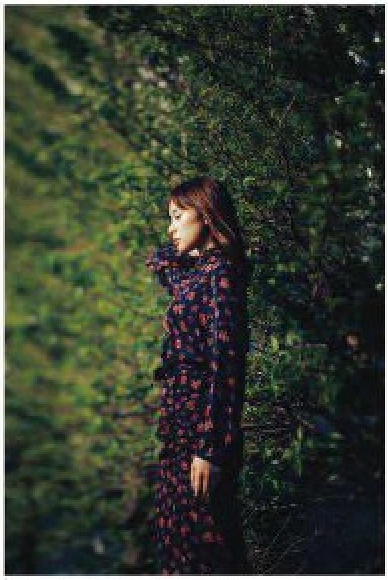
背景のコンクリートは土手になっているため、傾斜がある。モデルは寄りかかっている状態だ



ティルトせずにモデルにピントを合わせれば、奥の葉が一様にぼける



モデルとの距離は2mほど。モデルのすぐ後ろには生け垣があった。開放F値でもボケを大きくするのは難しい状況



キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ ／ TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm ／マニュアル露出（F2.8、1/4,000秒）／ ISO 200 ／ WB：オート

Technic 05

瞳の強さを生かしたポートレート

ティルトと開放F2.8で 被写界深度を自在に調整する

ティルトシフトレンズは垂直や平行方向だけではなく、自在に被写界深度をコントロールできる点がメリットだ。その上このレンズの最短撮影距離は0.273mと、かなり寄れるマクロ性能を持っている。上の表情に迫った写真ではシャープに描写された瞳の解像感を生かしながらそれ以外はぼかして目ヂカラを表現。ライズ方向に12mmシフトして、ティルトを最大の＋8.5°に調整し、顔を被写界深度内に収めた。

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ ／ TS-E50mm F2.8L マクロ／50mm ／マニュアル露出（F2.8、1/800秒）／ ISO 200 ／ WB：オート

Technic 06

シンプルな背景に立体感を作る

8.5°最大にティルトして 画面の上下を大きくぼかす

ゆったりと流れる川面を背景にして引きで撮影したカット。F2.8の開放にしても水面がはっきり描写されてしまう撮影距離だった。そこでティルトを最大の＋8.5°にして画面の上下を大きくぼかすことで立体感を作った。このように背景が壁や水面のような同一のものとなるシーンはミニマルでフラットな描写になりがちだが、ボケとシャープのリズムは立体感につながる。画像編集ソフトでぼかしたのとは違う上質なボケで構成できるのがうれしい。



ティルトしないと奥に向かってなだらかにぼける。ティルトした写真に比べてボケの印象は弱い



このレンズはMFなのでライブビュー機能を使用。拡大表示で瞳がシャープになるように調整



KURODA's technics

自在に調整できるボケとシャープのリズムが ポートレートに魅力的な立体感を吹き込む



Presented by **Nikon D500**

The Wings of Icarus
イカロスの翼

WINGS 24 ［最終回］百里基地

中野耕志 Koji Nakano





ニコン D500／ AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR ／500mm（750mm相当）／マニュアル露出（F8、1/1,500秒）／ISO 200 ／ WB：晴天

百里基地のランウェイ21Rに着陸する第302飛行隊のF-4EJ改ファントムII。百里基地の滑走路は2本あり、自衛隊機は主に東側を使うが、稀に西側に着陸することもある。この西側滑走路は外柵から近く、F-4を至近距離から撮影できる。F-4の側面型がフルサイズ機で135mm程度で収まるという近さだが、迫力を出すため750mm相当で接地の瞬間を撮影した。午後遅くの斜光線が機体表面の長年の汚れを強調して老兵の貫禄を炙り出した

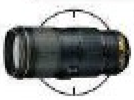




ニコン D500／AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR+TC-14E Ⅲ／700mm（1,050mm相当）／マニュアル露出（F5.6、1/750秒）／ISO 400／WB：晴天

夕日を浴びて離陸するRF-4E。RF-4は偵察型で機首にフィルム使用の各種偵察機材を内装している。離着陸時などで飛行機が地表付近にいるときの撮影では、日中は陽炎で解像しないので気温の上昇が収まる午後遅くに狙うと良い





ニコン D500／AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED VR+TC-14E Ⅲ／260mm（390mm相当）／マニュアル露出（F8、3秒）／ISO 400／WB：晴天

夜間訓練に向かう第301飛行隊のF-4EJ改。滑走路にラインアップしてから離陸滑走までの限られた時間帯の中、3秒という長秒で撮影した。機体と背景の明るさのバランスが良いのは日没後約30分だ





ニコン D500／AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR／500mm（750mm相当）／マニュアル露出（F4.8、1/2,000秒）／ISO 200／WB：晴天

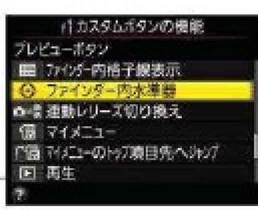
大きなバンクで旋回上昇するF-4EJ改。翼上面に発生したベイパー（水蒸気）が激しい機動を物語る。戦闘機撮影ではフルサイズ機＋500mm f/4＋1.4倍テレコンで700mm f/5.6とするより、D500+500mm f/4を組み合わせて750mm f/4相当の方が使いやすい

Nikon D500 TECHNICAL GUIDE

離着陸を撮影するときに便利なファインダー内水準器

超望遠レンズを手持ちで撮影する場合、機影をファインダー内に収めることで精一杯になり、意図せずカメラが傾いてしまうことが多々ある。特に離着陸シーンでは飛行機が機首上げ状態となり、その飛行機のピッチアップに合わせてカメラを傾けてしまい地面が斜めになるという失敗に陥りやすい。それを回避するために私はD500のPv（プレビュー）ボタンにファインダー内水準器を割り当てて、ON/OFFを切り替えて使用している。カメラを手持ちで構えた状態でもすぐに水準器を表示できるように設定している。





f1 カスタムボタンの機能のPv（プレビュー）ボタンにファインダー内水準器を設定しておけば、手持ちの時にでも瞬時に呼び出すことができる



離着陸のときは飛行機の機首が上がった状態になるため、見た目では水平をしっかりと出すことが難しい





少年時代に憧れたF-4ファントムの勇姿

航空自衛隊の戦闘機として、1971年の配備以来日本の空を守り続けてきたF-4ファントムⅡ。戦闘機/偵察機合わせて154機が運用されたが、退役が進んだ現在では茨城県百里基地に3個飛行隊を残すのみとなった。F-4は生産国であるアメリカを含め12カ国で運用されたが、現在は日本、韓国、イラン、トルコ、ギリシャで現役だ。このうち外柵から自由に撮影できるのは日本だけで、いまや百里基地は世界的なファントムパラダイスとなっている。撮影対象としてのF-4の魅力は、なんといってもその独特なスタイルにある。J79ターボジェットエンジンを2基搭載した大柄な機体に、上半角が付いた外翼。このグラマラスなシルエットは、どこから見ても醜く、そして美しい。私が飛行機写真を志したきっかけは小学生の時にF-4を見たからであり、約35年間この飛行機を追いかけてきた。そんな空自のF-4も約3年後には全機退役する。F-4の勇姿を最高の機材で残しておきたい、そう思ったときに真っ先に思い浮かぶ撮影機材はD500と500mm f/4の組み合わせだ。飛行機写真で大切なのは"Right Place, Right Time"の原則で、適切な瞬間に適切な場所にいることである。最高の条件さえそろえられれば、あとはD500が最高の瞬間を仕留めてくれるはずだ。F-4退役の最後の瞬間まで、この美しい戦闘機をD500で撮り続けたいと思う。「イカロスの翼」は今回で最終回になります。2年間のご愛読、誠にありがとうございました。

LOCATION ▶ 百里基地(ひゃくりきち)

航空自衛隊百里基地は茨城県小美玉市に所在し、2個のF-4戦闘機部隊と1個のRF-4偵察機部隊、そして1個の救難飛行隊を配備して首都圏防空を担っている。飛行訓練は主に平日に実施され、外柵からF-4の撮影が楽しめる

The Wings of Icarus

協力：株式会社ニコンイメージングジャパン



テクニック・スポット・アイテムで夏の夜を完全攻略

真夏の夜の撮影大全

暑い夏の夜こそ、一歩踏み込んだ撮影にチャレンジするチャンス。人々の営みが作る人工光、月や星々の自然光など夜にしか捉えられない被写体はそこかしこにある。日中と異なる撮影技法から夜の撮影に役立つアイテムまで夜に撮る写真の全てを解説する。

01

静かに流れゆく高架下の軌跡　山下裕之

都心を車で走っていると、頭上には空ではなく高速道路が走っている場面に出合う。巨大な高速道路の高架と下を走る一般道の機能美を、シフトレンズで整然と撮影した。30秒の長秒露光で光跡を長く入れ込んでいる。

ニコン D810／PC-E Micro NIKKOR 45mm f/2.8D ED／45mm／マニュアル露出（F10、30秒）／ISO 32／WB：プリセットマニュアル



99

CONTENTS



ソニー α7R II／FE55mm F1.8 ZA／55mm／絞り優先AE(F1.8、1/60秒、+0.3EV)／ISO 1000／WB：オート

02 シルエットが導く客船のスケール　千田智康

人々のシルエットがバランス良く並ぶ光景が目に入った。巨大客船に見入り、楽しそうに会話をする様子が伝わるシルエットの形にこだわった。見る人の視線をシルエットに誘導できるように正対し、通行人と重ならない瞬間を狙っている

03 夜の世界へと誘うスローシャッター　鈴木知子

三脚にカメラを固定して光を描くイメージで撮影した。まずはカメラを動かさず2秒露光、次にゆっくりとカメラを回転をしながら途中で3回静止して6秒間露光している。3ウェイ雲台を使うことで、美しい光跡を捉えることができた

ソニー α7R II／FE 24-105mm F4 G OSS／41mm／シャッター優先AE(F22、6秒、−3.0EV)／ISO 100／WB：白熱電球





ニコン D4S ／ AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G ／ 58mm ／ マニュアル露出（F1.4、1/250秒）／ ISO 25600 ／ WB：電球

04 夜空を切り裂く航空機のフォルム　中野耕志

着陸するボーイング777。真後ろのアングルよりも見かけの速度が速いので、飛行機の動きを止めるには少なくとも1/250秒のシャッター速度が必要だ。ISO 25600で撮影できるニコンD4Sと、F1.4の大口径レンズを駆使した

05 星空を舞台にしたポートレート　関 一也

被写体のみならず周囲の地形までライティングをすることで、撮影地のディテールを捉え、星と絡めたイメージカットとして写すことができる。レンズは超広角なので、背景となる岩の存在感が程よい近過ぎず遠過ぎずの距離感がポイントだ

ニコン D5 ／ シグマ 14mm F1.8 DG HSM | Art ／ 14mm ／ マニュアル露出（F1.8、20秒）／ ISO 2500 ／ 4,200K







06 砂漠の中に現れた人々の営み

丸田あつし

超広角レンズで砂丘の周辺部まで捉えることで、砂漠の壮大さを印象づけた。空を広くしたのは、より神秘的な印象を作るため。星が中途半端に流れてしまわないように、ISO感度を1000まで上げて撮影した

ニコン D810／AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED／14mm／絞り優先AE(F5.6、10秒、+1.0EV)／ISO 1000／WB：オート



ニコン D810／
AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR

写真・文●山下裕之

SCENE & TECHNIQUE | 07/19

07 雲の表情と対比させる巨大橋梁の造形美

LENS	MODE
102mm	マニュアル露出
F.no	SS
F5.6	6秒
EXPOSURE	ISO
—	200
WB	ITEM
2,500K	三脚

東京湾のシンボルでもあるレインボーブリッジはライトアップされた美しい姿を目にすることも多いが、メインカットはライトアップが消えた深夜のレインボーブリッジだ。ここでは**対岸にあたる位置から102mmの中望遠域で切り取り、東京湾に佇む静寂なレインボーブリッジを捉えた。地上から撮影することで、夜空に漂う表情豊かな雲をしっかりと収めている。**橋は都心の夜景に紛れ込むように隠れてしまい、肉眼では見過ごしてしまうかもしれない。だが、このような状況こそ都市夜景のシャッターチャンス。橋と背景の調和がうまくとれており、全体の露出バランスがとても良いのだ。光が無数に飛び交うきらびやかな夜景とはまた違う、しっとりと落ち着いた雰囲気を表現できた。

CAMERA & ITEM

高画素機で緻密に描写



ニコン D810

約3,635万画素の高画質で、階調豊かに都市風景を隅々まで描き出す。夜の闇に隠れた建造物を描くためには解像力の高いフルサイズ機が有利だ

望遠で建造物を整理



ニコン AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR

70-200mmの焦点域が都市に隠れた光景を取り出す余分な要素を丁寧に取り除き、整理するのに望遠ズームが便利

重厚な三脚が必須



ハスキー 5段 分離型

夜の撮影で最も気を遣うのがカメラブレ。長秒露光ではわずかなブレが命取りになるため、堅牢で重量のある三脚が必要

角度の微調整に便利



マンフロット ギア付きジュニア雲台 410

撮影の基本となる水平・垂直。簡単に角度を調整でき、特に望遠域でのシビアな決定でもしっかりとカメラを固定できる

LOCATION

［東京都］

レインボーブリッジ

豊洲と有明を結ぶ富士見橋から西側の方角に見える。上層は高速道路、下層は一般道とゆりかもめの他、歩道もあって歩行可能だ。芝浦南ふ頭公園では、橋の真下に迫る写真を撮ることができる。橋は築地から移転する豊洲市場にも近く、公園や遊歩道などの環境がきれいに整備されている。2020年のオリンピックも控えており、新たな撮影スポットとして注目を集めそうだ

建造物の存在感が際立つ都市夜景を撮るポイント

STEP 1

三脚と水準器を使って水平・垂直をキープする

都市風景では、直線の多い構造物が被写体となって写り込むことが多い。特に望遠レンズなどで撮影する場合は、写真の枠に対して構造物の傾きが少しでもあると違和感を感じてしまう。最初から水準器などで水平をしっかりと出して撮影しよう。またアイレベルよりも低い位置で撮影することにより、水面への光源の映り込みがよりきれいになる。



HINT

電子水準器を活用して撮る

物理的な水準器を夜景撮影で使うと暗くて見づらいこともあるが、最近のデジタルカメラでは、ライブビューの画面で水準器を表示できるカメラも増えている。できれば積極的に活用して画面を安定させよう。



水平・垂直が画面に安定感をもたらす基本的な条件。おおよその画角を決めたら、雲台で微調節して角度を決める

STEP 2

シャッター速度6秒で雲の造形を残す

都会で夜景を撮影する場合、肉眼で夜空に星が見えることは難しく、漆黒の夜空が広がっている場合が多い。そんな中で雲の存在は、夜空の巨大な空間に表情を生み出す大きな役割を果たしている。被写体の動かない都市夜景はシャッター速度を気にせずに撮りがちだが、遅過ぎると雲が流れて表情が残らない。ここでは6秒を選択して雲の形を残した。

6秒のシャッター速度を選択して雲を生かす

露光時間が長ければ、雲の形は崩れてソフトな印象になる。逆に短ければ雲の形はハッキリ残り、メリハリが生まれる。下は13秒で撮影したがやや雲が流れている。うまく調整しよう



雲がないときは空をカットする

雲は重要な要素だが、いつでも理想的な雲に出合えるとは限らない。雲がなければぽっかりと空いた空を大胆にカットし、建物のディテールと映り込みを強調する構図に切り替えると良い



STEP 3

低感度を維持しつつF値をギリギリまで絞る

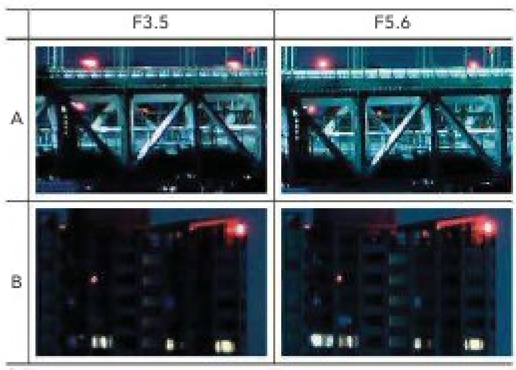
被写体までの距離があれば、明るいレンズの開放F値で撮影してもそこそこ奥までくっきりと写るが、ある程度被写界深度を深くして解像度を高めることでメリハリが生まれる。そこでF5.6を選択している。実際にはF8くらいまで絞りたいが、露光時間が長過ぎて雲が流れ、夜空の表情が消える。6秒というシャッター速度を維持するため、ISO感度は200にしている。

再生画像を拡大してパンフォーカスであることを確認する

絞りを絞ってF値を大きくしていくことで、画面全体がくっきりとしたパンフォーカスになり、絞り過ぎると回折現象で逆にねむくなる。ここではシャッター速度との兼ね合いでF5.6を選択している。右の比較画像のとおり、F5.6では手前の橋も奥のビルもくっきりとしている。撮影後は画像を再生し、手前と奥をそれぞれ拡大表示して被写界深度を確認しておくと良い



手前と奥の建造物をチェック



STEP 4

ホワイトバランスは2,500Kに設定する

夜景撮影で大事なポイントは、色の表現をどう持っていくかにある。ホワイトバランスは作品の雰囲気を大きく変える重要な設定だ。好みにもよるが、深夜のイメージを作るため、アンバーな温かい色よりも、少し冷たいクールな表現を目指した。色温度を低くすることによって、肉眼で見るよりも青色の基調で、硬質で静寂を伴った非現実感を強調できる。

2,500Kで幻想的に表現する

WBをオートで撮影すると、シャッターを切るたびに微妙に色が変わってしまう可能性がある。そこでマニュアルで色温度を低めの2,500Kに設定して、クールな表情を引き出している



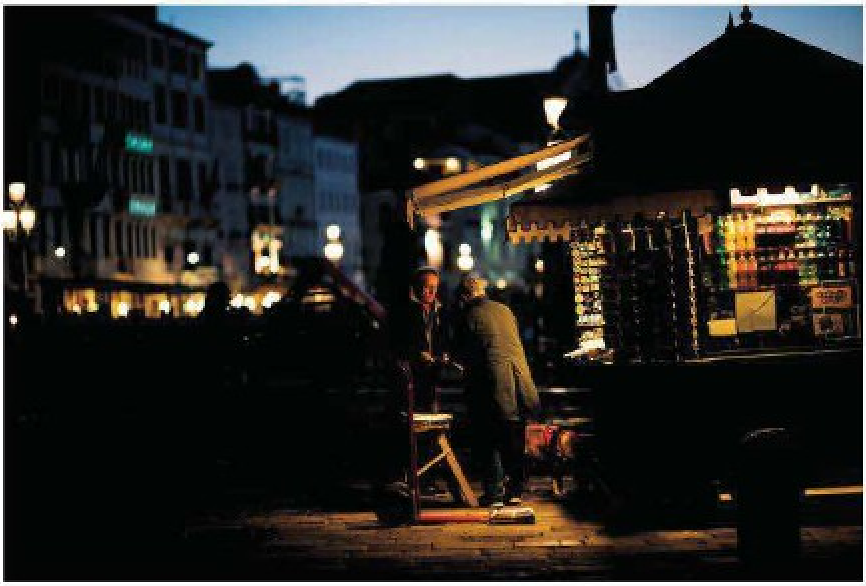
色温度を変えるだけで写真の雰囲気が大きく変わる楽しさを知ろう



夜景撮影の場合、オートWBだと一般的にアンバーがかった色になりがち。温かい雰囲気だが、肉眼で見る光景とはかなりイメージが違う

08 中望遠レンズで狙うシネマライクなスナップ

非常に暗いシーンではあるが、大口径の中望遠レンズを使い映画のワンシーンのように撮影した。この作品を撮る上で重要な設定はボケ感と望遠の圧縮効果、シャッター速度の確保だ。**このシーンは105mm F1.4の単焦点レンズで撮影した。**望遠の圧縮効果に加え、F1.4という開放F値でボケ感と手ブレしないシャッター速度を確保した。さらにWBを4,400Kにすることでほのかに赤みを加えて暗いシーンをシネマチックに撮影した。



ニコン D850／AF-S NIKKOR 105mm f/1.4E ED

写真・文•上田晃司

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
105mm	絞り優先AE	F1.4	1/125秒	-1.0EV	1800	4,400K	―

シネマ風に仕上げるポイント

LENS

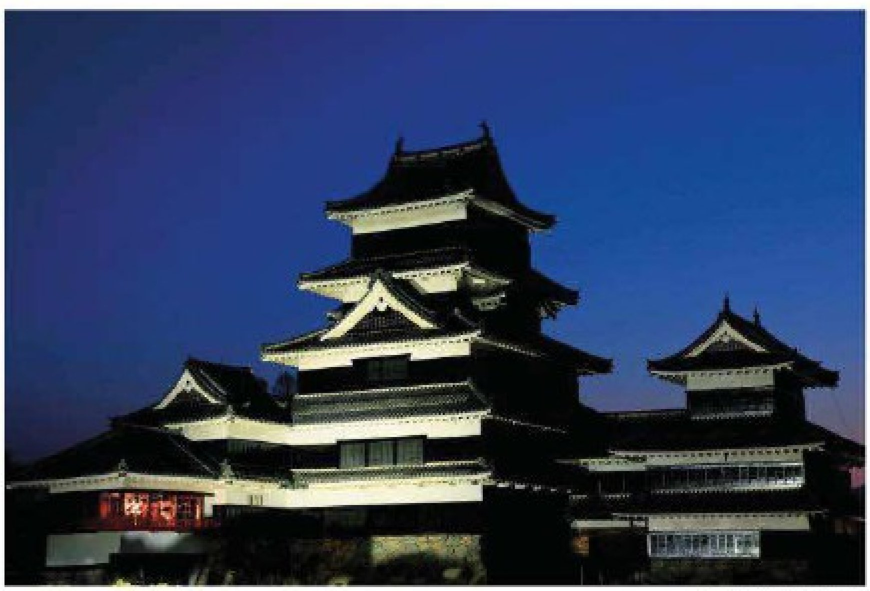
中望遠の大口径レンズで映画のようなイメージ作り

中望遠レンズの圧縮効果は被写体と背景を近づけるので背景ボケを生かしやすい。下は50mmで別の角度から広角気味に捉えたが、背景の印象は弱い。圧縮効果に加えボケ感が加わると、シネマチックな雰囲気を作りやすいのでおすすめだ。



09 ブルーアワーを背景に白く輝く城の建築美

城のライトアップ夜景の撮影では、撮影ポジションの選択と撮影時刻がとても重要だ。城に近い位置から広角で撮るとパースがつき過ぎるので、少し離れた場所から65mmの中望遠レンズで、パースを抑えて撮影した。光源が複雑なのでホワイトバランスはオートにし、絞りはF11を選択した。また撮影カット数を稼ぎ、かつ露光中のカメラブレを防ぐため、ISO感度は400に設定し、露光秒数が長くなり過ぎないようにした。



キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／EF24-70mm F2.8L Ⅱ USM

写真・文•西川貴之

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
65mm	絞り優先AE	F11	1秒	±0EV	400	オート	三脚

城が浮かび上がるポイント

OTHER

背景を青くして城のフォルムを強調

晴天時の日没後、20分くらい経過した薄暮の時間に撮影することで、背景の空のグラデーションが生きてくる。下のように完全に暗くなってしまうと、光が当たっていないシャドウ部分が背景に溶け込んでしまうので輪郭が薄れてしまう。





キヤノン EOS-1D X Mark Ⅱ／ EF16-35mm F2.8L Ⅲ USM

写真・文・久保田 敦

10 都会の夜を駆け抜ける列車の広角流し撮り

LENS	MODE
27mm	マニュアル露出
F.no	SS
F4.5	1/2秒
EXPOSURE	ISO
—	400
WB	ITEM
白熱電球	ビデオ雲台・三脚

ビル群に囲まれるように走る都市の列車を表現するために、広角域となる27mmで見上げるように撮影して、ビルを大きく写し込みながら流し撮りした。空に少し青みが残る日没直後の時間帯を狙い、さらに都会のクールなイメージを演出するためにホワイトバランスを白熱電球にして、画面を青めのトーンに調整している。今回はビルの明かりで列車がシルエットになるような条件だったので、窓枠の形がはっきり分かるややアンダーな露出にして光跡のシャープさを重視した。**窓明かりを使って流し撮りで光跡を作るときはビデオ雲台を使うのがおすすめ**。列車の速度に合わせてシャッター速度を落としても対応できる上に、光跡を直線的にスッと流せる。

流し撮りを美しく見せるポイント

CAMERA ビデオ雲台を使うことで1/2秒のスローシャッターを選択

シャッター速度はある程度ビルの形が残りつつ光が流れるように選択する。今回は列車の速度がかなり遅いので、1/2秒に設定した。さらにビデオ雲台を使って流すことで、スムーズなパン操作を行い、光跡が揺らがないようにした。事前に三脚の左右の足を調整して列車の動きをなぞれるようにセットしておくことがポイント。



LENS 列車と光だけで構成できる中望遠もおすすめ

望遠域で列車と光だけで構成するのも狙い目。同じ場所から88mmで撮影したのが下だ。ブレ量が大きくなるので集中して車両を追いたい。列車の先頭が常に同じ位置になるようにカメラを振る。



LOCATION

［東京都］

汐留ペデストリアンデッキ

汐留駅周辺には高層ビルが立ち並び、付近のペデストリアンデッキからは、高架を走るゆりかもめが間近に眺められる。残業には厳しいご時世なので、ビルに電気の灯る早い時間帯に撮影したいところだ



時間が遅いと窓の明かりが消えるので注意しよう



ニコン D4 ／ AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR Ⅱ

写真・文・内山 晟

11 暗くてもきれいに写せる ナイトサファリの動物たち

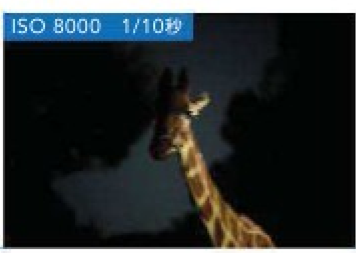
LENS	MODE
200mm	プログラムAE
F.no	**SS**
F2.8	1/80秒
EXPOSURE	**ISO**
−1.3EV	12800
WB	**ITEM**
電球	−

動物園の夜間開園は夏休みの時期が多く、ほとんどが開園時間を3時間延長するが、本格的に暗くなってからの撮影できるのは1時間ほどしかない。明るい時間帯に下見をして撮る動物を絞った方が良い。**撮影時は思い切って高感度を使い、F値は開放絞りでできるだけ速いシャッター速度を確保しておく**。メインカットでは比較的高感度に強いカメラを使用し、ISO 12800まで上げて1/80秒を確保している。また、夜間はカメラのAEはが必要以上に明るくなりがちなので、−1.3〜−2.0EV程度の露出補正をして背景を暗く落とし、夜の雰囲気を出そう。WBは光源が判別できる場合以外はオートにしておくと良い。ストロボは必ずオフにする。

暗所で動物の表情を捉えるポイント

CAMERA ISO 12800以上でシャッター速度を稼ぐ

動物園では三脚の使用は避けて手持ちで撮る。開放絞りを使い、できるだけISO感度を上げよう。手ブレ補正も活用したい。下の写真のように、ISO 8000では1/10秒のシャッター速度しか得られず、ぶれてしまっている。


ISO 8000　1/10秒

OTHER 動物の顔が光源に向いたときに撮る

被写体が光源に向いていないと顔が黒くつぶれて表情が分からなくなる。これを露出補正で明るくしようとすると全体が明るくなって夜の雰囲気は出なくなってしまう。光の向きを意識しながらシャッターチャンスを狙おう。


光源を向いていない


光源を向いている

LOCATION

［静岡県裾野市］

富士サファリパーク

屋外のトラを5mほど離れた車の中から200mmの望遠域で少し見下ろす角度から撮影。ナイトサファリの詳細はP.69を参照



12 にじむ光に想像が膨らむ 雨の夜の都市スナップ

雨の夜はぬれた窓や路面を生かしてにじんだネオンの光を捉えると幻想的なイメージを作りやすい。左の写真では、手前の窓ガラスに付いた水滴にピントを合わせて背景の夜景がよくぼけるようにF4にセット。**水滴と背景のサイズ差がなるべく小さくなるようにレンズの望遠端105mmを使い水滴の印象を強めた**。ホワイトバランスはマゼンタを強めにすることで、雨の冷たさとネオンの温かみを対比するような効果を作っている。



キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF24-105mm F4L IS USM

写真・文•中原一雄

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
105mm	絞り優先AE	F4	1/25秒	-0.7EV	3200	オート（M2）	—

にじんだ光を生かすポイント

LENS

望遠端105mmで ネオンを引き寄せる

対象となるネオンが遠い場合、広角で撮影すると光が遠のき小さく写る。望遠域の105mmでネオンを引き寄せよう。下の写真のように窓ガラスだけでなくぬれた路面もネオンがにじんで映り込み幻想的。ここでも105mmでネオンを大きく捉えている。



13 HDR風の現像で作り出す ノスタルジックな世界観

レトロなマンションだが、それだけだと面白みに欠けるため、それぞれ高さの異なる道路と歩道橋をフレームインして立体感を演出。ダイナミックさを表現するために超広角レンズの16mmを使用し、道路と歩道橋が対称となる方向に伸びるように配置。シャープに見せつつ車の光跡も伸ばすためF11まで絞り、光条の美しさにもインパクトを与える。さらに**RAW現像で調整を行い、非日常感とノスタルジックな雰囲気を強調させた**。

レタッチでHDR風にするポイント

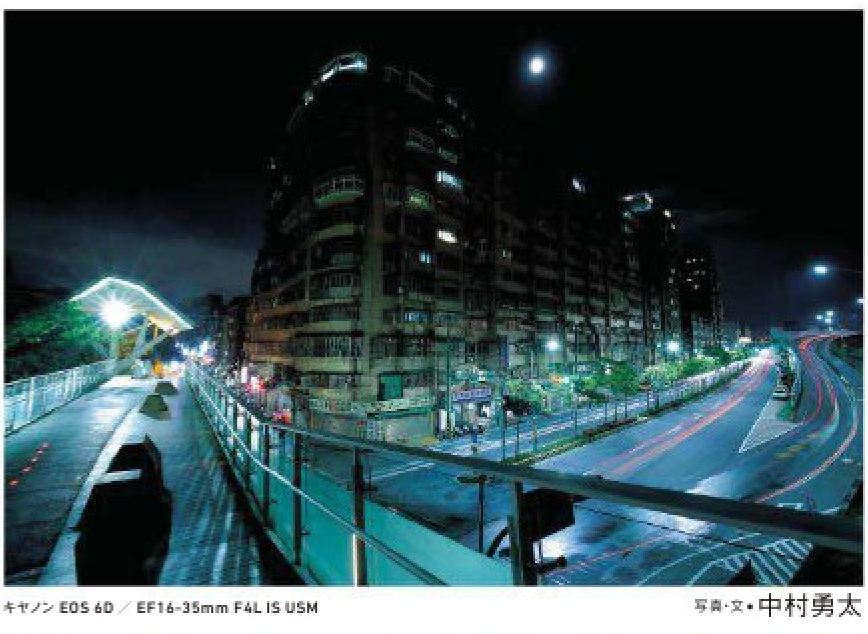
ITEM

コントラストを弱めて シャープネスを上げる

RAW現像時はまずコントラストを下げ、シャドウを上げて暗部を明るくし、明暗差を縮める。さらにシャープネスを上げて細部まできっちり見せることで、HDR機能を使わずにナチュラルなHDR風の写真に仕上げることができる。ここではキヤノンのDigital Photo Professional（DPP）を使用。







キヤノン EOS 6D ／ EF16-35mm F4L IS USM

写真・文•中村勇太

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
16mm	絞り優先AE	F11	20秒	-0.7EV	100	オート	三脚

14 柔らかな光に浮かび出る日中とは異なる砂丘風景

月明かりの柔らかな光を利用して長時間露光で撮影すると、太陽光とは異なる落ち着いたコントラストで被写体を捉えられる。ヘッドライトで砂紋を発見し、カメラをローポジションの三脚に設置。撮影モードはバルブモードでケーブルレリーズを使って120秒の長時間露光で撮影した。タイマーとレリーズケーブルを併用してブレを防止している。また、撮影時は風が吹いていたので、カメラの風上に体をおいて防風し、ブレを防いだ。



キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／EF24-70mm F4L IS USM

写真・文●GOTO AKI

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
24mm	マニュアル露出	F4	120秒	—	1600	オート	三脚・ライト

月明かりだけで撮影するポイント

OTHER

ライトで照らしながらピントを合わせる

撮影時は下の写真のような暗さで、オートフォーカスが効かない。まず、アウトドアグッズのヘッドライトを使用して被写体を照らした。その状態で液晶モニターを拡大して、マニュアルフォーカスでピント位置を合わせれば正確なピント合わせが可能だ。



肉眼で見える明るさ

15 カラフルでポップなストリート風ポートレート

ストリート感のある写真といえば、カラフル＆ハイコントラスト。原宿など若者の街に行けば、グラフィティやシールが貼られたシャッターや壁に出合えるので、ストロボを当て夜の街から浮かび上がらせよう。背景とモデルを近づけて、F4まで絞って被写界深度を確保。レンズの焦点距離は50mmだが、**ストロボの照射角を広角側(24mm)に設定し、光が当たる範囲を広くすることもストリート風に仕上げるためには重要だ。**

ストリート風に仕上げるポイント

ITEM

背景を詰めることでストロボ光を全体に照射

背景とモデルの距離が遠いと、背景が落ち込んで全体的に暗いイメージを与えてしまう。モデルには背景となる壁にピッタリくっついてもらい、画面全体にストロボ光が当たるようにする。通常のポートレートと違い詰まった印象を作ることがポイントだ。



背景との距離が遠い



キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／EF50mm F1.2L USM

写真・文●山本春花　モデル●こいずみさき(ABP inc.)

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
50mm	マニュアル露出	F4	1/125秒	—	160	オート	ストロボ



ソニー RX100 Ⅲ

写真・文●木村琢磨

16 玉ボケを散りばめた幻想的な街並みの俯瞰

LENS	MODE
70mm相当	マニュアル露出
F.no	**SS**
F4	8秒
EXPOSURE	**ISO**
—	125
WB	**ITEM**
白熱電球	三脚

夜の街を彩る街灯や住宅街の明かりを、ピントをずらして玉ボケにして多重露光機能で撮影した。ピントを合わせた画像とピントをずらした画像をぴったりと合わせることがポイントとなるので、三脚を使って2枚の位置がずれないように撮影しよう。三脚を使うことで低感度で撮影できるため、結果的に画質も良くなる。**ベースとなる遠景はしっかりとピントを合わせて撮影し、重ねて使用する玉ボケの画像はマニュアルフォーカスで手前にピント位置をずらして撮影する**。開放絞りを使うと玉ボケは大きくなるが、レンズによっては口径食が目立ったり玉ボケが大きくなり過ぎてイメージを損なったりすることもあるので、そのときは1～2段絞り調整する。

幻想的な多重露光に仕上げるポイント

LENS ピント位置をずらして2枚撮影し玉ボケを作る画像は彩度を高めに設定する

ピントを合わせた画像は右上の設定で撮影すればOK。玉ボケ用の画像はピント位置を手前にずらして作るが、手前にし過ぎると玉ボケが大きくなって、玉ボケと玉ボケの重なりが目立ってしまうのでほどほどに。また、玉ボケ用の画像は少し彩度を高めに設定して撮影することで、玉ボケの輪郭がはっきりするので効果的だ。



＋

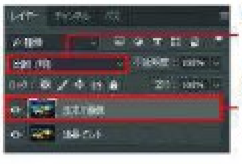


玉ボケの縁を少し重ねる



OTHER Photoshopで比較明合成を行う

カメラに多重露光機能がなくても、Photoshopで比較明合成すると再現可能。2枚以上の画像を重ねることも可能だ。ピントを合わせたベース画像を下のレイヤー、重ねる玉ボケ画像を上のレイヤーに設定し、玉ボケ画像側のレイヤーを「比較（明）」にすると完了だ。



❷玉ボケ画像を「比較（明）」に設定する

❶玉ボケ画像を上のレイヤーに配置する



ニコン D810／ AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED

写真・文・丸田あつし

17 海外の喧騒が伝わる臨場感ある都市夜景

LENS	MODE
18mm	絞り優先AE
F.no	**SS**
F11	2秒
EXPOSURE	**ISO**
+1.0EV	100
WB	**ITEM**
3,100K	三脚

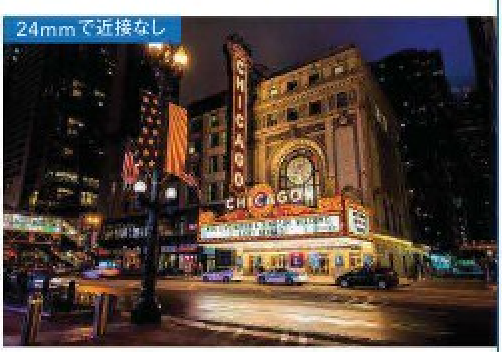
大都市では多くの被写体に出合えるものだが、どのように表現したいのか、事前にテーマやストーリーを決めておくと撮りやすく、見る人にも伝えやすい。メインカットのテーマは、「アメリカのとある都市に降り立った旅行者の目線」。クラシックな劇場の前で大きく空を見上げ、都市の迫力と躍動感を感じているというストーリーだ。これを表現すべく、**劇場の向かい側から超広角レンズで空を仰ぐように構図を決めた**。街灯や建物に現れるパースペクティブは、都市のダイナミックさを強調する要素の1つとなる。ここではシャッター速度を2秒程度に抑えて車の光跡を短くすることで、都市の喧騒やスピード感を表現している。

超広角レンズで撮影するポイント

LENS 街灯に迫るように近接して超広角18mmで遠近感を強調する

都市の近景でダイナミックな印象を作るには、広角レンズではまだものたりない場合が多い。そこで超広角レンズで近接して手前の街灯をポイントにして臨場感を作った。24mmでも引けば建物が入るが遠近感は弱めになる。

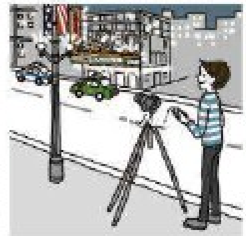
24mmで近接なし



OTHER 下からあおってパースを強調し空を見上げたというストーリーを作る

道路向かいの劇場を主題に、できるだけ"アメリカらしさ"をプラスするため、星条旗を取り入れた。街灯の下からあおることにより、パースで奥行きと高さを強調し、空を見上げたというストーリーを効果的に伝えている。





18 ルーペでのぞき見る2つの花火の共演

夕暮れ時に水面に赤く反射する花火を**縮小鏡(凸面鏡)にかざして画面内にもう1つの花火を作り出した**。拡大鏡を使うとはめ込み合成のようになるので注意。縮小鏡を使うことで周囲とつながりのある風景を撮影できる。三脚にカメラを固定し、カメラの前面に立って縮小鏡を持ち、背面モニターで縮小鏡の位置を確認しながら、リモコンかケーブルレリーズを使いシャッターを切る。F16程度までしっかりと絞り込むことも大切だ。



ソニー α6000／シグマ 20mm F1.8 EX DG ASPHERICAL RF

写真・文・きたじまたかし

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
30mm相当	マニュアル露出	F16	1秒	―	100	オート	三脚・ルーペ

2つの世界を作るルーペの使い方

ITEM

ルーペを正対させて風景をゆがませない

ルーペ内の像がゆがまないようにカメラのレンズとルーペが平行になるように持つ。ルーペが傾くと像がゆがんですぼまる。また、実像の花火がルーペで切れないように注意しよう。ピント位置はルーペ内の花火で、実像の花火より手前でルーペのレンズ面より奥だ。手と2つの花火がなるべくシャープに見えるようにF16に設定し深度を稼いだ。





19 街の蛍光灯を使ったクールなポートレート

街中どこにでもある蛍光灯。駐輪場に設置されたものを、撮影用の照明として使おうと考えた。光源は距離が離れるほど光も弱くなり、照射範囲が広がっていく。メインカットのように近くにある光ほど光量があるので、スポット的になる。これは照明機材、太陽光、ただの街灯でも不変の法則だ。蛍光灯はフリッカーに注意して撮影する。東日本なら1/50秒の倍数、西日本は1/60秒の倍数にしてシャッター速度を設定すると良い。

蛍光灯をスポットで使うポイント

OTHER

蛍光灯の青白い光を顔に柔らかく当てる

瞳などが暗く、強い影とならないように角度を指示しながら撮影した。同じ蛍光灯でも下のように拡散光を利用する場合は陰影がつきにくいので、顔にまんべんなく当たるように角度を工夫する。



モデル・しらゆき



ニコン D810／AF-S NIKKOR 35mm f/1.4G

写真・文・黒田明臣　モデル・まゆこ

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
35mm	マニュアル露出	F2	1/50秒	―	100	オート	―



ニコン D850／ AF-S NIKKOR 200-500mm f/5.6E ED VR ／270mm ／マニュアル露出（F13、13秒）／ ISO 400／ WB：2,500K

写真・文・山下裕之

空間を圧縮して建造物の迫力を強調

超望遠レンズ

20

SUPER TELEPHOTO



東京駅丸の内側は皇居まで約1kmの真っ直ぐな石畳の歩道が整備され、通りから見える駅舎の佇まいはとても美しい。駅舎の迫力を引き出すため、通りの端から270mmで東京駅を引き寄せた。離れた位置から望遠で撮ることで、パースを抑制し駅舎の造形を垂直に再現できる上、駅舎が小さくならずに空間全体の構成要素も伝えられる。圧縮効果を引き出すには手前から奥までの画面内に要素を入れることが重要なので、右記を参考に構図にこだわろう。

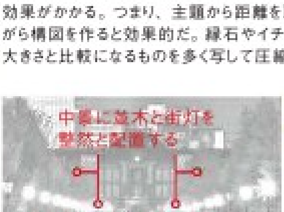
ニコン AF-S NIKKOR 200-500mm f/5.6E ED VR

実勢価格 143,000円前後

望遠端500mmの超望遠域を実現。3枚のEDレンズが夜景撮影の有害光を効果的に抑制し、隅々まで解像する

CHECK 被写体と離れた位置から270mmで駅舎を引き寄せる

望遠域の狭い画角内に手前と奥の被写体を入れることで圧縮効果がかかる。つまり、主題から距離を取り、手前に要素を入れながら構図を作ると効果的だ。緑石やイチョウ並木など、間に駅舎の大きさと比較になるものを多く写して圧縮効果を強調した。



手前から奥まで複数要素を入れる

画面手前から東京駅までの間に、緑石、イチョウ、街灯を配置し、空間内で圧縮されるものを増やして効果を強調した



標準域では駅舎を引き寄せきれない

メインカットより駅に立ち位置を近づけ、緑石を手前に入れて70mmで撮影。駅舎が引き寄せきれず圧縮感がない

LENS & TECHNIQUE

夜の光をコントロールするレンズワーク

レンズの選択で夜の写真は大きく変化する。超望遠レンズを使えば都市夜景が迫力を持って立ち上がり、超広角レンズを使えば光跡がパースによって踊り出す。絞りの効果を生かせば、とろけるようにぼけた街の明かりや鋭い光の筋が幻想的な夜の世界を演出してくれる。巧みなレンズワークで夜の印象をコントロールしよう。

21 フィッシュアイ

星空と建物の全てを取り込める



オリンパス OM-D E-M5 Mark II／M.ZUIKO DIGITAL ED 8mm F1.8 Fisheye PRO／8mm(16mm相当)／マニュアル露出(F2.2、1秒)／ISO 200／WB：オート／3600枚を比較明合成

写真・文● 中村貴史

オリンパス
M.ZUIKO DIGITAL ED 8mm F1.8 Fisheye PRO
実勢価格 107,000円前後

開放F1.8の明るさが特徴の魚眼レンズ。星景撮影では、明るさと画角の広さという2つのアドバンテージを存分に引き出せる

FISHEYE



都市部でも天頂方向にレンズを向けると星を写せるが、通常の画角では地上風景を絡めにくい。そこで、魚眼レンズの対角180度の画角を生かし、都庁を地上から画面に収めながら、比較明合成で作った星の軌跡を背景にした。被写界深度も深く建物も星もシャープに写る。画面内に要素を多く入れると、魚眼らしい広さを伝えやすい。

CHECK **四隅に被写体を入れると迫力が増す**

メインの被写体は中心に配置するとゆがみを抑えやすい。注意すべきは画面四隅で右の写真のように周辺部を空にせず、建物を配置すると魚眼らしい情報密度の高い写真に仕上がる上、ゆがみによる躍動感まで演出できる。



LENS & TECHNIQUE

22 大口径レンズ

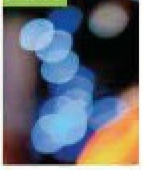
夜の光源をぼかして幻想的に彩る

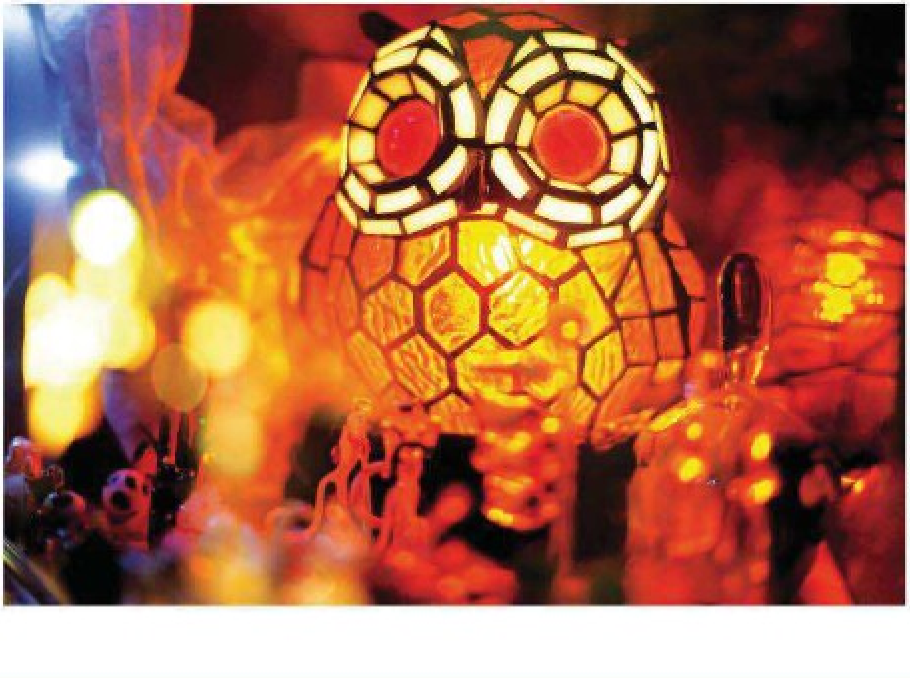
ショーウインドー越しにキラキラと光るフクロウのランプを開放F1.8の大口径レンズで撮影した。大口径らしい豊かなボケを引き出すには、ボケの取り込み方が重要で、ここではショーウインドーのガラスに映り込む光が前ボケになる角度を探って構図を決めた。一度反射した柔らかな光をぼかすことで、にじむような優しいボケを作っている。

CHECK **反射光をぼかすと柔らかくにじんで写る**

大口径レンズの開放F値で撮影すると玉ボケを作ることができるが、その際、直接点光源をぼかすのではなく、ガラスに反射した光をぼかすことで柔らかくにじむような玉ボケを作ることができる。


反射光


直接光



ソニー
FE 50mm F1.8
実勢価格 33,000円前後

大口径F1.8の明るさでありながら、軽量・小型の単焦点レンズ。50mmと扱いやすく、夜景でもISO感度を必要以上に上げ過ぎずに撮影できる

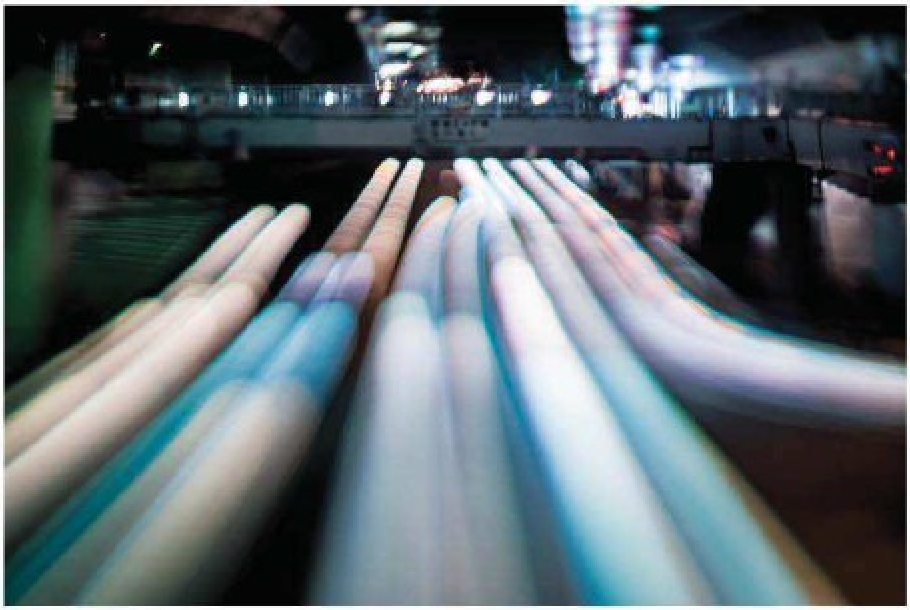
FAST LENS



ソニー α7 II／FE 50mm F1.8／50mm／絞り優先AE(F1.8、1/60秒、+0.7EV)／ISO 3200／WB：太陽光

写真・文● 鈴木知子

23 チルトアダプター
街明かりが玉ボケとなって踊り出す



KIPON
T&S N/G-S/E
実勢価格
38,000円前後

ニコン Fマウントとソニー Eマウントを接続可能なチルトシフトアダプター。マウントは数種類用意されている

ソニー α6000／ニコン AI Nikkor 50mm f/1.2S／50mm(75mm相当)／マニュアル露出(F1.2、15秒)／ISO 100／WB：オート

写真・文● きたじまたかし

TILT ADAPTER



大口径レンズにチルトアダプターを装着してチルトすると、ピント位置から離れた光を大きくぼかした夜景が撮れる。上の写真では歩道橋から下向きにレンズをチルトして車のヘッドライトを画面下に向けて大きくぼかした。さらに15秒露光し、走る車のヘッドライトの光跡をふんわりと膨らませて流れる光の川を表現している。

CHECK
チルトする方向でボケの伸びは変わる

ピント位置から離れるほど光が大きくぼけるため、ピントは画面の端に合わせよう。レンズはボケを大きくしたい方向に傾ければ良く、上の写真は下方向に、右の写真は上方向にチルトしている。



LENS & TECHNIQUE

24 絞り羽根
きらびやかな光条を出す



無骨で無機質なイメージの工場夜景に華やかさを加えるのが光条だ。条件によって出方は違うが、円形で光の強いライトの方が光条は出やすい。逆に細長い光源や、光が弱い場合は出にくい。光条は絞りを絞るほど光の筋が長くなる他、絞り羽根が奇数枚のレンズを使うと枚数の2倍の筋が伸びてより華やかになる。9枚が見た目のバランスが最適。あくまでも演出的な要素として捉え、工場を飾る程度でさりげなく作画に取り入れたい。

ニコン D800／AF-S NIKKOR 80-400mm f/4.5-5.6G ED VR／230mm／マニュアル露出(F9、20秒)／ISO 100／WB：オート

写真・文●小林哲朗

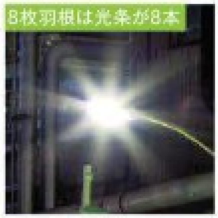
CHECK
絞り羽根9枚でF9〜11がベスト

光条は絞り羽根が奇数枚だと2倍に、偶数枚だと同数になる他、絞るほどよく伸びる。ただ絞り過ぎるとシャッター速度が長くなることでブレのリスクが高まったり、光条が伸び過ぎて構図のバランスを崩したりする。F値はF9〜F11くらいが良い。

9枚羽根は光条が18本



8枚羽根は光条が8本



ニコン
AF-S NIKKOR 80-400mm f/4.5-5.6G ED VR
実勢価格 240,000円前後

工場夜景は望遠ズームの出番が多いが、400mmまで寄れる画角が魅力。9枚羽根を採用し、光条も理想的だ

APERTURE BLADES



広角パースで作る伸びやかな光跡

超広角レンズ 25



夜はベースの風景が暗いため、切り取り方次第では寂しく印象の薄い写真になることがある。超広角レンズを使うと街灯やネオンなど多くのアクセントとなる光源を取り入れられるだけでなく、パースによる迫力も加えられるためインパクトの強い写真を撮りやすい。下の写真は複数台の光跡が写るようシャッター速度を15秒にセット、街灯から光条がしっかり出るF11で撮影した。乗用車だけでなくバスやトラックを絡めると光跡に高低差が出る。

キヤノン
EF16-35mm F2.8L Ⅲ USM
実勢価格 268,000円前後
大口径超広角ズームの定番レンズ。最新のⅢ型では周辺画質が大きく改善され、隅々までシャープな画像を得られる

CHECK 超ローアングルで撮影してパースの効果を最大化する

広角のパースは手前から奥に向けて付くため、近くから遠くの被写体が画面内に入るローアングル撮影が効果的だ。歩道内のなるべく車に近い場所にカメラを設置して、奥に向けて強く光が収束するポジションを探して光跡にスピード感を出した。この場面では、ミニ三脚すら設置しづらい状況だったので、布をレンズの下に置いて、カメラを地面すれすれに設置している。

地面すれすれの超ローアングル撮影





アイレベルでは
光跡の迫力が足りない

車のテールライトは目線よりも低い位置のため、ポジションが高いと光跡が重なりやすく背景も地面になってインパクトを出しにくい

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／EF16-35mm F2.8L Ⅱ USM／16mm／絞り優先AE(F11、15秒、±0EV)／ISO 100／WB：オート

写真・文・中原一雄





ニコン D810／
AF-S NIKKOR 20mm f/1.8G ED

写真・文●山梨将典

SCENE & TECHNIQUE 26▶38

26 天の川が天頂に輝く星空と風景の共演

LENS	MODE
20mm	マニュアル露出
F.no	SS
F2.8	30秒
EXPOSURE	ISO
—	6400
WB	ITEM
3,500K	三脚

生命が1年で最も活動的な夏を迎えると、夜空も天の川や夏の大三角形など誰もが知っている星々でにぎわう。天の川を撮る上で撮影地を選ぶポイントは南東から南西の空が開けていて、シンボルになる景色が広がる景勝地を探すことだ。ここでは磐梯山を背景に撮影できる毘沙門沼で撮影した。**星景撮影は露出が重要で、被写界深度と星の流れ、画質という3要素のトレードオフになるので、バランスを見つつ露出を選択する**。星と風景のどちらもシャープに写るように、できる限り画面全体が被写界深度内に収まるピント位置とF値、星の流れが目立たないシャッター速度のバランスを探っていく。また、暗所での撮影になるので、ピントを合わせるための準備も右記の情報を参考に進めておこう。

CAMERA & ITEM

高感度に強いカメラ



ニコン D810

シャッター速度が限られる星景撮影では高感度の使用を余儀なくされる。絶対条件ではないがなるべく新しいカメラの方が色味やノイズが改善されて良好

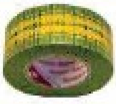
明るい広角レンズ



ニコン AF-S NIKKOR 20mm f/1.8G ED

星空と風景を組み合わせるため24mm以下の広角レンズが必要。なるべく明るいレンズを使用すると露出が有利になる

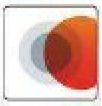
暗闇でのピント調整に



目盛り付きテープ

上下に1mm間隔で目盛りが付いているテープ。真ん中で2つに切り分けて目盛りが合うようにレンズのピントリングの境目に貼ってピント幅を調節する

天の川の方位を調べる



サン・サーベイヤー

太陽・月の暦や天の川の方位や時間を地図上などで確認できるスマホアプリ（Android・iOS）。ここで情報を得て、撮影場所や時間を決める

LOCATION

［福島県］

五色沼・毘沙門沼

福島県の五色沼の中でも最大の大きさである毘沙門沼は沼沿いの展望広場まで駐車場から近く、夜道を長時間行脚する必要がないためアクセスしやすい。街灯など光の影響を受けない数少ない場所で、空気の澄んでいる日には美しい星空を見ることができる。その分、現地の夜は相当暗く、明かりなどはほとんどないため、ライトなどをしっかり準備して撮影に臨む必要がある

天の川と風景を組み合わせて撮るためのポイント

STEP 1

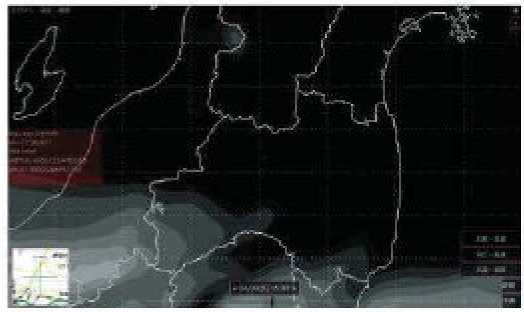
天の川が上る方角と雲の状況を調べておく

天の川の撮影では月明かりは大敵だ。まず、サン・サーベイヤーで月明かりが天の川に影響しない時期を調べ、撮影現場で何時ごろに天の川が見え始めるのかを確認しておこう。また、気象条件も重要だ。天気予報や雲の動きの観測情報が分かるWebサイト「SCW」は撮影地が時間の経過で曇るのか晴れるのかを予測できるので参考にすると良い。

サン・サーベイヤーで天の川や月の方位を調べる



地図上で自分の立ち位置と被写体の場所を固定することができて、太陽と月、天の川が何時にどの方角に見えているかが分かる



SCWで雲の発生状況を予測しておく

ブラウザの検索エンジンで「SCW」と検索してサイトにアクセスすると地図が表示される。日時を指定すると時間が進み雲の発生を予測できる

STEP 2

ライトやテープを使いピントを遠景に合わせる

ピントを明るい星に合わせると前景が甘くなるので、遠景に合わせよう。明かりがない暗い場所では画面に何も映らずMFでもピントを合わせにくいので遠景をライトで照らすと良い。他に撮影者がいるときはライトが迷惑になるので、レンズに目盛り付きテープを貼り、無限遠に合わせてから目盛りを目安に少しずつ手前に調節し、テストしながらピントを合わせる。



ライトでピントを合わせたい遠景を照らしながら、マニュアルフォーカスでライブビュー画面を確認しながらピントを合わせる

他に撮影者がいるときは目盛り付きテープを活用

他に撮影者がいるときは撮影の邪魔になるのでライトを使用できない。その場合、一度無限遠にした状態で何目盛り分戻したかを確認しながらできるだけ前後の被写界深度を稼げるピント位置を探る



STEP 3

F2.8と30秒を基準に露出を調整する

星景では明るいレンズが有利だが、十分な被写界深度を得るにはF2.8前後まで絞りたい。レンズにもよるが収差も改善される。次にシャッター速度だが、厳密に言うと10秒以上は拡大すると星が流れてしまうが、露光量を考慮すると30秒までは許容したい。以上を踏まえF値とシャッター速度のバランスを取り、環境に合わせてISO感度で明るさを整えよう。

深度を見ながら1~2段絞る

F値は明るく設定した方がシャッター速度やISO感度をより良い条件にしやすいが、開放絞りを使うと星がにじみ、コマ収差なども目立ってしまう。シャッター速度や高感度に余裕があるなら、F2.8以上に絞りたい



シャッター速度は30秒以下にする

シャッター速度を短くすればするほど星が止まって写るが、その分F値や高感度が犠牲になる。シャッター速度の上限目安は30秒程度にしておき、微妙な星の流れを許容すると、F値やISO感度の設定に余裕が出る



ISO感度で明るさを調整する

明るさはISO感度で調整しよう。撮影地により必要な露光量は異なるので特に基準はないが、カメラの高感度耐性に合わせて上限を決めておこう。右の比較では3200で必要な明るさを得られた。五色沼はとても暗いので6400まで上げている

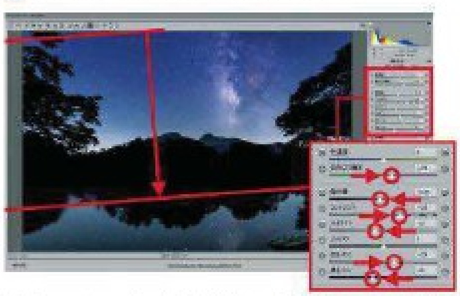


STEP 4

星と天の川の色味を現像時に補正する

星景を撮影した後の現像で画面全体の階調を整えようとすると、星空が明るく仕上がってしまう。Camera Rawの段階フィルターで空全体を暗めに調整しつつ、コントラストを上げて星明かりを目立たせよう。天の川部分は、補正ブラシのサイズを天の川の幅にして、赤みとコントラストを付けると目立たせやすい。この時ブラシの流量を少なくすると調整しやすい。

星空全体のコントラストを上げる



段階フィルターで空の部分を選択して、露光量を下げて空を暗くしつつ、コントラストを上げて星を目立たせる。ハイライトやシャドウ、白レベルや黒レベルは微調整に使用する

天の川の色味とコントラストを調整



天の川部分は補正ブラシを使うと調整しやすい。色温度をアンバー、色かぶり補正をマゼンタ方向に設定、さらにコントラストや白レベルの数値を上げると天の川が浮き上がって見える

27 スマホの画面が作る人物のスポットライト



オリンパス PEN-F／パナソニック LEICA DG SUMMILUX 15mm / F1.7 ASPH.

写真・文●千田智康

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
30mm相当	マニュアル露出	F2	1/30秒	—	200	オート	—

再開発が進み日々変わる渋谷の一角で、女性がスマートフォンを操作する、液晶画面のバックライトが顔に照射される光景は現代社会を象徴するワンシーンだ。**夜のスナップでは人物の顔が暗く沈んで写りがちだが、スマートフォンがスポットライトのような効果を加えてくれたおかげで、主題をはっきりさせることができた**。30mmで空間を広めに捉えつつ案内看板の矢印が女性に視線誘導しているように見えるように構図した。

スポットライトを上手に作るポイント

OTHER

周辺光量を落としてスマホの光を強調する

女性への視線誘導を促すために、周辺光量を大きく落として、スマホの光が強調されるように現像している。周辺光量未補正の下の写真は明るい通路ばかりが目立ち、女性が目立たない。



周辺光量未補正

28 アーバンライクな車を主役にした都市風景

夜の街中で車を撮影すると主役が背景より暗くなりがちなのでLEDライトで起こす。露出はF8を基準に、LEDをなじませるのに必要な6秒程度のシャッター速度を稼ぎ、ISO感度で微調整している。車の周りに明るい人工光が来ると主役が際立たないのでアングルを調整して車から離そう。ヘッドライトやテールランプは今にも動き出しそうな動感を演出できる。手前を通過する車の光跡を入れることで画面に躍動感が出る。

自然なライティングのポイント

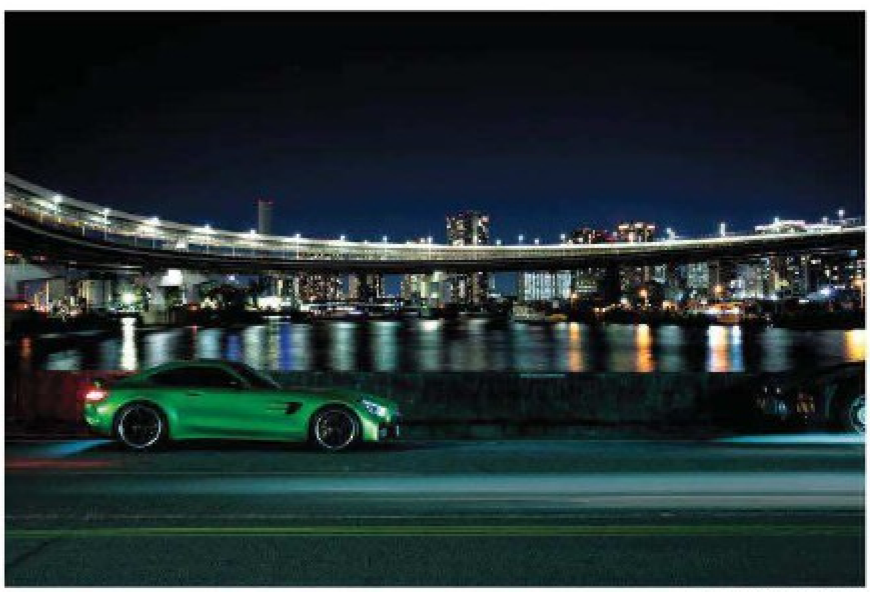
ITEM

LEDの角度を工夫して環境光になじませる

LEDはフル発光にして画面右から車のバンパーの辺りに当てる。照射角度、照射秒数、被写体との距離を変えて環境光になじませることが重要。上手に照射できると、あたかもそういう光がその場にあったような自然な仕上がりになる。



LED不使用



キヤノン EOS 5Ds／EF24-70mm F2.8L II USM

写真・文●菊池貴之

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
35mm	マニュアル露出	F8	6秒	—	400	3,550K	三脚・ライト



ソニー α7R II ／ FE 85mm F1.4 GM

写真・文●黒田明臣　モデル●近衛りこ

29 ビーズのきらめきでモデルを柔らかく包む

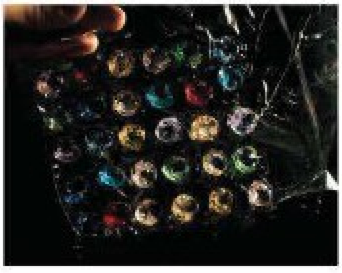
LENS	MODE
85mm	マニュアル露出
F.no	SS
F1.4	1/200秒
EXPOSURE	ISO
—	100
WB	ITEM
オート	三脚・ストロボ・アクリルビーズ

光も色も乏しい暗い場所で撮影していた。そんな中でバリエーションが欲しかったので、**ビニールのクリアシートにカラフルなアクリルビーズを接着剤で貼り付けたものを小物として使用した**。これをレンズ前にかざすことで、色鮮やかな前ボケを生み出すことができるのだ。モデルは仰向けになっており、撮影者は見下ろしている状態。三脚を設置してカメラを下向きに固定し、角度や距離を調整しながらモデルの顔が隠れ切らないように、レンズすぐ手前にかざして撮影した。レンズは開放F1.4を使用することで、豊かなグラデーションでぼかしている。普通に撮影しては無味乾燥になりそうなシーンも、思わぬ小物で華やかな雰囲気に一変する。

身近な小物でボケを生むポイント

ITEM ビーズをシートに貼り色味のある前ボケを生む

ビーズを透明なシートに貼り付けたものを使用。レンズ全体を隠してしまうと見せたい部分が弱まるので注意だ。逆光のような状況で、ビーズに光が当たるポイントが好ましい。



宝石の形をしたビーズを色鮮やかに散りばめる。シートに固定することで撮影時にボケを調整しやすくなる

LENS 明るいレンズで開放F値を使い大きなボケを生み出すようにコントロールする

アイテムを前ボケに用いるときは50mm以上の中望遠でF1.4からF2.8の開放F値を使うと良い。ボケの表現は素材によっても異なり、左下のようにアクリル板をかざせばにじむようなボケが生まれる。アイテムがない場合は、右下のようにイルミネーションなどが前ボケに使える。

アクリル板使用



モデル●ユリア

イルミネーション使用



モデル●西出早織



オリンパス PEN E-PL7／M.ZUIKO DIGITAL 17mm F1.8

写真・文•中藤毅彦

30 ギラギラとした明るさと粒状感のあるモノクローム

LENS	MODE
34mm相当	プログラムAE
F.no	SS
F2.8	1/160秒
EXPOSURE	ISO
−0.3EV	3200
WB	ITEM
オート	—

昼間と比べてモノクロームの夜景の撮影では、いかに光の量を多く確保するかがとても大事になる。というのは、太陽光という自然な光源がない夜では基本的に全体が光量不足になり、その場にある人工光を生かさなくてはならないからである。メインカットでは、街で非常に明るい照明とイルミネーションが輝いている建物を見つけ、露出をオーバー目にしてさらに光を強調している。モノクロで撮るため、カメラのデジタルフィルター「ラフモノクローム」を使用。シャッターチャンスに集中できるように、プログラムAEである程度カメラ任せにしつつも、ISO 3200まで上げて1/160秒のシャッター速度を確保。人物がぶれないように注意している。

暗いだけの夜スナップにしないポイント

OTHER 画面に明るい要素を取り入れて全体の光と陰のバランスを考える

暗くなりがちな夜スナップでは、左下の写真のように、大きな光を探して明るい画面構成を意識する。一方、右下の写真のように、提灯や看板などの小さな光源が点在する飲屋街のような場所では、それらの光が画面の中でバランス良く配置されるように構図の取り方に気を付けて撮影したい。

明るい部分が多い画面構成



暗い部分が多い画面構成

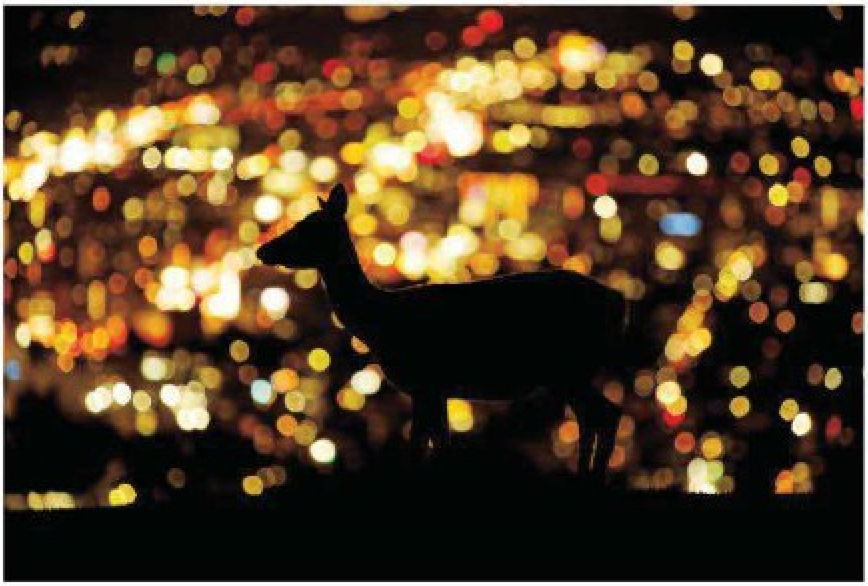


CAMERA 光量不足に注意してギラギラとした明るさを出す

カメラの出た目の露出に頼ると光量不足になることがある。下の写真は渋谷の交差点だが、印象はもっとギラギラと明るかった。この場合はプラス側に露出補正するべきだ。



31 きらめく夜景に浮かぶ凛とした鹿のシルエット



キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF70-200mm F2.8L USM+EXTENDER EF1.4×Ⅲ

写真・文●佐藤和斗

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
260mm	絞り優先AE	F4	1/20秒	-1.0EV	3200	日陰	一脚

若草山一重目から撮影した鹿のシルエットと夜景。**鹿の陰影を際立たせるため、背景が玉ボケで埋まるように調整している**。玉ボケをより大きくするために望遠ズームに1.4倍のテレコンバーターを使用し、260mmの焦点距離を確保。ピントは鹿の体のライン（縁）に合わせるとAEでも露出が極端になりにくい。夜景にピントを合わせると鹿がぼけてしまい、鹿の体に合わせると夜景が白飛びするので注意が必要だ。

シルエットを目立たせるポイント

OTHER

ローポジションで遠くの夜景を入れ込む

アイレベルで撮影すると鹿の背後に夜景が来ないので、地面に寝そべり一脚で高さを調整してローポジションで撮影して、遠くの明るいスポットを背景に選んだ。また玉ボケが少ないところに鹿を入れると、暗闇と同化して鹿が目立たないので注意だ。



玉ボケが少ない

32 灯器をアクセントにした灯台が主役の風景

点灯する夜の灯台の静寂な景色を狙うべく、辺りが真っ暗の午前3時に、灯台を同じレベルで眺望できる向かいの山の墓地から望遠レンズで捉える。日中にロケハンを行い、灯台の傍から周囲を見渡して撮影場所を決めている。墓地の端は前後に移動できるスペースがないため、望遠ズームが重宝する。**灯台の明かりが左側から出るタイミングで撮る**ことを考慮し、灯台を右に寄せて左側に空間を空けてバランスをとった。

灯台らしさを演出するポイント

OTHER

灯台の光り方のパターンを知る

沿岸灯台は灯器の光り方が全て違う。点灯のパターン（灯質）を事前に知っておけば、シャッターチャンスのタイミングを見計らうことができる。ちなみにメインカットに写っている洲埼灯台の場合は、30秒ごとに白と赤の光が交互に点灯する。



灯器が光っていない



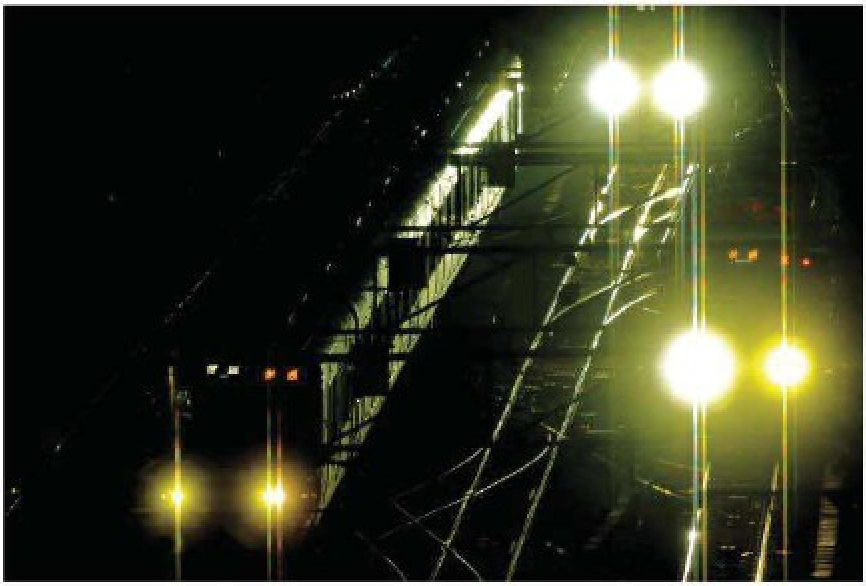
オリンパス OM-D E-M1／M.ZUIKO DIGITAL ED 40-150mm F2.8 PRO

写真・文●岡 克己

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
158mm相当	絞り優先AE	F4	1/30秒	-2.3EV	200	晴天	三脚

33 ヘッドライトが美しい 都会を走る列車の勇姿

都会らしさを出すため、複数の線路を超望遠レンズで切り取った。列車がたくさん行き交っていないと都会のイメージが伝わらないので、**画面の中に複数の列車が入り込むまで粘る**。線路には列車のヘッドライトが反射した方がインパクトが強くなるので、最もその効果が高い雨の日の夜を狙うと良い。35mm換算で960mmという焦点距離なので、ぶれないように重い三脚をカメラとレンズ用に2本使用して万全を期している。



キヤノン EOS 7D Mark Ⅱ／ EF600mm F4L IS USM

写真・文•山﨑友也

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
960mm相当	マニュアル露出	F4	1/50秒	―	800	太陽光	三脚

列車の存在感が増すポイント

OTHER

ヘッドライトが光る 複数の列車を待つ

列車の存在感を高めるには、周囲が十分に暗く明るいヘッドライトが光る正面側から撮り、しかも都会のイメージが出るように複数の列車を写し込みたい。自分の思うような位置に複数の列車が入るまでひたすらじっくり粘るのみ。



34 玉ボケを添えて彩った ひっそりと咲く一輪の花

住宅地の片隅に咲く一輪の花を**開放絞りのF1.2で撮影し、玉ボケに変化した街灯と街の明かりをあしらった**。夜の街をスナップするときはF値の明るい50mm前後の標準レンズを持ち歩くと玉ボケを作りやすい。F値を明るく設定しておくことでシャッター速度も稼げるので、手持ちで玉ボケを配置する位置も探りやすくなる。右写真では、街灯と花の高さを合わせるため、バリアングルモニターを使いローアングルで撮影した。

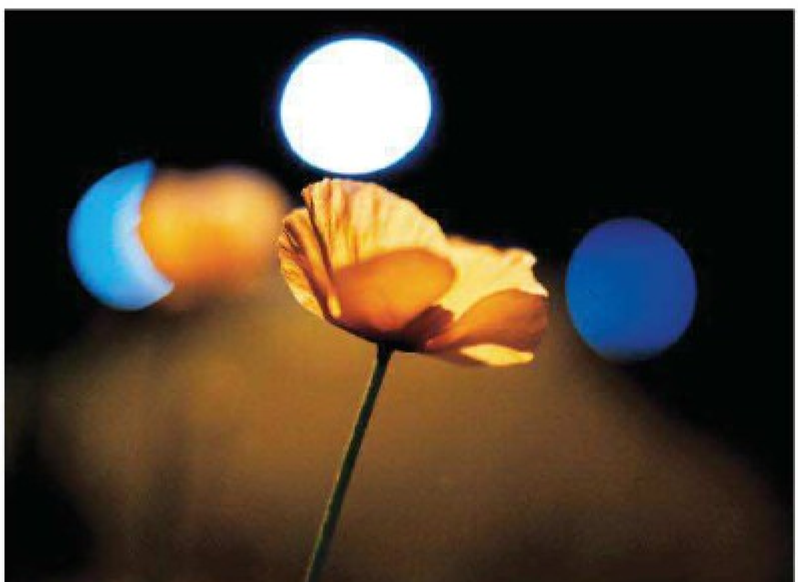
美しい玉ボケを作るポイント

LENS

マニュアルフォーカスで 事前に玉ボケを探す

近くの大きな光源はぼかしても光源の形が出てしまい玉ボケを作りづらい。遠景の光源をぼかした方が光源の形を問わずきれいな玉ボケになりやすいことを覚えておこう。事前にマニュアルフォーカスでピント位置を最短に合わせてファインダーをのぞいておくと、どのような玉ボケを作れるかを確認できる。





オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 25mm F1.2 PRO

写真・文•木村琢磨

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
50mm相当	マニュアル露出	F1.2	1/160秒	―	6400	2,650K	―



キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／EF16-35mm F2.8L Ⅲ USM

写真・文• 山下峰冬

35 ほのかな月明かりが輝く三日月と天の川の共演

LENS	MODE
16mm	マニュアル露出
F.no	SS
F2.8	30秒
EXPOSURE	ISO
—	3200
WB	ITEM
白熱電球	三脚

日没後の空に残った三日月と、無数の星々との共演を、地上の植物のシルエットとともに写し止めたいと考えた。月と星の両方を写すためには、満月だと明る過ぎるため、**月齢3の細い三日月の時期を選んでいる**。撮影では、主役の月を引き立てながら天の川もアクセントとして取り込めるよう木の枝を慎重に配した。木を周囲に配して主役の月に視線を誘導するため、超広角レンズをセレクトしている。星が流れ過ぎないようにシャッター速度は30秒までと決め、枝葉の輪郭が闇に沈まないやや明るめの露出をISO感度の調整で得た。三日月は白く飛び満月のように写るが、夜空を印象的に表現するための要素として生かした。

月と星の両方を写すポイント

OTHER 月齢3の三日月を選んで月と星の両方を写す

月齢3の三日月のように細い月であれば、多くの星を一緒に写すことができる。さらに月の入り間近の月が低い時間帯のため、上空の星に月光の影響が及びにくく鮮明に描写しやすい。満月では明る過ぎて星が写らない。


満月だと星が写らない

OTHER 静謐を表す青みを出すには日没1時間後に撮影する

日没30分後では空が明るく星が少ないので、1時間後から撮影。青く静謐な印象にするには、月が水平線に近づき赤みを帯びる前に撮影を終える。日没から約2～3時間後に三日月は沈んでしまう。


日没後30分

LENS 16mmの広角域で周囲の木の枝を入れる

砂浜沿いの木々の茂みに入り込み、形の良い枝越しに夜空を撮影。葉がぶれないよう風が止むタイミングでシャッターを切る。





36 パノラマで見せる高架の美しき曲線

LENS	MODE	F.no	SS
20mm	マニュアル露出	F8	20秒
EXPOSURE	**ISO**	**WB**	**ITEM**
—	200	2,850K	三脚 20枚ステッチ



オリンパス PEN-F ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 30mm F3.5 Macro

写真・文● 千田智康

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
60mm相当	マニュアル露出	F3.5	1/25秒	—	800	オート	—

37 鏡の世界から飛び出す映り込みイリュージョン

広告看板から人や車が飛び出す不思議な空間を演出するため、画面の約2/3を映り込みに割いた。ポイントは看板が映った手すりにギリギリまで寄って看板を広く映り込ませること。ピントは看板に合わせている。**車が看板から飛び出しているように見える瞬間がシャッターを切るタイミング**。シャッター速度は車の視認性を維持しつつ動感も表現できる1/25秒に設定している。

不思議な映り込みを作るポイント

OTHER

境界付近に鮮やかな被写体を配置する

単なる映り込み写真で終わらせないポイントは副題の配置にある。左の写真では、一番目立つ看板と同系色の赤い車を構図に取り入れて2つの世界を対応させ、さらに、映り込みと現実との境界線に人を入れることで不思議さを強調した。





ニコン D700／AI AF Nikkor 20mm f/2.8D

写真・文● 大山 顕

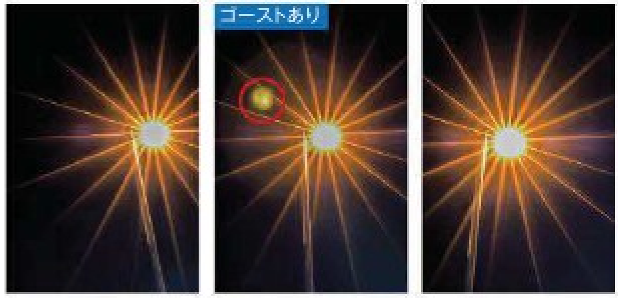
僕はジャンクションを撮るとき、全体を収めるようにしている。上下左右、視界いっぱいに広がる光景を目の当たりにしたときの感動を記録したいからだ。人間は目と首を動かし、捉えた像を脳の中で合成してダイナミックさを感じている。**撮影方法でそれに一番近いのはパノラマステッチだ**。レンズの前玉付近にあるノーダルポイントと言われる箇所を中心に左右上下に振って撮った複数枚のショットをPTGuiなどのスティッチソフトで合成する方法だ。夜のジャンクションは、背景が沈んで構造物だけが浮かび上がり、余計にその存在を際立たせる。パノラマが生きる時間でもある。

パノラマステッチで合成するポイント

CAMERA

角度の違う複数枚をあらかじめ撮影する

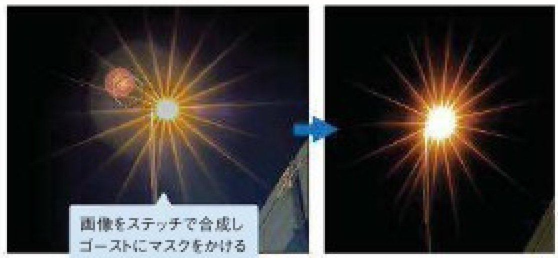
道路照明がいくつも連なっている光景は見所の1つ。ただ、たくさん照明があると、どうしてもゴーストが発生することがある。また、良い構図とゴーストが発生しないカメラ位置が両立しないということもある。そんなときは、照明を角度を少しずらして複数枚撮っておく。レタッチの段階で、ゴーストを含まない部分を合成するためだ。



OTHER

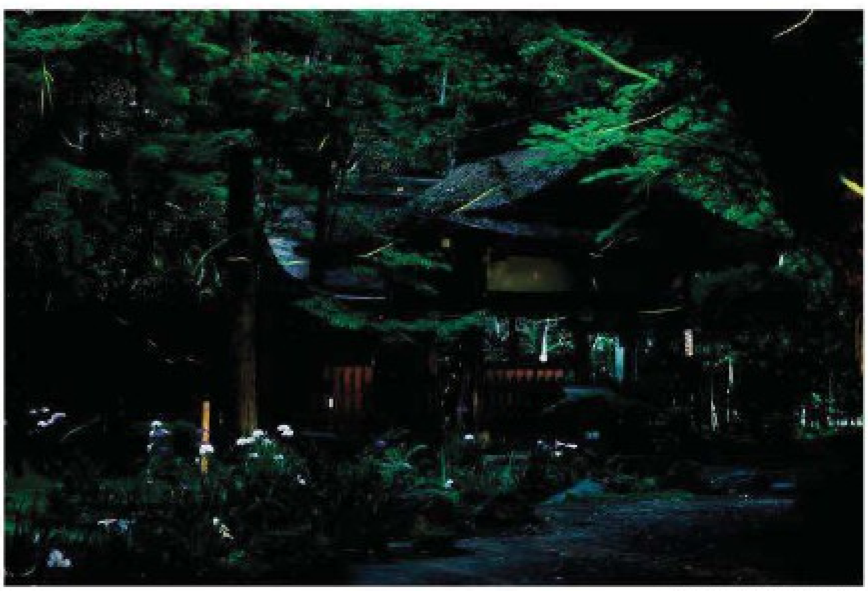
ステッチの過程でゴーストにマスクをかけて合成する

あるカットでゴーストが発生していても、少し角度を変えた他のショットでは消えている。別の位置にゴーストが現れることもあるが、画面において同じ位置でさえなければ問題ない。撮っておいた各ショットを重ね、ゴースト部分にマスクをかけて書き出す。もちろんパノラマを目的とした撮影でないときでも有効な方法だ。



38 幻想的に浮かび上がる神社に舞う蛍の軌跡

蛍のスポットというと人里離れた所が多いが、京都では世界遺産の寺社や、哲学の道など市中の名所に多くの蛍が舞い、京都らしい景観を背景に絵作りができる。上賀茂神社の日本庭園「渉渓園」に**飛び交う蛍を30秒露光した**。柵の外から望遠気味で狙い、曲水に咲く花菖蒲や奥の社を中心に構図。F8まで絞って両者にピントを合わせている。右上の木の陰に軌跡が写るよう、蛍が手前にたくさん飛ぶタイミングを見計らった。



キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF24-105mm F4L IS USM

写真・文● 水野秀比古

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
92mm	マニュアル露出	F8	30秒	—	1600	4,000K	—

蛍の光跡を写し取るポイント

CAMERA

30秒の長時間露光で蛍が多く舞うときに撮る

シャッター速度を30秒にセットし、その秒数で蛍の軌跡が露光するようにISO感度を調整。バルブ機能を使えば数分の露光も可能だが、背景の緑や山肌なども明るさを増すのでバランスを見極める。蛍が画面にたくさん入るまで粘り強く待とう。



ITEM & TECHNIQUE

夜だけの美しい光を最大限引き出す

道ゆく車のヘッドライトとテールライト、街を輝かせるネオンや街灯の光。夜だけに輝く光源はアイテムを使うことで、最大限にその美しさを引き出すことができる。一方で暗さを逆手にとって、独自のライティングを楽しめることも夜の撮影の魅力。ストロボやLEDライトを駆使することで、自分だけの光を演出することができる。

街のにぎわいをきらびやかに演出

クロスフィルター

39

CROSS FILTER



夜のポートレート撮影で強力な武器となるのがクロスフィルターだ。フィルターの表面に細い線状の溝が規則的に刻まれており、絞り込まなくても光条を作れる。クロスフィルターを使用すると、街灯や信号、LEDの看板がクロス状に輝き、写真に美しい演出が加わる。下の写真では効果が出やすいように強めの光源を探し、写真の華やかな雰囲気に合うようモデルに動きのあるポージングを指示した。ISO感度を上げて明るく仕上げると光条がさらに引き立つ。

ケンコー **R-スノークロス**
実勢価格 2,000円前後～(フィルター径によって異なる)
雪の結晶を思わせる6本の光条が発生するクロスフィルター。キラキラとした演出を加えるのに最適なフィルターだ

CHECK 強烈なバックライトのように光の筋を画面に散りばめる

クロスフィルターを使用することに加え、ISO感度を上げて撮影することで、背景も明るく写してきらびやかなイメージを引き立てた。モデルにはストロボを当てているが、ストロボ光の影響を背景に与えないために、モデルと背景の距離はある程度離れていた方が良い。



フィルターなしだと落ち着いた印象に

華やかな夜の繁華街であっても普通に撮ると落ち着いてしまう。繁華街らしい明るいライトのイメージが伝わらない



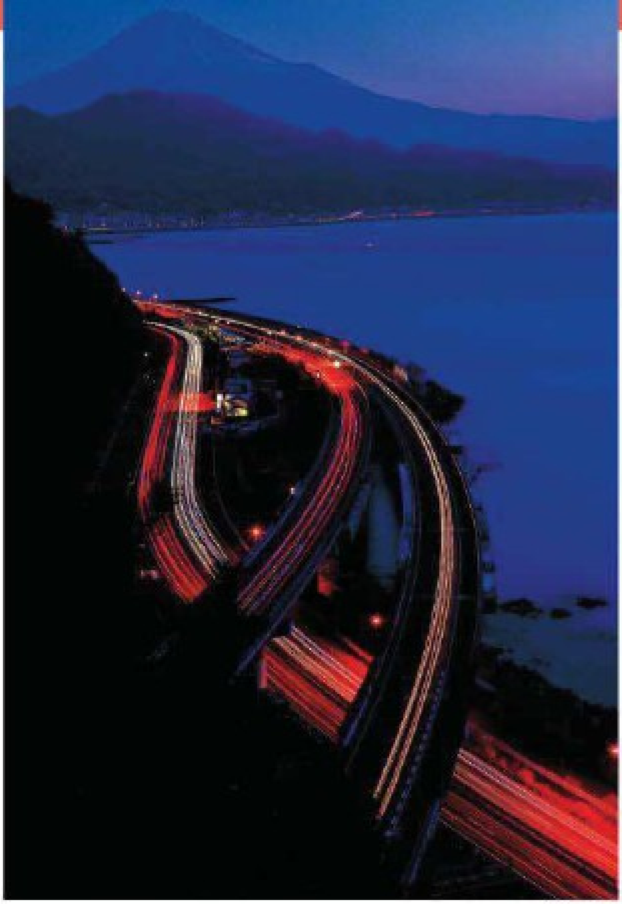
ISO感度を上げて背景を明るくする

背景が暗いと光条があまり効果的に見えない。ISO感度を上げて背景を明るく写すため、ISO感度を1600まで上げた

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF50mm F1.2L USM ／50mm ／絞り優先AE(F4、1/128秒、±0EV)／ ISO 1600／ WB：オート

写真・文• 山本春花　モデル• こいずみさき（ABP inc.）





キヤノン EOS 5D Mark II／EF24-105mm F4L IS USM／67mm／マニュアル露出（F11、40秒）／ISO 100／WB：白色蛍光灯

写真・文● 中村勇太



40 NDフィルター

シャッター速度をさらに長く稼ぐ

焼ける空、富士山、光跡を絡めて撮影するため、スタンバイしたのは日の出前。時間帯が早過ぎると光跡は伸ばせるが、空の赤みや富士山がしっかり写らず、日の出の時間に近過ぎると富士山はしっかり写せるが、露光時間が短くなり光跡が伸ばせないという難しいシーン。NDフィルターで露光時間を稼ぐことで、空の焼けた雰囲気を残しつつ光跡を伸ばせた。富士山の暗い部分もしっかり見せるため、RAW現像時にシャドウを上げた。構図は縦位置にして奥行きを出している。

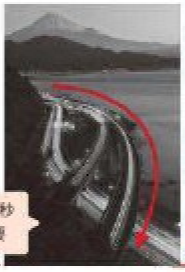
マルミ光機 DHG ND8

実勢価格 5,400円前後（φ77mm）

3段分の減光効果があるNDフィルター。光跡を伸ばす他、露出オーバーによる白飛びや絞り過ぎによる回折ボケを低減

CHECK ND8で3段分の露光時間を稼ぐ

日の出時刻約25分前。だいぶ明るい時間帯のため、ISO感度を下げて絞っても露光時間は長くならず光跡も伸びない。NDフィルターのND8を使用することで3段分光量を落とし、露光時間を長くする。これにより光跡をきれいに伸ばした。



ITEM & TECHNIQUE

41 ペンライト

花畑をセルフライトアップ



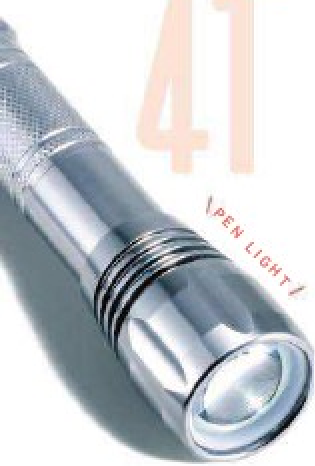
キヤノン EOS 6D／EF17-35mm F2.8L USM／17mm／マニュアル露出（F2.8、52秒）／ISO 2000／WB：オート

写真・文● 橋向 真

LEDペンライト

実勢価格 1,000円前後

家電量販店で手に入るLEDペンライトを使用。当てる対象が遠くなければ光量は150ルーメン程度で良い

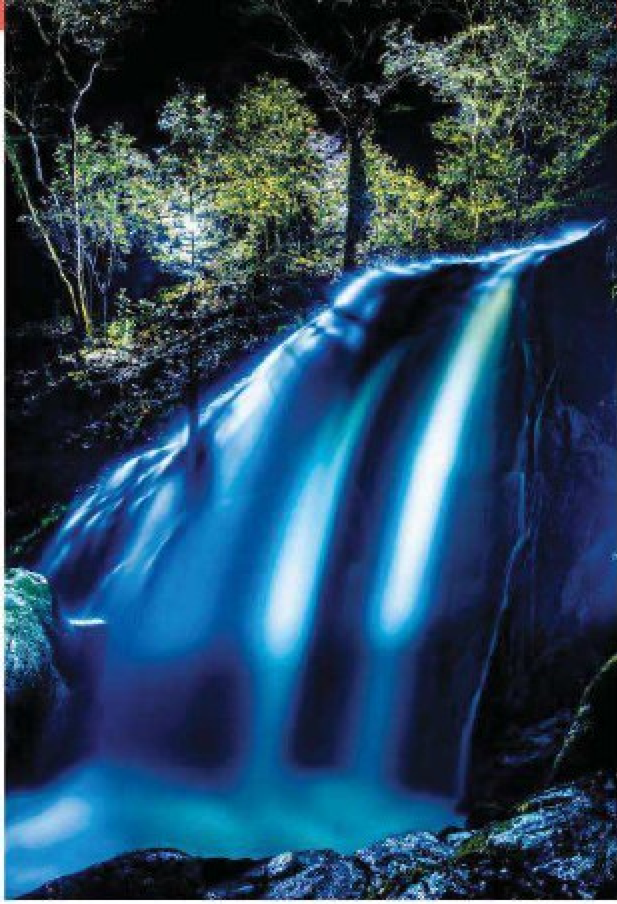


富士山と天の川に、より夏らしいイメージを加えるため、手前に鮮やかなヒマワリを配置した。しかし、天の川を捉えるための52秒というシャッター速度では、光の当たっていないヒマワリが黒くつぶれてしまう。そこで使いたいのがペンライトだ。露光中に被写体を数秒照らすと明るく浮かび上がる。長く当て過ぎると白飛びが起こるし、短くても暗く写るので、何度か撮影を繰り返して最適な秒数を探ろう。

CHECK 露光中に光らせたい箇所をライトでなぞる

露光中に明るくしたい箇所をなぞるようにライトを当てる。光量の弱いライトを使うときはなぞる回数を増やそう。光を当てる被写体によって寒色系と暖色系のライトを使い分けることも重要で、ヒマワリは寒色系のライトを当てると鮮やかな黄色が再現できる。





リコー PENTAX KP ／ HD PENTAX-DA 16-85mmF3.5-5.6ED DC WR ／ 16mm（24mm相当）／マニュアル露出（F8、30秒）／ ISO 400 ／ WB：オート

写真・文● 木村琢磨

42 LEDライト

こだわりの多灯ライティング



夜にLEDライトを使い滝のある風景に多灯ライティングすることで、日中には撮れない幻想的な1枚に仕上げた。ストロボと違いライティングを目視できるため、仕上がりを確認しながらセッティングできる。定常光なのでF値はそのままでシャッター速度で露出の微調整が簡単にできる。ライティングの範囲が広いのでカメラのWi-Fi機能でスマホを見ながらライティング。普通に撮るとつぶれてしまう木々を輝かせ、滝の透明感を引き出した。

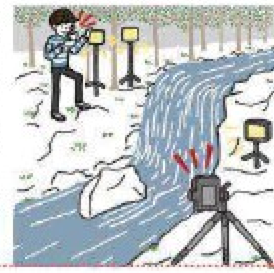
LPL **VL-540C Ⅱ**

実勢価格 6,000円前後

単3電池4本で長時間使用できるコンパクトなLEDライト。付属のブラケットを使うことでカメラや三脚への取り付けが可能だ

CHECK 3つのLEDでバックライトとサイドライトを作る

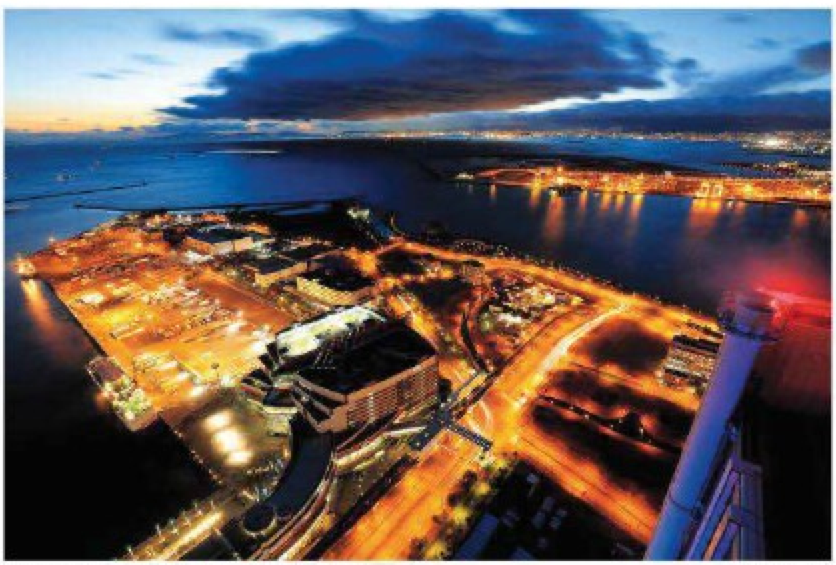
木の後ろからバックライトを入れエッジを光らせると同時に滝の透明感を出した。バックライトのみだと手前の岩が黒つぶれするためサイド光を1灯追加した。スマホでリモート撮影すると、ライティングを調整しやすい。



ITEM & TECHNIQUE

43 忍者レフ

ガラスの映り込みを防ぐ



キヤノン EOS 5Ds R ／ EF16-35mm F4L IS USM ／16mm ／ 絞り優先AE（F8、15秒、±0EV）／ ISO 200 ／ WB：オート

写真・文● 中村勇太

窓ガラス越しでの撮影時に悩まされる室内照明の映り込み。それを防ぐのが「忍者レフ」だ。レンズに取り付ければ瞬時に映り込みが消える。ベイエリア特有のオレンジ色の明かりと、日の入り約30分後特有のグラデーションが美しい空をダイナミックに表現するため、超広角レンズで撮影。長時間露光で雲に躍動感をつけ、手前にビルの一部をフレームインすることで奥行きを演出した。

よしみカメラ **忍者レフ**

実勢価格 5,200円前後

映り込み防止グッズのベストセラー。吸盤などでガラスを傷めず、レフ板感覚の使い勝手が秀逸だ



CHECK レフ板の中央の穴からレンズを出してセット

より映り込みを防ぐため、レンズと窓ガラスをできるだけ近づける。ただし、ぶつけてしまうとガラス面を傷つけるため慎重に行う。超広角レンズの場合、画面の四隅が特に映り込みやすいため撮影時に気を付けたい。


忍者レフ使用中


あり


なし



ニコン D5／シグマ 14mm F1.8 DG HSM | Art ／14mm ／マニュアル露出（F1.8、20秒）／ ISO 2500／ WB：4,200K

写真・文●関 一也　モデル●保坂玲奈



44 光源を自在に操る ストロボ

ニッシンジャパン i60A

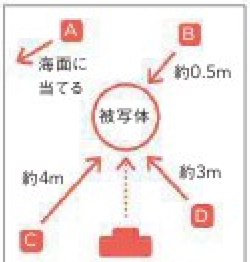
実勢価格 34,560円前後

小型ながらガイドナンバー60を誇る大光量ストロボ。電波式のワイヤレス撮影が行えるため、岩場などの奥にセットするといった今回のような撮影で重宝する

夜の撮影において、月がないような暗い環境では全てが暗く、光が当たらない限り地上のディテールは写らない。ストロボで真っ暗な地上をライティングすることで、普段見えない暗闇の地上を浮き立たせられる。手順は、まず背景となる星空の露出を決め、次に海のライティング、そして人物と、奥から順番に光量を調整することでバランス良く撮影できる。構図に関しては、三分割法で空2、地上1とし、人物を右側に配置した。ストロボは4灯使用し、下図のようにセッティングしている。

CHECK 4灯を駆使した多灯ライティング

ストロボに「グリッド」と呼ばれるハニカム構造のアイテムを装着してスポット光を演出している。さらにオレンジフィルター（メインカットは3,800Kを使用）を付けて光に赤みを与えている。ストロボの配置は右図のとおりで、Aストロボが隠れる位置から左下の海面に向けて1灯、B人物のすぐ後ろからホワイトグリッドを1灯、CDさらに人物の両サイドからブラックグリッドを2灯当てている。グリッドは黒より白の方がスポット光のエッジが柔らかくなる他、光の角度も3パターンで変更できる。ストロボ光の当たり具合をかなり細かくコントロールできる面白さがある。





A
発光量1/2
照射角24mm

i60Aにローグ カラーコレクションフィルタキット（実勢価格：4,700円前後）のオレンジフィルターを装着



B
発光量1/8
照射角24mm

グリッドをホワイトグリッドアタッチメント（実勢価格：3,100円前後）に交換したi60A



C
発光量1/8
照射角24mm

i60Aにローグ フラッシュグリッド（実勢価格：6,200円前後）を装着してブラックグリッドをセット。丸いオレンジフィルターを前面に挟む



D
発光量1/16
照射角24mm

左側のストロボと同じ設定で右側にもう1灯設置する。ブラックグリッドとオレンジフィルターも同様にセット



キヤノン EOS 5Ds ／ TS-E17mm F4L

写真・文●泉谷玄作

45 夜空を華やかに彩る 単発花火の多重露出

LENS	MODE
17mm	マニュアル露出
F.no	**SS**
F11	1秒×3回
EXPOSURE	**ISO**
—	100
WB	**ITEM**
3,000K	三脚

花火大会では一般的に4号玉、5号玉と呼ばれるサイズの花火が多く、撮影しやすい。縦位置で単発の花火を捉えるのが最もベーシックな撮り方だが、ここでは写真がより華やかになるように、3発の花火を多重露出で重ねてみた。事前の準備としては、明るい時間帯にロケハンを行い、撮影場所と花火の打ち上げ位置を確認しておく。また、プログラムが配布されている場合はもらっておこう。花火のサイズや種類、打ち上げ順が明記されているので、撮影の段取りを考える上で大いに役立つ。今回は17mmの単焦点レンズを使用し、**雲台を10°ずつ回転させながら4号玉を3回露光**しているが、花火のサイズや撮影距離によって必要なレンズが変わってくるので、打ち上げ前の下調べが大切だ。

CAMERA & ITEM

高画素機が有利



キヤノン EOS 5Ds

高画素機は花火を細密に描写できる他、花火が切れないように画面に余裕を持たせて撮影し、後でトリミングをする際に画素数の面で有利だ

シフトレンズが最適



キヤノン TS-E17mm F4L

パースによる画面のゆがみを取り除きたいときはシフトレンズが有効だが必須ではない。現場の状況に合わせて広角から望遠を使い分けたい

露光のタイミングを操る



ケーブルレリーズ

シャッターを押す際に起こるカメラブレを防げるだけでなく、花火が打ち上がってから消えるまでの露光のタイミングをコントロールするのに必須となる

明るい花火の撮影で使用



ND8フィルター

毎回必要ではないが、明るい花火を撮影するときに最低のISO感度、絞りをF22といった最小値に設定しても露光オーバーになってしまう場合に減光する

LOCATION

［福島県］

浅川町花火大会

毎年8月16日に開催され、300年以上の歴史を誇る福島県最古の花火と言われる。大小数千発の花火が打ち上がり、特に「大からくり」や「地雷火」といったユニークな花火が見ものだ。また、それに先立って春に「花火の里あさかわ夜桜花火」も実施される。山頂に桜があり山から見下ろすアングルで撮れる。単発で20発程度だが、開花時期の花火もまた魅力だ

• 単発花火を多重露出できれいに重ねるポイント •

STEP 1

カメラの基準の設定値は バルブ・ISO 100・F11

しっかりと固定できる三脚の上にカメラをセットして、ケーブルレリーズを取り付ける。露出モードをバルブ（B）にして、ISO感度を100にセット。長秒時ノイズ低減はオフ、仕上がり設定は色味が鮮やかになる「風景」にする。絞りはF11にする。この設定が単発で打ち上がる花火撮影の基本となる。多重露出を行う際も、1枚あたりの撮影設定は同じだ。



ケーブルレリーズを使用

長時間露光でシビアになるカメラブレを予防できてレリーズの操作がしやすい



バルブモードに設定

ケーブルレリーズのボタンを押し続けている間だけ露光される



シャッター速度が速過ぎると上手に撮れない

十分な露光時間がないと美しい花火の光跡が得られない

STEP 2

MFでピントを固定して 左寄りに構図を整える

フォーカスはMFで行う。無限遠の位置に合わせてテープで固定。日中で花火の筒（打ち上げ位置）が見えるならMFで筒にピントを合わせておく。画面は横位置で左寄りに1発目が入るように構図を整え、最初の花火が上がったら画面で高さや大きさを確認する 。同じ位置で同じ大きさの花火が上がるのが理想だが、多少違っていてもかまわない。



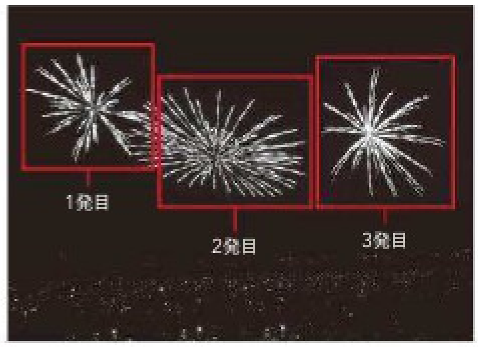
MFに設定

レリーズのボタンを押すときに不用意にピント位置が変わらないようにMFで固定する



無限遠にしてテープで固定

ピントリングをテープで固定しておくことでピンボケのリスクを軽減できる



画面左に1発目の花火が収まる構図にする。構図をずらして画面中央に2発目の花火を、画面右に3発目の花火を露光する

STEP 3

多重露出モードで 1発目の花火を撮影

多重露出を有効にして3枚を重ねる設定にする。初めは撮影せず、ドーンと音が鳴ったらすぐに画面を見て、花火の大きさ、高さ、画面内の配置を確認する。花火が打ち上がるときに現れる光の尾を「昇り」というが、これを入れるか入れないかで2種類の撮り方がある。今回のように多重露出を行う場合は入れない方が花火本体をきれいに合成できる。



多重露出の設定

多重露出撮影は「機能・操作優先」に。多重露出制御を「比較（明）」にして重ねる枚数は「3」に設定（EOS 5Dsの場合）



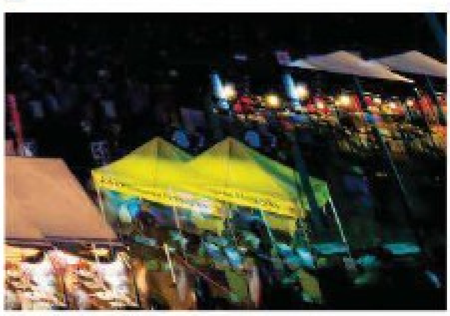
昇りが消えたら露光を開始する。昇りを入れたい場合はドーンと鳴った時点で露光する

STEP 4

構図をずらして 2発目と3発目を撮る

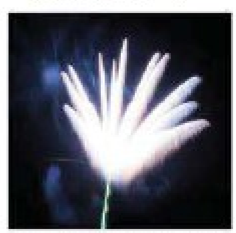
1発目は画面左に写したので、2発目は中央に写す。やみくもに画面を平行移動させてもバランスの良い画面にはならない。メインカットは全て4号玉で、2発目は10°右方向に構図をずらしている。3発目の花火も同じく、さらに10°右方向に構図をずらして撮影。レンズの焦点距離や花火の種類によって花火の大きさが変わり、ずらす角度も変わる。

屋台などは構図に入れない



多重露出の設定で平行移動して屋台を写すとずれて重なってしまう。メインカットは夜景なので成功している

明る過ぎて白飛びしている

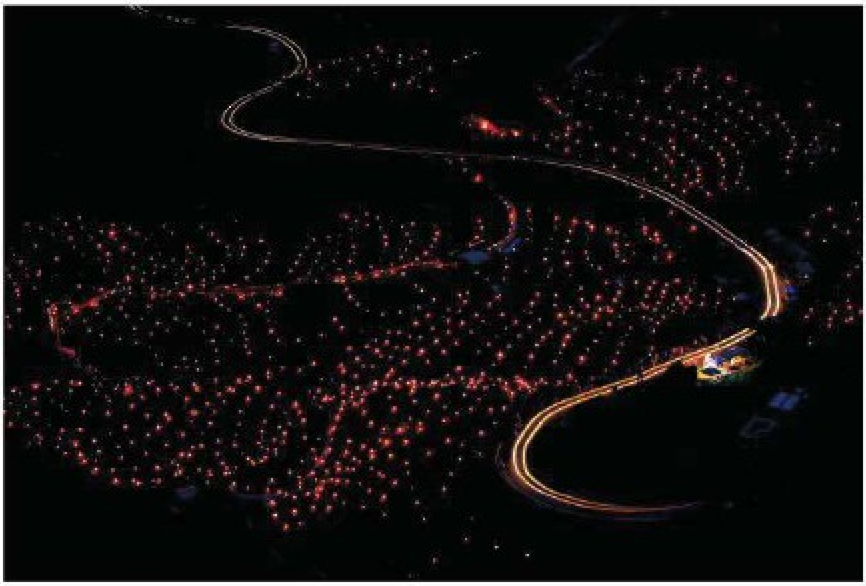


暗過ぎて発光が弱い



花火は上がる場所の遠近によって明るさが変わる他、特別に明るい花火もある。それらの条件を見ながらF値を変えて露出をコントロールする

46 駆ける光跡を絡めた山肌を照らす虫送り



キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／EF70-200mm F2.8L IS Ⅱ USM

写真・文•西川貴之

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
130mm	マニュアル露出	F16	60秒	—	50	オート	三脚

※データは2枚目

松明が山肌を照らす丸山千枚田の虫送り。赤倉山の展望台から**130mmの中望遠でフレーミングした2枚を比較明合成している**。まず松明行列が始まった後、薄暮で棚田のディテールが見えるうちに1枚目を撮影。－1.0EV露出補正し、30秒の露光を行った。そして松明行列が過ぎ、車が走り出してから、60秒のバルブ撮影で光跡を画面いっぱいに入れた。光跡が白飛びしないように感度を50に設定。F16まで絞り込み露出アンダーで撮影し、現像時にプラスに調整した。

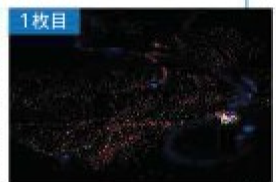
比較明合成のポイント

OTHER

時間をずらして撮影し祭りの全体像を表現する

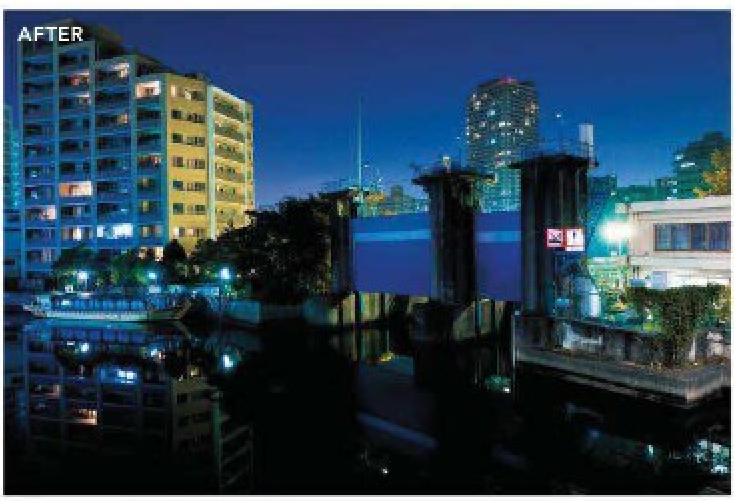
Photoshopで2枚目の光跡の写真をベースに、1枚目の薄暮の写真を比較明で合成する。光跡が走る道路部分をマスクすることで、停車中の車や人物が被ることがないようにしている。また小屋が目立つのを避けるため、同時にマスク処理している。

1枚目





47 水路を引き立たせる色かぶりの取り方





ニコン D800E ／ PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D ED

写真・文•小野寺宏友

LENS	MODE	F.no	SS
24mm	マニュアル露出	F8	25秒
EXPOSURE	**ISO**	**WB**	**ITEM**
—	200	オート	三脚

都市の水路を彫刻作品のように見せるため、シフトレンズを使用。快晴無風の気象条件を選んで撮影している。近年は街灯がLED化されるなど種類が増えてきたが、依然として水銀灯が多く緑かぶりを起こしやすい。撮影時にWBを調整してもなかなか取れないので、撮影に集中するためとりあえずオートホワイトバランスで撮影し、**RAW現像時に緑かぶりを取った方が良い**。

きれいに色かぶりを取り除くポイント

OTHER

Camera Rawを使って緑の色相を黄色にシフト





1 HSL調整の色相タブでイエローとグリーンを下げると緑かぶりが取れる。2 3 さらに彩度と輝度を整える。4 基本補正で色温度を3,500Kに下げて青みを出しつつ 5 ブルーのトーンカーブで微調整を行う



ニコン D5／ AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G

写真・文●中野耕志

48 夜空に写し止める 着陸灯の光をまとう機体

LENS	MODE
58mm	マニュアル露出
F.no	SS
F1.4	1/180秒
EXPOSURE	ISO
—	25600
WB	ITEM
電球	—

機体下面に空港の灯火類を反射させながら、夜の滑走路に滑り込むボーイング777。夜間の飛行機撮影では、撮影条件と撮影機材選びがポイントだ。まず、飛行機のシルエットが判別できるくらい背景を明るくしたいので、街明かりのある都会の空港や、わずかに残照が残る薄暮の時間帯に撮影する。暗闇にいる被写体はいくらISO感度を上げても真っ黒にしか写らないからだ。撮影機材は超高感度での撮影可能なカメラと、フレアやゴーストが出にくく、F値の明るいレンズが有利。手持ち撮影によるこのシーンでの露出はF1.4、1/125～1/250秒、ISO 12800～25600程度が目安となる。1/180秒のシャッター速度を確保し、機体を写し止めた。

夜の飛行機を写すためのポイント

LENS 高感度機と明るいレンズで夜でも最適な露出を得る

手持ち撮影はISO感度を上げ、十分なシャッター速度を得ることが必須。下のように飛行機が停止中なら、三脚を使い低ISO感度で長秒露光できる。狙い目は出発ゲート発進前、滑走路進入前、滑走路進入後だ。



CAMERA 1/180秒のシャッター速度で機体をしっかりと止める

止めて写すか、ぶらして写すか、そして使用機材や飛行機までの距離を勘案してシャッター速度を決定。メインカットは58mmレンズ、1/180秒で動きを止めたが、下は15mm、1/8秒で飛行機の動きをぶらしている。



1/8秒

LOCATION

［大阪府］

伊丹空港

市街地が間近にあり、背景に街明かりを絡めながら撮影することができる。メインカットは千里川土手から撮影したもの。他にターミナルビル4Fの展望デッキ、伊丹スカイパークなどが撮影スポットとして知られる





ニコン D810 ／ AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED

写真・文・茂手木秀行

LOCATION

［千葉県一宮町］
一宮海岸

夏場に出る満月前後の月齢13〜16の月は、日没の時間帯に南東の方角から昇ってくる。露光時間が長くなるほど月の光跡が延びて月の道が幅広くなる



オレンジ色に包まれた月の道を撮るポイント

OTHER

南東方向から昇る月齢13〜16の月を狙う

昇ってくる月は月齢13〜16が撮影しやすい。満月の前後3日間だ。夏の間は南東から昇るので、スムーズに撮影を行うためにも日中に場所と構図を決めておきたい。空の色合いがドラマチックなのは日没後1時間程度。月が昇り切ると、一転青く静かな色合いになる。



CAMERA

30分超の長時間露光で幅のある月の道を写し取る

長時間露光では月が1本の長い光跡となる。明るい部分の面積が大きくなるので、月の道も広がって華やかになる。月の高度が30°以下になる時間帯に撮影する。露光時間は1秒程度の露光をしたテスト撮影の結果から計算するが、1〜2段明るくすると良い。



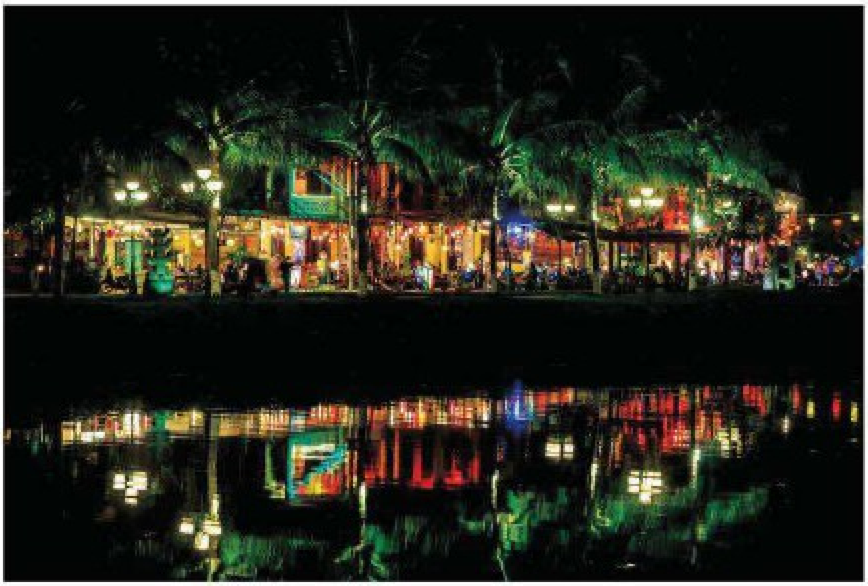
LENS	MODE
58mm	マニュアル露出
F.no	SS
F11	1,995秒
EXPOSURE	ISO
—	32
WB	ITEM
晴天	三脚・ND

49 薄明が残る空色が美しいドラマチックな月の道

5月から9月の満月前後（月齢13〜16）は、日没とともに月が登ってくる。まだ夕空の色が残る日没後1時間くらいの間に月を撮影すれば、オレンジ色に輝く空を表現できる。その時間帯に**30分を超える長時間露光を行う**ことで、刻々と変化する空の色合いが積算されて見た目とは違う幻想的な色合いに仕上がるのだ。その色合いを出すには、ホワイトバランスを晴天（太陽光）に設定すると良い。オートでは微妙な色合いが補正されてしまうからだ。露出はマニュアルで行うが、空の状態で大きく違ってくる。まずはこの写真の撮影データを参考にして試した上で、状況に合わせた変更を加えるのが良いだろう。

50 シンメトリーで映し込む連なる露店のにぎわい

夜の水辺は陸上の風景がはっきりと映り込むので、一見だまし絵のような写真が狙える。もちろん鏡のような水面が理想的だが、若干ざわついていてもシャッター速度を速めに設定すれば写し止めやすい。風などの条件でも変わってくるが、例えば自分の目で見て映り込みが確認できるようなら、1/2 秒程度のシャッター速度でも問題ない。**今回は対岸の人々をぶらさず描写したかったので 1/4 秒とし、シンメトリー構図で撮影した。**



ニコン D810／ AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED VR

写真・文●丸田あつし

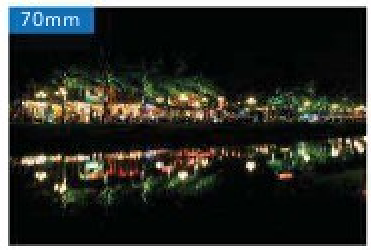
LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
105mm	絞り優先AE	F5.6	1/4秒	-0.3EV	800	オート	三脚

映り込みを強調するポイント

LENS

105mmで整理してシンメトリーで切り取る

映り込みの効果を最大限に生かすため、構図はできるだけ無駄なものを省くよう心掛ける。構図が整理しきれていないと効果は薄れ、面白みに欠けた写真になるので注意が必要だ。下の70mmの場合、もう少しズームすると人の姿も分かりやすい



51 シルエットが印象的な静謐なる夜の広場

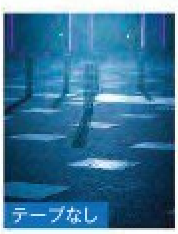
幾何学的なタイルやオブジェクトの並んだ夜の広場で後ろの街灯から光が強く照らされ、オブジェクトの影がこちらに迫ってくるようなシーンを見つけた。**街灯によりフレアが発生すると、シルエットが目立たなくなるので、黒いテープを使ってフレア対策をしている。**無機的で静かな印象にするためホワイトバランスを白熱電球に設定して青くし、中央のオブジェクトと影がシャープに写るようF8にして被写界深度を深めに取った。

フレアを除去するポイント

ITEM

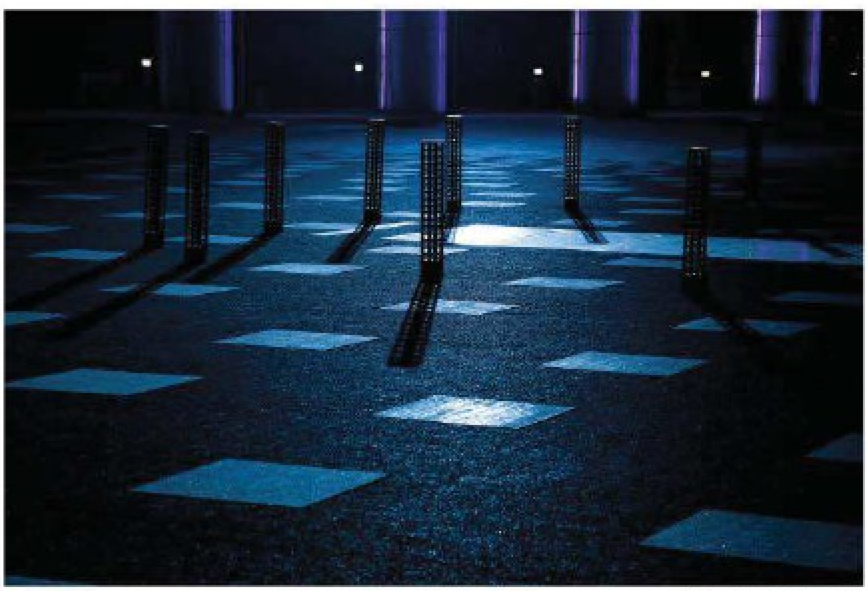
黒いテープで差し込む光を遮る

夜景撮影はフレアが日中よりも目立ってしまうため遮光フードを活用したい。それでもフレアが出る場合は黒のマスキングテープでフードを拡張してハレ切りすると、フレアをさらに抑えることができる。フードの拡張はケラれないギリギリを目指そう。テープは小さいのでバッグに常に入れておける。



黒テープでフードを拡張





キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／ EF24-105mm F4L IS USM

写真・文●中原一雄

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
95mm	マニュアル露出	F8	1/2秒	―	640	白熱電球	黒テープ・三脚

52 カラーフィルターで作る顔の複雑な立体感



ニコン D810／AI Nikkor 50mm F2

写真・文●黒田明臣　モデル●こよみ

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
50mm	マニュアル露出	F6.3	1/200秒	―	100	オート	カラーフィルター・ストロボ

ストロボの直射にフィルターを付けている例はよく見るが、ソフトボックスなどと組み合わせると表現が広がる。直射でのカラーフィルターは硬い光質だが、柔らかくポートレート向きな光になる。夜は色味も出やすく、カラーフィルターの効果を生かして撮影することが可能だ。**今回はシアンとオレンジのカラーフィルターを使用している**。組み合わせは好みだが、色相環関係における補色同士を使うとバランスが整いやすい。

カラーフィルター使用のポイント

ITEM

違う角度から照射して色のバランスを整える

メイン光源をモデル上から一灯。オレンジとシアンのフィルターを付けたクリップオンをそれぞれ横から一灯ずつ使用した計三灯だ。それぞれどちらが強過ぎても自然さが損なわれるので注意。色のある影を作るようなイメージで調整していくと良い



バランス失敗



オレンジとシアンのフィルターを使う

53 いさり火で彩られた列車の光跡の迫力

夏の夜といえば、山陰地方の風物詩でもある日本海沖のいさり火は欠かせない。いさり火の位置や量によってこちらの撮影ポジションや焦点距離を変えることになるのだが、多くの光を取り込もうとし過ぎて極端な広角レンズを使用してしまうと、**いさり火も列車の光跡も小さくなり過ぎてしまうので注意したい**。いさり火自体の光源もさまざまなので、臨場感を出すためにホワイトバランスはフィルム感覚の太陽光をおすすめする。

鉄道の存在感を出すポイント

CAMERA

列車の光跡をギリギリでカットする

画面左から来る列車の存在感を出すために、右端手前のギリギリのところで光跡を切るよう、シャッターを下ろす位置をあらかじめ決めておく。下の写真は、シャッターを押す位置と上げる位置のタイミングが悪く、列車の光跡が中途半端だ。



タイミングが悪い



キヤノン EOS 7D MarkⅡ／EF16-35mm F4L IS USM

写真・文●山﨑友也

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
32mm相当	マニュアル露出	F5.6	11秒	―	400	太陽光	三脚



ニコン D810／ AF-S NIKKOR 35mm f/1.4G

写真・文 • 別所隆弘

LOCATION

［三重県］

きほく燈籠祭

内海気味に凹んだ紀伊長島港近辺で上がるため、花火の打ち上げ場所を囲む海岸線に沿っていろいろな構図で撮影できる。湾内を自分で回ってみて新しい撮影ポイントを見つけてほしい。毎年7月下旬頃に開催される

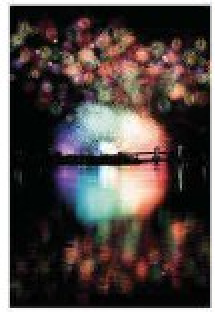


花火の映り込みを美しく仕上げるポイント

CAMERA

絞りはF8に設定して映り込みの露出を確保する

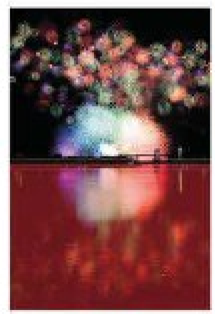
通常の花火撮影では白飛びを避けて、F16〜22まで絞ることが多い。しかし、光量が少ない花火では露出不足になる上に、海面の映り込みが暗くなり過ぎる。そこで、F8まで絞りを開け、映り込み部分の露出を確保して、右の写真のように撮影した。

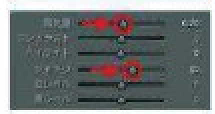


OTHER

段階フィルターを使い映り込みの光量不足を補う

得られた画像データは実像と映り込みで花火の明るさが異なるため、現像時に調整が必要。上下の明るさの差を埋めるためによく使うのがLightroomの段階フィルターだ。ちょうど水面部分から下に向けて適用して光量不足を補っている。





段階フィルターで映り込み部分を選択して露光量とシャドウを引き上げる

LENS	MODE
35mm	マニュアル露出
F.no	SS
F8	4.7秒
EXPOSURE	ISO
—	64
WB	ITEM
オート	三脚

54 彩りが2倍増す花火のリフレクション

花火は美しいからこそ、何か工夫を入れなければ作品として成り立たない。この花火のときは凪いだ海を見て、リフレクション花火を思いついた。花火の大きさが不明だったので、広めの35mmのレンズで撮影。元は横長の写真として撮影したが、高画素を生かして左右をトリミングしている。狙いは彩色千輪という小さい花火の一斉爆発なので、光量自体は極めて弱い。その弱さが海の中に吸い込まれて消えないように、普通の設定とは少し違う、**映り込み部分の露出を優先する形で撮影した。さらに、段階フィルターを用いて現像時に映り込み部分の明るさを整え、虚像と実像の明るさのバランスを整えている。**



ニコン D810 ／ AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED

写真・文 • 小林哲朗

55 青白く不気味に光る冷たいパイプ群の感触

LENS	MODE
29mm	マニュアル露出
F.no	**SS**
F9	30秒
EXPOSURE	**ISO**
—	200
WB	**ITEM**
オート	三脚・ライト

柵の隙間から近距離で撮影ができるスポット。トンネル内は照明があるが外側部分は暗く明暗差が非常に大きい状態。このまま撮影すると、トンネル内の白飛びか外側の黒つぶれのどちらかが起きやすい。それを解消するために使うのがLEDライトだ。**長時間露光中に外側部分のみにライトを当てると明暗差が解消される**。塗り絵をするイメージでパイプにまんべんなく光を当てると、自然に仕上がる。また青白っぽい色のライトを使うことにより、パイプのクールな金属感を演出できる。工場の精密さと絞り過ぎによる回折現象を考慮してF9を選ぶことが多い。また、このシーンでは、シャッター速度が30秒でも露出が不足していたのでISO感度で微調整した。

工場のディテールと迫力を出すポイント

LENS

広角とローアングルで奥まで続く遠近感を出す

延々と続くパイプを強調するため、遠近感を強調できる広角レンズを使用。アイレベルで撮影すると上下の遠近感がつきにくいので、ローアングルであおるように撮影。柵の隙間から撮るので、広角にし過ぎると柵が写り込んでしまう。レンズの最大径が小さいほど撮影がしやすい。



アイレベル



19mm

ITEM

青白いLEDライトをパイプに当てる

LEDライトで長時間露光中に狙った部分のみ光を当て明るくすることができる。塗りムラが出ないように狙った部分にまんべんなくライトを振るのがコツ。青白っぽいライトを当てると冷たい金属感を強調できる。



LEDライト不使用

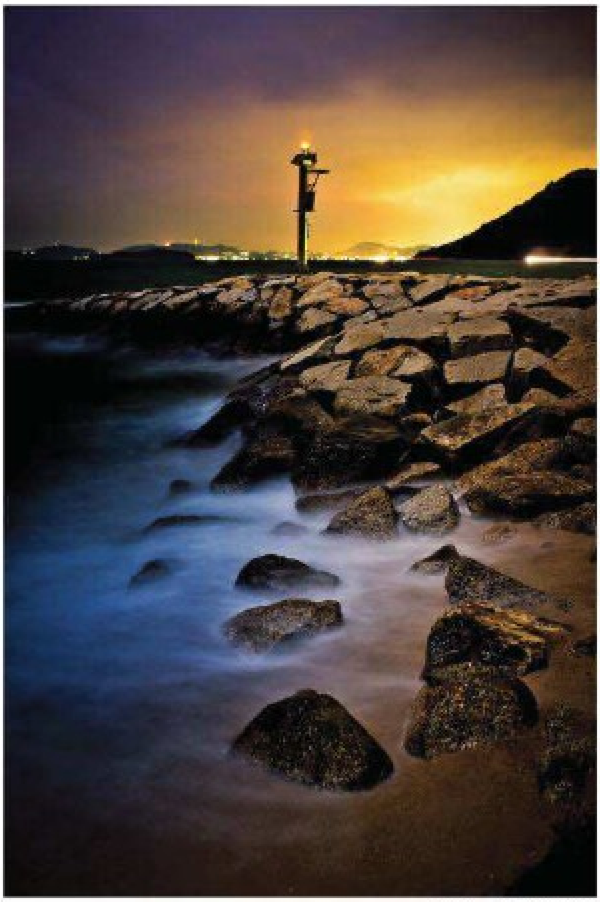
LOCATION

［和歌山県有田市］

東燃ゼネラル石油和歌山工場

山を貫通しパイプを通しているトンネル。工場北側の道沿いにある。柵が写り込まないように画角を調整しながら柵の隙間から狙う





富士フイルム X100　　写真・文・木村琢磨

56 波のベールが包む静かな海岸風景

夜の海を長時間露光で撮影し、波を抽象化した。長時間露光での撮影になるため三脚は必須だ。写真のような街灯がない場所での夜の撮影ではNDフィルターがなくても十分な露光時間を確保できる。街明かりなどで明るい場合は低感度や絞りの設定で光量を調整すると良い。**スローシャッターで撮影すると動いているものはぶれた残像としてどんどん蓄積されていくため、波が雲のような表情に変化して写る**。

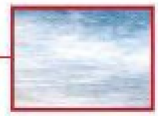
波をベールのように仕上げるポイント

CAMERA

30秒の長時間露光で波の表情を柔らかく仕上げる



3秒



シャッター速度を15〜30秒以上に設定すると波の表情が抽象化される。左のように露光時間が短いと波の表情が残り硬いイメージになるので、シャッター速度にはこだわろう。平たい砂浜より岩場など波の変化が大きな場所で撮影するとより効果的だ。

LENS	35mm相当
MODE	マニュアル露出
F.no	F2.8
SS	30秒
EXPOSURE	—
ISO	800
WB	オート
ITEM	三脚

57 何気ない身近な空に光輝く星の光跡

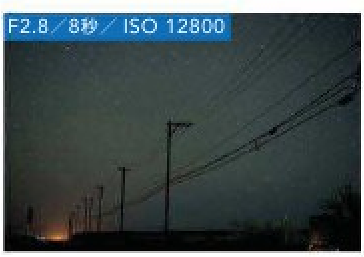
電柱が遠く立ち並ぶ風景を見つけたので、人の生活を対比させるために、星とともに撮ることにしたが、時間の流れを感じさせるために星を点ではなく光跡にした。**10分程度の長時間露光にすると見栄えの良い光跡になる**が、まずは適正露出を計算するためにテスト撮影を行う。このとき肉眼では見えなかった光源が電線の消失点と重なってアクセントになった。それによって構図を変更し、動きを出すために水平線を傾けている。

ノイズが少ない長時間露光のポイント

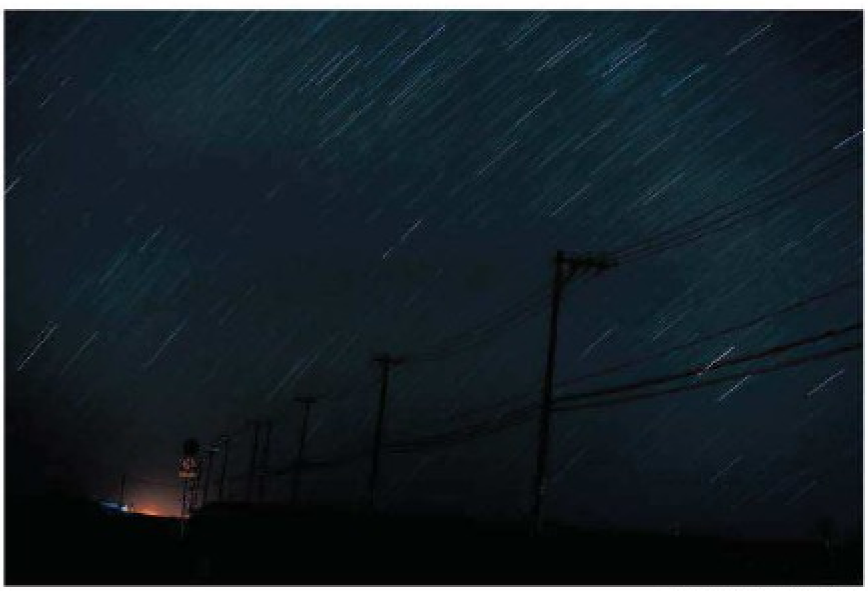
CAMERA

別のカメラでテストして露光時間を計算する

長時間露光はセンサーで発生する熱でノイズが増えるので、テスト撮影（下の写真）は本番用と別のカメラで行いたい。テストでは8秒としたので、640秒露光したければ6.3段の差。同程度の段数分を減感してISO 12800からISO 200にした。



F2.8／8秒／ISO 12800



ソニー α7R Ⅱ／Sonnar T* FE 55mm F1.8 ZA　　写真・文・茂手木秀行

LENS	MODE	F.no	SS	EXPOSURE	ISO	WB	ITEM
55mm	マニュアル露出	F2.8	640秒	—	200	オート	三脚

SPOT GUIDE

夜の撮影スポット42選

この夏行きたい

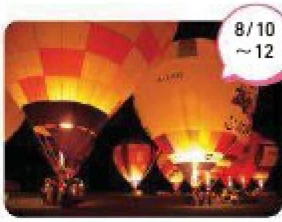
今夏に開催される天体イベントや花火、絶好の夜景スポットなど、編集部がおすすめの撮影地情報を厳選。
この特集で紹介されたプロの撮影テクニックを存分に活用して、お気に入りのベストショットをモノにしよう!

イベント

[北海道上士幌町]

58 北海道バルーンフェスティバル

3日間にわたって行われる熱気球競技の大会。日中の競技飛行も絵になるが、バルーングロー(夜間飛行)で夜空を照らすカラフルな熱気球を撮影できる





[茨城県ひたちなか市]

59 国営ひたち海浜公園コキアライトアップ

約32,000株に及ぶコキアの畑がカラフルな光でライトアップされる。イベントステージもあり、お祭りのような雰囲気で幻想的な写真スポットになる

※昨年開催日、開催期間は要問い合わせ

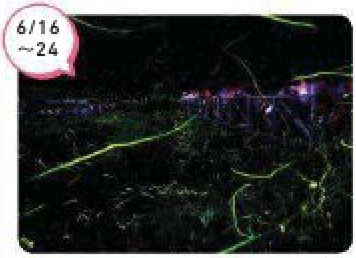
[長崎県島原市]

60 島原水まつり

島原市内の豊かな湧水スポットに竹燈篭が飾られる。またカラフルな番傘がライトアップされる幻想的な光景を撮ることができる

※昨年開催日





[長野県辰野町]

61 信州辰野ほたる祭り

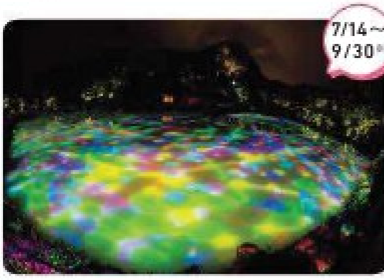
東日本随一といわれるホタルの名所で、約10,000匹以上に及ぶゲンジボタルが見られる。20時から21時付近にホタルが活発に飛び、三脚を使えば光跡のように撮れる

[佐賀県武雄市]

62 武雄のあかり展

市内の主な観光施設をライトアップ。御船山楽園や慧洲園の大滝、武雄神社の大楠、武雄温泉楼門などの自然や名所が幻想的に色付く

※昨年開催日



[岐阜県郡上市]

65 郡上おどり

7月中旬～9月上旬の間に31夜にわたり行われる盆踊り。お盆期間は徹夜おどり(盂蘭盆会)が開催。夜明けまで続く盛大さが魅力だ





[福岡県朝倉市]

66 棚田の火まつり

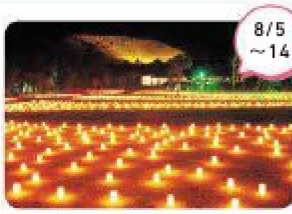
約1,200本のトーチでライトアップされた棚田を撮れる。山間が照らし出された光景は幻想的で、付近にはホタルの鑑賞スポットもある

[福岡県柳川市]

63 柳川ひまわり園

約300,000本のヒマワリが咲く光景が広がる。大輪であることも特徴で、夜のライトアップではさらに迫力を増したヒマワリを撮影できる※昨年開催日





[奈良県奈良市]

64 なら燈花会

奈良公園一帯を約20,000本のろうそくの明かりが照らす。背景の歴史ある寺院とろうそくを絡めて撮影できる。三脚使用は禁止となっている

[和歌山県田辺市]

67 八咫の火祭り

熊野神宮の旧社地へ練り歩く総勢70人の時代行列が撮れる。太鼓演奏や八咫踊り、花火など、フォトジェニックなイベントが連続する

※昨年開催日



※掲載情報は2018年5月上旬時点のものです。臨時休業や開催日程変更の可能性もありますので、お出掛けの際は事前に最新情報をお確かめください。

工場夜景



写真：小林哲朗

［兵庫県尼崎市］68

レンゴー尼崎工場

尼崎は工場に近い場所から撮れ、広角レンズのパースを生かした構図も狙いやすい。レンゴー尼崎工場は阪神電鉄杭瀬駅から徒歩約10分

［北海道室蘭市］69

室蘭港

多彩な工場群が魅力で白鳥大橋を絡めて撮れる。7月7～8日に室蘭の街を被写体として開放する「撮りフェス in 室蘭」も開催予定



［三重県四日市市］71

うみてらす14

四日市コンビナートの工場夜景が撮れる。三脚を使用できる他、受付では吸盤付きの暗幕（5枚限定）を無料で貸し出しており、撮影者に優しい

※夜間営業は土日祝日のみ



水曜休館（祝日を除く）



写真：小林哲朗

［福岡県北九州市］70

手向山公園

園内にある展望台から新日鐵住金八幡製鉄所が撮れる。駐車場やトイレも完備。被写体が遠いので300mm程度の望遠レンズがあると良い



［山口県周南市］72

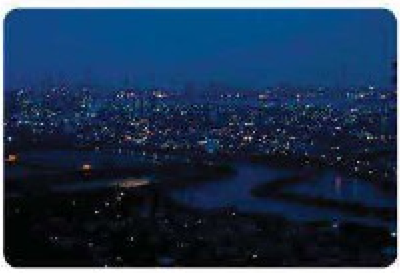
晴海親水公園

化学・石油関連の工場が建ち並ぶコンビナート群が撮れる。帯状に美しく広がる水面の映り込みやヤシの木と絡めた撮影が楽しめる

［岡山県倉敷市］73

水島コンビナート

夜景100選に選ばれた壮観な工業地帯が撮れる。鷲羽山スカイラインから望遠で狙ったり、潮通周辺で広角を用いたりと撮影のバリエーションが豊富





［静岡県富士市］74

ふじのくに田子の浦みなと公園

公園の中心にある展望広場から、富士山を背景に取り入れて田子の浦港の工場が狙える。公園は終日開放しているが駐車場は17時までの営業

［神奈川県川崎市］75

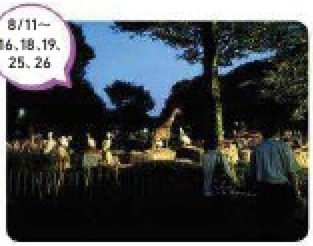
千鳥町

川崎区千鳥町周辺の工場夜景が撮れる。海と絡めて撮るなら東扇島、大川町周辺などがおすすめ。毎週土曜にはとバスの日帰りツアーが組まれている



提供：はとバス株式会社

夜の動物園

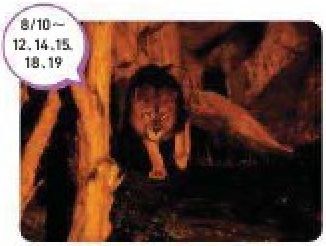


8/11～16.18.19.25.26

［東京都日野市］76

多摩動物公園

「サマーナイト＠Tama Zoo 2018」期間中は20時まで開園。薄暮の時間帯の広い園内で動物たちの活動を捉えられる。ストロボ撮影は禁止



8/10～12.14.15.18.19

［愛知県名古屋市］77

東山動植物園

「ナイトZOO & GARDEN」期間中はライトアップされた動物や植物を20時30分まで撮影可能。いつもと違う動物たちの姿が見られる。ストロボ撮影は禁止

［静岡県裾野市］78

富士サファリパーク

「ナイトサファリ」期間中は自家用車やバスでライトアップされた園内を移動しながら撮影できる。夜行性動物の活動的な姿を撮影したい。ストロボ撮影は禁止



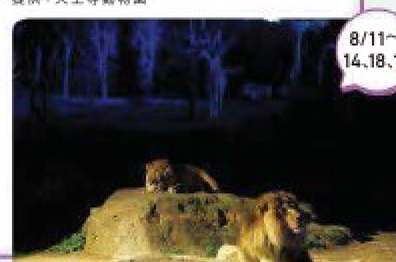
7/21～8/26

［大阪府大阪市］79

天王寺動物園

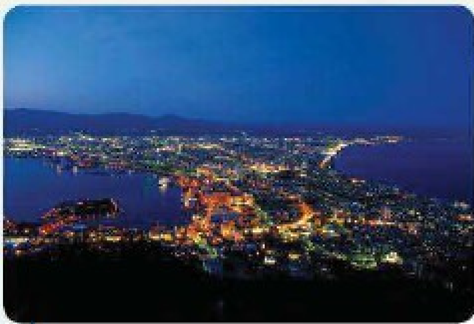
大阪中心部にありながら約200種もの動物を飼育。ナイトZOOは21時までで、普段は見られない夜の動物の姿を撮影できる。ストロボ及び三脚使用は禁止

提供：天王寺動物園



8/11～14.18.19

都市夜景



［北海道函館市］80

函館山

標高334mの山頂展望台から2つの海に挟まれた函館市街を見下ろせる。ロープウェイを使って3分ほどで行けるアクセスの良さも魅力だ

［東京都港区］82

世界貿易センタービルディング

ライトアップされた東京タワーやビル群、湾岸エリアといった東京の夜景を地上152mの展望台から360度一望できる。三脚のみ使用可



［徳島県徳島市］81

眉山

眉山は徳島市のシンボルで、市街から手軽にアクセスできるのが魅力。ロープウェイが便利で10月末まで夜間運行（～21時）している

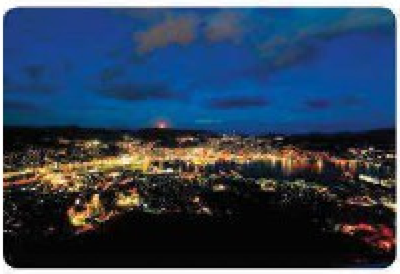


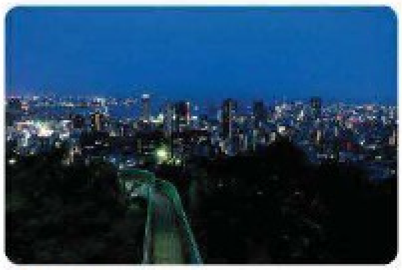
［長崎県長崎市］83

稲佐山

「1,000万ドルの夜景」と称される美しい長崎市街の夜景が楽しめる。稲佐山公園へは車はもちろん、22時まで営業のロープウェイでアクセス可

※展望塔と長崎ロープウェイは22時まで営業





［兵庫県神戸市］84

ビーナスブリッジ

展望台を備える8の字の形をしたループ橋。神戸の市街地やメリケンパークや神戸ハーバーランドといった港の絶景を間近に楽しめる

※23時以降は再度山ドライブウェイ通行禁止

［大阪府大阪市］85

さきしまコスモタワー

大阪ベイエリアのランドマーク的な存在。地上252mの展望台から大阪はもちろん、明石海峡大橋や神戸の夜景まで一望できる。周囲の通行の妨げにならない範囲で三脚を使用できる

月曜休館（祝日の場合は翌日休館）



写真：中村勇太

天体



提供：南房総市

［千葉県南房総市］92

野島崎

夜間の人工光が少なく、野島埼灯台の近くにある「朝日と夕日の見えるベンチ」と天体を絡めた撮影が楽しめる。足場が悪いのでライトは必携

8/24～26



［新潟県胎内市］93

胎内星まつり

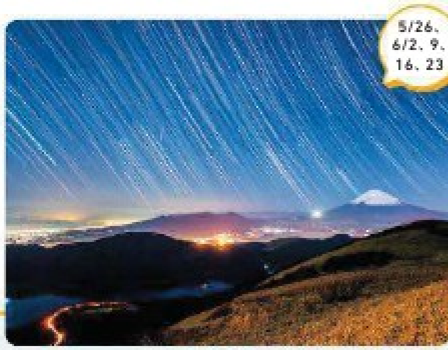
胎内平の丘陵地を舞台にした世界最大規模の星空イベントで、満天の星が見られる。天体や写真関連のメーカー、販売店が軒を連ね、幅広い層で楽しめる

［神奈川県箱根町］94

駒ケ岳

箱根駒ヶ岳ロープウェーによる天体イベントが実施される。駒ヶ岳山頂から天体撮影を楽しめる。山頂は冷え込むので、十分な防寒対策をしたい

5/26、6/2、9、16、23



［和歌山県紀美野町］95

みさと天文台

水曜以外の開館日に星空ツアーを実施。季節が夏、秋、冬で、月齢が「0から約4」または「約19から29」の快晴の日に天の川が見られる

月・火曜休館



花火



［新潟県長岡市］

86 長岡まつり大花火大会

全長約2kmにおよぶフェニックスなど大規模な花火が多い。カメラマン席以外での三脚使用は座高の高さが上限。立ち上がっての撮影や通路など自席以外での撮影は禁止

［広島県尾道市］

87 おのみち住吉花火まつり

尾道水道に約13,000発の花火が打ち上げられる神事。高台からは水道に停泊した観覧船などと絡めた花火撮影が行える

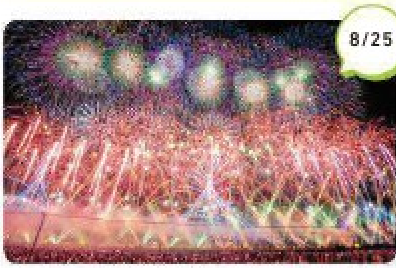




［長野県諏訪市］

88 諏訪湖サマーナイト花火

夏の間の約1カ月間、毎晩15分間花火が打ち上がり湖畔から撮影できる。8月15日には諏訪湖祭湖上花火大会、9月1日には全国新作花火競技大会と大規模大会も開催



［秋田県大仙市］

89 大曲花火競技大会

日本三大花火競技大会の1つで、全長500mものワイドスターマインなど迫力ある花火を撮影できる。広角レンズがあると花火全体を撮影しやすい

提供：秋田県大仙市

［静岡県熱海市］

90 熱海海上花火大会

海辺から熱海湾に打ち上がる多様な花火を撮影できる。季節を問わず開催されることが特徴で、夏季は開催日も多く設定されている



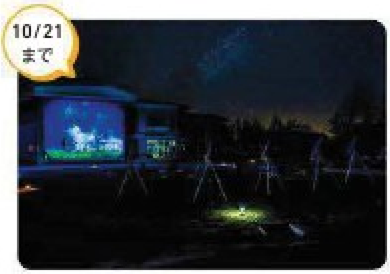
©みなとこうべ海上花火大会実行委員会



［兵庫県神戸市］

91 みなと神戸海上花火大会

メリケンパーク沖に打ち上がる花火を港風景とともに撮影可能。今年は開港150周年で約15,000発と大規模化。三脚使用は許可された場所に限定

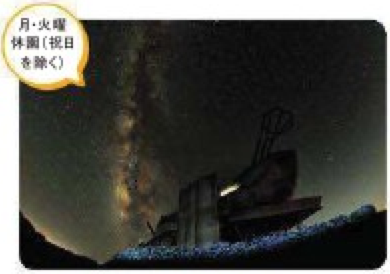


［長野県阿智村］

96 日本一の星空ツアー

標高1,400mの地点で、限りなく人工光をなくした環境で天体の観測や撮影ができる。ガイドによる星空解説もあり

※5/21～7/6、9/18～10/5は除く



［鹿児島県鹿屋市］

97 輝北うわば公園

大隅半島北部、標高550mの高台にあり、桜島や霧島連山などを絡めた雄大な星景写真を撮影できる。バンガローやテントでの宿泊も可能だ（要予約）

［福岡県八女市］

98 星の文化館

「日本の里100選」に選ばれた星野村にあり天体望遠鏡やプラネタリウムを有する。宿泊可能で宿泊者は閉館22時以降も館内展望台などで心ゆくまで星空を撮影できる



［兵庫県佐用町］

99 西はりま天文台

関西屈指の美しい星空が見える天文台で、国内最大の「なゆた望遠鏡」での観望会も定期開催される。なお、夜21時以降は入園禁止で駐車場利用不可、ロッジの宿泊利用者は21時以降も撮影可能

提供：兵庫県立大学西はりま天文台





Special Gallery

MICHIKO 2018
ワタシテキ

佐藤倫子 Michiko Sato



Nikon D850
AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G
58mm
Manual（F13、1/500sec）
ISO 160
WB : Auto



↓

Nikon D850
AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR
70mm
Manual（F11、1/500sec）
ISO 160
WB : Auto



↑

Nikon D810
AF-S Micro NIKKOR 60mm f/2.8G ED
60mm
Manual（F10、1/400sec）
ISO 160
WB : Auto



↑

Nikon Df
AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G
58mm
Manual(F14、1/500sec)
ISO 320
WB : Auto

↓

Nikon D850
AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G
58mm
Manual(F11、1/400sec)
ISO 125
WB : Auto




NS·12205





↖

Nikon D850
AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G
58mm
Manual(F14、1/500sec)
ISO 320
WB：Auto

←

Nikon D810
AF-S Micro NIKKOR 60mm f/2.8G ED
60mm
Manual(F11、1/1,000sec)
ISO 160
WB：Auto

↑

Nikon Df
AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G
58mm
Manual(F11、1/250sec)
ISO 250
WB：Auto

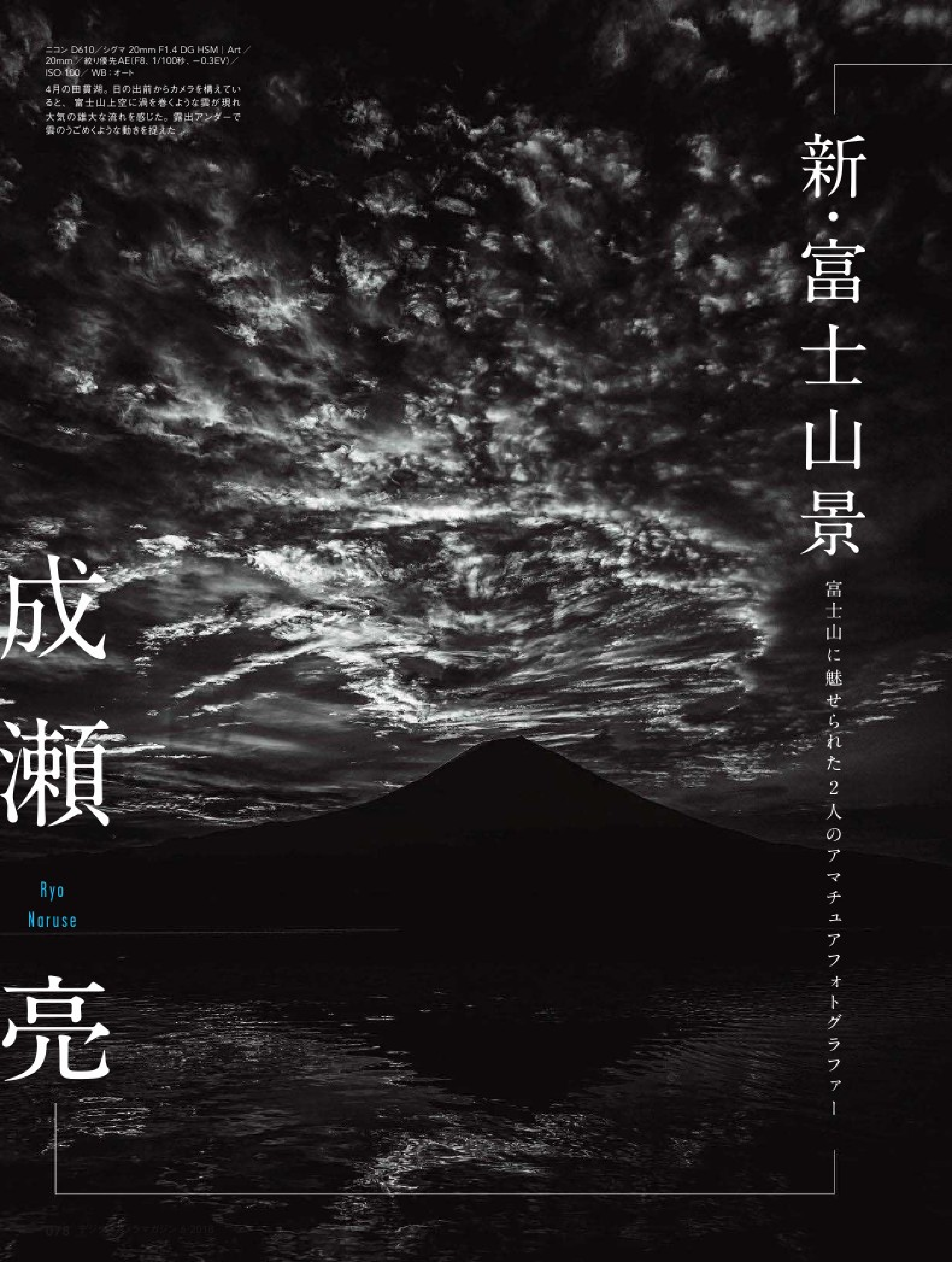
佐藤倫子写真展

MICHIKO 2018 ワタシテキ

- **会場**：ニコンプラザ新宿 THE GALLERY
- **日程**：2018年6月19日(火)～7月9日(月) ※日曜休館
- **時間**：10:30～18:30 ※最終日は15:00まで

- **会場**：ニコンプラザ大阪 THE GALLERY
- **日程**：2018年7月19日(木)～8月1日(水) ※日曜休館
- **時間**：10:30～18:30 ※最終日は15:00まで

※6月23日(土)坂村 健(電脳建築家・INIAD東洋大学教授)、6月30日(土)山岸 伸(写真家)、7月7日(土)織作峰子(写真家)とトークイベント(14:00～)を開催予定(申込不要・参加費無料)



新・富士山景

富士山に魅せられた2人のアマチュアフォトグラファー

成瀬亮

Ryo Naruse

ニコン D610／シグマ 20mm F1.4 DG HSM | Art／20mm／絞り優先AE(F8、1/100秒、−0.3EV)／ISO 100／ WB：オート

4月の田貫湖。日の出前からカメラを構えていると、富士山上空に渦を巻くような雲が現れ大気の雄大な流れを感じた。露出アンダーで雲のうごめくような動きを捉えた



橋向真

Makoto Hashimuki

キヤノン EOS 6D ／ EF24-105mm F4L IS USM ／24mm ／
マニュアル露出（F4、65秒）／ ISO 1000／ WB：オート

日の出前の黒岳から富士山を望むと、眼前に雲海の大海原が広がった。10月の澄んだ空を埋め尽くすたくさんの星と、まだ残る街のきらめきを65秒の長時間露光で収めた



富士山に魅せられた
2人のアマチュアフォトグラファー

新・富士山景 CROSS TALK

成瀬 亮 × 橋向 真

富士山。日本ではあまりにも有名なその被写体を撮り続ける2人のアマチュアフォトグラファーがいる。片やシックなモノクローム、片やドラマチックなカラフルと作風の違いもあって犬猿のライバルかと思いきや、実は一緒に撮影に出掛ける仲間でもある。今回、本業を持ちながら富士山を追い続ける新進気鋭のフォトグラファー2人の特別対談が叶った。 取材●編集部

——たびたび本誌にご登場いただきながら、アマチュアフォトグラファーと呼んでいいものかと迷っていたのですが。

橋向（以下、橋）:いやもう、アマチュアで大丈夫です。逆にアマチュアだから1つの被写体を追い続けられているのだと思います。

成瀬（以下、成）:プロの写真家は2日でこれを撮ってきて、と言われてばっちり撮って帰れる人。富士山は1日や2日で思い通りには撮れませんからね。

——そう伺って安心しました。2人は会社員としてお勤めですよね。かなりの作品数をお持ちですが、普段はどのようにして撮影（スケジュール）に取り組んでいるのですか？

橋:僕は職人なので朝3時出勤で正午には仕事が終わります。つまり平日の朝は撮れませんが、夕方は撮ることができるんです。静岡在住なので地理的にも有利ですね。朝が撮れるのは土曜だけです。平日もずっと成瀬さんとメールでやり取りしているので、天気予報を見ながら週末の予定を決めています。ライブカメラは四六時中チェックしています。

成:僕もサラリーマンで平日は働いていますから、金曜の夜に少しだけ仮眠を取って、真夜中に富士山方面へ向かって合流します。土曜の朝から日曜の朝まで撮影するので、週末は車で生活しています。

橋:天気予報やレーダーを見ればどんな写真が撮れるのか想像ができるので、最近は行かない判断も早くできるようになりました。



成瀬 亮

Ryo Naruse

なるせ りょう：1983年、東京都生まれ。2013年から富士山の撮影を始め、第18回富士山写真大賞銀賞、第65回ニッコールフォトコンテスト長岡賞など受賞多数。多数の雑誌や新聞に作品が掲載され、現在では企業カレンダーなども担当している。amana images、afloなどで作品を販売中。FPN（富士フォトネット）所属

——一緒に撮影しているのが意外ですが、そもそも2人はどのようにして富士山を撮り始めたのですか？

橋:僕が富士山の撮影を始めたのは2013年頃です。もともと旅行が好きで、オリンパスのPEN E-PL3で撮った写真をmixiにアップしていたら、上手だねと言ってもらえて。富士山が世界遺産に登録されたとき、地元の富士山を発信すれば、もっと写真を見てもらえるのかなと思ったんです。ちゃんと撮るならフルサイズの一眼レフを買おうと。

成:僕も2013年頃です。富士山を撮っている上司によく写真を見せてもらっていて、きれいだなと思っていました。山中湖に旅行することになったとき、僕も撮ってみようと、撮るならば一眼レフだと現品限りになっていたニコンのD5100ズームキットを買いました。日の出の1時間前に徐々に空が明るくなって、青が生まれていく姿を夢中で撮りました。それで赤富士が撮れた。撮影にはまってTwitterで富士山を撮っている人をフォローしていったのですが、その1人が橋向さんでした。すでにたくさんのフォロワーがいてキラキラしていましたね（笑）。同じポイントで撮影していたのでリプライしたら、「そうなんですね」みたいな、結構な塩対応でした。

橋:そうでしたっけ!? 僕もう覚えていません、すみません（笑）。

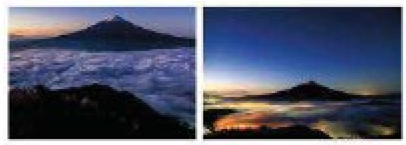
成:僕も作品をTwitterにアップしていたので、半年くらい情報をやり取りするうちに、一緒に撮りに行きましょうとなりました。

——初めて一緒に撮影に出掛けたときの写真がこちらですね。

橋:雲海が出たんです。粘ったので2人の写真の時間がずれていますけど。感動しました。

成:シチュエーションを共有するとすごくテンションが上がって会話もはずみました。このとき良い写真が撮れていなかったら仲良くなっていなかったかも？

橋:験担ぎ的なこともありますよね。富士山ってツキというか、ギャンブルのようなところがあって、この人と行くと良いのが撮れる、みたいな。それから一緒に撮りにいくようになって3年くらいです。事前に天気を見てここへ行こうとか、今回は別々に行こうとか、2人で話すことで場所が絞れます。



2人が初めて一緒に撮影した富士山。左／成瀬氏　右／橋向氏

——撮影には一緒に行っても、作風も違えば機材もニコンとキヤノンで、きれいに分かれていますね。

橋:機材は偶然なんですけどね。僕が最初の一眼レフを選んだとき、天の川を撮りたくてフルサイズを視野に入れていました。それから僕はパソコンを使わないので、カメラ内現像が必須条件でした。撮影した写真はSNSで公開しようと決めていたので、スマホとWi-Fi接続ができるカメラを探したら、すべて叶うのがキヤノンのEOS 6Dだったんです。

成:当時、ニコンはまだWi-Fiは飛ばせなかったですね。僕は最初のカメラがニコンだったので、ずっとニコンでグレードアップしています。機能に不満はないし、後はいかに「自分の体のように使いこなせるか」だから、使い慣れているというのも大きいです。



成瀬氏がいつも携行する機材。カメラはニコン D850とD810の2台。望遠レンズで長時間露光することもあり、三脚はカーボン製の大型モデルにしている

橋:2人とも必然的に選んだのが今の機材だったんです。実はそれが今日の対談につながっている。僕はEOS 6DじゃなかったらSNSで発信できていなかったし、成瀬さんはニコンじゃなければ長岡賞までたどり着かなかった。

——機材選びが作風や活動に直結しているんですね。

橋:僕は最初からSNSというのがありましたから、どうしたら見ている人に喜んでもらえるか、という



橋向氏は登山も考えて軽量化を重視。カメラは1台だがスマホグッズが充実している。コンデジは動画用

ことを常に考えています。実は成瀬さんのような写真も撮るけど、正直SNSの反応は良くないです（笑）。やっぱり見てもらえる写真を撮りたい。撮影している横でタイムラプス動画を撮ってアップもしますし、周りの風景や、季節が分かる花もたくさん撮ります。成瀬さんは絶対に花なんて入れませんから。ストイックで徹底しています。

成：僕はどうしても富士山そのものを撮ろうと思ってしまいますね。学生時代はラグビー、アメフトとスポーツばかりしていましたから、力強いものに惹かれるんです。それで望遠レンズで迫力のある男性的な富士山を狙ってしまいます。光と影で骨格までを写し出したいんです。

橋：僕は逆。女性のファンが多いのはそのためだと思います（笑）。もしかして色彩の感じ方が女性ぽいのかも。昔から絵を書くのが好きで、色彩感覚を褒められていました。色鉛筆でなぜそんな色が出せるの？ と言われて。絶対色感というものがあるなら、そのタイプだと思います。力強いものも好きですが、発表するときはすごく色を意識しています。

――成瀬さんのモノクロ作品とは対照的ですね。

成：僕もSNSにアップしていましたが、何というか向いてない（笑）。それで違うところで頑張ろうと、フォトコンテストをターゲットにしました。最初にモノクロ作品に取り組んだのは東京カメラ部の組写真部門に挑戦したときです。どうすれば統一感が出るのかを考えました。富士山ローカルの賞だと絶景や珍しい光景が良いといわれて、モノクロは意味がないんです。だけど光と影についてはずっと考えていたし、一般的なコンテストではモノクロ作品で見せられると。富士山を追い掛けるという僕のライフスタイルを作品で表現したかったんです。



のちに長岡賞を受賞した「 富士変幻 」。4枚のモノクロ写真で光と影を捉え季節感を表現した

――橋向さんが本誌の表紙を飾ったのは2017年の2月号ですね。

橋：SNSの活動で、2016年の東京カメラ部10選を目指していました。だめならSNSをやめようと。でも10選にも入って、表紙もいただいて。実はこの写真も成瀬さんと一緒に撮影に行っています。

成：実は僕は同じ場所で撮った写真で富士山写真大賞の銀賞を取っているんです。

橋：お互いにこの1枚で覚醒したよね。天の川と冠雪が同時に見える4月頭、新月期、雨上がりの雲海。全てが重なって撮れた奇跡の1枚でした。

成：平日だけど行きましたね。これを撮ってそのまま会社に行きましたから。



本誌2017年2月号の表紙を飾った1枚。反響も大きく、人気の撮影地に。ただ、同じ条件はこのとき以来揃わないという

――そこまで掻き立てられるものが富士山にあると。

橋：絶景は行けば撮れるけど、富士山はそこへ行って満足できる写真が撮れるものではないんです。何年越しの条件が重なって奇跡の1枚が撮れる。1度撮れたら、次に同じ条件が来たときには別の場所で撮ろうと考えています。その1枚はもう完成品ですから。

成：そこはプロよりも情熱をかけられますよね。たった1枚で富士山は語れないし、納得のいく写真は1年に3、4枚しか撮れない。しかもその1枚は富士山の一面でしかないですから。使命感とかではないのですが、自分が撮りたいという思いはあります。良い時に行けなかったら、最初は本当に辛くなる。ずっと富士山を追い掛けているので、今は全部は無理だなと思ってはいますけど。

――1つの被写体にそれだけ情熱を注ぎ続けるモチベーションはどこから湧いてくるのでしょうか？

橋：僕の周りはみんなが富士山を撮っているから不思議に思わないけれど（笑）。モチベーションという意味では、これを見せたら「ざわざわ」するぞというのはあります。当てたときの感動というか。その場にいるとそれこそ、カメラでは伝えきれない、撮りきれないこともたくさんあります。

成：やっぱり変幻自在だから。表情があり過ぎて全部を知ることはできないけど、富士山のことをもっと知りたい。恋する気持ちです。追い掛けていると富士山が逃げるという言葉もあるように、こちらの心なんて関係ない。だからこそいろいろな表情を見たいという一心で追い掛けています。

橋：成瀬さんはフォトコンテスト、僕はSNSと、発表する場があることもモチベーションになっているかもしれません。富士山によって人と人とがつながれる。社会とつながる一手段でもありますね。

成：発表するためにもっとうまくなりたいという欲求があって、常に今に満足していないのですが。それでも思い描いているポイントにはたどり着いている感じはあります。ゆるいビジョンに過程が叶ってきているのも大きいかな。

橋向 真

Makoto Hashimuki



はしむき まこと：1977年静岡県生まれ。2013年より富士山の撮影を開始する。東京カメラ部10選2016に選出。雑誌、書籍、企業広告、カレンダーなどに幅広く作品を提供。Amazonにて「SNS時代の富士山撮影テクニック－hashimukiがとらえた感動の富士景100選+α Kindle版」を発売中

――最後に2人の夢を教えてください。

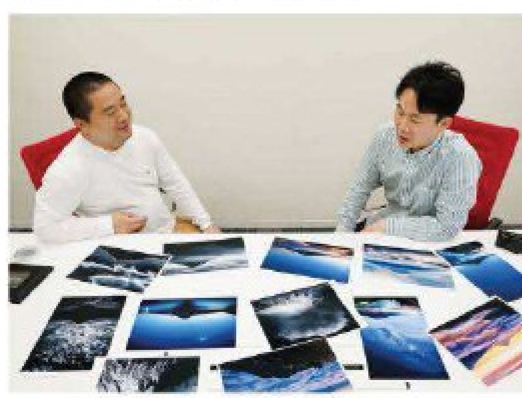
成：自分の富士山を高めるためにフォトコンテストに挑戦してきたので、長岡賞は1つの区切りになりました。今はモノクロの富士山で写真展をやりたいですね。光と影のバリエーションでどれだけ見せられるかということを考えながら、モノクロのことばかり追求していたら被写体も変わってきました。だから今は作品数を増やすことに専念しています。

橋：僕も写真展はやりたいです。合同展でもいいですね。やっぱり作品を残したい。その先ってなんだろう。楽しいから今のままでも良いのですけどね。

成：富士山に魅せられていますからね。変幻自在の富士山を追うということはこれからも変わらない。今は2人とも迷いがない感じです。

橋：お互いストイックだし高め合っていますよね。追いつ追われつ。自分の目標にたどり着いても相手が超えてくるから、もっと良い作品を撮りたいと思うのでしょうね。

2人のフォトグラファーが見せる新しい富士山の景色。これからも素敵な作品を楽しみにしています！



富士山に魅せられた
2人のアマチュアフォトグラファー

新・富士山景 GALLERY



ニコン D810／ AI-S NIKKOR 300mm f/2.8 ED ／ 300mm ／マニュアル露出（F2.8、4秒）／ ISO 800／ WB：オート

12月、月夜の富士ヶ嶺で金星が富士山頂に昇る瞬間。ISO感度をできる限り低くするため、単焦点の望遠レンズを使用した。手製のフィルターできらめかせた金星が流れないぎりぎりのシャッター速度に設定している

ニコン D610／シグマ APO 70-200mm F2.8 EX DG OS HSM ／ 78mm ／絞り優先AE（F8、1/60秒、−0.7EV）／ ISO 100／ WB：晴天

11月、雨上がりの櫛形山にて。上空に広がっていた雲をあえて画角から外し、少しかすんだ手前の山々へ朝日が差したところにフォーカス。墨絵のような世界を意識した



Naruse's Style

― 光陰を読む ―

色彩を削ぎ落として
力強い富士山を捉えたかった。
光と影だけの世界にも季節があり、
富士山を追い掛けるという
私のライフスタイルが
そのまま作品に投影されている。

成瀬 亮

Ryo Naruse



ニコン D610／ AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED VR ／ 70mm ／絞り優先AE（F9、1/1,250秒、−1.0EV）／ ISO 100／ WB：晴天

8月の田貫湖。太平洋に3つの台風が接近していた影響か、空から放たれた怪鳥のような雲が現れた。この不気味な雲と富士山が対峙する姿をイメージして構図を整えた

橋向 真

Makoto Hashimuki



キヤノン EOS 6D ／ EF70-300mm F4-5.6 IS Ⅱ USM ／ 109mm ／マニュアル露出（F11、1/2秒）／ ISO 25600／ WB：オート

高ボッチ高原から捉えた雲海にそびえ立つ富士。ISO感度を恐れず上げて1/2秒で雲のうねりを写した。壮大な朝焼けを従えた富士山が、雲間にのぞく早朝の街を見守っているかのようだ



キヤノン EOS 6D ／ EF70-300mm F4-5.6 IS Ⅱ USM ／114mm ／マニュアル露出（F10、1/30秒）／ ISO 100／ WB：オート

台風一過の午後。雲間から差す光が山肌を照らし、次々と富士山の表情を変えていく。雲海と笠雲に挟まれる様子を望遠レンズで圧縮し、F10まで絞ってパンフォーカスで描いた

Hashimuki's Style

― 四季に導かれる ―

天気が変わるときには
必ずドラマが起こるのだから、
天気予報を見ては富士山の姿を想像する。
撮影に向かう道中でさえ、
今日はこう撮ろうとかああ撮ろうとか、
とにかく想像で頭がいっぱいになってしまう。



キヤノン EOS 6D ／ EF17-35mm F2.8L USM ／ 17mm ／マニュアル露出（F2.8、11秒）／ ISO 1600／ WB：オート

流星群が近づいた田貫湖畔。17mmの画角で富士の裾野まで収め、カメラの設定をセットして試し撮りした1枚。まさか1枚目で火球が撮れるなんて、これだから富士山はやめられない



記憶に残したい鉄道風景

Impressive TRAIN *Journey*

最終回 庭坂の大カーブ

中井精也 —— Seiya Nakai

フェルトワーク●中島千奈津　取材●編集部



SCENE 1

梨の白い絨毯の上を走る列車を撮る



ソニー α7R Ⅲ／FE 24-70mm F2.8 GM／62mm／絞り優先AE(F8、1/800秒、－1.0EV)／ISO 500／WB：太陽光

今回訪れたのは福島県の庭坂駅と赤岩駅の間にある場所。梨の花がちょうど見頃の時期。大きなカーブがあってそこをゆっくりと山形新幹線「つばさ」が曲がってくる。訪れた日は快晴で奥に吾妻小富士がよく見え、手前には梨の白い花が美しい絶好の撮影日和だった。今回のように線路を挟んで上にも下にも見所がある場合、つい列車を画面の真ん中に置いた構図で撮りがちだ。これも悪くはないが要素が多くて主題がぼやけてしまう。こんなときはこの場所で何を撮りたかったのか、主役は何なのかをもう一度考える。今回は梨の花とその上を走るつばさを撮りに来た。そう決めたら画面の中で 1 **空の配分を減らし、梨の花を多く入れて白い花を目立たせる**。春の空はかすみがちなので 2 **PLフィルターを使ってくっきりとさせよう**。3 **ピントは列車の顔を置きたい場所の架線に合わせる**。どこの場所がベストかは試し撮りをして、画面の中で列車がどのくらいの大きさに写るのかで決めよう。構図を決めたらカメラを三脚に据えて列車が来るのを待って連写する。

撮影現場

目の前をゆっくりと新幹線「つばさ」号が走る



1時間に何本も新幹線が走る。土日などは特別仕様のとれいゆつばさが走るのでそれも狙い目だ

Nakai's Point

1 比率は1：1ではなく梨の花を少し多くする

見せたいものを画面の中に多く入れて目立たせる。下の写真は列車を中心に据えて吾妻小富士も梨の花もと欲張った結果、どれも目立たなくなってしまった



2 PLフィルターを使って遠くの山をくっきりさせる

風景と絡めて列車を撮るときに一度試してほしいのがPLフィルター。遠くのかすみを取り、緑をくっきりさせる効果がある。右を見ても分かるとおり、メリハリが付いて画面全体がくっきりする





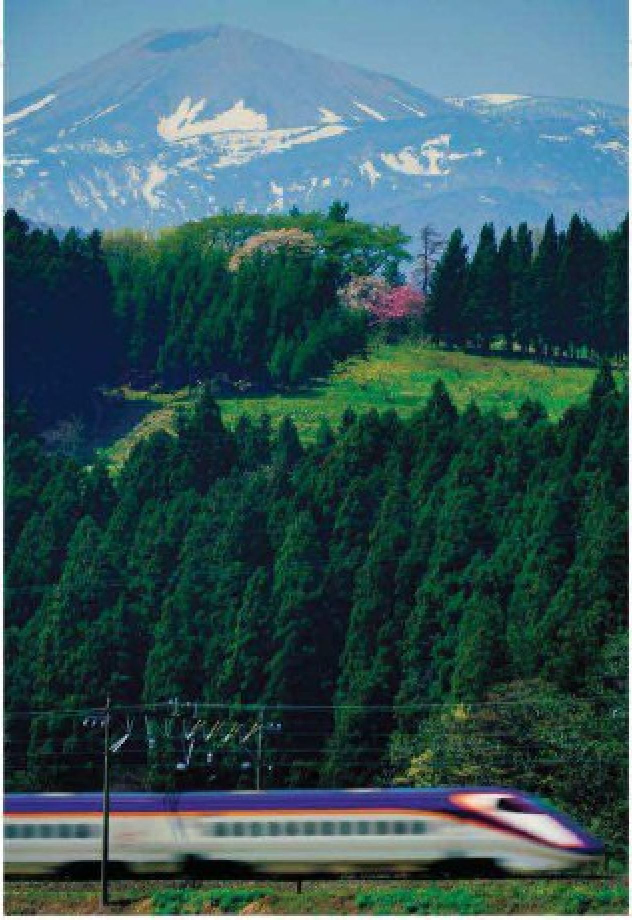
3 画面を拡大してピントはMFで合わせる

フォーカスをMFに切り替え、画面拡大機能を使ってピントを正確に合わせる。鉄道写真の場合は列車がいないときに、列車の長さを想像してピント位置を決めるので、試し撮りをして列車の長さを覚えよう









ソニー α7R III／FE 100-400mm F4.5-5.6 GM OSS／268mm／絞り優先AE（F7.1、1/15秒、−1.3EV）／ISO 100／WB：太陽光

SCENE 2 列車をぶらして背景の雪ウサギに視線を集める

遠くに見えている吾妻小富士をよーく見てみると、残雪がなにやら動物の姿に見えてくる。これは「雪ウサギ」といって福島の春を告げる風物詩。「種まきウサギ」という農作業の時期を知る目安として地元に人に親しまれてきた。今度はこの雪ウサギを主役にしてその下を走るつばさを撮ってみる。ポイントは列車の存在感。列車をそのまま写し止めてしまうと視線は雪ウサギではなく列車にいってしまう。こういうときは左のテクニックとは逆で主役を目立たせるために脇役を弱めよう。今回は 1 **列車をスローシャッターでぶらすことで存在感を弱め、**雪ウサギに視線が集まるようにした。ここはカーブのため、列車の速度がそれほど速くないので 2 **NDフィルターを使ってシャッター速度を遅くしている。**さらにPLフィルターを重ねて雪ウサギもくっきりと見せた。

Nakai's Point

1 列車をぶらすことで存在感を弱める



左の写真のように速いシャッター速度で列車がくっきりと写っていると列車に目がいってしまう。今回の主役は雪ウサギなので、列車をぶらして存在感を弱めた

2 PLとNDを重ねてスローシャッターに

スローシャッターにして山もくっきりとさせたいのでPLフィルターとNDフィルターを重ねて装着。僕は先にPLを付けた方が操作がしやすい





Monthly Photo

春を告げるウサギ



ソニー α7R III／FE 70-200mm F2.8 GM OSS／128mm／絞り優先AE（F8、1/1,250秒、+0.3EV）／ISO 800／WB：太陽光

福島県の庭坂駅に近い盆地は、真っ白に染まっていた。ここはSLが走っていた時代から「庭坂の大カーブ」として知られる有名撮影ポイント。時は流れ、蒸気機関車はピカピカの新幹線に姿を変えたが、沿線の風景の美しさは昔のままだ。4月から5月にかけて、線路脇の果樹園には、リンゴや桃、そしてこの白い花を付ける梨の花が咲き乱れ、とても贅沢な風景になる。やってきたのは派手なカラーリングの山形新幹線「つばさ」号。風景から浮いてしまいそうなデザインだが、山形県の県鳥「オシドリ」をモチーフにしただけあり、沿線の風景にうまく溶け込んでいる。見上げれば残雪の吾妻小富士。その残雪の形が白ウサギのような形になると、農民たちは田植えを始めるという。よく目を凝らせば、山の斜面にかわいい目をした白ウサギが！ その姿は、福島の遅い春の到来を喜び、飛び跳ねているように見えた。

α7R III



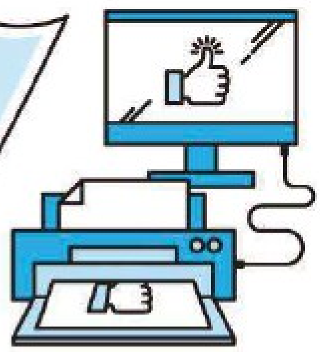
撮像素子：35mmフルサイズ
有効画素数：約4,240万画素
フォーカスエリア：399点（位相差検出方式）、425点（コントラスト検出方式）
連続撮影速度：最高約10コマ/秒　手ブレ補正：5.5段
外形寸法：約126.9×95.6×73.7mm
質量：約657g（バッテリー、メディア含む）

僕が撮るようなゆるい雰囲気の作品でも、本当のシャッターチャンスは一瞬しかない。それを逃さず撮れるのがこのカメラ。美しい描写力はもちろんだが、約10コマ/秒の高速連写で、大切な時に途切れることなく連続撮影できる性能がこのカメラの真価だと思う。

協力：ソニー株式会社／ソニーマーケティング株式会社

岡嶋研究室
OKAJIMA LABORATORY

プリントすると写真が上手くなる



白から黒への階調で作り上げるモノクロ写真は、幅広いユーザーに人気の表現手法の1つ。
今回は本格派の専用機から手頃な複合機まで、さまざまなプリンターで再現力をテストしよう。
階調性や色転びなどをチェックしながら、自分が目指すモノクロプリント表現を探ってほしい。

文・岡嶋和幸

#9 専用機と複合機で見るモノクロプリントの運用方法

見落としがちなモノクロの階調表現や色転び

デリケートなモノクロの色味

デジタルカメラでの撮影は、カラーとモノクロを臨機応変に使い分けられるが、モノクロモードで撮影した写真は、あっさりした感じでなんだかもの足りないことがある。最新の機種では複数のモノクロモードを搭載したり、調子をカメラ内でカスタマイズしたりできるなど進化している。でも、そのあたりがプリントに反映されて、モノクロ表現に対する細かいこだわりが鑑賞者にきちんと伝わるかどうかが問題だ。

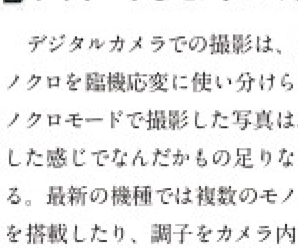
モノクロモードで撮影、あるいはパソコンでモノクロ化した写真は、液晶表示では当然だがモノクロで見える。ディスプレイのキャリブレーションが行われていなかったり、色温度の設定によって厳密には微妙に色が付いていたりするわけだが、肉眼ではそれに気付きにくい。

また、モノクロ写真をインクジェットプリンターで印刷すると「色転び」が起こることがある。ブラックインクだけでは階調表現ができず、シアン、マゼンタ、イエローといったカラーインクを組み合わせてモノトーンを再現するのだが、その際に青みや赤み、黄みを帯びたグレーになってしまうのだ。グレーインクを採用したプリンターではその現象が少なくなる。

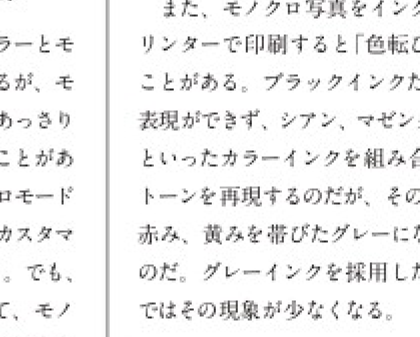
仕上がりはプリンターで決まる

フォトコンテストの応募作品でも、色転びを起こしたモノクロプリントは多いが、それに気付いていない人がほとんどだろう。ニュートラルなグレートーンで印刷されたモノクロプリントと比較すると一目瞭然なのだが、色をシビアに判断する目がないと微妙な色転びは分からないものだ。室内の照明などプリントを見る環境によってその度合いの感じ方は違うが、及第点をあげられるのは、グレーインクを搭載したプリンターを使用し、正しいプリント設定で印刷を行ったものくらい。その他は、たとえ良い写真でも、モノクロのプリント作品としてはあと一歩ということになる。

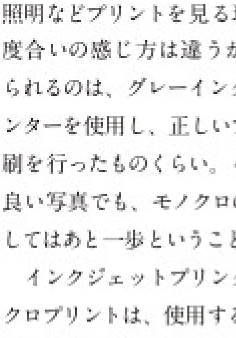
インクジェットプリンターを使ったモノクロプリントは、使用する機種と用紙でその仕上がりが決まる。美しく印象的なモノクロ表現のためには、階調豊かで黒に深みのあるモノトーンであるなど、もちろん撮影や画像処理も重要だが、今回はプリンター環境に着目してみよう。カラー写真だけでなくモノクロ写真も今よりきれいに仕上げたい人は、プリンターを購入するときなどぜひ参考にしてほしい。



環境光は重要で、色転びの判断は高演色ライトの下で行うのがベスト。写真はEIZOのLEDスタンド「Z-80PRO2-EIZO」(実勢価格：30,000円前後)



モノクロ写真印刷に対応したプリンタードライバには、手動でモノクロの色調を補正する機能が搭載されている。カラーサークルで減らしたい色の反対側をクリックして色転びを補正できる



キヤノンのプラグインソフト「Print Studio Pro」のパターン印刷機能は、モノクロプリントの色転びの補正値をつかみやすくて便利だ

設定やインクの違いで見える専用機のプリント傾向

エプソン「SC-PX5VⅡ」、キヤノン「PIXUS PRO-10S」「PIXUS PRO-100S」は本格的なプリント制作を行うユーザーに人気のインクジェットプリンター。モノクロプリントでの利用者も多く、フォトコンテストの応募作品の他、写真展の展示作品などで幅広く活用されている。

これらの機種に対応するICCプロファイルをほとんどの用紙メーカーが配布している。ところがモノクロ写真印刷に関しては、プリンターメーカーはプリンタードライバによるカラーマネジメントを推奨している。その方が階調が豊かで色転びが少ないなど、安定したモノトーンのプリントが得られやすいからだ。

モノクロ写真印刷に対応したプリンタードライバはこれらの3機種以外にもある。モノクロ写真モードでは、モノクロ化されていないカラー画像でも、プリンタードライバが変換してモノクロ写真として印刷される。「純黒調」「冷黒調」「温黒調」「セピア調」といった色調の他、調子も「硬調」「軟調」などから選べるので、モノクロ写真のトーン調整に不慣れな人は利用すると便利だ。

モノクロ写真モードは色転びが少なく階調豊か

［プリンター：エプソン SC-PX5VⅡ　用紙：エプソン写真用紙<絹目調>］

Adobe Photoshop CCやAdobe Photoshop Lightroom Classic CCなどのソフト側でカラーマネジメントを行う場合にはICCプロファイルを使用するが、モノクロ写真はプリンタードライバ側で行い、モノクロ写真モードで印刷するのがプリンターメーカーの推奨設定。ただし、プリンタードライバはsRGBとして処理をするため、画像データはsRGBである必要がある。Adobe RGBの場合はsRGBに変換しよう。Adobe RGBのままモノクロ印刷を行う場合にはICCプロファイルを使用した方が良いが、モノクロ写真モードとは印刷結果が異なる。



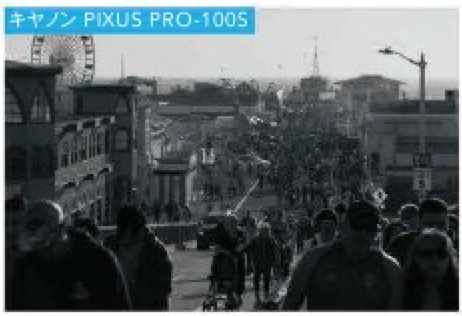


モノクロ化したsRGBの画像データを印刷。ICCプロファイルを使用した方は赤みが見られる他、シャドウが明るく再現されている。プリンタードライバでモノクロ写真モードで印刷した方が色転びが少なく階調も豊かだ。印刷時は画像データの色空間設定を要チェック

キヤノンの専用機で見る染料インクと顔料インクの違い

［用紙：キヤノン写真用紙・微粒面光沢 ラスター］

染料インクのPIXUS PRO-100Sと顔料インクのPIXUS PRO-10Sでモノクロ写真モードの印刷結果を比較。好みの違い程度で、カラー印刷と同様、光沢系なら前者、ファインアート系なら後者で、あとは用紙に合わせてトーン調整をしたり、プリンタードライバで色転びを補正すれば良い。PIXUS PRO-100Sは中間調からハイライトにかけて、PIXUS PRO-10Sは中間調からシャドウにかけての階調が滑らか。PIXUS PRO-100Sの方がコントラストが高めで明瞭感がある。PIXUS PRO-10Sは透明インクにより光沢ムラが少なく、黒濃度を高めている。





モノクロ化したsRGBの画像データを印刷。どちらもほんの少しだけ赤みが感じられ、PIXUS PRO-100Sの方がわずかに強めの傾向。PIXUS PRO-10Sの方がシャドウの階調が滑らかで、モノトーンに深みが感じられる

エプソンとキヤノンの顔料機は階調表現にわずかな違い

［用紙：ピクトリコプロ・セミグロスペーパー］

染料インクに比べて、顔料インクは乾燥して色が安定するまでの時間が早く、環境光による色の見え方の影響が少ない。このあたりはモノクロプリントでも有利で、色転びの判断や補正も行いやすい。SC-PX5VⅡは9色でライトグレー、PIXUS PRO-10Sは10色でレッドと透明インクのクロマオプティマイザーがある点が異なる。モノクロ写真モードの印刷結果を比較すると、PIXUS PRO-10Sの方が乱反射が少なく、シャドウの階調に目を向けやすい。SC-PX5VⅡの方が滑らかな階調再現で、コントラストがやや高め。シャドウの深みもわずかに勝る。





SC-PX5VⅡは青み、PIXUS PRO-10Sは赤みがかっていて両者の違いは一目瞭然だが、目が肥えている人以外は比較しなければ気付きにくいレベル。どちらもプリンタードライバでの色調補正で色転びを改善できる

手頃な複合機や専用機のプリントクオリティー

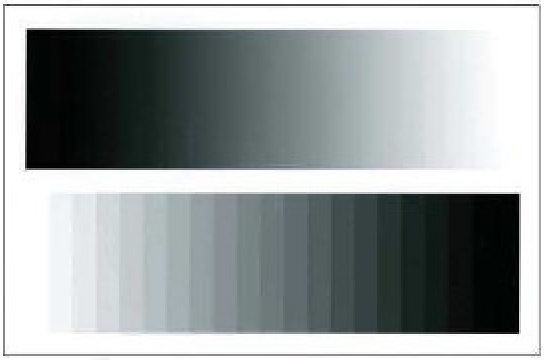
モノクロプリントは専用機でないと十分な画質が得られないのだろうか。インクジェット複合機は基本的に染料インクなので、乾燥して色が安定するまで時間がかかり、すぐに結果を判断できない。とはいえ、価格や設置場所がネックとなり専用機には気軽に手を出せない。ちなみに、染料と顔料の2つのブラックインクを搭載した機種があるが、顔料ブラックは文字や罫線など限定で、写真印刷では使われない。

インクジェット複合機の上位機種のモノクロプリントはどうだろうか。いろいろ試したところ、プリンタードライバのモノクロ写真モードで印刷すれば、色転びはあるがクオリティーは問題ないようだ。使いこなしのポイントはプリンターおよび用紙の階調再現に合わせたトーン調整と、プリンタードライバでの色調補正となる。ICCプロファイルいらずで気軽にモノクロプリントが楽しめるので、プリンターメーカーの純正紙以外にも目を向けてみよう。

エプソン EP-50Vは色転びの補正で十分なクオリティーに

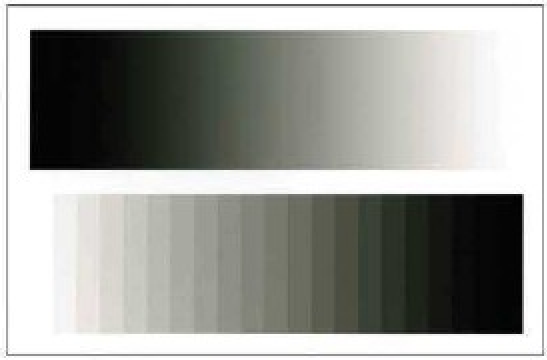
［用紙：エプソン写真用紙<絹目調>］

EP-30VAやEP-10VAはコピーやスキャンができる複合機で、EP-50Vはプリント専用機なのだが、6色染料のEpson Clear Chrome K2インク採用という点は同じ。これらV-editionはエプソンの染料プリンターの中でもグレーインク搭載で、プリンタードライバのモノクロ写真モードに対応する。やや青みのあるSC-PX5VⅡに対して、EP-50Vは赤みがかっている。グレーチャートの中間調を見ると違いがよく分かる。SC-PX5VⅡの方が階調豊かだが、プリンタードライバで色転びを補正すればEP-50Vでも十分に満足のいくプリントが得られる。





エプソン SC-PX5VⅡ 8色 （K3インク採用）



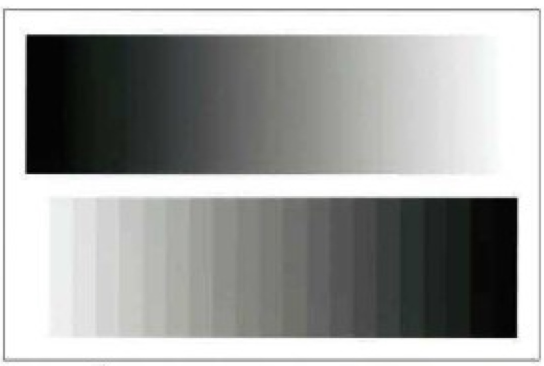


エプソン EP-50V 6色 （K2インク採用）

キヤノン XK70は中間調からシャドウの階調が滑らか

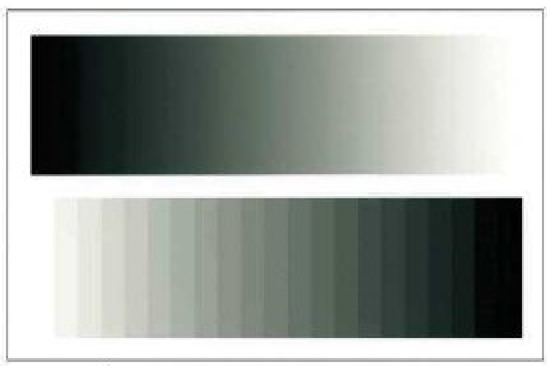
［用紙：キヤノン写真用紙・微粒面光沢 ラスター］

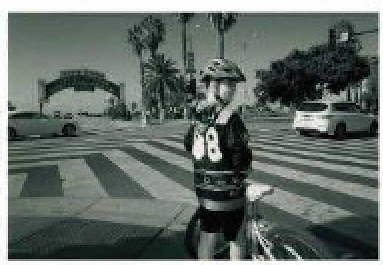
どちらも染料プリンターだが、専用機のPIXUS PRO-100Sは赤みがあり、複合機のPIXUS XK70はわずかに青みがかっている。PIXUS XK70にはグレーインクは非搭載だが、色転びがうまく抑えられていて好印象の仕上がり。ただし、Mac OSではAirPrint対応のため、プリンタードライバのモノクロ写真モードが使えない。PIXUS PRO-100Sの方が階調豊かなモノトーンで、コントラストもうまく再現できている。PIXUS XK70はややあっさりした感じに見えるが、中間調からシャドウにかけての階調は滑らか。きめ細かいトーン調整をプリントに反映できそうだ。





キヤノン PIXUS PRO-100S 8色

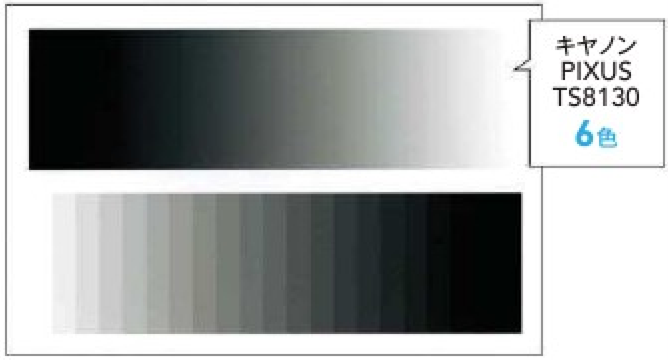


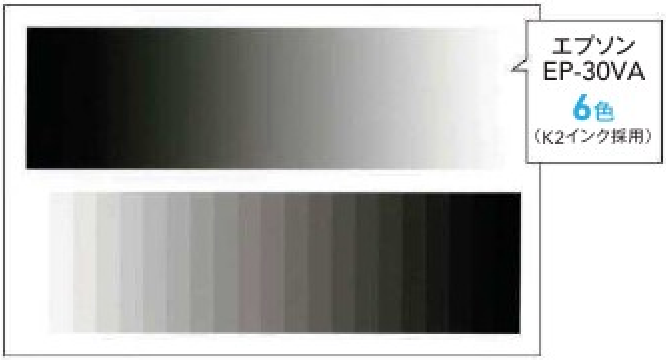


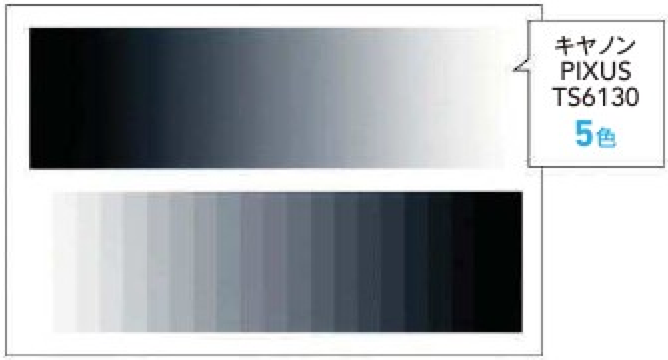
キヤノン PIXUS XK70 6色

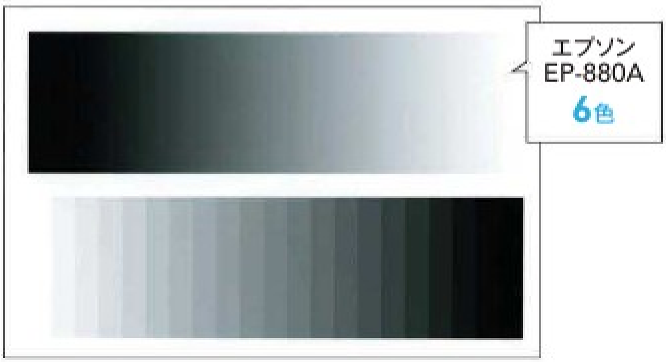
インク構成が異なる複合機のモノクロ表現力

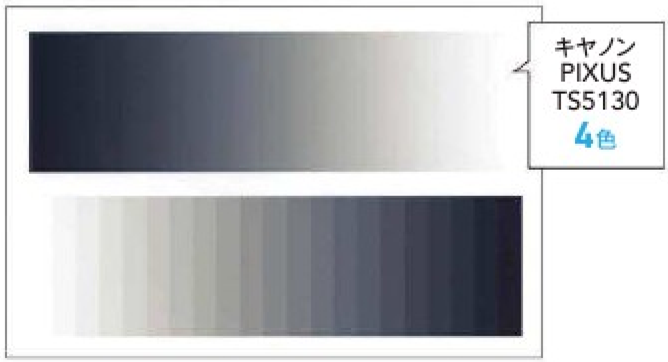
EP-30VAはプリンタードライバでモノクロ写真モードが選べるが、EP-880Aでは選べない。どちらも6色機だが、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックに加えて前者はグレーとレッド、後者はライトマゼンタとライトシアンという構成だ。TSシリーズは、Windowsのみプリンタードライバでモノクロ写真モードが選べる。TS8130はグレーインク搭載の6色機で、TS6130はそれを省いた5色機。どちらも染料と顔料の2つのブラックインクを搭載しているが、顔料ブラックは写真印刷では使われない。4色機のTS5130は顔料ブラックのみで、写真はシアン、マゼンタ、イエローの3色だけで印刷する。











EP-30VAは温黒調の赤みのあるグレートーン。EP-880Aは全体に青みがかって見えるが、マゼンタやイエローが浮いているところも。EP-30VAの方が滑らかな階調で、特にシャドウの再現性が優れている。EP-880Aのシャドウはつぶれやすい傾向であるようだ

［用紙：エプソン写真用紙<絹目調>］

TS8130は色転びが少なく、階調表現にも安定感が見られる。わずかにマゼンタが浮いて見えるが、その傾向はグレーインクのないTS6130の方が強め。TS5130はシャドウが浅く黒の締まりがない、眠い感じのグレートーン。部分的にマゼンタやイエローが浮いている

［用紙：キヤノン写真用紙・微粒面光沢 ラスター］

お手本プリントで見る目を養いつつ、自分に必要なプリンターを選ぼう

インクジェットプリンターはインクの種類や構成などによりグレートーンは微妙に違う。モノクロプリントの方がカラープリントよりクオリティーの差が目に付きやすい印象だが、グレーインクの採用やプリンタードライバのモノクロ写真モード搭載などにより、インクジェット複合機でも以前より良好なモノクロプリントが得られるようになった。

モノクロプリントに対して見る目がシビアな人はそれでもまだもの足りなく感じるだろう。優れたモノクロ作品が手元にあって、それと見比べながら作業を進めればいまひとつの部分に気付きやすい。そのためにバライタ印画紙による著名写真家のオリジナルプリントを購入し、日常的に目にするのは効果的。実際にそのようにしている人も少なくない。

インターネットなど液晶表示とは違い、モノクロ写真はプリントだと階調表現や黒の締まり具合などが気になりやすく、見る目も厳しくなりがち。フォトコンテストの応募作品では、私はトーン調整など技術的にいまひとつに感じる部分をアドバイスすることはあるが、プリンター依存の要素については見て見ぬ振りをしている。もちろん写真展の展示プリントとなると話は別で、プリンターを買い替えるか、プロラボやレンタルラボなどを利用して見応えのあるモノクロプリントにきちんと仕上げるべきだ。

染料プリンターの場合はしっかり乾燥させよう。複数枚を連続で印刷したときに、排紙トレイでプリントが重なって、それにより黒が引き締まらないなど不自然な仕上がりになることがある。モノクロプリントは用紙選びも重要だが、インクジェット複合機の多くはファインアート紙など厚手の用紙に対応していない。風合いのあるバライタ紙を利用するなど、味わい深いモノクロプリントに仕上げたいのなら専用機がおすすめだ。



ニコン D850／210mm／
絞り優先AE（F8、1/800秒、+0.3EV）／
ISO 400／WB：オート

新宿の看板群。普段なら取り去る画面上の文字も、210mmの望遠端で得られる圧縮の効いた表現で、デザインとして捉えられる。4段分効く手ブレ補正機構VC（Vibration Compensation）も働き、安心して望遠側での撮影に挑めるのも魅力だ

NEW LENS REVIEW

高精度AFで手持ちも軽快なコンパクト望遠ズーム

TAMRON タムロン

70-210mm F/4 Di VC USD（Model A034）

● 発売日 2018年4月2日（ニコン用） 2018年4月26日（キヤノン用）　● 実勢価格 94,500円前後



写真・文●
熊切大輔

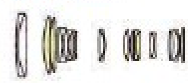
SPECIFICATION

対応マウント：キヤノン、ニコン　レンズ構成：14群20枚
絞り羽根枚数：9枚（円形）　最小絞り：F32　フィルター径：φ67mm
最短撮影距離：0.95m　最大撮影倍率：約0.32倍
外形寸法（最大径×全長）：約φ76.0×174.0mm（ニコン）
質量：約850g（ニコン）


D850に装着


付属フード

レンズ構成図


LD（異常低分散レンズ）

CHECK 01 望遠域でもよく効く4段手ブレ補正・VC

解像感の高いカメラでの望遠での撮影はナーバスになる。わずかな手ブレが命取りになるからだ。独自の手ブレ補正機構VC（Vibration Compensation）」の恩恵を受け、暗所も含めてブレを気にせず撮影できた



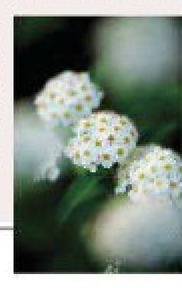
CHECK 02 高精度で動体にも食いつくようなAF

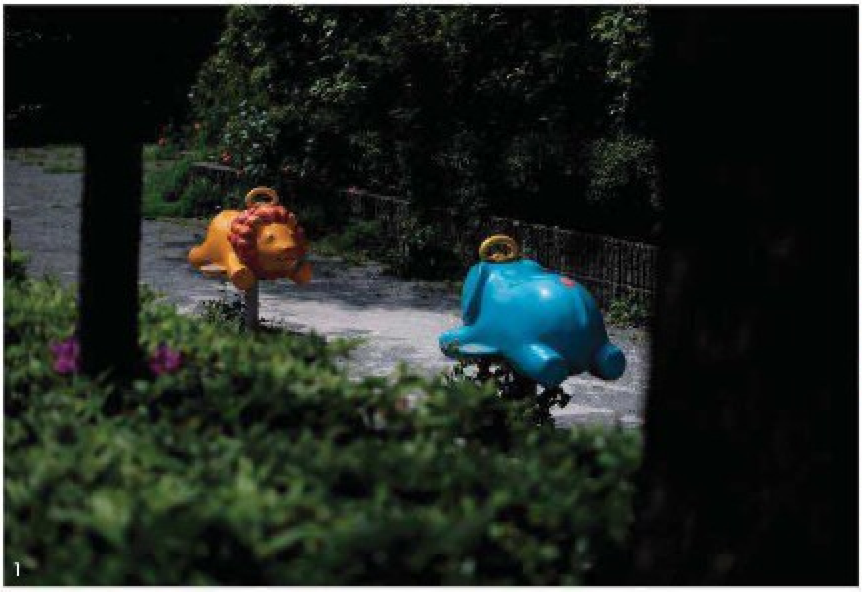
風の強い日のウインドサーフィンは、さらに動きが激しい。前後左右に慌ただしく移動する。AFを合わせ続けるシーンでも、超音波モーターが滑らかかつスピーディーに合焦を続けてくれた



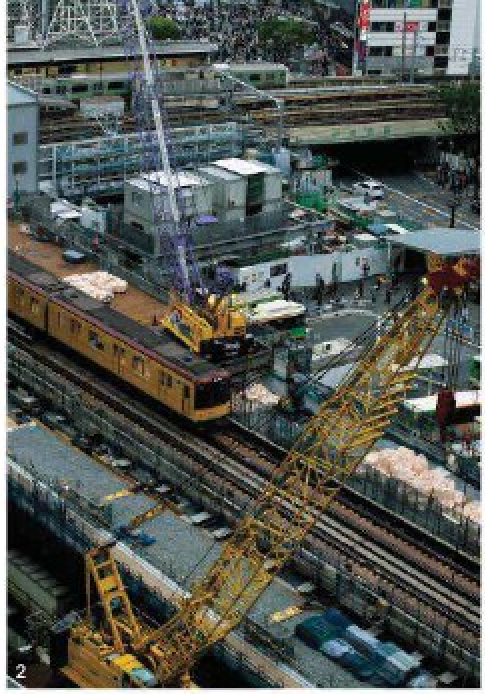
CHECK 03 被写体が大きく撮れる約0.32倍の撮影倍率

望遠ズームは寄れないイメージがあるかもしれないが、そんなことはない。特に前ボケが豊かに効くので、手前をぼかし、ボケの向こうにバランスよく被写体を配置するのがおすすめ。望遠ならではの圧縮効果とボケを生かせるのだ





1



2

ミラーレスカメラが台頭し、レンズ共々小型・軽量化がさらに求められる昨今、表現豊かなレンズに関しては重くても仕方なしと諦めているユーザーも多いだろう。しかし、本レンズは大幅に小型・軽量化されつつ、妥協のない表現力を併せ持つ。操作感も快適で非常に使いやすく、活躍のフィールドが広いレンズと感じた。

インナーズーム式で繰り出しのないズーミングは、リングの駆動も滑らかで、気持ち良く構図が決まる。AF切り替えスイッチは、以前はややチープで頼りない印象もあったが、このデザインに改良されたことで切り替えの感触も良好だ。飾り気のないストレートなフォルムはむしろ手触りが良く、鏡胴は細めで程よく手になじむサイズ感だ。簡易的ではあるが、防塵・防滴も採用されネイチャーフィールドでも安心。過酷で体力の要る撮影は、少しでも軽く、コンパクトなレンズの方がありがたい。

最短撮影距離は0.95mと、草花を近接して撮れる。高精度なAFで野鳥も確実に捉えてくれるだろう。これ1本山に持っていけば、多様な被写体に気軽にチャレンジできるお得さがある。昨今のレンズは、日に日に高解像化するカメラに対して、その表現力を問われるところ。だが、実写でも十分にキレのある解像力を発揮したことからも、あらゆるカメラに対応できるだろう。LD（異常低分散）レンズを採用し、色収差も抑えられた描写は、決定的瞬間が求められる難しいスナップでも細部まできっちりと写し出す。「小型・軽量だから写りが悪い」、そんな思い込みはもう必要ない。

小三元と呼ばれるズームレンズは、使い方や使うフィールドはさまざま。だからこそ、今までサイズ感などで見送っていたとするなら、この総合力のバランスの「ちょうど良さ」は手にとれば実感できると思う。



3



4

① ニコン D850／70mm／絞り優先AE（F5.6、1/1,000秒、−0.3EV）／ISO 800／WB：オート

コミカルな動物のオブジェにストーリーをつけてみる。一本道で出会ったライオンは、目の前の象を食べる気がないようだ。70mmの広角端でも十分に得られる前ボケを使い、その現場をこっそりのぞいてしまったかのように撮ってみた

② ニコン D850／70mm／マニュアル露出（F5.6、1/500秒）／ISO 1600／WB：オート

東京が変わり続けている。その最たる街が渋谷だ。駅前は完全に掘り起こされ、別の姿に生まれ変わろうとしている。そんな重機や鉄骨のゴチャゴチャと入り組む硬質な「線」を、解像感の高い描写が歯切れよく写し出してくれた

③ ニコン D850／70mm／マニュアル露出（F5.6、1/13秒）／ISO 100／WB：オート

スナップ写真は出会い頭で撮るものに思われがちだが、狙って表現していくのも楽しみ方の1つだ。あえて日中にスローシャッターを切り、都市の静と動を表現した。手ブレ補正が強力に効き、手持ちでもブレ表現に挑めた

④ ニコン D850／210mm／絞り優先AE（F4、1/40秒、−0.3EV）／ISO 400／WB：オート

開放絞りのF4を使用。浅過ぎない合焦面はシャープに、その前後に柔らかく効くボケ味は程よくディテールが残り、なじむようにアウトフォーカスしていく。このバランスが何より気持ち良い。開放絞りから積極的に使いたいレンズだ



100mm(200mm相当)／マニュアル露出(F14、1/500秒)／ISO 200／WB：晴天

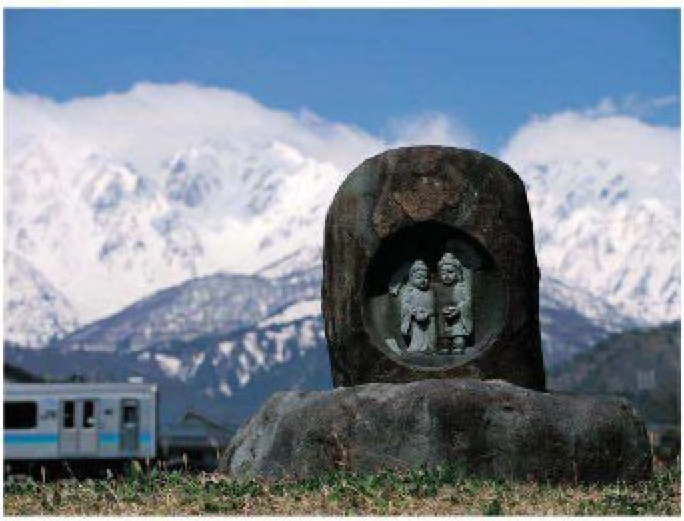
白馬三山をバックに走る大糸線のハイライト。可能な限り望遠にして圧縮効果で山の迫力を出し、線路を見上げる位置に構えて列車が山登りをしているようなイメージで捉えた

CAMERA



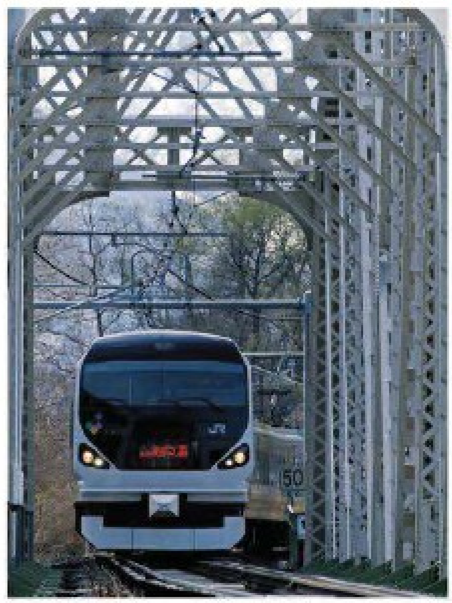
LUMIX G9 PRO

電子シャッターでの約60コマ/秒連写や高速なAF性能など、G9 PROは鉄道写真を撮る上で十分なポテンシャルを持ったカメラだ。EVFも120fps※の高フレームレートで、動く被写体でも心強い



56mm(112mm相当)／マニュアル露出(F4.5、1/4,000秒)／ISO 200／WB：晴天

線路を見守る道祖神。明るい開放F値はボケを利用した作品制作には欠かせない。1段ほど絞ったが、円形虹彩絞りの美しいボケが、ほのぼのとした空気感を演出してくれた



253mm(506mm相当)／マニュアル露出(F7.1、1/400秒)／ISO 200／WB：晴天／DMW-TC14使用

アップで捉えた特急あずさ号。小さくて軽い1.4倍のテレコンバーターを使用可能で、マスターレンズの性能そのままに焦点距離を伸ばせる。カメラバッグに忍ばせておきたいレンズの1つだ

Panasonic

LEICA DG LENS

LEICA DG VARIO-ELMARIT 50-200mm / F2.8-4.0 ASPH. / POWER O.I.S.



希望小売価格 275,400円

- レンズ構成：15群21枚
- 絞り羽根枚数：9枚
- 最小絞り：F22
- 最短撮影距離：0.75m
- 最大撮影倍率：0.25倍(35mm判換算0.5倍)
- フィルター径：φ67mm
- 外形寸法(最大径×全長)：約φ76.0×132.0mm
- 質量：約655g

F2.8-F4の明るさを持ちながら手持ちでも苦にならない大きさと軽さは、撮影現場のフットワークを軽くしてくれる。キレのある素直な描写が印象的で、独自のナノサーフェスコーティングによってゴーストやフレアがかなり低減されるので、逆光条件でも安心して撮影できる。

※撮影条件によっては60fpsで表示されます



50mm（100mm相当）／マニュアル露出（F4、1/500秒）／ISO 400／WB：晴天
海ノ口駅で出会った中学生。カメラとレンズ双方の手ブレ補正機能は有効で、とっさのシャッターチャンスに強い。歪曲収差が非常に少なく、鉄道や駅舎のような直線的な被写体にも強い

JR大糸線
【海ノ口駅】

祖父が駅長をしていた海ノ口駅は、木崎湖を望むことができる。かつて、冬になると白鳥が飛来し、仕事の傍らでその数を数えるのが日課だったという。現在は無人駅だが往時の姿を色濃く残している



origin

LEICAレンズともう一度、あの場所へ

写真家の源流をたどる。

with LEICA DG LENS

さまざまな写真家が愛してきたライカレンズ。その名前を冠する新しいレンズを携えて、写真家が原点となる地をもう一度訪れる。



Vol.1 **久保田 敦**

1977年、長野県生まれ。九州産業大学芸術学部写真学科卒業。会社員、フリーカメラマンを経て2001年レイルマンフォトオフィスに入社。現在はフリーになり「鉄道ジャーナル」（鉄道ジャーナル社）を中心に活動のほか、一般誌でも活躍中。日本写真家協会日本鉄道写真家協会会員

“雄大な山並みに見守られた春旅の記憶を訪ねて”

長野県松本市に生まれた私には、風景の中に北アルプスがあるのが当たり前だった。もったいない話だが、毎日のように見える山に特に感情を抱くことはなかった。その後、大学入学と同時に信州を離れ、知らない土地での生活に喜々としていた。しかし、久しぶりに帰郷した私は、その山容に驚愕（きょうがく）することになる。凛とそびえ立つ山々の美しさに圧倒され、故郷に素晴らしい景色があることに初めて気付いたのだ。

そんな美しい信州の山々を車窓から堪能できるローカル線が、今回訪ねた大糸線だ。長野県の松本駅と新潟県の糸魚川駅を結ぶ路線で、かつて国鉄職員だった祖父が途中の海ノ口駅で駅長をしていた。ある時、祖父がこの大糸線を走るイベント列車の切符を手に入れてくれた。春まだ浅い3月、残雪の山を見ながらの列車の旅がとにかく楽しかったのを覚えている。小学生だった私は、それ以降鉄道の魅力にどっぷりはまることになる。これが、私が鉄道写真家を志した原点といえる。実際に鉄道写真を撮り始めてからもよく通った大糸線は、私のルーツのような場所だ。



今回の大糸線の撮影はLEICA DG VARIO-ELMARIT 50-200mm / F2.8-4.0を携えて向かった。朝、鳥の声に誘われるように撮影地に立つと、昇ったばかりの太陽を浴びて白馬三山が神々しく輝いていた。その迫力と空気感を伝えたくてズームリングを望遠側にシフトして山容を圧縮する。ライカ基準を満たした高解像度、高コントラストな描写が、列車の金属感はもとより、遠く山肌の細かい部分までも素直に写し撮る。強い朝日の中での撮影だが、コーティングがしっかりしているため、どこまでもクリアな描写が維持される。背面モニターには私の心に今も残る、かつての春旅の記憶が鮮明に再現された。



そびえ立つ山々は、昔と変わらず私を見守ってくれているようだ。快晴に恵まれた撮影日は、鉄道写真家として旅を続けるために祖父がくれた、もう1枚の切符だったのかもしれない。



詩的憧憬

写真・文
米 美知子



どこまでも続く苔の回廊
カラ〜ン　カラ〜ンと鈴の音が響く
かつてはここに水が流れていたのだろうか
その水はどこに行ったのか
そんなことを考えながら奥へ、奥へ……
好奇心だけが勇気の源
まだ見ぬ世界が私を待っている

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ ／ EF16-35mm F4L IS USM ／ 20mm ／マニュアル露出（F16、0.4秒）／ ISO 400 ／ WB：太陽光



DRAMATIC CIRCUS

熱田 護

Formula 1 2018 Vol.26 / Bahrain Grand Prix / Chinese Grand Prix / Azerbaijan Grand Prix

久しぶりに心が湧き立つトロロッソホンダの快走!

開幕戦のオーストラリアGPでのトロロッソホンダはブレンドン・ハートレー選手が15位で最下位完走、ピエール・ガスリー選手がPUトラブルでリタイア。正直、この時点で今シーズンもダメかと思ったのは僕だけじゃないと思う。意気消沈して迎えた第2戦のバーレーンGP。ここのサーキットは砂漠の中にあり日中は当然暑い。開幕戦でPUのMGU-Hが壊れたことに対して2台とも対策した部品を投入したホンダ。信頼性の確認はほぼぶっつけ本番なので連続で壊れたらと、ホンダ陣営も不安であったに違いないし、僕もすごく心配だった。金曜日のFP1でガスリー選手は9位、ハートレー選手は13位。おっ、なかなか調子が良さそう。FP2でガスリー選手は9位、ハートレー選手は11位。いい感じ！ でも、まだ金曜日だから。土曜日のFP3でガスリー選手は6位。そしてなんと予選も6位！ ハミルトン選手がギアボックストラブルでグリッドダウンするので、レーススタートは5番手グリッドから。最下位を走っているようなチームが予選で5番手になるようなことは僕の記憶になく本当にびっくりした。久しぶりのワクワクが若干ありつつ迎えた日曜日。スタートでは1コーナーに向かった。予選が良くても、レースペースが遅くて徐々に後退していくことはよくあることだから、期待しつつもダメになったときの心構えをして撮影開始！ スタートしてベッテル選手、ボッタス選手、ライコネン選手の3台が先行するいつものパターン。レッドブルの2台は早々にリタイアしてガスリー選手は4位を走行。目の前を行くトロロッソホンダが快走している……。そのペースは5位を走るマグネッセン選手をも引き離していく。なんということでしょう。その後、撮影場所を変えつつもガスリー選手の順位が気になって仕方がない。レース終盤に差しかかったころ、ピットウォールタバードを所持していたので、早めにピットに戻ってきた。なぜなら4位走行しているということは、もし万が一、上位3台の1人がリタイアしたら表彰台！ という順位だから。その時点でかなりドキドキしていたと思う。結局、4位でチェッカーを受けそうだと分かった頃、ピットウォールで悩む。勝ったベッテル選手のパルクフェルメでの歓喜のシーンも撮りたい、でも4位で戻ってきたガスリー選手も撮りたい。4位以下の選手はピットレーンに戻ってきた順番でマシンを止めるので、どの場所にいつ戻ってくるかは分からない。結局、僕はフェンス脇でベッテル選手を撮影してから素早く移動して、ガスリー選手を撮るという二兎を追う作戦に出た。ベッテル選手は確実に撮れるけれど、ガスリー選手がもし早めに戻ってきていたら撮れないが、なんとなく大丈夫な気がしていた。そして予定どおりにベッテル選手を11-24mmで撮り、人をかき分けてダッシュで後方に行くとトロロッソのメカニックさんがいて、その先に今マシンを降りようとしているガスリー選手が見えた。カズリー選手が降りている様子を400mmで撮影。彼の視線がメカニックさんに向かったので素早く400mmをその辺りに置き捨てて11-24mmでメカニックさんに駆け寄る様子を捉えた。その間10秒もなかったのかな。メカニックとの抱擁を撮った後、先に行こうとするガスリー選手にピエール！と何度も叫ぶ。気がついた彼はこちらに向かって4位というサインまでをしてくれた。二兎を追い、二兎を得ることもあるのだと思った。まあ僕の場合は大抵失敗するのだけど。





GP.02 Bahrain

キヤノン EOS-1D X Mark Ⅱ／ EF11-24mm F4L USM ／16mm ／マニュアル露出（F13、1/15秒）／ ISO 320／ WB：太陽光

空の色が残っている時間に広角レンズで照明塔とともに流し撮り。画面の中の被写体が小さいとき、その動きより集中してカメラを振るようにしないと失敗写真ばかりになってしまう



01



02

GP.03 Chinese

01 キヤノン EOS-1D X Mark Ⅱ／ EF85mm F1.4L IS USM ／85mm ／マニュアル露出（F11、1/4秒）／ ISO 100／ WB：太陽光

メインストレートをスローシャッターで流し撮りして、観客をグラデーションにした。明暗がうまい具合に彩りに変化を与えて油絵のような表現になった

02 キヤノン EOS-1D X Mark Ⅱ／ EF85mm F1.4L IS USM ／85mm ／マニュアル露出（F1.4、1/3,200秒）／ ISO 400／ WB：太陽光

中国GPで勝ったのはリカルド選手。右の靴がないのはバルクフェルメで靴を器にしてシャンパンを飲む「シューイ」を行ったから

使用メディア：SanDisk Extreme Pro CFast 2.0カード

GP.04 Azerbaijan

キヤノン EOS-1D X Mark Ⅱ／ EF400mm F2.8L Ⅱ IS USM ／400mm ／マニュアル露出（F6.3、1/800秒）／ ISO 100／ WB：太陽光

バクー・シティ・サーキットのアイコン的な建物の城壁をバックに撮影。低速コーナーとはいえ、カメラマンからは完璧なブラインドになっているので、マシンが見えた瞬間に測距点を正確にヘルメットに持っていくのが難しい

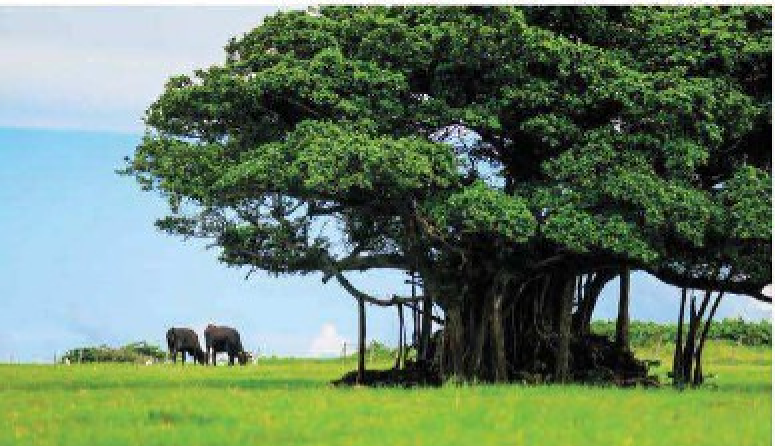


Race Photo TECHNIQUE シャッター速度による火花の写り方の違い

マシンから出る火花は美しい。火花はマシンの下に埋め込まれたチタン合金が路面と擦れることで火花が出る。出やすい場所としては、高速コーナーの入り口で路面の凹凸があるところなど。そこでブレーキをかけると火花が出る。撮る場合はシャッター速度を変えて火花を止めるのか、流すのかを決める。流すときは1/10秒まで下げて光跡に、止めるときは1/800秒以上で点に写す。低速シャッターにするときは絞り込むが、金網越しに狙うと金網も写ってしまうので注意しよう。











美しい光と色彩に恵まれた沖縄の島々

Twelve Islands 12

写真・文●山下峰冬





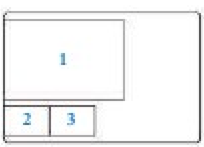
第10回 黒島（くろしま）／八重山諸島

空と海が一体となるブルー・オブ・ブルー

行けども行けども、視界に飛び込んでくるのは青々とした牧草地と広大な空。牛がのんびりと草を食み、その上空を時折白いサギが一斉に飛翔する。風に波打つ草原の上で、雲は自由に動き回っている。容赦なく突き刺す日差しにくらりとしながら、まるでサバンナにでも立っているかのような錯覚に陥りかけるが、緑の向こうにのぞくエメラルドグリーンの海を見て我に返る。それにしても空が広い。こんなにも大きな空は沖縄のどの島でもそうそうお目にかかれない。

人口より牛の数の方が圧倒的に多い黒島は、そのイメージだけが独り歩きしがちだが、この島の周囲の海の美しさを忘れてはならない。一口に沖縄と言えども島によって海の色彩は異なり、黒島沖の海はまさにブルーと呼ぶにふさわしいクリアな青色だ。白い砂地以外に何もない宇宙空間のような青い水中を漂い、ぽつりぽつりと点在する小さな惑星みたいなサンゴの根を順に見て回る。近づくと、それぞれにヨスジフエダイやスカシテンジクダイなどの魚が群れていることを知る。そして気が付くと僕はすっかり魚の群れに取り囲まれていた。怖がる様子もなく近寄ってくる魚たちに、むしろこちらがうろたえていると、ふと空の色が目に飛び込んできてハッとした。頭上の空が海中と同じ色をしていたからだ。全身を青一色に包まれた不思議な浮遊感の中、海と空の間で揺れる水面と呼吸を合わせるようにして夢中でシャッターを切った。

夏になると沖縄の各地で豊年祭が行われる。神への豊作の感謝と五穀豊穣を願う祭りで、黒島では豊穣の神「ミルク神」の行列が海辺を練り歩く。ある年には行列の後を追うように海の彼方から伸びてきた灰色の雲が、日中の高い太陽をみるみる覆い隠すまで立ち上る荘厳な光景に遭遇した。この島での記憶は、どれもみな空とともにあったのだと改めて思う。



1. キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ ／ EF8-15mm F4L フィッシュアイ USM ／15mm ／絞り優先AE(F8、1/1,250秒、−0.7EV) ／ ISO 400 ／ WB：太陽光
ロクセンスズメダイの群れに取り囲まれた。別の惑星に足を踏み入れたかのような感覚

2. キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ ／ EF100-400mm F4.5-5.6L IS Ⅱ USM ／200mm ／絞り優先AE(F5、1/250秒、+0.7EV) ／ ISO 400 ／ WB：太陽光
広大な牧草地に大きなガジュマルが1本。周りで牛が草を食むこの上なく穏やかな光景

3. キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ ／ EF16-35mm F2.8L Ⅱ USM ／25mm ／絞り優先AE(F11、1/320秒、+0.7EV) ／ ISO 320 ／ WB：オート
海の彼方からやってきて島に豊穣をもたらすミルク神。空に大きな雲が湧き上がった

島と海の撮影テクニック

熱帯魚をシャープに捉える半水面撮影の露出決定

メインカットは水深7～8m程の海での半水面写真。水深が深くなるほど空と水中の明暗差が大きくなり、両者の色彩を残すのが困難になる。まず、サンゴと魚を共にくっきりと描写できるように、F値はF8まで絞っている。露出オーバー気味の部分はRAW現像でも深みのある青は取り戻せないため、空のトーンを気にかけながら、水中が適正露出になるように−0.7EVの露出補正をした。立ち泳ぎでの撮影なので、カメラブレ防止のため、余裕をもったシャッター速度が得られるようにISO感度は400まで上げた。これは動き回る魚の動きを確実に止める被写体ブレの防止にもつながる。空の青を十分な濃度に保つには、慎重な露出決定に加え、カメラのダイナミックレンジの広さや、海の透明度の高さも起因することを覚えておきたい。



▲水面の形と魚のバランスが写真の印象を左右する



▲明るめの露出では空の色彩を残しにくい

Photoshop みんなの

写真力を高める
現像とレタッチ

RAW現像教室

解説● 大和田 良

第9回

テーマ1 豊かな質感描写で雄大な風景を再現したい

作者による仕上げ



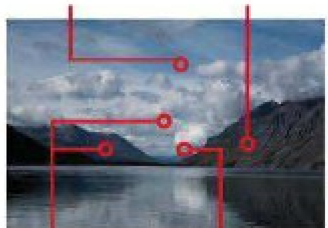
ガツ坊さん

カメラ：ニコン D750　レンズ：シグマ 24-105mm F4 DG OS HSM | Art　撮影地：カナダ・クルアニ国立公園

◉レタッチ前のRAWデータ

空の青を
深い色合いに
補正する

草木の色合いを
鮮やかに再現する



空と山の色合いの
コントラストを高める

遠景の山や雲を
クリアに描写する

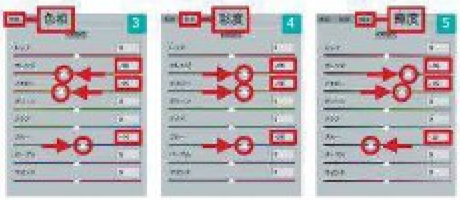


画面全体に適度なコントラストが表れたことで、明瞭で高い解像感が感じられる。山肌の色合いの補正によって湖面への映り込みもより鮮やかに再現された。透明感のある描写によって、寒い季節を連想させるというコンセプトも強調されたのではないだろうか

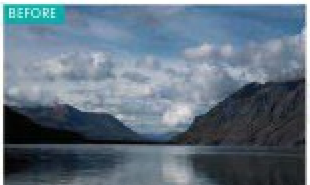
カナダのクルアニ国立公園で捉えた、キャサリーン湖の風景だそうだ。背の低い草木だけが色を付けた山岳地帯の光景は、抜けの良い青空の下でも、どこか厳しい冬の寒さを想像させるようである。ガツ坊さんによる仕上げでも意識されているように、抜けが良く明瞭なイメージを構成することで、空気の透明感や岩肌、雲の立体感を強調し、冬の寒さを連想させることが今回の写真では良いコンセプトになるだろう。作者の仕上げでは遠景の山のトーンや質感が若干失われてしまったため、私の方では全体の明瞭感を上げるとともに、滑らかなトーンを意識してより質感豊かな仕上がりを目指してみたい。

Camera Raw 基本補正とHSLでメリハリを出す





1若干傾いた画面は角度補正ツールをダブルクリックして自動で補正する。2基本補正では、自動補正を用いてトーンの目安を得た後で微調整を行い、さらに明瞭度とかすみの除去をプラス補正してコントラストを整える。345HSLの補正では、オレンジとイエローで右手の山の草木を、ブルーで空の色合いを鮮やかに補正した。この調整によって、画面全体に適度なコントラストが感じられるようになった



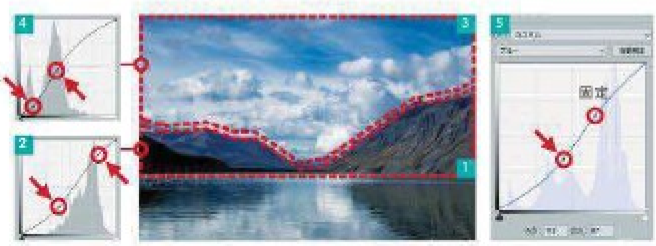
画面が少し斜めでメリハリも弱め

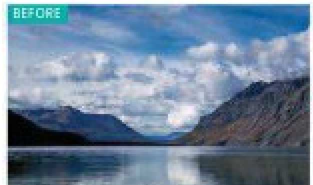


水平になり画面に透明感が出てきた

Photoshop 空と山は個別に部分補正を行う

1山並みの部分と3空の部分をそれぞれ選択し、24個別にトーンカーブで補正を行う。立体感を強調し、質感描写が豊かに表れるように意識しよう。5最後に画面全体にブルーのチャンネルのトーンカーブで色の補正を行う。明るい部分は変わらないように固定し、中間調からシャドウにかけてブルーを下げることでイエローが足される。山肌がより鮮やかに感じられ、湖面の映り込みのコントラストも高められる





メリハリや鮮やかさを高めたい

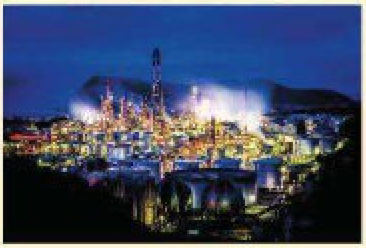


山肌や雲などに立体感が出てきた

※本連載はAdobe Photoshop CCを例に手順を紹介しています

テーマ 2 工場夜景の光を印象的に再現したい

作者による仕上げ



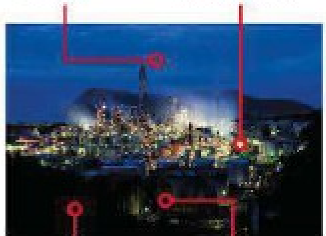
Katsukiさん

カメラ：ニコン D750　レンズ：AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR　撮影地：和歌山県有田市

◎レタッチ前のRAWデータ

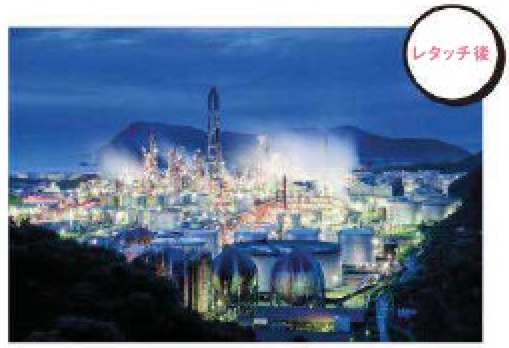
夜明け前の空のトーンを再現する

工場の光を明るく、柔らかい印象で再現する



シャドウ部の森の質感を再現する

工場内の赤や緑の色の印象を強調する



全体のトーンが明るく、柔らかなトーンで描かれたことで夜明け前の雰囲気を表しつつ工場の煌々と輝く光の印象を再現することができた。また、ハイライトとシャドウのトーンを豊かに残したことで、色飽和や白飛び、黒つぶれも少なく、豊かな質感描写が感じられる

煌々と輝く光と立ち上る蒸気が、夜を通して稼働する工場の姿を良く表現している。空がうっすらと明るくなり始める少し前に撮られているため、その雰囲気も仕上げに反映してみたい。Katsukiさんの仕上げでは、コントラストと彩度が高いため力強い絵に仕上がっているが、細部の色飽和や白飛び、黒つぶれが気になる。画面手前の森の質感も含め、全体的に柔らかくトーンを描いて質感や光の広がりを再現しつつ、工場内のさまざまな色の光を鮮やかに描こう。また、空の色合いや明るさも細かく補正していくことで、朝日の気配のようなものと夜の闇の青みを同時に残したい。

Camera Raw　基本補正で明暗の細部を見せる

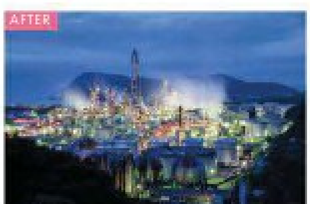




1 トーンを中間調に集めるような意識で各パラメーターを調整し、シャドウやハイライトに豊かなトーンを残す。2 全体の明るさはトーンカーブで中間調を持ち上げた。3 HSLの色相タブでイエローに赤みを足し、グリーンはアクア側に寄せることで色のコントラストを鮮やかに再現する

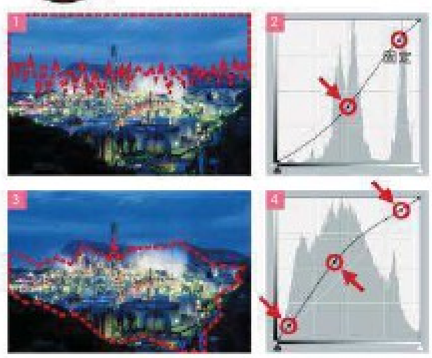


明部と暗部のディテールを出したい

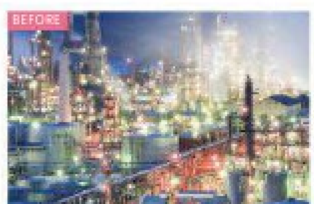


明るくなって赤や緑が美しくなった

Photoshop　部分補正で工場の明るさを強調



1 初めに空の部分を多角形選択ツールで選択し、2 トーンカーブで空の明るさとコントラストを整える。この際、選択範囲は下に向かってジャギー状にすると、自然な光の広がりを再現できる。3 次に工場内を選択し、4 白飛びと黒つぶれを防ぐために制御点を設けつつ、中間調を持ち上げて工場全体をさらに明るく再現した



工場の煌々とした雰囲気が弱い



工場が発光して幻想的になった

大和田先生の今月のアドバイス

色調を決めるプロファイルの選択

最新のアップデートにより、基本補正パネルに「プロファイル」の項目が移動され、それと同時に新たにさまざまなRAWプロファイルを選択できるようになった。今までは「Adobe標準」が割り当てられていたが、今後は「Adobeカラー」がデフォルト設定となるため、色調に違和感を感じる場合には「Adobe標準」に変更してみると良い。

読者の皆さんの作品を募集します！

本連載では、読者の皆さんの作品を実際に大和田先生がRAW現像とレタッチを行い、その手順を誌面で再現します。毎月テーマを変えて作品を募集し、2作品を誌面でご紹介します。ご応募を心よりお待ちしています！

8月号のテーマ

「爽やかな日差し」

▶応募締切

2018年6月10日

※編集の都合で、掲載号が変更になる場合があります

応募方法

1. GANREFにログインし、応募受付中のコンテストにアクセス http://ganref.jp/photo_contests
2. 「デジタルカメラマガジン みんなのPhotoshop RAW現像教室 2018年8月号選考（お題：「爽やかな日差し」）」をクリック
3. 応募要項をご確認の上ご応募ください
4. 大和田先生による選定後、編集部よりメールにてRAWデータご提供のご相談をさせていただきます

酒場の情景

なぎら健壱

二十四献目

秋田ぶるうすの片隅で

東陽片岡という漫画家をご存じであろうか。昭和のニオイのする、底辺の人間たちの機微を描かせたら天下一品である。あたしは以前から東陽さんのファンであり、CDアルバムのジャケットを描いてもらったこともある。その東陽さん、無類のスナック好きが高じて、新宿区の荒木町（杉大門通り）にスナックをオープンしたのが3年前である。店名はいかにも東陽さんらしい『秋田ぶるうす』だが、実のところは先代のマスターから引き継いだ名前だという。

曜日によってママというかオネエさんが交代で店の切り盛りしている。今宵はチャーマァさんが客のお相手をしているが彼女、普段は演劇をやっているという。東陽さん、基本的には毎晩顔を出すようにしていると語るが、一体いつ漫画を描いているんだろうか？　聞くと、「火曜と木曜は本職をやってますよ」と返ってきた。

その『秋田ぶるうす』に足を向けた。以前に訪れたときは火曜日か木曜日だったのか、東陽さんは不在であった。今回はそんなこともあって、事前に連絡をしておいた。

おっと、口明けだというのに、すでにカラオケで盛り上がっている人がおりますよ。常連さんだというこの方、永岡さんといって週に何日か顔を出すという。常連さんに好かれるっていうのはいいことですよ。

東陽さんとビールで乾杯して、お久しぶりとよもやま話に華を咲かせる。ひょんなことから、オーブの話になった。オーブとは小さな光球玉が写真などに写り込む現象のことで、東陽さんの漫画に出てくる。まあ、空気中の水分やゴミなどが写り込むとされているが、正体は謎である。「今度デジタルカメラマガジンに載せましょうよ」と言うと、「いいですよ」とのこと──まあ、酒の席でのこうした罪のない話というのはいいですな。

焼酎に替えてからすでに3時間がたっている。永岡さんがあたしをなぎらと気がつき、奥さんを電話で呼んだころ、あたしもカラオケに参加。ノドがこなれるまで2曲、今や絶好調。永岡さんも絶好調。東陽さんも絶好調。おっと、東陽さん、あたしの歌、『教訓Ⅱ』を歌っていますよ。

0時を回ったころにムード歌謡漫談のタブレット純さんが登場。一時期、マヒナスターズに在籍をしていたこともあり、さすがに歌が上手い。

おっと、もうこんな時間だ。口明けから7時間も居座ってしまった。そうだ、永岡さんごちそうさまでした。





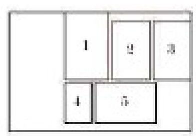












東京都新宿区舟町
『秋田ぶるうす』にて

1 オリンパス PEN-F ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／17mm(34mm相当)／絞り優先AE(F5、1/15秒、+1.3EV)／ ISO 6400／ WB：オート／東陽片岡さん

2 オリンパス PEN-F ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／12mm(24mm相当)／絞り優先AE(F2.8、1/60秒、+0.3EV)／ ISO 6400／ WB：オート／チャーマァさん

3 オリンパス PEN-F ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／40mm(80mm相当)／絞り優先AE(F2.8、1/30秒、+1.3EV)／ ISO 6400／ WB：オート／永岡さん

4 オリンパス PEN-F ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／12mm(24mm相当)／絞り優先AE(F6.3、1/13秒、+0.3EV)／ ISO 6400／ WB：オート

5 オリンパス PEN-F ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／23mm(46mm相当)／絞り優先AE(F2.8、1/25秒、+1.3EV)／ISO 6400／WB：オート／タブレット純さん（右）

なぎら けんいち：1952年東京銀座（旧・木挽町）生まれ。フォークソングに傾倒し、1970年、岐阜の中津川で行われた全日本フォークジャンボリーに飛び入り出演したことをきっかけにデビュー。これまでに10数枚のアルバムをリリースしている。カメラ歴は古く、写真集に「東京のこっちがわ」「町のうしろ姿」があり、写真を添えたエッセイ集も上梓している。現在はコンサート活動のほか、独特のキャラクターでテレビ、ラジオ、映画、ドラマの出演や、新聞、雑誌等の執筆でも活躍をしている

人工光を思いどおりに操る写真の魔術

夜光都市 Another World アナザーワールド

写真・文● 山下裕之

第20夜 変貌する渋谷の街へ続く光跡のカラフルロード

夜の帳(とばり)が下りると、普段見慣れた都会の喧騒はドラマチックな世界へと変わる。そこにはデジタルカメラならではの楽しさが広がっている!

渋谷駅周辺は、いくつものクレーンが立ち並ぶ、再開発真っただ中の観光都市になっている。目まぐるしい都市風景の変貌ぶりには、私も驚くばかりだ。メインカットは渋谷の青山通りに架かる歩道橋から見る渋谷駅方面。今まさに工事中の高層ビルを背景に車の光跡を写し込み、シンメトリーの構図でドラマチックに演出した。

撮影した時間帯は夜の7時頃。画面両脇のオフィスビルの窓からは煌々と光が溢れ、青山通りの上を走る首都高速3号渋谷線もラッシュアワーの時間帯で交通量が多く、スローシャッターで光跡を容易に写すことができる。少々派手な演出ではあるが、近未来的な渋谷の光景を写し捉えた。一見すると無機質な構造物ばかりが写る、何気ない歩道橋からの光景だが、ビル窓から溢れてくるオフィス灯、工事現場から漏れる明かり、道路を貫く無数の光跡は、どことなく有機的な感じがする。29mmの画角にまとめることで、多くの光が集まり、1つの集合体を形成するように印象付けた。

それぞれの光に役割があり、互いに影響し合って作り上げる光景は、時代の流れとともに違った風景を記録していく。10年後、20年後にまた、この写真にも大きな価値と意味が出てくるのではないだろうか。



撮影DATA

CAMERA
ニコン D850
LENS
AF-S NIKKOR
24-70mm f/2.8G ED
FOCUS LENGTH
29mm
EXPOSURE MODE
マニュアル露出
F-NO F10
SHUTTER SPEED 15秒
ISO 64
WHITE BALANCE
プリセットマニュアル

首都高の道路灯はナトリウム灯。特有な暖色でアンバーな印象だったので、ホワイトバランスをマニュアルで色温度を低めに設定して撮影した。全体的に構造物が寒色のクールな色合いとなったが、全体的には好みのバランスに仕上がった



構図・イメージ ナトリウム灯を中央に据え道路をシンメトリーにする

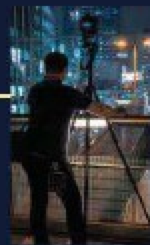
渋谷駅方面に真っすぐ左右対称に流れる首都高と側道、それを挟み込むビル群と背景に映える建設中の2つの巨大な高層ビル。これらのバランスを考えると、必然的にシンメトリーの構図で捉えることになろう。もちろん斜めから捉えてもそれなりの構図で美しくはなるが、ここはナトリウム灯をアクセントとして中央に据えシンメトリーの構図にするのがベストの選択となった。加えて、15秒露光による派手な光跡で、強いイメージを強調している。



メインカットより右の撮影位置から左に振った構図。立体的でバランスは良いが、密集感の伝わり方がやや弱く感じる

レンズワーク ビル群はあえて天を外して程よく圧縮して切り取る

歩道橋という移動が制限される場所では、レンズワークが特に重要だ。構造物の多い直線的な風景ということもあり、あおらずに水平・垂直をしっかりと出して撮影した。全体的に密度の濃い空間にしたかったので、あえて空は除き、レンズをズームして適度な圧縮感を出せる29mmを選択。背景のビルは途中でカットした。全体を入れようと広角であおって撮るのではなく、余分なものやバランス的に良くない要素を削ぎ落としていくことが大事だ。

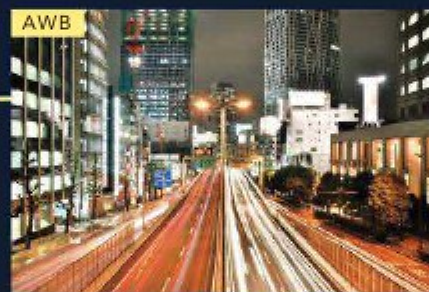




三脚は歩道橋のクリアボードを越えられるハイアングルに設置して、道路を強く印象づけられる位置から撮った。右はあおって建物の上まで入れたものだが、全体が説明的な印象。パースがつき、ゆがんだ写真になって締まりが弱い

カメラ設定 WBはマニュアルにして街明かりのバランスを整える

都市夜景ではさまざまな人工光源に出合うが、ある程度光源の種類や色温度を理解していると撮影の楽しさも広がる。一般的な道路の照明はナトリウム灯などの色温度が低いアンバーな色調だが、オフィスなどの明かりは蛍光灯やLEDなどの色温度が高い寒色系が多い。道路のアンバー色が強過ぎて、ホワイトバランスをオートにすると全体的に暖色系の印象に仕上がってしまうが、ここではプリセットマニュアルで色温度が低い箇所に合わせた。



WBオートで撮影すると、暖色の色合いになる。マニュアルで人工光をコントロールして撮影するのも楽しみの1つだ

山下ラボの光で遊ぶ実験室 夜景は楽しい!!

透明な球体の中にピントを合わせて夜の街並みを閉じ込めるの巻



ニコン D850／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／70mm／マニュアル露出(F18、8秒)／ISO 32／WB：3,030K

水晶玉のようなアイテムを使って風景を宙に浮かせたような写真を見かける。レンズフィルターに透明な玉が付いた便利なモノもあるのだが、アクリル製やガラス製のクリアボールが安価に購入できる。今回はそれを使って、夜景を撮影してみたのだが、面白いほど簡単だった。方法は、クリアボールを適当な場所へ置き、中に映る被写体にピントを合わせるだけ。光跡などを入れたい場合は三脚を使って長秒露光しよう。ただし、平らな場所では球体が転がることに注意。動かないように粘土などで接地面を固定すると良い。球体の中の風景は反転しているので、メインカットは180°回転させている。工夫次第でユニークな写真が撮れるはずだ。



▲ピントは無限遠に近くなるので背景ボケを生かせる



▲街角で撮影するときは転がらないように注意が必要だ



OTHレーダー正面

ニコン D810／ AF-S NIKKOR 20mm f/1.8G ED ／20mm ／
マニュアル露出(F6.3, 1/250秒)／ ISO 800／ WB：曇天／35枚ステッチ

旧ソ連のOTHレーダーの受信アンテナ。高さは約150m、幅は約500m。別名は" Steel Yard"という。別の場所のトランスミッターから発信され、反射して戻ってきた電波を受信する。ただただ圧巻のひと言



巨大アレイと傘

ニコン D810／ AF-S NIKKOR 20mm f/1.8G ED ／20mm ／
マニュアル露出(F6.3, 1/250秒)／ ISO 800／ WB：曇天

一歩移動するたびに表情を変えて発生するモアレに眩暈がする。しとしとと雨が降る中の撮影で、同行したツアー参加者のカラフルな傘が良い対比になった。人物を入れることによって、その巨大さがより伝わる

偉大なる土木建築との対話

大山 顕

土木系マニアの視点

第9回 OTHレーダー

名建築は数あれど、街に溶け込む構造物は無機質だと思われがちだ。
だが、彼らの佇まいをつぶさに見れば、
懐の大きさとディテールの細かさに、ただただ圧倒される。
鉄の骨を編み、コンクリートの肉を纏った彼らは、
私たちの営みを映し出す鏡だ。そんな彼らの言葉を代弁すべく、
"ヤバ景"フォトグラファー大山 顕が厳選する12の被写体を語り尽くす。



森林から見たレーダー背面

ニコン D810／ AF-S NIKKOR 20mm f/1.8G ED ／20mm ／マニュアル露出（F6.3、1/250秒）／ ISO 800／ WB：曇天／19枚ステッチ

元は秘密軍事基地で、対外的には「青少年自然の家」という設定だった。周囲には数100kmにわたって森が続いている。許可を得て敷地に入り、20分ほど歩くと木々の間にその姿を現す

放射器と反射器



ニコン D810／AF-S NIKKOR 20mm f/1.8G ED ／20mm ／マニュアル露出（F6.3、1/250秒）／ISO 800／WB：曇天

稼働していた当時、あまりにも強力なその電波は世界中の放送に影響を与えており、レーダーの存在は知られていた。特にラジオ無線趣味の方々の間では、その特有のノイズ音を「ロシアン・ウッドペッカー」と呼んでいた

高さ150mで待つ秘密ラブレター

ウクライナにOTHレーダーというものがある。実物を見てみたいとずっと思っていた。ついにその夢が叶ったのだが、いざ目の前にすると現実感がまるでなく、夢でも見ているようだった。大きさも形も、そして立っている環境もあまりに異様。重ねて、足を運んだ日は悪天候で、遠方は雨に煙り、すべてがアンリアル。約150×500mの鋼鉄の構造物に落ちる雨音も、今まで聞いたことのない不思議な音だった。周りの森の木々がたてるサウンドとは全く違う。電波に耳を澄ませるものが音を立てる、って何だか詩的だ。

OTHとは“Over The Horizon”の略で、その名の通り地平線を越えて電波を飛ばし、受信するもの。旧ソ連時代の1976年に稼働開始した軍事用レーダーで、電波を電離層に反射させることで地平線を越え、アメリカの弾道ミサイルや戦闘機などを索敵した。しかし、解像度が低く、当時の技術では敵機なのかノイズなのかも満足に見分けがつかないありさまだったという。文字通り「ウドの大木」だったのである。そうこうしているうちにチェルノブイリ原発事故が起こり、発電所から直線距離で10kmほどしか離れていないここは閉鎖され、わずか10年でその役目を終えてしまう。

おそらく、現代の軍事情報のシステムはもっと巧妙で、複雑で、物体を伴わない「見えない」ものになっているだろう。いまや、このように物理的に巨大なものはほほ笑ましくすら思える。何もない真っ平らな大地で雨に打たれて孤独に立ち、地平線の向こうからのメッセージをじっと待つOTHレーダーは、まるで恋文を待つぶきっちょな思春期の子みたいだ。「相手のことを知りたい」という点で、軍事は恋愛と区別がつかない。

総裁の流儀　先陣を切って撮影に臨み、雨は合成時に除去する

POINT 01 ツアーでは先頭を切って撮影する

元秘密軍事基地のため、おのずとツアーに参加しての撮影になる。この時重要なのは、無人の風景を撮るために集団の先頭にいること。右の写真は敷地に入ってダッシュして振り返った1枚。現地ガイドを追い越して走った



POINT 02 複数のカットを抑えて水滴を消す

巨大な建造物ゆえ見上げる構図になるが、この日はあいにくの雨。この時、同一アングルで少しずつ角度を変えて、複数カット撮っておいた。そうすれば、画像を重ねて水滴部分にマスクをかけることで、消すことができる



Katsuhiro.Y

山梨勝弘

日本の絶景

写真家2人の着眼点



キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF24-105mm F4L IS USM／105mm／絞り優先AE（F8、1/20秒、−0.3EV）／ISO 160／WB：オート

栃木県

スッカン沢（ざわ）の滝（たき）

刻々と変化する水しぶきを宝石のように写し込む

スッカン沢の最深部にあるカツラの木と雄刀岩の間にあった滝。11時に現場に立ったときは、太陽が右斜め上にあり滝には日が当たっていなかった。周辺を撮影している間に、徐々にしぶきに光が届き始めた。12時を過ぎると、複雑に絡み合う草生した岩にも日が差し込み、岩壁に立体感が出てきた。全体に光が当たると写真がフラットになってしまうので、このタイミングがシャッターチャンスだ。シャッター速度の設定によって落水の表情は変わってくる。今回はしぶきの1本1本が筋として際立つように1/20秒を選択した。露出はハイライトの水の流れが飛ばないようにすることが肝心だが、暗部の葉のパターンも重要な要素なので－0.3EVと控えめにアンダーにした。



着眼点

光の当たる水しぶきは高速シャッターで切り取る

岩に光が当たる前の時間帯はしぶきだけにスポットを当てた写真を狙っても面白い。左の写真は岩に砕けるしぶきを止めて表現するため、シャッター速度は1/80秒を選択した。これより長いとしぶきが流れて弧を描く線状になり、柔らかで優しい表現になってしまう。さらに、白く光るしぶきを強調するため、シャドウ部がつぶれるよう－1.3EVにしている。

DATA

- 栃木県那須塩原市湯本塩原
- 6月上旬
- 12時30分
- 望遠レンズ

東北自動車道西那須野塩原ICから国道400号線を塩原温泉方面へ行き、約14km先を八方ヶ原方面へ左折して、約8.5kmでスッカン沢入り口の駐車場に到着。撮影地である最深部へは徒歩で往復約2.3km、約1時間50分もの長い道のりになる。滑りやすいので足元に注意しよう

THEME 8

〔滝〕

岩壁を一気に落下する滝、激しい激流となって滑り落ちる滝、岩間から染み出るような滝。滝はシャッター速度でその表情をさまざまに変える。滝の表情が際立つ明るさの選択も重要だ。露出を追い込み、輝く水しぶきをハイライトとして表現できれば、滝の存在感が増す。写真家の表現意欲をかき立てる被写体だと言えるだろう。

山梨将典
Masanori Y



ニコン D810／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／24mm／マニュアル露出(F8、268秒)／ISO 200／WB：4,000K

静岡県

白糸の滝（しらいとのたき）

月光に照らされて浮かぶ滝に架かるかすかな虹

夜景や星景の撮影では通常20mm程度の超広角レンズを選ぶが、画角が広過ぎると滝に架かる虹が小さくなり目立たなくなるので24mmの広角域を使用した。空は広めに入れて星を写し込み、夜であることを表現する。露出は星景撮影で一般的な15秒前後の露光時間だと星を止めて点として写せるが、月明かりの影響でそれでは星の輝きが目立たなくなってしまう。そこで、5分程度の長時間露光で星をあえて流し、太く写して強調させている。また長時間露光の副産物として、岩肌や草木などの環境もしっかり描写できた。ただし、1回の撮影時間が長くなる点に注意。月が移動することで影や虹が画面の右方向へ移動していくので事前に試し撮りをして、1回で撮影できるようにしておこう。

DATA

- 静岡県富士宮市上井出見
- 6月中旬
- 1時30分
- 標準レンズ

新東名高速道路新富士ICから国道139号線を朝霧高原方面へ行き、上井出ICで下りて左折。上井出交差点を斜め前方に右折してコンビニを過ぎたら左側に駐車場がある。そこから徒歩で約5分ほど下ると滝が見えてくる。水しぶきがレンズにかかるので拭き取るためのクロスは必須だ

着眼点

高度の低い満月が虹が出現する条件

満月前後の強い月光が虹の出る条件だが、さらに月の高度も重要だ。上と右の写真はほぼ同じ明るさの月だが、右の写真は月の高度が高いため虹が出ていない。虹は斜めからの光でないと現れないので、月の高度が低いときを「サン・サーベイヤー」(Android・iOS)などのアプリで事前に調べて訪れよう。





ニコン D7000／ AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR ／18mm（27mm相当）／プログラムAE（F7.1、1/200秒、±0EV）／ ISO 200／ WB：オート

旅女・小林 希からの手紙

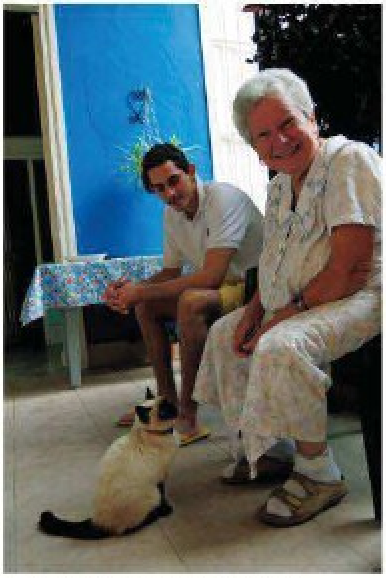
世界の猫に恋して

Letter. 08

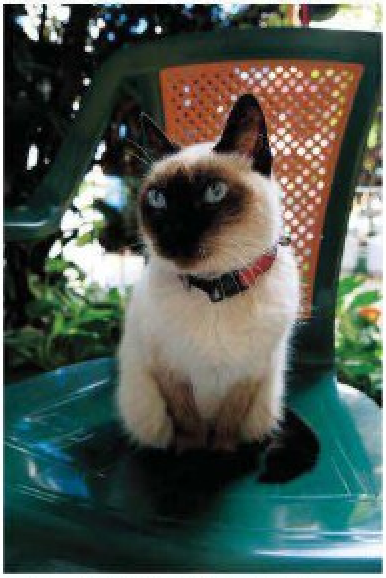
石畳のトリニダード

カリブ海の楽園で、ラテン的な明るさが街を包む島国、キューバを旅しました。スペインの植民地だった当時のコロニアルな建造物はカラフルな色に彩られて、国内のあちこちの街に残っています。その街中では、さらにカラフルな色のクラシックカーが路上を行き交い、道端では陽気なサルサの音楽を演奏する人たちがいて、その周りを取り囲むように男女が気ままにダンスを踊ったり、いかついおじさんがシガーをくゆらせたりしています。私は首都ハバナからバスでのんびり約７時間

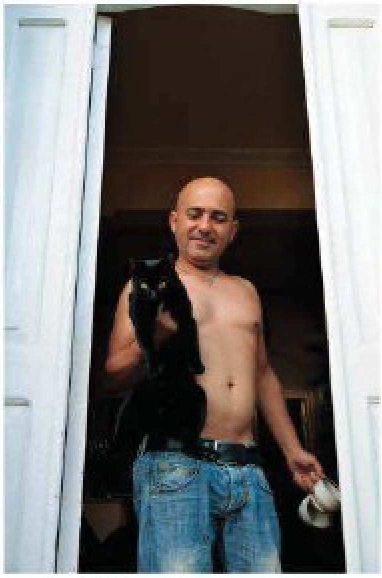




パナソニック LUMIX GH4／ LUMIX G VARIO 14-140mm / F3.5-5.6 ASPH. / POWER O.I.S. ／ 14mm(29mm相当)／プログラムAE(F3.5、1/60秒、±0EV)／ ISO 320／ WB：オート



パナソニック LUMIX GH4／ LUMIX G VARIO 14-140mm / F3.5-5.6 ASPH. / POWER O.I.S. ／ 14mm(29mm相当)／プログラムAE(F3.5、1/60秒、±0EV)／ ISO 500／ WB：オート



ニコン D7000／ AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR ／ 26mm(39mm相当)／プログラムAE(F5.6、1/125秒、+0.3EV)／ ISO 250／ WB：オート

Memo

カラフルな街では白猫や黒猫など単色系の猫が大活躍！

カラフルな街の壁では単色系の猫が映える。白猫なら、白の入り込まないカラフルな壁を背景にして撮影。黒猫はシルエットが際立って見えるので、引いた写真でも存在感が出る。街並みの色彩と猫の柄、色をうまく組み合わせて、撮りたいストーリーを作ってみてほしい



LOCATION GUIDE

キューバの中央に位置し、首都ハバナからはバスで7時間程。国内で最も人気がある街の1つで、世界遺産にも登録されている。特にカラフルな街並みがフォトジェニックで有名。こぢんまりとした規模で半日でも観光が可能

猫に出合う度	3/3
人なつこい度	2/3
撮影しやすさ	3/3

おすすめ時期

9月〜5月





かけて、トリニダードという古都にやってきました。この街は特に猫が多くいると、ハバナで出会ったキューバ人に教えてもらったのです。

さっそく散策していると、石畳が続く道沿いのレストランではさりげなく人の足元にいる猫を目にしたり、宿泊先の家の中では猫が散歩していたりして、まるで猫が人間の暮らしを真似ているかのように、街や人の暮らしに溶け込んでいました。私が猫の写真を撮っていると、街の人たちも「ほら、猫ならうちにいるよ」と連れて来てくれて、とても気さくです。

人と猫の素敵なつながりを写真で表現したいと、人の傍らに寄り添う猫を中心に撮影することにしました。カラフルな街は、どこを切り取っても絵になります。撮りたい構図を頭の中に入れつつも、人の傍らにいる猫をいきなり撮る前に、まずはそこに集う人たちに声を掛けて、会話が弾んできたところで、猫と一緒に撮らせてもらうことに。心を開いて言葉を交わし、打ち解けてくれた後の人の表情は柔らかく、また猫も飼い主を見て警戒心が弱まるようで、気楽にシャッターを切ることができます。猫に一点集中して撮るのではなくて、まずは人と心を通わせてみることも、猫撮影の大事な秘訣なのです。





PROFILE

小林 希（こばやし のぞみ）：1982年東京都生まれ。旅作家として執筆をする一方、世界の街の猫を撮り続けている。「世界の美しい街の美しいネコ」（エクスナレッジ）など著書多数。BSフジで放送された「小林希 世界の猫宿」DVDを発売中

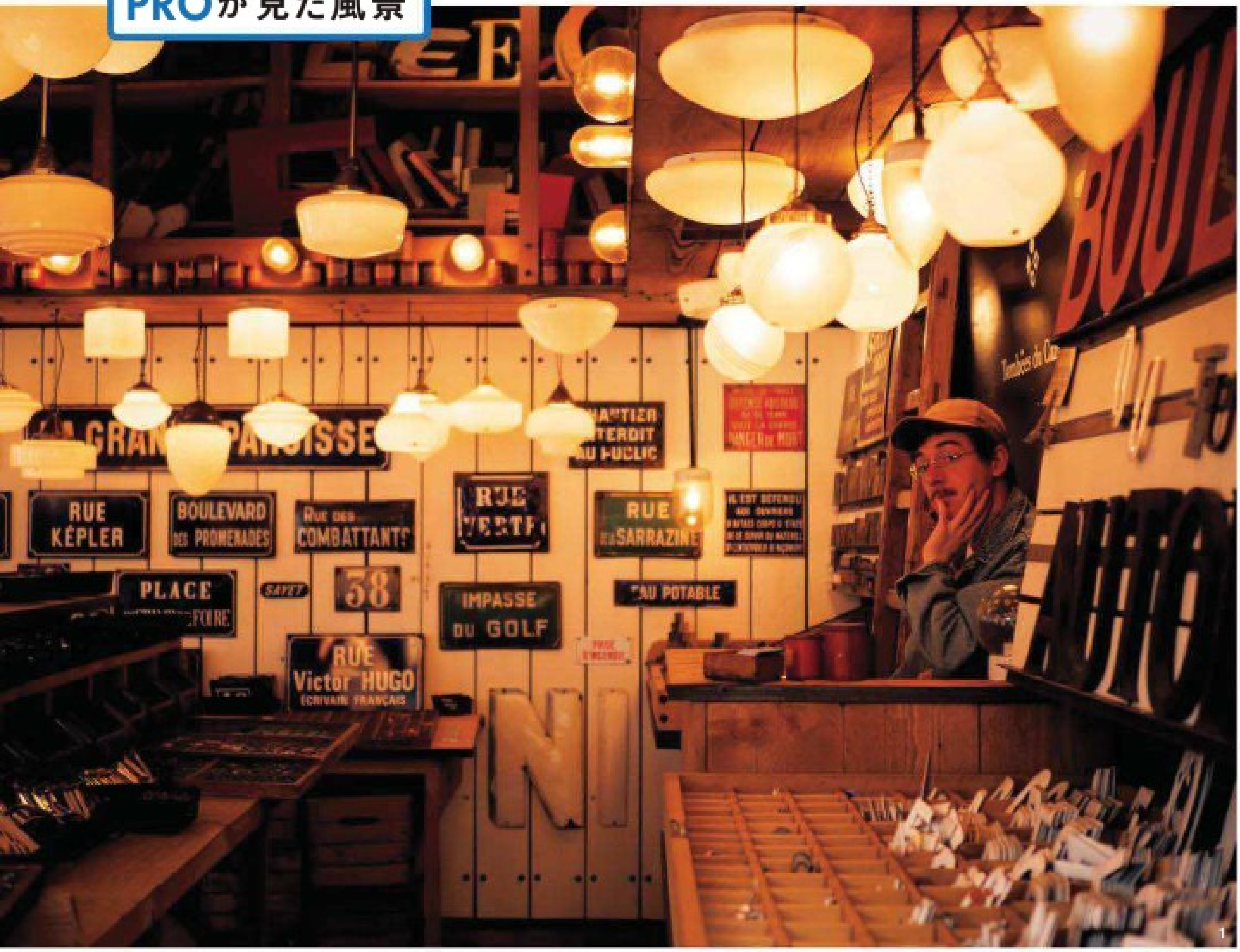
PRO's SIGHT
OLYMPUS volume_2
PROが見た風景



OLYMPUS
PEN-F

＋

1. 絞り優先AE(F1.2、1/250秒、－1.0EV)／ISO 200／WB：オート
2. 絞り優先AE(F1.2、1/50秒、－0.3EV)／ISO 200／WB：オート／アートフィルター：ヴィンテージ
3. 絞り優先AE(F1.2、1/25秒、－0.3EV)／ISO 200／WB：オート／アートフィルター：ヴィンテージ
4. 絞り優先AE(F1.2、1/2,000秒、±0EV)／ISO 200／WB：オート／アートフィルター：ヴィンテージ



1

“パリへの憧憬を描き出す F1.2大口径レンズのにじむようなボケ味”

スナップをするときは首からカメラをぶら下げ、財布やスマートフォンをポケットに詰め込んで、手ぶらで街を歩く。歩けば歩くだけ出合えるシャッターチャンス、この身軽さのおかげでいろんなドラマが切り取れる。だから持ち歩くレンズはいつも単焦点レンズ1本。今回もM.ZUIKO DIGITAL ED 25mm F1.2 PROを選んだ。35mm判換算50mm相当といわゆる標準レンズの画角で、見たままの自然な情景を切り取れるのでスナップでは外せない焦点距離だ。そして何といっても、このレンズの魅力は開放F1.2のボケの美しさ。開放F値でもピント面はシャープに描写してくれるので、独特の立体感が生まれて撮りたいと思うメインの被写体が際立ちやすくなる。この描写が好きでF1.2で撮影することが多いのだが、実はF2.8まで絞ると、画像周辺まで圧倒的な解像感を見せ、パリの街並みも肉眼で感じる以上に緻密に描写する。被写体や撮りたいイメージに合わせてF値を変更することで、作品の印象を変えることができるのだ。

上の写真はマレー地区にある骨董街ヴィラージュサンポールで撮ったもの。小雨の中だったが、防塵・防滴機構のおかげでレンズに多少の雨粒がかかっても気にならない。それに、愛機のPEN-Fは電子シャッターを使用すれば最高シャッター速度1/16,000秒で撮影できる。日中でも開放F値でスナップを楽しめることがうれしかった。

価格
165,000円
＋税



M.ZUIKO DIGITAL ED 25mm F1.2 PRO

目で見たような立体感を作るボケと解像力の両立

- 焦点距離：25mm（35mm判換算50mm相当）
- レンズ構成：14群19枚
- 絞り羽枚数：9枚（円形絞り）
- フォーカシング方式：ハイスピードイメージャ AF（MSC）
- 最小絞り：F16
- 最短撮影距離：0.3m
- 最大撮影倍率：0.11倍（35mm判換算0.22倍相当）
- 最近接撮影範囲：157×118mm
- フィルター径：φ62mm
- 外形寸法（最大径×全長）：約70.0×87.0mm
- 質量：約410g
- レンズフード：LH-66B

PROレンズのF1.2シリーズとして最初にデビューした1本。ボケ量が少なくなりがちなM4/3において大きく柔らかいボケを実現し、さらに大口径レンズで発生しやすい開放時の色収差の補正力、合焦面の解像力の高さを持って驚きとともに迎えられ、F1.2シリーズの価値を定着させた。AFの速さにも定評があり、スナップ派ならまず手に入れたいレンズだ。



2



3


4

ヴィンテージで描くノスタルジックなパリ

F1.2ならではの「にじむようなボケ」の柔らかさを生かしたいと思い、優しく温かみのあるアートフィルター「ヴィンテージ」を選んだ。私はパソコンによる処理ではなく、撮影中に絵作りをするように心掛けている。PEN-Fはカメラ内でさまざまな表現ができるため、目で見たイメージをその場で形にすることができる



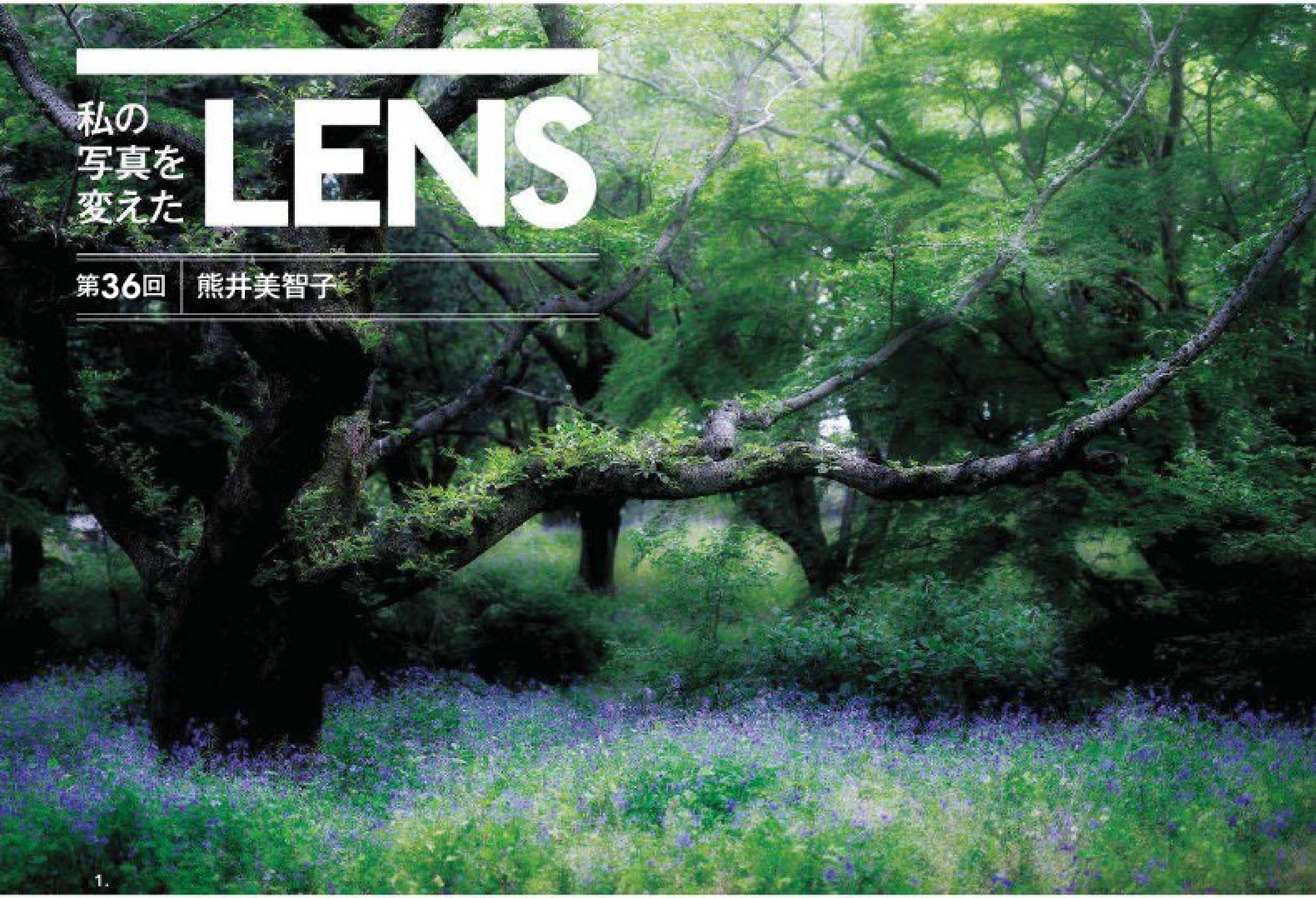
PROの視線 MIHO KOMURO

コムロミホ

PROFILE 文化服装学院でファッションを学び、ファッションの道へ。撮影現場でカメラに触れるうちにフォトグラファーを志すことを決意。現在、人物を中心として広告や雑誌等で撮影をする一方、ライフワークでは海外、国内で街スナップを撮り歩いている

私の写真を変えたLENS

第36回 熊井美智子



1.

立体感のある開放絞りの描写が風景をファンタジックにしてくれる

小学生のころに買ってもらったポラロイドカメラ。これがカメラとの出合いだったと思う。それから思い出を写真で残すようになり、インスタントカメラやコンパクトデジカメなどで日常写真を撮っていた。

ある時、私のそれまで撮った大量の写真を見た知人が「写真が好きなら一眼レフにしなよ!」とすすめてくれた。一眼レフカメラというのはプロカメラマンが使うものだと思い込んでいたため、買うのをためらったが、知人が貸してくれた一眼レフで試しに1枚撮ってみたら衝撃を受けた。そこにはいままで私が撮った写真とは違う世界があった。そこから一眼レフを使うようになった。

最初に買った一眼レフカメラはキヤノンのEOS 60D。一緒に買ったレンズはEF-S 55-250mm F4-5.6 IS Ⅱ。このレンズに深い考えがあったわけではなく、キットレンズだったからだ。一眼レフを使うようになってから知ったのが、暗い夜でも写真が撮れるということ。そういえば、夜に空を見上げると星が宝石のようにいっぱい輝いている。これを撮ってみたいと思った。明るい時間の撮影は問題がなかったEOS 60Dだが、真っ暗な場所で撮影していると物足りなくなってきて、EOS 5D Mark Ⅲにステップアップした。

EOS 5D Mark Ⅲを手に入れてからは夜の撮影が多くなってきて、今度はF値の明るいレンズが欲しくなった。欲はこうやって増えていくのだと感じた。そうしてこのシグマの50mm F1.4 DG HSM | Artと出合った。



地元秋田を撮りたくて独学ではあるが風景写真を撮り始めた。ここ! という場所が決まったらイメージどおりの印象になるまで通う。その場の見たままの景色というよりは、基本どこか曖昧な、頭の中で記憶になったときに残る心象風景のようなイメージで撮りたいので、開放絞りでの撮影が多い。50mmという焦点距離は記憶の中の風景に近く、シグマの50mm F1.4は開放でもピントのあったところは実にシャープで、背景のボケと組み合わさって風景が立体的に仕上がる。このレンズは天気の微妙な表現も得意だ。いつも通っている場所でも天気でまったく違うイメージになる。霧やもやが好きなので、前日に雨が降ったときや湿度が高めだと天気を見ながら夜から朝にかけて撮影すること多い。もやが立ちこめる少し暗い風景の雰囲気、逆光が入ってきた立体感のある風景をこのレンズは実に見事に捉えてくれる。

50mmの中に自分の好きな世界をフレーミングして撮る。前ボケも後ボケも自然で、強調したい場所はパキッと決まる50mm F1.4 DG HSM | Art はファンタジーな世界を写し出したい私に必要な1本なのだ。



2.

1. キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／50mm F1.4 DG HSM | Art／50mm／絞り優先AE(F1.6、1/250秒、−0.7EV)／ISO 100／WB：オート

昭和記念公園で目に留まった木。この木の存在感、辺りに咲いている花の様子などこの空間だけ特別だった。少し暗かったので光が入るのを待って撮影。シャープな解像で木や新緑の質感が鮮明に出せた

2. キヤノン EOS 6D／50mm F1.4 DG HSM | Art／50mm／絞り優先AE(F1.4、1/1,250秒、−0.7EV)／ISO 100／WB：オート

秋田県秋田市の旭川ダム公園のヤマモミジの紅葉。どこまでも続くような奥行きを出したかったので開放絞りで撮影。ピントを合わせた場所はしっかりとシャープで、前も後ろも自然にぼけてくれた

3. キヤノン EOS 6D／50mm F1.4 DG HSM | Art／50mm／絞り優先AE(F1.4、1/1,600秒、±0EV)／ISO 100／WB：オート

夜明けの道端。朝露が出ていたので日の出を背景にローアングルで葉の高さで撮影した。開放絞りにして手前の葉にピントを合わせた。ボケの美しさはもちろん、絶妙な空の階調も見事に表現されている

熊井美智子（くまい みちこ）

1986年、秋田県秋田市生まれ。地元秋田を中心に東北地方で撮影している。絵本の中のファンタジーな世界観に惹かれ写真にも活かしながら、おもに風景写真や人の営みとともにある風景、地元の人などを撮影している。



3.

シグマ

50mm F1.4 DG HSM | Art



発売日 2014年4月
実勢価格 109,000円前後

レンズ構成：8群13枚
絞り羽根枚数：9枚（円形）
開放絞り：F1.4　最小絞り：F16
最短撮影距離：0.4m
フィルター径：φ77mm
外形寸法：約85.4×99.9mm
質量：815g

茂手木秀行╳都市夜景 三脚を使ってクールに仕上げる

夜景を撮るときに三脚を使った方がクオリティーは上がるが、重く大きな三脚だと移動が億劫になってしまう。そこで試してほしいのが小型・軽量三脚での撮影。今までと違ったフットワークの軽いクールな夜景の撮り方を茂手木さんに教えてもらった。

写真・文・茂手木秀行

technique 01 比較明合成を使って夜空を華やかに



ニコン D850／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／24mm／マニュアル露出（F5.6、30秒×10回）／ISO 64／WB：オート

目立つ被写体がないころで夜景を撮ると空が占める部分が大きくなり、寂しい印象になってしまう。こういうときは長時間露光で星を光跡として写してみよう。今回の撮影場所はアクアラインの海ほたる。この場所は羽田空港に向かう飛行機も光跡として写るので、空が華やかになって好都合だ。まずはコンクリート製の手すりの上に小型三脚を立てて構図を決める。冬の名残のオリオン座とおおいぬ座が見えていたので、この2星座を中心に構図を決めた。何もないときは星座を絡めると構図に意味がでてくるのでおすすめだ。次に適正露出を決めるためのテスト撮影をする。ひとまずF5.6、30秒、ISO 64で適正露出と判断した。軌跡にするために数分の長時間露光を行うとノイズが目立つ可能性があることと、星よりも夜景の方が明るくなり過ぎてしまうことなどから、カメラの機能である比較明合成機能を使って撮影した。

比較明合成機能を使って軌跡を撮る



今回使ったのはD850の多重露出機能。合成モードに比較明合成があるのでそれを選ぶ。ニコン以外でもカメラ内でできる機種が多いので試してみよう

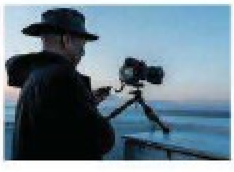
軌跡が少ないと夜空の印象が寂しい



市街地の明るい空では星が明るく目立つようには写らない。夜空が一様に見え、寂しい印象だ。長時間露光なら星や飛行機を光跡にして目立たせることができる

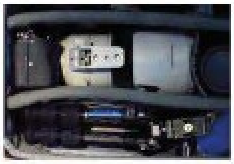
三脚テクニック

設置の自由度が高い小型三脚を使う



塀の上や岩の上など設置する場所を選ばないし、人の通行の邪魔にもならない。もちろんローアングルにも便利だ

カメラバッグに入れて常備しておく



スナップがメインでもふと三脚を使いたいときがある。風景でも補助として使えるので1つはカメラバッグに入れておくと良い

technique 02 背景の明るさで見せ方を変える





（左）
ニコン D850／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／29mm／マニュアル露出（F2.8、8秒）／ISO 100／WB：4,000K

（右）
ニコン D850／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／29mm／マニュアル露出（F11、112秒）／ISO 100／WB：4,000K

都市に近い夜空は方向によって明るさが変わる。左の写真では東京方面を、右の写真ではその反対方面を見ている。明るい方向を見ると影絵のようになってドラマチックである。反対に暗い方向を見ると高圧鉄塔が浮かび上がって、鉄塔そのものが目立つ写真になる。夜空の明るさを意識しておくと、同じ被写体でも表現を変えることができる。撮りたい被写体を決めたら、夜空の明るさを変えられる場所を見つけ出してみよう。

三脚テクニック

センターポールのない多段のカーボン三脚が小型・軽量で便利

センターポールは微妙な高さの調整を行いやすいが、慣れれば3本の足の長さだけで細かな調整が行えるようになる。ないことで小型・軽量化するので持ち運びが楽になる





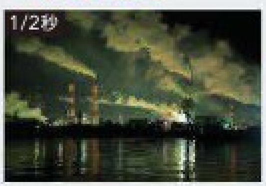
technique 03 煙の表情はシャッター速度で変える

工場から立ち上る煙はエネルギーを感じられて魅力的だ。見た目どおりに写すなら高感度で短い露出時間にする。しかし、長時間露光にして煙の流れを写すと、エネルギッシュさに不思議さも加わってより魅力的になる。長時間露光で、形が変わるものは予測できないので、一度適正露出を決めるためのテスト撮影をしたら、その値を元に露出時間をいくつか変えて撮影しよう。



ニコン D850／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／60mm／マニュアル露出（F8、15秒）／ISO 160／WB：4,000K

長秒で煙を流して滑らかにする



1/2秒では見た目どおりの印象。その後1、2、4、8、15、30秒と撮影した中から15秒を選んだ。シャッター速度を変えて表情の違いをみよう

三脚テクニック

縦位置で撮るときはL型ブラケットが便利





軽い三脚では縦位置の時、不安定になりがちだ。そういうときはL型ブラケットを使えば、重心が変わらず安定する



・工場夜景写真家 小林哲朗の・

ニコンD850で楽しむ夜景撮影 in 杭瀬

2018 SPRING デジタルカメラマガジンDAY

— in meriken gallery & café —

協賛 : 株式会社ニコンイメージングジャパン　協力 : ベルボン株式会社、GANREF、デジカメWatch、波止場の写真学校　取材 : 編集部

EVENT REPORT 人気のコラボイベントが今春も開催！ 工場夜景まるごと伝授ワークショップ

2018. 4.14



今回の講師は
工場夜景写真家・
小林哲朗先生

神戸メリケンギャラリーで年2回開催されるニコンとデジタルカメラマガジンのコラボイベント。今回は公募展を開催した他、50名弱もの参加者が訪れたDCMフォトコンテストプリント部門の公開審査などが行われた。中でも目玉は工場夜景写真家の小林哲朗さんが自身のおすすめスポットで撮影実習を行うワークショップ。参加者にはニコン D850とAF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VRが無料で貸し出された。解像力の高いD850は暗い場所で緻密な建物を撮る工場夜景撮影にぴったり。どんな作品が撮れたか、誌面でじっくりお伝えしよう！

＼好評発売中／

夜の絶景写真
工場夜景編
（インプレス）
●1,600円＋税



＼スタート／ [15:00] → [17:00] → [20:00] → [22:00] ＼おつかれさまでした！／

[15:00] まずは座学でしっかりお勉強

夜の撮影とあって、講座はゆっくり15時にスタート。小林さんの作品解説を聞きながら撮影のポイントを押さえたあとは、小林さん秘伝のおすすめ設定を大公開！ F値から再生画面の拡大比率まで全てを教わって、設定を行いながらD850にも慣れていく。さらに三脚やレインカバーの使い方もレクチャーを受けて、準備はばっちり。

小林先生のおすすめ設定

- 画質モードは「FINE★」に
- 露出モードはAかMで
- シャッターは「セルフタイマー」に
- 露出ディレーモードは「2秒」に

などなど





設定はすべて会場で済ませます

あいにくの雨模様だったこともあり、現地で設定を行うのは大変。教室で全ての設定を完了させて、あとはシャッターを切るだけの状態に!

[17:00] さっそく撮影へGO！

DCMワークショップ初の試みで、電車で撮影地まで移動。向かったのは阪神電鉄杭瀬駅から徒歩10分ほどの工場だ。低めの柵のすぐ近くに工場がある穴場スポットで、初めての工場夜景撮影でも挑戦しやすい。あいにくの天気だったが、小林さんによると水蒸気が出やすく建物に艶が出る雨は工場夜景撮影に合うのだとか。



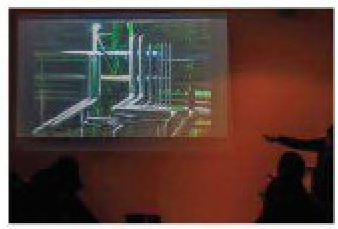


貸し出しのレインカバーが大活躍！

無料貸し出しされたニコン純正のレインカバー。その使いやすさと3,629円という価格に「安い! あとで買います」という人が続出

[20:00] 撮影後の講評会もお楽しみ

日が暮れてからの撮影は時間を忘れるほどにあっという間。教室に戻って各自軽食を取りながら、講評用に提出する1枚を選択。1人ずつ写真を披露して、小林さんからの講評を受けた。他の参加者の作品を見ることで、自身の振り返りにもなったはず。最後に小林さんのおすすめ撮影地を教わって講座は終了。





最後はA3サイズのプリントをお持ち帰り

講座の最後にはA3判にプリントされた自身の作品をお持ち帰り。プリントされることでじっくり振り返ることができ、思い出もひとしお



ニコン D850

＋



AF-S NIKKOR
24-120mm f/4G ED VR

参加者には大人気の ニコン D850と24-120mm 高倍率ズームを貸し出し！

約4,575万画素の高画素とD5にも匹敵するAF性能を両立させたハイスペックモデル。今回は高倍率のF4ズームレンズとともに貸し出され、初めてハイエンドモデルを触るという参加者も興奮気味の様子

今回は三脚も全員に貸し出し



ベルボン
Geo Carmagne E535M Ⅱ
実勢価格
45,000円前後

工場夜景撮影に三脚は必須。少しでもブレを防ぐため、カーボン製の大型三脚が用意された。今回は撮影地までスタッフが車で運んだので負担も最小限。手ぶら参加でも最高の機材で撮影ができた

ワザが光るおすすめ設定をご紹介

01 ISO感度を使いこなして表現を自在に操る！

雨が降って気温が下がるような日は水蒸気がよく出る。こんなときはシャッター速度で表現に幅を持たせようというのが小林さんのレクチャー。長秒で流れるような白い湯気を捉えるときはISO感度を低く、逆にもくもくと立ちのぼる様子を描くならISO感度を高くしてシャッター速度を速くするのがポイント。

ISO 3200

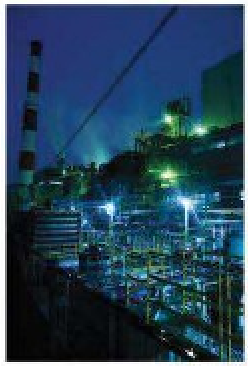


撮影●坂本麻美さん

02 ホワイトバランスは低めでサイバー感を出す！

サイバーチックな工場夜景作品を多数紹介してくれた小林さん。その雰囲気を左右するのはホワイトバランスとのこと。マニュアルなら2,500～3,500K程度に設定するが、おすすめはプリセットの蛍光灯。青みがかった色になるので一気にサイバー感を出すことができる。

WB：蛍光灯



撮影●高瀬健治さん

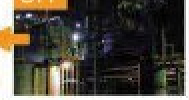
03 露出アンダーで撮影しておきカメラ内でD-ライティングをON！

ハイライトが白飛びしがちな夜景撮影では、露出をマイナス補正してアンダー気味に撮るのが鉄則。D850は画像編集メニューが充実しているので、撮影後にカメラ内で「D-ライティング」をHiに。その場で仕上がりを確認できる。





OFF



撮影●小林哲朗先生

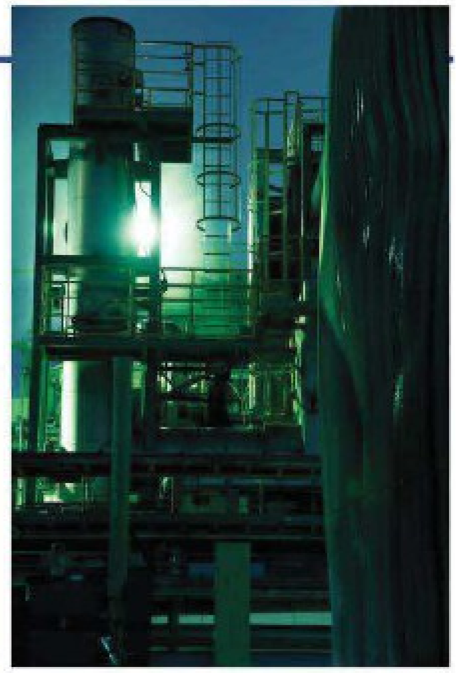
優秀者ギャラリー



井原 薫さん

ニコン D850／AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR／24mm／絞り優先AE（F4、1/15秒、－1.0EV）／ISO 3200／WB：オート

小林哲朗先生の選評 シャッター速度を速めにしてもくもくとした水蒸気を写し止めています。左右の空間に被写体を配置したことで構図もバランス良く収まっていて、これぞ工場夜景という1枚です。



鈴木法子さん

ニコン D850／AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR／95mm／絞り優先AE（F9、3秒、－0.3EV）／ISO 400／WB：3,500K

小林哲朗先生の選評 逆光で入れたライトが太陽みたいで良いです。右側のタンクが雨に濡れて不気味な質感が出ている様子もよく捉えています。さらにライトに照らされたことで、立体感が際立っています。



中内陽一郎さん

ニコン D850／AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR／20mm／マニュアル露出（F8、25秒）／ISO 64／WB：3,200K／ハーフNDフィルター使用

小林哲朗先生の選評 水量の少ない水たまりでしたが、映り込みをきれいに取り込んでいます。上下にシンメトリーを描いてフェンスで上手に遠近感を出しています。非常にバランスが良い作品です。



角田恒雄さん

ニコン D850／AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR／62mm／マニュアル露出（F10、1.3秒、－1.0EV）／ISO 100／WB：2,500K

小林哲朗先生の選評 パイプが密集した部分に正対して美しいパターンを切り取っています。左右の流れが違うことが逆にリズムを生み出しました。自分の視点を見つけたところが見事です。

次回は秋開催！ふるってご参加ください



ニコン創立100周年記念・ニッコールレンズフォトツアー

弘前の桜 撮影ツアー REPORT

見渡すかぎりの春世界

誰もが一度は撮ってみたいと思う弘前の桜。4月下旬に写真家・星野佑佳さんを講師に迎えて撮影ツアーが行われた。このツアーに参加できるのはニッコールレンズフォトツアーキャンペーンに当選した幸運な人だけ。桜を美しく撮るコツがよく分かるツアーに潜入した。

写真・星野佑佳　取材・編集部

星野佑佳が教える 弘前の桜の攻略ポイント

Point 1 シャッター速度

花筏は状況に合わせてスローと高速シャッターの2つで狙う

花筏を写し止めるときは1/100秒以上の高速シャッターにした方が良い。花筏は止まっているように見えても動いていることがあり、中途半端なシャッター速度ではぶれて失敗写真のように見えてしまうからだ。動きのある花筏を撮るときは肉眼で見てはっきりと動いているときを狙う。10秒以上は欲しいので、日中ならNDフィルターを使う。1枚で納得せずに何枚も撮ることが大事。

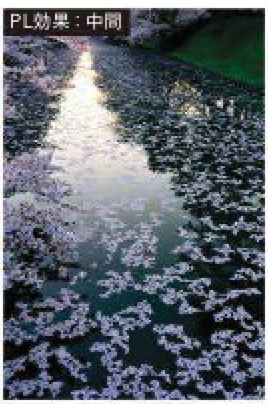


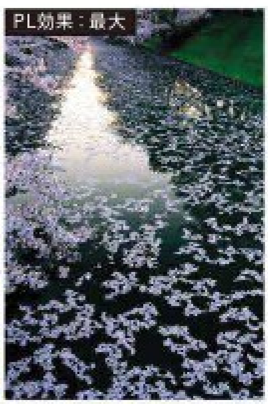
花筏の動きを止めるには1/100秒以上のシャッター速度が望ましい。朝夕や天気が悪いときはISO感度を上げて対応しよう



ライトアップされて花筏に写った桜の影をスローシャッターで撮影。不規則に動く花筏が写真に動感を与えている







Point 2 PLフィルター

浮かんでいる花びらはPLフィルターで見え方を調整する

PLフィルターを使って水の反射の見え方を変えると、堀に浮かぶ花びらの表情も変わってくる。PLフィルターは最大に効かせるのではなく、45度くらいに回してから5度程度ずつ細かく調整してどれが一番いいのかを確認してから撮るようにしよう。状況によって正解は変わる。左の例では最大よりも、花びらが浮いている感じが残る中間の方がバランスが良い。角度を細かく調整して好みを探ってみよう。

Point 3 ホワイトバランス

桜の色合いと雰囲気はホワイトバランスで調整する

ホワイトバランスは桜の色を決める重要な要素だ。自然光オートだと桜は自然な色合いになるが少し物足りない。私は青みがかった方が好きなので晴天にしてホワイトバランスの微調整機能で「B3、M0.5」に動かして青を足し、透明感のある印象にしている。ライトアップが始まると晴天では桜の色が不自然になるので、オートやケルビン指定などに変えて幻想的な桜模様を楽しもう。



早朝に撮影した桜。オートは見た目に近い桜の色だ。青い方が幻想的に見えるので、晴天を選び、さらに微調整して青みを足している。カメラに用意されたホワイトバランスを選んで、そこから微調整をして自分なりの色にしていくと撮影が楽しくなってくる



ツアー参加者の写真

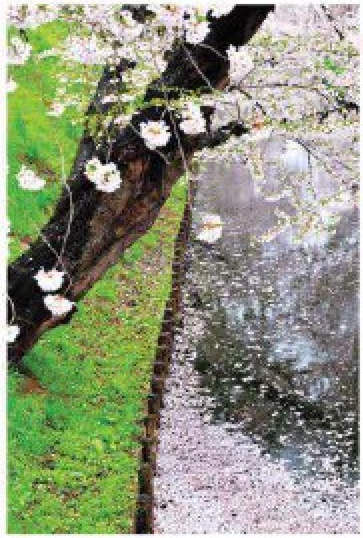


星野佑佳先生の選評

上下を桜で囲まれた、まさに弘前という写真です。淡い色の中で左上の枝、右側の明るい桜がポイントとなって効いています。コントラストの違うものが画面内にあるとぐっと引き締まります。

重田穎寿さん

ニコン D850／ AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR ／ 200mm ／絞り優先AE(F11、1/5秒、−0.3EV)／ ISO 200／ WB：晴天



星野佑佳先生の選評

本来画面に入れるのを避けたい杭なのですが、左側から出ている太い幹の印象が強いお陰でうまい具合に存在が弱まっています。幹にピントがあって手前の桜の花をぼかした立体感のある表現も素晴らしいです。

西口照夫さん

ニコン D850／ AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR ／70mm ／絞り優先AE(F11、1/8秒、+0.3EV)／ ISO 800／ WB：晴天(B1、M0.5)



星野佑佳先生の選評

水は動いていると色が写ります。この写真は長秒で色だけにした素晴らしい写真です。大きくぶらした部分があるにもかかわらず上に視線に持っていける構図のセンスも良いです。

永野大輔さん

ニコン D850／ AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR ／ 200mm ／絞り優先AE (F11、4秒、+0.3EV)／ ISO 64／ WB：晴天(B3、M3)



星野佑佳先生の選評

ライトアップが消えた後の街灯の光を利用して夜の絶妙な光を表現しています。画面の左側に余計な要素を入れないことで、右上の桜に視線がいくようにしているところが上手です。

掛川 泰さん

ニコン D850／ AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR ／70mm ／マニュアル露出(F8、30秒)／ ISO 360／ WB：2,500K

花筏、ライトアップ夜景、早朝、花見船と盛りだくさんで撮影が楽しめた大満足のツアー



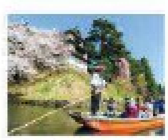
今回で5回目となったニッコールレンズフォトツアー。会場となった青森県の弘前公園はちょうど満開で美しい桜が咲き誇っていた。講師は本誌でもおなじみの星野佑佳さん。まず初めに弘前公園近くのホテルで星野さんから弘前の桜を撮るときのポイント、おすすめの場所、カメラの設定方法などの講義を受け、実践へと向かった。参加者の皆さんは雨の降る中、桜の花びらが浮かんでいる堀の周りで撮影を始めた。夕方になると城内に入り、春陽橋へと向かう。ここは堀を中央にして左右に満開の桜並木が遠くまで続く絶景写真ポイント。空が完全に暗くなったあとは一陽橋で夜桜撮影にチャレンジ。2日目は日の上がる前から集合して堀を中心に撮影。昨日から降っていた雨も日が昇る頃には上がり、





青空の広がる絶好の撮影日和となった。朝食後は貸し切りの花見船に乗り、櫓と桜を絡めた撮影を行い、最後は2日間に撮影した写真を使った講評会と実に盛りだくさんの内容だ。

この2日間、星野さんは参加者を見つけては撮っている写真を見ながら構図のポイント、絞りやシャッター速度の決め方などを実に細かく教えていた。そのときに何度も伝えていたのは撮影直後に写真を隅々まで見て、自分の意図したとおりの結果になっているかを確認すること。帰宅後にパソコンでチェックしたとき、ピントが甘くてがっかりしないためにも細かくチェックすることが大事と教えていた。カメラとレンズの良さを生かす、細部にまでこだわった撮影方法を学ぶことができた撮影ツアーだった。



撮影時に気を付けること

画像を拡大して確認する

撮影したあとに画像を拡大してピントやブレの確認をしっかりする。いくら構図が良くても、ぶれていたら台無しだからだ

画面の四隅まで意識する

撮っているときは見せたい部分に集中して周辺の確認を怠りがち。目立つ人工物は入っていないか、無駄に人が入っていないかをチェックしてからシャッターを切ろう

縦・横位置、別構図を撮る

そのシーンが気に入るとつい同じ構図で撮りがちだが、横位置で撮れたと思ったら縦位置も撮ろう。そして左右に動いて構図を変えるなどの工夫をするとバリエーションが増える

2017年度、高評価されたカメラは？

カメラグランプリ2018

1年間に発表された製品を総合的に評価するカメラグランプリ。カメラに関わる人たちが評価し、その年度を締めくくるにふさわしい賞だ。昨年度はオリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱが2冠を達成。今年度はどの製品が受賞しても不思議はない、熱いデッドヒートとなった。

カメラグランプリとは？

カメラ専門誌の記者・編集者で構成されるカメラ記者クラブ（CJPC）が毎年主催する、その年の優れたカメラを選出する賞。大賞（カメラ）、レンズ賞、あなたが選ぶベストカメラ賞、カメラ記者クラブ賞の4つで、2017年4月1日～2018年3月31日までに発売された製品が対象。カメラ記者クラブ所属者や媒体編集長、写真家を中心とした外部選考委員、メディア関係者や業界に詳しい特別選考委員が製品を評価する

文●編集部　コメント●中原一雄（写真家）、阿部淳一（ヨドバシカメラ）、福島 晃・佐久間太郎（デジタルカメラマガジン編集部）、折本幸治・鈴木 誠（デジカメ Watch編集部）

★ CAMERA ★

大賞 Grand prize ［ソニー］α9

● 発売日　2017年5月26日
● 実勢価格　512,400円前後



ミラーレス機の限界を打ち破る強力なイメージセンサーを搭載

高速読み出しを叶えたメモリー内蔵イメージセンサーを持ち、AF/AE追随で20コマ/秒を誇る連写性能を備える、ソニーの新たなフラッグシップ機。無音・無振動の電子シャッター搭載によってファインダーのブラックアウトはゼロとなり、最高1/32,000秒の超高速シャッターも実現するなど、ありとあらゆるシーンでの撮影行動とシステムに高速化を追い求めた。α史上最高となる368.6万ドットのEVFと、画面の93%をカバーした693点の測距点によって、被写体を捉えきる。これまでミラーレスが苦手にしていた動体撮影、スポーツシーンにも幅を広げた1台。

by Salesperson
ブラックアウトフリーのアドバンテージが凄まじく、動体撮影において一度慣れてしまうともう他には戻れないほど。積層型のセンサーを採用したことで動体ゆがみは大きく解消し、バッテリー容量や操作系などの問題も改善した　阿部淳一

by Photographer
フルサイズ機としては初めて積層型裏面照射CMOSセンサーを搭載し、秒間20コマの高速連写や高い動体補捉性を実現。電子シャッターの弱点でもあったローリングシャッターゆがみを大幅に低減したのは心強い　中原一雄

by Writer
イメージセンサーが被写体像を常に得てAF/AEの高速処理に直結させる、パッケージングが画期的な1台。「多機能」にとらわれず一貫して「スピード」を打ち出した。これをもってミラーレスは一眼レフを追い掛ける存在から跳躍した　鈴木 誠

2位 Second prize ［ニコン］D850

● 発売日　2017年9月8日　● 実勢価格　399,600円前後



一眼レフの集大成といえる完成度十分の高画素機

約4,575万画素を誇り、高解像で豊かな階調表現にこだわったフルサイズ一眼レフ機。最高9コマ/秒の連写性能を備えるなど既存一眼レフの可能性を広げた。待望だったタッチ対応チルト式モニターを搭載、電子シャッターによるサイレント撮影にも対応。ピクチャーコントロールオートなど、実力を引き出す新機能も搭載した。

by Salesperson
究極の一眼レフであり、光学ファインダー機の集大成。チルト式モニターやサイレントシャッターは、従来の一眼レフの常識を変える撮影領域を生んだ。「やれることを全部やりきった」印象で、ユーザーからの高評価もうなずける　阿部淳一

by Editor
ミラーレス全盛の中にあって一眼レフの可能性を示唆したモデルだ。「世界初」といったトピックはなくとも、あらゆる機能を底上げすることをあえて個性とした。風景から動体まで、幅広い撮影シーンに対応するのも素晴らしい　福島 晃

3位 Third prize ［パナソニック］LUMIX G9 PRO

● 発売日　2018年1月25日　● 実勢価格　184,800円前後



by Editor
AF追従約20コマ/秒の超高速連写と高精度な空間認識AFを備え、連写を「当たり前」に使用できる意欲的な1台。約8,000万画素を実現したハイレゾモードなど、静止画撮影に特化したスペックで打って出たことも新しかった　佐久間太郎

高速連写&高速AFを備えたマイクロフォーサーズ機の新基準

ヴィーナスエンジン搭載のLive MOSセンサーによって、高解像でダイナミックレンジの広い撮影が可能なミラーレス機。ボディ内手ブレ補正は約6.5段を実現し、レンズと連動する「Dual I.S.2」にも対応して、抜群の機動力を備える。また超高速電子シャッター連写はAF追従時に約20コマ/秒で、高速AFを生かして約2,030万画素での記録が可能だ。

レンズ賞 Lens prize

［オリンパス］

M.ZUIKO DIGITAL ED 17mm F1.2 PRO

● 発売日　2018年1月26日
● 実勢価格　127,700円前後

にじむような豊かなボケが心地良い F1.2を誇る明るい17mm単焦点

開放でF1.2の明るさを持つ単焦点レンズ。11群15枚のレンズ構成に、同社のZUIKOレンズのラインアップでは最多を誇る6枚のEDレンズを組み込み、軸上色収差と倍率色収差といった色にじみを効果的に補正。高い解像性能を遺憾なく発揮できるよう設計された。解像力と併せてボケの質には徹底的にこだわり、開放F1.2で表現できる、溶けるようなアウトフォーカス面へのボケが特徴だ。また最短で20cmを誇る近接撮影性能で、さらに背景のボケを生かした撮影が可能。風景やポートレートを問わず、マイクロフォーサーズ機の機動力と組み合わせることで柔軟な撮影に向く。



by Writer

マイクロフォーサーズ用の広角レンズとしては、ボケを重視した設計にこだわった点が評価できる。それ相応の大きさと質量にはなっているものの、広角域でもボケ量を手軽に楽しむことができる。近接性能や操作性にも秀でた1本だ　折本幸治

by Writer

「本格カメラらしい写真」として一般に期待されるだろう豊かなボケ量を持ち、最短で20cmまで寄れる近接撮影の性能も普段使いしやすい。コンパクトなフォルムに複雑なレンズ構成が組まれていることを感じさせない、極めて自然な描写を誇るレンズだ　鈴木 誠

2位 Second prize

［キヤノン］

EF 85mm F1.4L IS USM

● 発売日　2017年11月20日　● 実勢価格　177,200円前後



画質とボケ味を両立して手ブレ補正を新搭載

同焦点距離では初となる約4段分の手ブレ補正機構IS（IMAGE STABILIZER）を搭載し、シャッター速度が低速となる手持ち撮影での不安を払拭した。きめ細やかな解像力とにじむようなボケ味をバランスよく両立。非球面レンズ採用によって、フレアとゴーストを効果的に抑制した他、白飛びなどの少ない高画質を実現した。

by Editor

EF85mmのラインアップとしては初のF1.4を実現したIS搭載モデル。F1.4ならではの美しいボケ味は絶妙で、特に前ボケの表現がなめらかで気持ちが良い。ハイスペックなレンズでありながら、20万円を切る価格もお手頃だ　福島 晃

by Editor

IS搭載でさらに完成度を高めた高画質レンズ。高くて重いF1.2、安いが設計はやや古いF1.8をかけ合わせ、良いところ取りをした印象。ポートレートで威力を発揮し、自然光の中でのきめ細かな描写には目を見張るものがある　佐久間太郎

3位 Third prize

［ソニー］

FE 16-35mm F2.8 GM

● 発売日　2017年9月8日　● 実勢価格　288,900円前後



by Photographer

ズーム全域、かつ周辺まで非常に高い解像感を示し、AFも高速で滑らかでありながら、約685gと一眼レフ向けの同スペックレンズよりも大幅に軽い。コンパクトに仕上がっており、非常に高いバランスに仕上げられたレンズだ　中原一雄

超広角から広角域を大きくカバーし 高解像性能を常に味わえるF2.8通しズーム

超広角域から広角域をカバーできる万能な大三元ズーム。超高度非球面XAレンズを採用した他、2つのフォーカスレンズが独立するフローティング機構を採用。各種収差を補正し、ズーム全域でシャープで高い解像度を実現した。フォーカスボケ味は滑らかでムラがなく、11枚の円形絞り羽根によって玉ボケも自然で、美しく表現できる。

あなたが選ぶベストカメラ賞

ユーザー目線の使い心地がランキングにも反映された

大賞のソニー α9に代わり、ニコン D850が1位。長く在庫希少が続いた市場動向からも、存在感は絶大だった。また2～4位にはソニー α7 IIIを筆頭にα7R III、α9が続き、同社の充実したラインアップが広く支持された。5位には、高い操作性を備えたハイブリッド機、富士フイルムのX-H1がランクイン。

1位 ［ニコン］ D850



2位 ［ソニー］ α7 III



3位 ［ソニー］ α7R III



4位 ［ソニー］ α9



5位 ［富士フイルム］ X-H1



カメラ記者クラブ賞

先進的なフラッグシップ機が高い評価を集めた

今年のカメラ記者クラブ賞はカメラ2台。ニコン D850はユーザーサイドからの高い支持に加えて、余すことなくつぎ込んだそのスペックが評価された。もう1台はパナソニック LUMIX G9 PRO。高精度の空間認識AFと卓越した連写性能など、ユーザーが静止画撮影に求めるスペックを高い次元で結集した。

［ニコン］ D850



［パナソニック］ LUMIX G9 PRO





Gallery Information

TAKAYUKI MAEKAWA

creation:

3



4





地球が生み出した野生動物という
創造物「creation」。
陸海空のさまざまな命を求めて、
14カ国約20年にわたる取材を重ねた
前川貴行の集大成ともいえる写真展。

INDEX :

1 キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／ EF16-35mm F4L IS USM ／35mm ／マニュアル露出（F8、1/500秒）／ ISO 640／ WB：オート／ミナミハンドウイルカ（御蔵島）

2 キヤノン EOS-1Ds Mark Ⅲ／ EF300mm F2.8L IS USM ／300mm ／マニュアル露出（F6.4、1/200秒）／ ISO 100／ WB：太陽光／ハクトウワシ（アラスカ）

3 キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／ EF600mm F4L IS Ⅱ USM ／600mm ／絞り優先AE（F4、1/800秒、−0.7EV）／ ISO 200／ WB：オート／ブラウンベアー（アラスカ）

4 キヤノン EOS-1D X ／ EF600mm F4L IS Ⅱ USM ／600mm ／絞り優先AE（F4、1/250秒、−1.0EV）／ ISO 12800／ WB：太陽光／アフリカスイギュウ（ケニア）

5 キヤノン EOS 7D Mark Ⅱ／ EF100-400mm F4.5-5.6L IS Ⅱ USM ／220mm（352mm相当）／絞り優先AE（F5、1/400秒、±0EV）／ ISO 3200／ WB：太陽光／ニホンザル（下北半島）





5

写真展情報

前川貴行写真展 creation :

- 会場　**キヤノンギャラリー銀座**
- 日程　**2018年5月31日（木）〜6月6日（水）**
  ※日曜・祝日休館
- 時間　**10:30〜18:30**

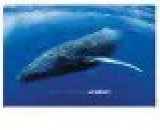
※銀座の会期中はギャラリートークを毎日開催（平日は14:00開始/土曜日は13:00開始）

※名古屋は6月21日（木）〜6月27日（水）
大阪は7月12日（木）〜7月18日（水）
（10:00〜18:00、日曜・祝日は休館）

写真集情報

creation :

- 頁数　**128ページ**
- 判型　**B4変形（上製本）**
- 価格　**7,200円（税別）**
- 発売　**2018年6月15日**
- 出版　**新日本出版社**



写真家にプリントする理由を聞いて分かった

写真を1,000倍楽しむためのプリントテクニック

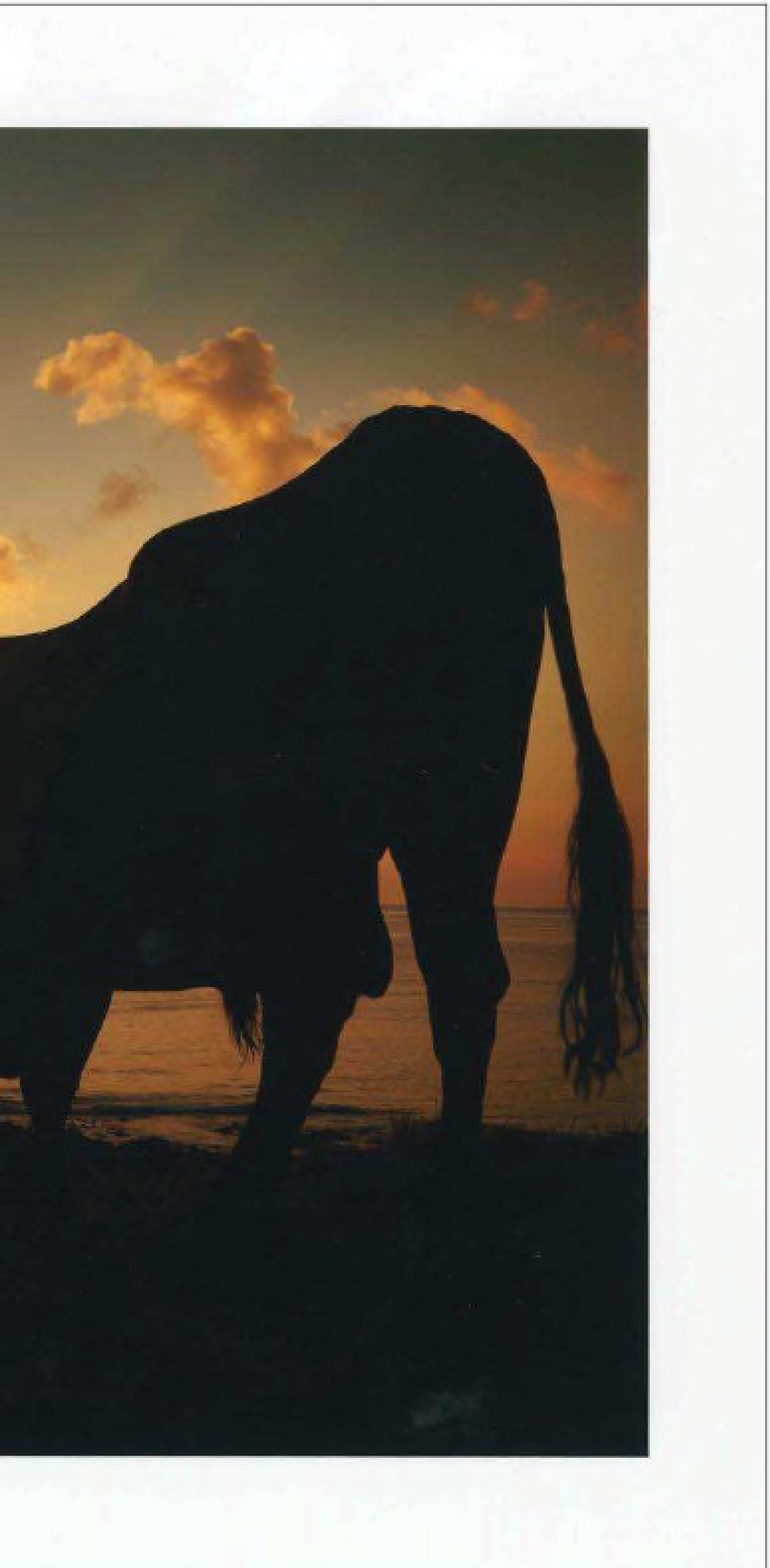
with 顔料10色 Canon PIXUS PRO-10S





第3回 公文健太郎

プリントと対話しながら作業に手間をかけた分、作品も強くなる



公文健太郎がプリントする理由（わけ）

作品を仕上げる工程でプリントはとても大切な作業

写真作品を作る工程を僕は3つに分けて考えている。1つ目は被写体を探して、出合い、向き合うこと。2つ目はカメラやレンズを技術的に駆使して伝えたいことを正確に写し取ること。そして3つ目は写ったことをプリントに定着させること。これら3つのどれが欠けても写真はデータから作品には変わらないと思っている。特に最後の3つ目にあたるプリント作業は、向き合うこと、撮ることが十分にできたかのを確認する大切な作業になる。



僕がインクジェットプリンターを使って作品を仕上げるようになったのは、PRO-1が発売された2012年からのこと。PRO-1以前のプリンターのプリントはどこか立体感がなく、ディスプレイで見ている絵以上のものがプリントされてくることがなかった。だが、初めてPRO-1でプリントしたときに、ディスプレイで見ていた写真以上の深みと、立体感のあるプリントに興奮したのを覚えている。緻密に色をコントロールできたので仕上げ作業をしていく実感も得られた。今はPRO-1とPRO-10Sを使っているが、これらPROシリーズでのプリントは作品作りの中で欠かせないものになっている。それは出力結果についてだけではない。第1の工程で被写体に向き合うときに、この作品はあの風合いで、こんな色作りをして、と最終的なプリントのイメージを思い描くようになった。撮る工程においてもプリンターで再現できる美しく、深い暗部をうまく使えるように光に気を遣うなど新しい挑戦ができるようになった。PROシリーズで作品作りをはじめてイメージどおりにプリントをコントロールできるようになったことで、仕上げの工程だけではなく、向き合う、撮るという工程にも新たな刺激が得られるようになった。

くもん けんたろう：1981年生まれ。ルポルタージュ、ポートレートを中心に雑誌、書籍、広告で幅広く活動。同時に国内外で「人の営みがつくる風景」をテーマに作品を制作。近年は日本全国の農風景を撮影し「耕す人」と題して写真展・写真集にて発表。写真集、写真絵本、フォトエッセイなど出版。http://www.k-kumon.net

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／ EF35mm F1.4L Ⅱ USM ／35mm ／マニュアル露出（F9、1/640秒）／ ISO 400／ WB：太陽光／
用紙：光沢 プロ［プラチナグレード］

夕日の沈む海辺の道を牛とともに歩く。夕焼けの鮮やかな色と、光線の強さを表現するためにプラチナグレードを使った。光沢紙を使うことでシャドウ部をしっかりと締めた。プラチナグレードは白色度が高いためコントラストがつき、絵全体に立体感が生まれる。夕日がきれいなシーンではつい鮮やかにしたくなるが、不自然さが出てくるので彩度は変更しないようにしている



公文流 プリントテクニック

細部の表現にこだわった ハイクオリティプリント



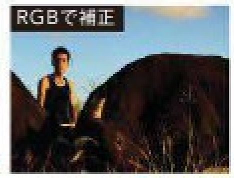
BEFORE 01 トーンカーブで細かく補正する



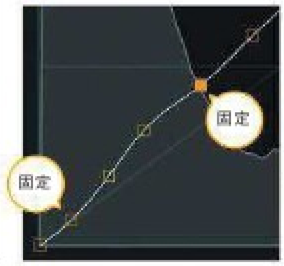
①輝度で補正を行う

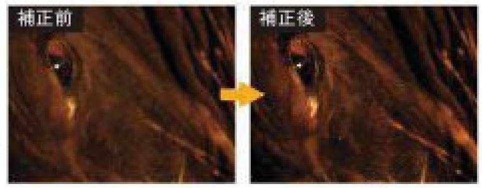
Capture Oneのトーンカーブで輝度を変えて補正する。Photoshopなどでは LabモードのLになる。RGB同時に動くカーブでコントラストをつけると、明るさと彩度も強調されてしまう。輝度のみの場合はそれを防ぐことができる





②カーブに細かく点を打って補正する範囲を限定する

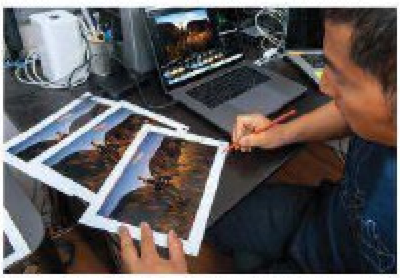




トーンカーブを上に上げると全体的に明るくなるので、補正したい範囲の前後に点を打ってその範囲以外のカーブが動かないようにする。あとは固定した間のカーブに細かく点を打って調整している

STEP 02 プラチナグレードにプリントして再現できる濃度をチェックする

①気になる点はプリントに直接書き込む



レタッチしたらプリントをして補正の効果を確かめ、気になるところがあったら直接プリントにどうしたいのかを書き込む。何をやったのかを記録できるのと、直接書き込むことで全体を見ながらプリントに向き合える効果がある

②プラチナグレードを基準にして用紙の違いを確かめる

画像の補正効果を確認するときはプラチナグレードを使っている。データを最大限再現できる用紙で効果を判断したいからだ。画像の補正が終わったら用紙を変えてプリントし、暗部など自分のこだわる部分を見比べる。プラチナグレードに比べて暗部がつぶれていたら、この用紙の限界であることが分かる。だから、より暗部を出そうと無駄なレタッチをしなくて済む。プラチナグレードを比較対象にすることで、用紙の限界と補正をするポイントを知ることができるのだ









1枚の写真をより高めるためのプリント作業において一番大切なことは、たくさんプリントすることだと思っている。そのときに注意したいのはディスプレイ上に表示されている写真の色を忠実にプリントすることがゴールだと考えないこと。ディスプレイとプリントはそもそも発色の仕方が違うので、目指す方向も変えなくてはならない。ディスプレイよりもプリントをじっくりと見て、どうしていけばもっと良くなるかを考えていろいろ試すのが良い。

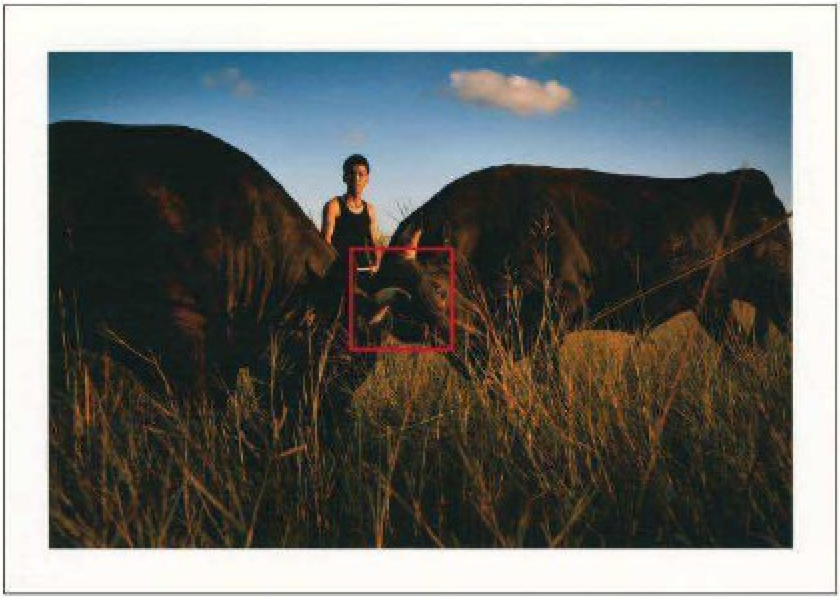
僕は最初のプリントは色や濃度を判断しやすいプラチナグレードといった高光沢紙で行っている。高光沢紙でプリンターとデータが持っている色域や濃度域を目一杯に使ってきれいなプリントを出力する。プレミアムマットなどのマット用紙やラスターなどの微粒子用紙（半光沢用紙）ではどうしても角度によって見え方が変わることがあり、良い意味でも悪い意味でも用紙でデフォルメされてしまい、自分の写真がどのくらい豊富な色と濃度を持っているのかが分からなくなってしまう。まずは基準となるプリントを高光沢紙でプリントすることで、その後の方向性を決めやすくなるのだ。純正紙なので、Print Studio Proを使えば用紙の設定でプラチナグレードを選ぶだけで広色域・広濃度域の美しいプリントができる点も楽で良い。

キャリブレーションしたディスプレイで確認しながらレタッチ作業を行う



Mac Book Proに繋いだEIZOのColor Edge上でレタッチを行う。キャリブレーションはされているが最終的なチェックはプリントで行う

次にプリントされた写真をよく見て、撮影の際に見ていた印象や、表現したいこととのズレを確認する。「このときはもっと夕日が強く迫ってきたよな」とか、「森が立体的に見えたよな」とか、気付いたことをダーマトグラフでプリントに直接書き込む。プリントに書き込むなんてもったいないと思うかもしれないが、こうしたアナログなやり方で自分の持っている印象を確認しながら進めると、より具体的に写真を判断できるようになる。プリントに写真をどうしたいかを書いたあとはパソコンに戻ってレタッ



牛の肌の質感を微光沢紙で表現

模擬試合で訓練をする2頭の牛。辺りにゴツ、ゴツと骨の当たる音が響く。これは作品展に出すことも想定し、再現性を大切にしつつも、質感を高めるためにソフトグロスペーパーを選んだ。光沢紙でのプリントと比べつつ、暗部の表現に注意を払いながら調整をした。基準となる光沢紙でのプリントを用意することで、プリントの目指す方向が定まる

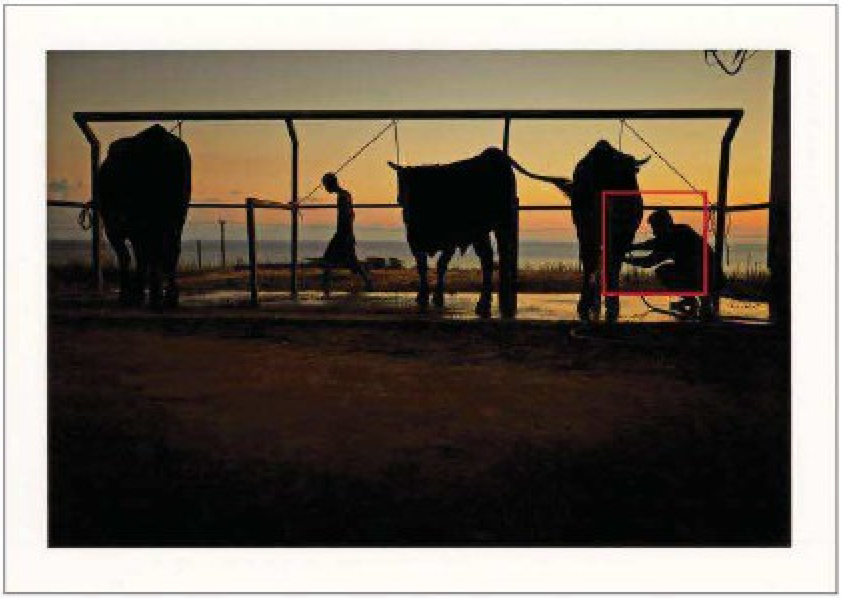
キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／EF35mm F1.4L Ⅱ USM／35mm／マニュアル露出(F8、1/640秒)／ISO 400／WB：太陽光



使用した用紙
ピクトリコ ピクトリコプロ・ソフトグロスペーパー



柔らかな空気感をバライタ紙で見せる



夕暮れを背に牛の手入れをしている。溶け込むような柔らかな雰囲気を出したくてキャンソンのバライタ・フォトグラフィックを選んだ。ハーネミューレなどのバライタ用紙に比べてギラつきが少なく、落ち着いた印象になるので気に入っている。プリントは箱に丁寧にしまって長期間保存する。データ紛失のトラブルを考えると、最後まで信用できるのはやはりプリントだ

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／EF35mm F1.4L Ⅱ USM／35mm／マニュアル露出(F8、1/640秒)／ISO 800／WB：太陽光

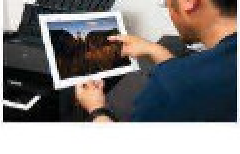
使用した用紙
キャンソン インフィニティ
バライタ・フォトグラフィック





Canon PIXUS PRO-10S

レタッチしたらプリントして補正の効果を確かめる



データを補正してこれで良いと思ったらプリントして効果を確かめる。この作業を行うことでレタッチならびにプリント技術の向上につながる

チをやり直す。僕は主にトーンカーブを使って仕上がりを追求している。トーンカーブでの補正は難しい印象があるかも知れないが、使い慣れてくると調整点を細かく設定することで狙った範囲の色と濃度だけを調整することができてとても便利だ。あまり部分的な補正をしてしまうとバランスが崩れたり、加工した部分に不自然さが出てくる。トーンカーブを使って絵全体を調整することで全体のバランスを崩さずに仕上げることができる。調整したときに重要なのは、調整をしたら実際にプリントして確認することだ。プリントで画像を細かく精査することで調整の具合や自然に調整ができているかを知ることができる。

撮影時に見ていた光景や印象にプリントがぴったりと合ったら、次は作品の風合いや、見せ方を考える。光沢紙でのプリントより少し優しい印象で見る人に届けたいときはマット系の用紙を選ぶ。色はきっちりと出しながらも写真の高級感を高め、作品感を出したいときはバライタ系の用紙を選んでいる。光沢紙から広色域・広濃度域が少しデフォルメされるが、僕は紙の持つ印象が加わり作品をより印象的に見せることができるバライタ系の用紙を使うことが多い。

このようにプリントを繰り返し、プリントと対話しながら作品を突き詰めていく作業は撮影以上に大切なことで、プリントに手間をかけた分、作品が良くなると思っている。

プリントに番号を振って出力順番を覚えておく



補正のたびに何枚もプリントすると前後が分からなくなる。そういったことを避けるためにプリントに数字を書いて出力順番を把握している

協力：キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社

［2018年6月号選考］

デジタルフォト部門 ── 選者●高砂淳二



INFORMATION

- 2018年度DCM フォトコンテスト応募要項　P.162
- 2018年度DCM フォトコンテスト累計ポイント　P.163

応募はGANREFから!

GANREF

フォトコンテストの結果は、
下記URLでもご覧いただくことができます。

https://ganref.jp/photo_contests

フォトコンテストはすべての部門が
Webからの投稿となります。
詳しくは左記URLをご覧ください



優秀賞
First prize

「異国情緒満喫中」

作者 • 小山 隆（大阪府）

カメラ：ソニー Cyber-shot RX1R
撮影地：京都府東山区 祇園白川

【講評】

文句なしに笑顔になれる作品です。僕も審査しながらにやけてしまって、これだけ何度見ても笑顔になれるならと優秀賞に選びました。ひとりひとり、着物を着ているのにサングラスをかけていたり足を組んでいたりと、いかにも外国人。でもそんな彼らが色とりどりの着物でみんな並んでニコニコしているという姿は、見ているこちらも幸せにしてくれます。みなさん良い人そうな雰囲気で、足下や小物までそろえてきちんと着付けされていて、心から日本文化を楽しんでいるようです。まさに異国情緒満喫中ですね。斜めの順光で柔らかく光が回っていて、光の具合も良いです。中心にいる、特にすてきな笑顔の女性がこちらに目線をくれていることで、全体もビシッと締まっています。

【アドバイス】

欲を言えば、一声かけて皆さんの目線をもらったものも良かったかもしれません。また、若干上が広いので、右端の方の足先まで入るよう、もう少し下まで入れると、さらに安心して作品を見られたと思います。

副賞

サンディスク
エクストリーム プロ SDHCカード16GB
提供：サンディスク





準優秀賞
Second prize

「春色の制服」

作者 ● ぴろし（埼玉県）

カメラ：ニコン D500　レンズ：AF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VR　レタッチ：ViewNX-iにて彩度、コントラストを調整　撮影地：埼玉県戸田市

【講評】
桜を背景にした制服姿の少女。正面ではなく、わざわざその後ろ姿を撮っためずらしさと、その後ろ姿が光輝く様子に引かれました。この初々しさは、制服の真新しさや、髪の毛が風になびく素直な雰囲気から来るものだと思います。桜の花びらも舞い散り、この場面全体から感じられる初々しさが見る者をキュンとさせます。この後ろ姿は意図的にレフ板などで光を当てているのでしょうか。良い具合に光が当たっていることで、髪の毛や制服のディテールもはっきりして、後ろ姿が主題であると分かります。

【アドバイス】
どんな心境で後ろ姿を撮ったのでしょう？ パターン化した写真ではない、あまり見ないタイプの作品です。後ろ姿そのものの雰囲気が主題なので、そこを狙った感性が素晴らしいです。その感性を生かした作品をまた見せてください。

佳作

「桜に見守られて」

作者 ● isyota（群馬県）



カメラ：オリンパス E-5
レンズ：ZUIKO DIGITAL ED 35-100mm F2.0
レタッチ：SILKYPIX Jpeg Photography 7にてRAW現像後、Photoshopにてモノクロ化、レベル補正、トーンカーブを調整
撮影地：群馬県高崎市

【講評】
上手い構図と効果的なモノクロ化が光る作品です。まずモノクロ化で周りが整理され、縦位置にすることで、桜と道祖神の両方を取り込んで画面を構成しています。石像の道祖神なのに、息づかいが感じられるようです。

【アドバイス】
道祖神はあえて控えめに入れたのかもしれませんが、個人的にはもう少し桜を取り入れる量を少なくして、道祖神を目立たせたいなと思いました。



佳作

「Kingfisher!!」

作者 ● 石澤隆男（栃木県）

カメラ：ニコン D500
レンズ：AF-S NIKKOR 200-500mm f/5.6E ED VR
撮影地：栃木県宇都宮市

【講評】
カワセミが魚を2匹一度に捕まえるとは驚きです。よくこんな決定的なシーンを撮られましたね。水しぶきや水の膜など、水の感じもとてもうまく出ています。きっちり横からの角度で撮られていて、本当に見事です。

【アドバイス】
いつも野鳥撮影をされているという石澤さん。まさに撮り続けたからこそ撮れた作品でしょう。くちばしなどに若干解像度不足を感じるので、それを感じない程度のトリミングに抑えると良いかもしれません。

佳作

「桜都庁」

作者 ● Kata（東京都）

カメラ：ソニー Xperia ZL2
レタッチ：Photoshop CC 2017にて色調整
撮影地：東京都新宿区



【講評】

水面に堂々と映る都庁。そこにまばらに桜の花びらが浮かび、頂上など見たい部分も見えています。波がない水面のため映り込みだけで構成でき、直線的な都庁とかわいらしい桜の組み合わせで面白さが出ています。

【アドバイス】

左上の黒いシルエットは何かのオブジェでしょうか。桜の花びらでうまく隠れていますが、やや気になる陰でした。ただ、この状況では仕方ないかもしれませんね。



佳作

「迷路」

作者 ● 求磨川貞喜（岡山県）

カメラ：ニコン D3000　レンズ：タムロン SP AF 10-24mm F/3.5-4.5 Di II LD Aspherical [IF]
レタッチ：Photoshop Elements 11にてモノクロ化、レベル補正、コントラスト、シャープネス調整　撮影地：岡山県岡山市

【講評】

画面いっぱいに広がる美しい木漏れ日と、迫力のある根っこ。子どもの顔にも木漏れ日がかかっていて、何かに没頭するように右上を見ています。上から撮って、この子どもらしい表情や地面を入れる発想が素晴らしいです。

【アドバイス】

タイトルの「迷路」は、根っこと木漏れ日どちらを指しているものでしょうか。今ひとつ意図が分かりづらいと感じました。この内容であれば子どもの好奇心などをイメージさせるタイトルの方が分かりやすいのではないでしょうか。



準優秀賞
Second prize

「モデル志願者」

作者 ● キリン（大阪府）

カメラ：ニコン D7200　レンズ：AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-6.3G ED VR
撮影地：奈良県奈良市

【講評】

オレンジ色の斜光の中で、こんなにもかわいらしいシーンがあるなんて！「モデル志願者」というタイトルがその面白みをさらに増幅させています。鹿がカメラで撮っている人の方を見て「ここにいるよ、撮ってよ」と言っているようですね。カメラをのぞく人の一生懸命さも良く出ていますし、鹿の表情も決まっています。それだけでも面白いシーンなのに、紅葉した木々が逆光で輝き、全体が見事に絵になっています。絶景の中で面白い光景が繰り広げられているという二重構造が良いですね。

【アドバイス】

この光なら風景写真としても十分絵になっていたと思いますが、この場面に出合ってフレキシブルに切り替えた、心の柔軟さが良いですね。このあとどうなったのかも気になるので、それらの写真で構成した組写真も見てみたいです。

入選
Winning work

「GOLDEN TIME」

作者●佐藤達彦（大阪府）

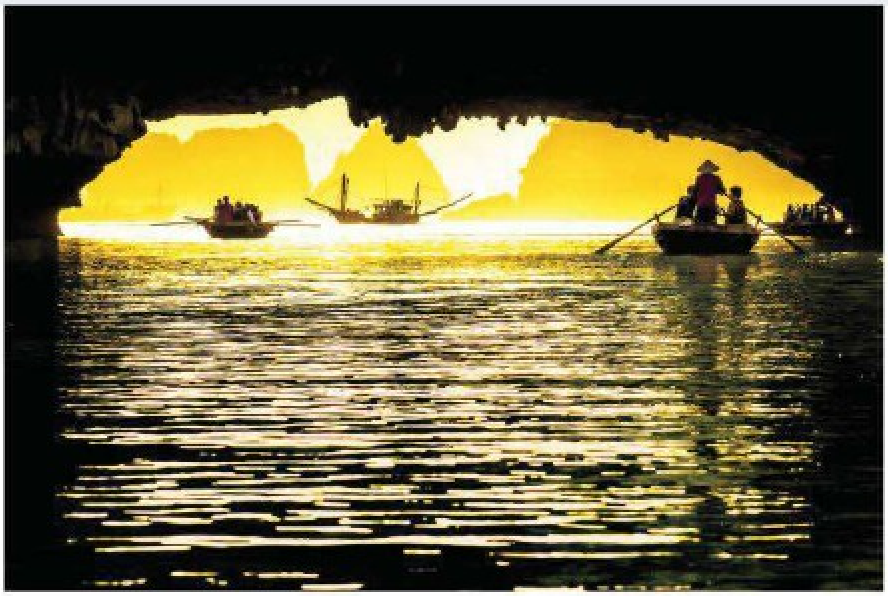
カメラ：ソニー Cyber-shot RX10
レタッチ：Lightroom 6にてRAW現像
撮影地：ベトナム社会主義共和国 ハロン湾

【講評】

洞窟内部の水面を大きく取り入れ、全体の雰囲気を美しく切り取った構図が良いですね。輝く夕日で山々は美しいシルエットになり、船にはベトナムらしい帽子の船頭。洞窟の中から見えたこの絶景を見事に捉えています。絶景を目の前にすると冷静に撮るのは難しいものですが、しっかり撮られています。

【アドバイス】

作者も船に乗っている状況だと思いますが、洞窟の出口上部と、その外に見える山が若干重なっているところがあります。もう少し船が先に進んだ、山の頂上が重ならないタイミングで撮れていれば、さらに決まった写真になったと思います。





佳作

「寒中散歩」

作者●田村祐二（滋賀県）

カメラ：ニコン D500
レンズ：AF-S DX NIKKOR 10-24mm f/3.5-4.5G ED
撮影地：滋賀県近江八幡市

【講評】

水面ギリギリにカメラを構え、湖面に張り出した木の枝を捉えた作品です。逆に枝がなければ、大海原で荒波を受けながら、小舟の上で撮っているよう。水面の反射が美しい模様を作り、水の臨場感もそのまま伝わります。

【アドバイス】

ノーファインダーで撮られたせいか、狙いと仕上がりに少しズレがあるようです。作品の強みはむしろ水面の表情にあるので、そこを生かしてはどうでしょう。ここに通われているようなので、次回トライしてみてください。

佳作

「黄金色に輝く旭岳」

作者●荒井 進<susumu>（北海道）

カメラ：富士フイルム X-T2　レンズ：XF16mmF1.4 R WR
レタッチ：Lightroom 6にて明るさ、黒レベルを調整
撮影地：北海道上川郡 旭岳・姿見の池



【講評】

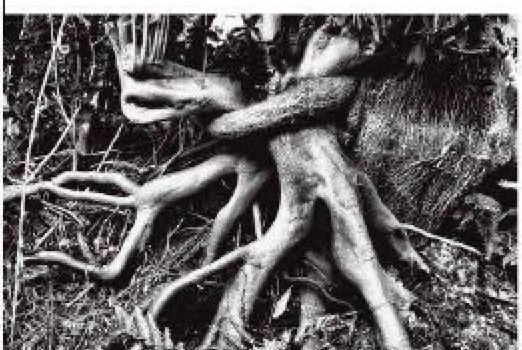
黄金色に輝く北海道の旭岳。この色合いは夕日によるものでしょうか。全体的に不思議な色合いで実際どんな色に見えたのか気になりました。大きな星は青くふんわり光っていて、黄金色の旭岳と良くマッチしています。

【アドバイス】

中央上部に直線が見えていますが、人工衛星や飛行機など人工物のようです。自然風景の中では人工物はどうしても違和感が出ますので、いなくなるまで待って、より雄大な雰囲気にまとめられたらなと思います。

PICK UP

一見動かない木々の迫力ある戦い。どう見えたか分かりやすい画角に



佳作

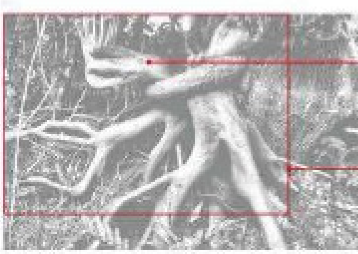
「戦い」

作者●北村謙三 <dareya>（石川県）

カメラ：ソニー Cyber-shot RX100Ⅳ
レタッチ：PaintShop Pro X5にてモノクロ化、コントラストを調整　撮影地：石川県金沢市

【講評】

こういうシーンを見ると、長いスパンで考えれば木も伸びて動き、巻き付いて戦っているのだと気付かされます。この印象的なシーンをモノクロ化していることで、なおのこと縛って・縛られる感じが良く出ているのだと思います。



獣の顔と目。まるで首を絞められているよう

顔に見えるようにトリミングで分かりやすく

【アドバイス】

作者の北村さんもコメントの中で「人にも見え獣にも見え、色々想像できるかと思います。」と書かれていましたが、僕にもタコのような生物が首を絞められているように見えました。であれば、「作者にはこう見えた」ということがより伝わりやすくなるように、トリミングなどで分かりやすくしてはどうでしょうか。

佳作

「春時雨はるしぐれ」

作者●藤井愉三（千葉県）

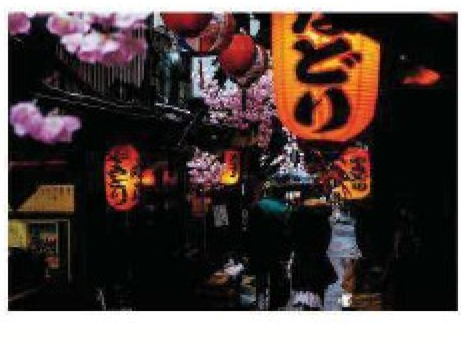
カメラ：富士フイルム X-H1　レンズ：XF35mmF2 R WR
撮影地：東京都新宿区 新宿思い出横丁

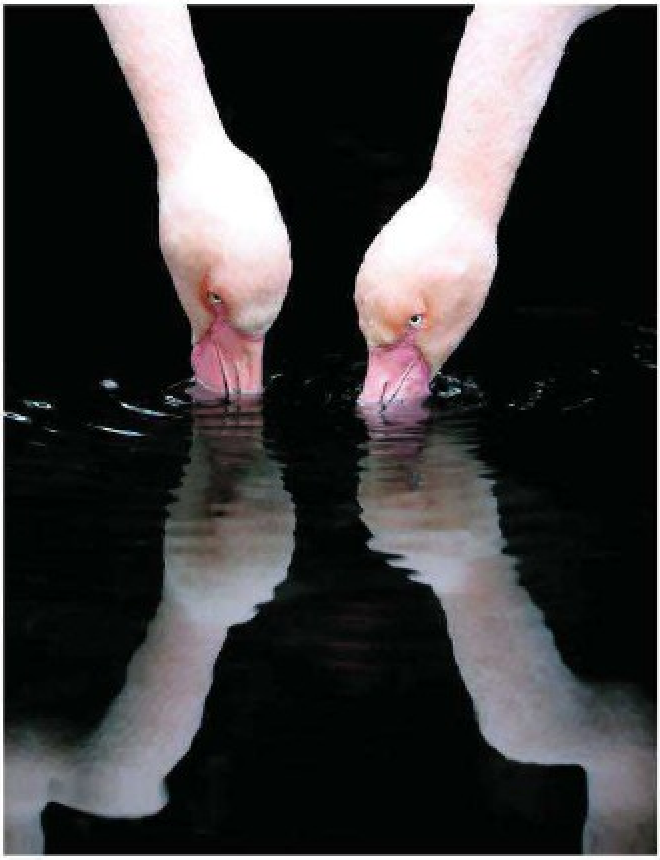
【講評】

雨が降る小寒い日に、思い出横丁を相合い傘で通り過ぎるちょっと怪しげな2人。雰囲気の良い作品で、タイトルもぴったりです。外光と赤ちょうちんの光の両方が生かせる、良い時間帯を選ばれました。

【アドバイス】

左端に店内のやきとりのメニューが見えていますが、そこがまた良いですね。暗部が半分つぶれぎみなのも雰囲気に合っています。ただ、カップルの傘に葉が少しかぶっているのが惜しいです。





入選
Winning work

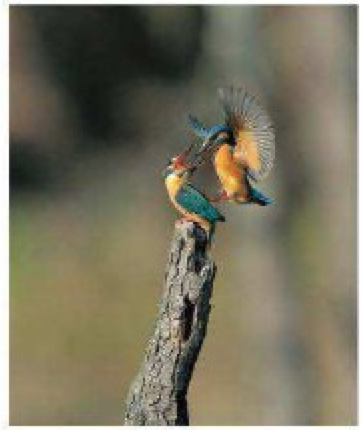
「ギロリ×2」

作者●鈴木啓久<KC>（神奈川県）

カメラ：キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ
レンズ：EF100-400mm F4.5-5.6L IS Ⅱ USM　レタッチ：Digital Photo Professionalにて RAW現像。明るさ、シャドウ、色の濃さ、トーンカーブを調整、トリミング　撮影地：埼玉県大宮市大宮公園小動物園

【講評】
フラミンゴの目がタイトル通りギロッとこちらを見ています。僕もフラミンゴはいろいろなところで撮りましたが、これは驚きです。淡いピンクの体やくちばしからは想像できない、真っ黒な瞳と白目の鋭い目つきが印象的ですね。被写体を引き立てる黒い背景や画面構成の上手さ、タイトル付も絶妙です。

【アドバイス】
あえて言えば左側のフラミンゴも右側と同じぐらい手前にいて目が見えていたら、両方のピントが合って左右・上下が完璧なシンメトリーになったと思います。ただ、もちろんタイミングの問題ですから現状でも十分お見事です。



佳作

「カワセミ688」

作者●田中 勇<isam>（栃木県）

カメラ：キヤノン EOS 7D Mark Ⅱ
レンズ：EF500mm F4L IS USM　撮影地：栃木県

【講評】
求愛行動でオスがメスに餌を渡すシーンだそうです。すばらしい瞬間ですね。カワセミをよく理解され、動きを予測できたからこそ撮れた写真でしょう。オスの羽の広がり方も美しく、生態系的にも貴重な瞬間を見事に捉えました。

【アドバイス】
欲を言えば被写体がど真ん中の方が安心して見れます。オスが急に来て中心がずれたのかもしれませんが、トリミングしても良いでしょう。この作品の投稿が1,000枚目だったとのこと。記念すべき1枚の入賞おめでとうございます。

佳作

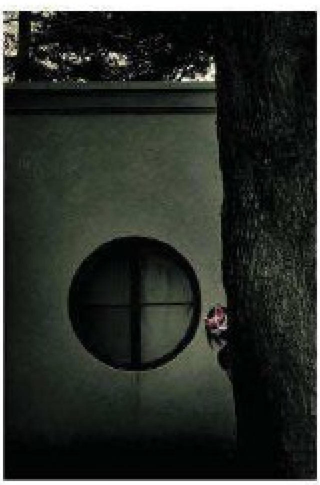
「KITUNE」

作者●小向朋恵（東京都）

カメラ：キヤノン PowerShot G7 X
レタッチ：Photoshop CS6にて色彩調整、モノクロ化、パートカラー　撮影地：東京都港区 東京都庭園美術館

【講評】
自撮りとのことで驚きました。この窓と木を見てよくこのシーンを思いつきましたね。作者の小向さんの場所を見る目が良かったのでしょう。本当に狐が出たよう。薄暗い中に狐の白い面が目立ち、顔の出具合もちょうど良いです。

【アドバイス】
ちょっと上の部分が重く感じました。トリミングでも良いので少し減らしたいところです。あまり現実の部分が大きいと、引き込まれ方が減ってしまいますので、割合には注意しましょう。





入選
Winning work

「ラカポシ（7788m）」

作者●光mandara（大阪府）

カメラ：キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ　レンズ：EF70-300mm F4-5.6L IS USM
レタッチ：Photomatix Pro 5にてHDR処理、Digital Photo Professionalにてコントラスト、トーンカーブを調整
撮影地：パキスタン・イスラム共和国 フンザ

【講評】
すごいところまで行かれましたね。そして険しい高山の手前に白い服を着た女性がいるという、不思議な光景。同じレベルに雲があり、人が普通いる場所ではない雰囲気も出ています。うまくモノトーンでまとめ、雪をかぶった山に光が当たって輝く白と、女性の白い服が対比されています。ここまで行ったからこそ撮れた作品です。

【アドバイス】
撮影状況が分かりませんが、もし右に移動できるなら、女性は中央のままで向こうの山がもう少し中央部に入るように調整すると、さらに対比が強まりました。ピントは山の方に合っていると思いますが、手前の女性も山と同じぐらいシャープに見せたいです。



「花桃列車」

入選 Winning work

作者 ● 入 敏明（埼玉県）

カメラ：ニコン D850　レンズ：AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR II
レタッチ：Photoshopにてコントラスト、ハイライト、明瞭度等を調整　撮影地：群馬県みどり市 わたらせ渓谷鐵道 神戸駅

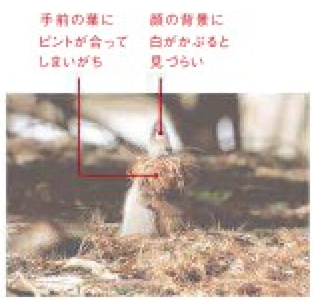
【講評】
今回、桜と電車の作品は多数ありましたが、この作品は電車の窓に映り込んだ桜がメインで、その見せ方が面白いと思いました。映り込んだ桜にピントが合い、電車と桜のバランスも良いです。奥には青みがかった山々が見えて色合い的にもとても美しいですね。電車や桜を単体で撮ったのとは違う、自分の見つけた新しい世界を見せてくれています。

【アドバイス】
GANREFに登録されている入さんの他の作品も拝見しましたが、十分な実力がある方ですので、こうした間接的に電車を見せる作品で一度作品集をまとめてみてはどうでしょうか。1冊にまとめると、撮りたくなるカットやストーリーがまたあらためて見えてきます。

PICK UP

動物の面白さが伝わる千載一遇のシーン。AFでは目にピントが合いにくいシーンに要注意





「もう持てませ〜ん」

佳作

作者 ● 笠島英雄<Syaraku>（北海道）

カメラ：ソニー RX10IV
レタッチ：Imaging EdgeにてRAW現像、露出、ホワイトバランスを調整。Capture NX 2にてハイパス、コントラスト、明るさ、ハイライトを調整
撮影地：北海道函館市

【講評】
フカフカの巣材集めに忙しいエゾリス。口いっぱいに巣材をくわえて、手で抱えています。タイトル通り、もう持てそうにありません。動物の面白さが伝わる千載一遇の場面を捉えた1枚です。本当にかわいいシーンですね。

【アドバイス】
惜しいことに、この状況でAFを使うと口にくわえた葉にピントが合ってしまいがちです。あらかじめそれを予測して、葉に合ってしまうと目にピントが合わないことを瞬時に気づき、ピントを若干後ろに下げる必要があります。普段AFで撮っていたとしても、MFで微調整するなど、撮影時の工夫を心掛けましょう。また、一番大切な顔の背景が白く、もうちょっと単調にしたいところです。こちらが少し上がって撮れば背景の見え方も変わります。

「可愛くて！ 嬉しくて！」

佳作

作者 ● 松井義徳（奈良県）

カメラ：ニコン D750
レンズ：AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR II
レタッチ：Photoshop CC 2017にてRAW現像、露光量、シャドウ、黒レベル、明瞭度を調整
撮影地：奈良県奈良市 奈良公園

【講評】
子鹿が、親鹿に毛づくろいされて片目をつぶっているかわいい姿です。そのあどけない表情がとても良いですね。鹿の写真は最近投稿が多いのですが、"かっこいい"雰囲気のものが多く、こうした微笑ましいシーンは目を引きました。

【アドバイス】
内容からすると子鹿の顔がメインなので、子鹿をもう少し中央に入れたいと思いました。ただ、自分がしゃがむと親鹿の頭が背景の黒い幹にかかってしまうので、場所はこのまま、カメラを下げるだけでも子鹿の顔がさらに引き立つと思います。



「天地創造」

佳作

作者 ● 心利（大阪府）

カメラ：キヤノン EOS 5D Mark IV
レンズ：EF16-35mm F4L IS USM
フィルター：ND16＋ハーフND
レタッチ：Lightroom 6にてハイライト、コントラスト、シャドウ部、明瞭度、自然な彩度、色温度、トーンカーブを調整
撮影地：兵庫県三木市 黒滝

【講評】
美しい光景ですね。「ミニナイアガラ」だと噂の、兵庫県・黒滝。作者はこの場所をしっかり読み、NDフィルターでスローシャッターにし、さらにハーフNDも使って夕焼けで美しく焼けた空も生かしています。完成度が高く、計算の勝利ですね。

【アドバイス】
奥の滝の上に、岩かがれきでしょうか？ 何か大きな塊が見えます。これがあるのが非常に惜しいです。作者に非はありませんが、この位置からだと撮影のポイントを多少調整しても隠れないので、この画角ではこれ以上のクオリティは難しいでしょう。



佳作

「甘えんぼ」

作者 ● 布施 剛（東京都）

カメラ：キヤノン EOS 6D　レンズ：タムロン SP AF10-24mm F/3.5-4.5 Di II LD Aspherical [IF]
レタッチ：Digital Photo Professionalにて彩度等を調整　撮影地：茨城県桜川市

【講評】

甘えている方もかわいいですが、甘えられている方の冷たい目つきも猫らしくて最高です。人がこんなに目の前にいるのに、まったく気にせず自分の世界にいるのも面白いですね。背景の雰囲気も良く、このシーンを捉えた作者の目も優れています。

【アドバイス】

下手に角度を変えるとこの場面が崩れるので難しいですが、背景のお堂に斜めのパースが付いているのが多少気になりました。画面上部のお堂の屋根が少し隠れると、パースも多少気にならなくなります。少しだけトリミングで削っても良いかもしれません。





佳作

「crossing shadows」

作者 ● 長塚信一（神奈川県）

カメラ：ソニー α7 II　レンズ：FE 28-70mm F3.5-5.6 OSS
レタッチ：Lightroom CCにてモノクロ化、コントラストを調整　撮影地：神奈川県横浜市 桜木町駅

【講評】

人の流れを撮ろうと俯瞰で狙っているところに偶然カラスが通りかかったとのこと。まるで昔のヨーロッパで撮ったような、雰囲気のあるモノクロ写真です。画質もざらっとした粒子感があり、そこにカラスの影が重なるなどさまざまな要素がぴったりとハマっています。

【アドバイス】

GANREFに登録された長塚さんの他の写真も拝見しましたが、技巧派の方ですね。交差点や横断歩道の写真をたくさん撮られていますが、光と影をテーマにされているのでしょうか。俯瞰のポジション取りがうまいです。これからもその視点を生かしてください。



入選 Winning work

「越境」

作者 ● 五條芳壽（茨城県）

カメラ：キヤノン EOS M5
レンズ：EF-M11-22mm F4-5.6 IS STM
レタッチ：LightLoom 6にてトリミング、露光量、彩度を調整。
Nikコレクションにて調整　撮影地：茨城県

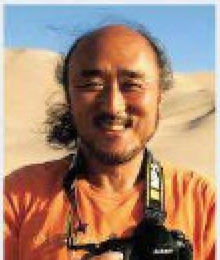
【講評】

なかなか見ないこの光景に出くわしてよく撮られました。壁がぐにゃりと前に飛び出していて、"家ってこんなに曲がるんだ"という面白さがあります。その面白さはただ普通に撮ってもここまで伝わらないと思いますが、近づいてワイドで撮り、渋い色合いでうまくまとめています。部屋に飾りたくなるような被写体ではありませんが、とても目を引く、力のある作品です。

【アドバイス】

作者は社会的な観点から「 越境 」とタイトルを付けられましたが、ぱっと見の印象とうまくつながらないように感じました。この写真の面白さは家がここまで曲がることにあると思うので、そこをタイトルにした方がより人を引きつけると思います。

高砂淳二先生の今月のひとこと



今月もたくさんのご応募ありがとうございます。数千枚を審査する中でやや気になったのは、似た作品がよく見られることです。コンテストとなると、季節の風景や人気の被写体、誰もが撮る場所などで撮る写真は、そこに自分のスピリットを入れる工夫が必要になります。同じ場所でも別の角度や視点を見つけることで、見る人の気持ちを動かす力になるでしょう。

今回の優秀賞には、小山 隆さんの「異国情緒満喫中」を選びました。撮影地の祇園白川は、料亭が並び舞妓さんが行き交う場所ですが、この作品の主題は異文化を心から楽しむ外国人の姿です。準優秀賞のキリンさんの「モデル志願者」は、応募の多い鹿が被写体の作品ですが、カメラマンと鹿のユニークな関係が主題になっています。どの作品も、横並びではない自分の感じた新しい世界を見せてくれました。

また、カワセミが被写体になった佳作の「Kingfisher!!」や「カワセミ 688」のように、通い詰めている方の写真は強いですね。自分のホームグラウンドや好きな被写体を持つことは大切です。より深く被写体と関わることになるので、理解も進みます。

今月は、過度のレタッチや審査に影響するほど大きいクレジットは大幅に減り、良い傾向だと感じました。来月も、皆さんの独自の視点で切り取られた作品を拝見するのを楽しみにしています。

※作者名の＜ ＞内はGANREFネームを表します。応募に関する詳しい説明は、https://ganref.jp/photo_contestsをご覧ください

DIGITAL CAMERA MAGAZINE PHOTO CONTEST

［2018年6月号選考］

プリント部門

選者・岡嶋和幸

副賞
アウトドアプロダクツ カメラデイパック01 ブラック
提供：ハクバ写真産業株式会社





優秀賞 First prize

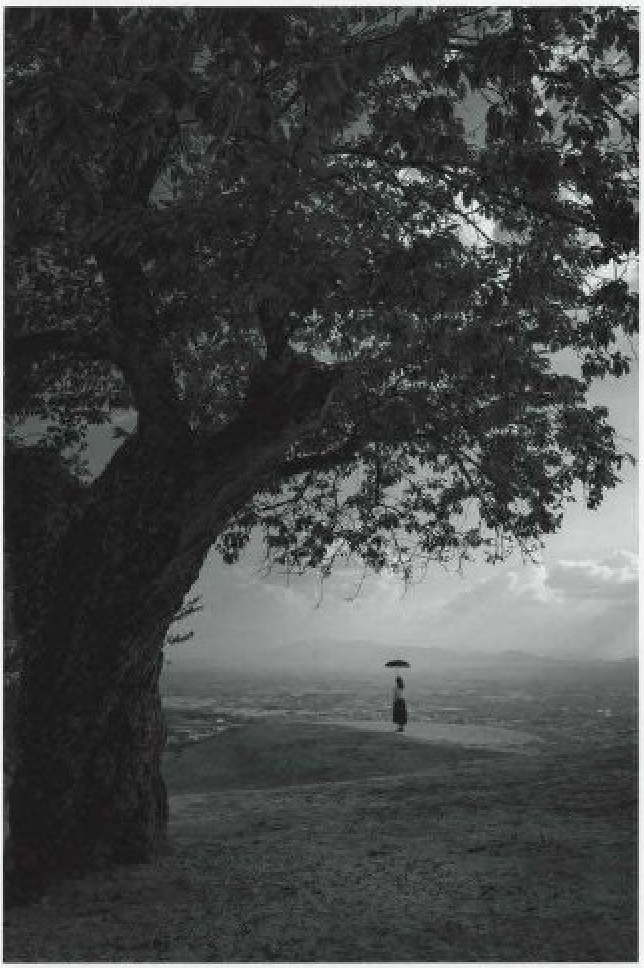
「被膜（ひまく）に包（つつ）まれて」

作者・岩本宏子（徳島県）

カメラ：オリンパス PEN Lite E-PL5
レンズ：M.ZUIKO DIGITAL ED 14-150mm F4.0-5.6
プリンター：キヤノン PIXUS PRO-100S
用紙：ピクトリコ ピクトリコプロ・ホワイトフィルム
撮影地：徳島県徳島市

【講評】
自転車のサドルにかぶせられた白いレジ袋。街灯などの光によって、暗闇の中に浮かび上がる様子に目が留まりました。サドルはぼんやりとしたシルエットであるため、「何だろう?」とより興味を引くわけです。コメントにある「被膜の中にある未知の物体」という表現はまさにその通りで、言い得て妙です。捉えられた光が美しく浮き上がって見えるなど、染料プリンターと樹脂フィルムの組み合わせはこの表現にうまくマッチしています。しわくちゃのレジ袋の質感もリアルに感じられるなど、写真ではなくその場で実物を見ているようで、作者が実際に目にして感じたことがプリントからダイレクトに伝わってきます。

【アドバイス】
レジ袋の輪郭がシャープ過ぎて、切り抜き合成のように不自然に見えるところがあります。画像処理での焼き込みはもちろん、被写界深度をもう少し浅くするなど、被膜の柔らかさがより感じられるような工夫があると良いでしょう。



準優秀賞
Second prize

「見守る」

作者 • 吉井亜美佳（大阪府）

カメラ：ニコン D7000　レンズ：AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR　プリンター：エプソン EP-10VA
用紙：SIHL MASTERCLASS Satin Baryta Paper 290
撮影地：奈良県奈良市

【講評】

印象的な光により味わい深いモノトーンの作品に仕上がっています。特に画面構成が秀逸で、完成度の高い作品です。作者はベテランの男性だと勝手に思い込んでいたのですが、最終選考で応募票を見ると中学生の女の子。とても驚きました。傘を手にしているのは母親なのだそうですが、大きな木に見守れながらたたずむその姿は、小さいながらも存在感があります。美しく堂々としていて、作者もファインダー越しに誇らしく感じられたのではないでしょうか。そして自分自身も遠くから見守られていることを感じて欲しいと思いました。そういう意味でも、この作品はきちんと額装をして、ぜひ部屋に飾ってみてください。

【アドバイス】

ここは老若男女に関係なく評価される場なので、高い表現力と技術力が求められます。でも、中学生の今しか持てない視点、今しか撮れない写真というのもあると思います。そういう「らしさ」が感じられる作品を見てみたいです。

入選
Winning work

「許されざるモノ」

作者 • 中本則昭（兵庫県）

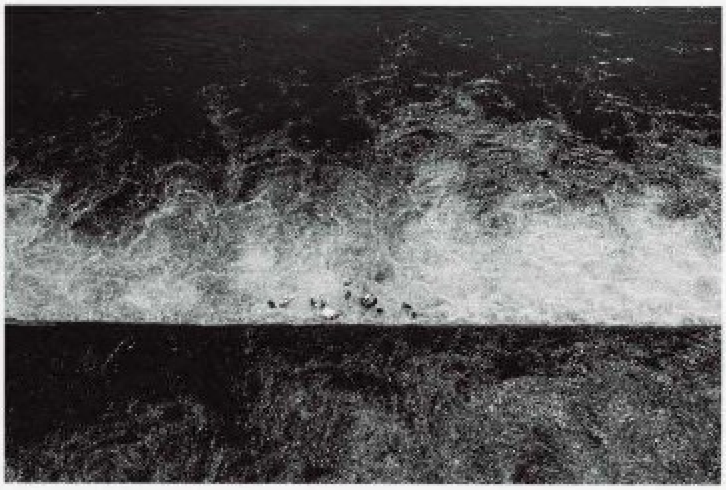
カメラ：ニコン D300S　レンズ：AF-S NIKKOR 28-300mm f/3.5-5.6G ED VR　プリンター：キヤノン PIXUS PRO-10S
用紙：イルフォード ギャラリー・プレステージ スムースハイグロス
撮影地：京都府京都市

【講評】

川に浮かぶ空き缶などのゴミ。堰（せき）の段差の部分を俯瞰から撮影されたのでしょう。プカプカと浮いた状態で滞留しているようですが、これが意外にも見ていて飽きないもの。いやそうではなく、網があればすくい上げたい気分です。ハイコントラストに仕上げられた点も、この表現に合っていると思います。

【アドバイス】

顔料インクと高光沢の用紙の組み合わせがミスマッチに感じます。平滑性の高い半光沢の用紙の方が良いです。シャドウのディテールがつぶれ気味なので、もう少し階調を残した方が見応えのあるプリントになるでしょう。



入選
Winning work

「ハーモニカおじさん♪」

作者 ● キリン(大阪府)

カメラ:ニコン D7200
レンズ:AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-6.3G ED VR
プリント:DPE
撮影地:大阪府大阪市

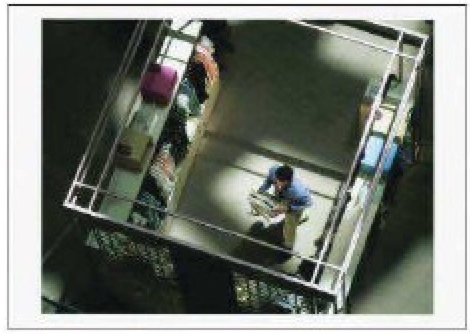
【講評】

高架下でハーモニカを演奏されているおじさん。優しそうな人柄を思わせる表情で、気持ち良さそうに吹いています。音が良い感じで響きそうな場所のようですが、電車や車の騒音もすごそう。それらの雑音をかき消すように、美しい音色を奏でているのでしょう。間近で聞いているような臨場感があります。

【アドバイス】

腕時計がハイエストライトになるため、どうしても視線が流れてしまいます。おじさんの表情に目を向けやすくするには、画面に入らないような工夫が必要です。その方がこの滑らかなモノトーンも生きてくるでしょう。





佳作

「small shop」

作者 ● 本田厚子(栃木県)

カメラ:オリンパス OM-D E-M1 Mark II
レンズ:M.ZUIKO DIGITAL ED 12-100mm F4.0 IS PRO
プリンター:キヤノン PIXUS PRO 10S
用紙:イルフォード ギャラリー・プレステージ スムースパール310
撮影地:アラブ首長国連邦 ドバイ

【講評】

普段なかなか目にすることのないアングルから捉えられたシーン。フレーミングが秀逸で、それにより光が印象的に目に飛び込んできます。視点はもちろん、シャッターを切るタイミングなどバランス感覚に優れた作品です。

【アドバイス】

金属のフレームが赤紫色にかぶって見えます。光が反射したしたことにより発生したエッジ部分のフリンジが残っているようなので、これをしっかり補正すると良いでしょう。プリントだと意外に気になるのです。

佳作

「心の出口」

作者 ● prego(兵庫県)

カメラ:キヤノン EOS 7D
レンズ:シグマ 18-50mm F2.8 EX DC MACRO /HSM
プリンター:フロンティア
用紙:EVER-BEAUTY PAPER for LASER　撮影地:兵庫県神戸市

【講評】

作者のセンスが光る素敵な作品です。モチーフである傘を手にした女性のシルエットが、優しい光に包まれていて美しく印象的。経年変化したコンクリートに映し出されたその像は味わい深く、何かを語りかけているようです。

【アドバイス】

GANREF上の画像は、液晶表示ということもありコントラストが高めで主題が際立って見えます。そのあたりが控えめのプリントの方が合っているようですが、ハイライトはもう少し透明感があった方が良いと思いました。





入選
Winning work

「借景(※但しキャベツ)」

作者 ● 石川人史(愛知県)

カメラ:ソニー α7S　レンズ:Vario-Tessar T* FE 24-70mm F4 ZA OSS　プリンター:エプソン SC-PX5VII　用紙:ピクトリコ ピクトリコプロ・セミグロスペーパー　撮影地:愛知県安城市

【講評】

ご自宅の階段ということで、撮影はかなり大変だったようですが、季節感のある眺めが雰囲気良く切り取られていて、見ていて気持ち良いです。窓の外の景色がキャベツ畑というのが素敵です。お花畑だったらでき過ぎというか、あまり現実的に感じられず、興味を引くことはなかったかもしれません。

【アドバイス】

できれば窓が画面のど真ん中に配置できると良かったです。水平・垂直をしっかり意識しながら撮影されているので、少しのズレが気になりやすいのです。せめて左右だけでも空間が均等だと、画面により安定感が出ます。



入選 Winning work

「氷床枯枝図」

作者 ● 大久保克剛（北海道）

カメラ：キヤノン EOS Kiss X5　レンズ：シグマ 30mm F1.4 EX DC /HSM
プリンター：ブラザー DCP-J963N　用紙：キヤノン写真用紙 プレミアムマット
撮影地：北海道千歳市

【講評】

地面に落ちた枯れ枝が氷漬けになっている様子を捉えられた作品です。絵画的な表現で、柔らかく優しい色合いが美しいプリントに仕上げられています。マット系の用紙とうまく合っています。凍っているとはいえ冷たさは感じられず、日本画を思わせるような不思議なトーンです。作品名もなかなか良い感じです。

【アドバイス】

真ん中と左側の枯葉の色合いが淡過ぎるため視線を留めにくい印象です。氷漬けになっているから仕方がないのでしょうが、右上の枯葉のように真ん中だけでももう少しシャープに見えると、より目を引くように思いました。

佳作

「櫻の木の下で」

作者 ● 西川 浩（大阪府）

カメラ：キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ　レンズ：EF24-105mm F4L IS USM　プリンター：キヤノン PIXUS PRO-1　用紙：SIHL MASTER CLASS Satin Baryta Paper 290　撮影地：滋賀県高島市



【講評】

墓地と桜の組み合わせは少し怖いような気もするのですが、見応えのあるモノクロ作品です。花見ではなく運動会ですが、アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」の主題歌を思わず連想してしまいまいた。そう考えるとにぎやかで楽しそうです。

【アドバイス】

桜の木が画面の中心からやや右にずれていて不安定に感じます。画面に対して小さくなりますが、もう少し引いて周囲のシャドウを足すことで、桜の木がより生きてきて、存在感が強調されてさらに印象的に見せられるでしょう。



佳作

「Dancer」

作者 ● 井上幾雄<めるちゃん1>（大分県）

カメラ：キヤノン EOS-1D X Mark Ⅱ　レンズ：EF16-35mm F2.8L Ⅱ USM　プリンター：エプソン SC-PX5VⅡ　用紙：イルフォード ギャラリー・プレステージ ゴールドファイバーシルク　撮影地：大分県

【講評】

躍動感あふれる瞬間を捉えた見応え十分の作品。高感度ノイズ低減などの画像処理や用紙の選択もバランス良く決まっています。ステージ照明による雰囲気のある光と影が印象的で、絵画のような美しさが際立ちます。

【アドバイス】

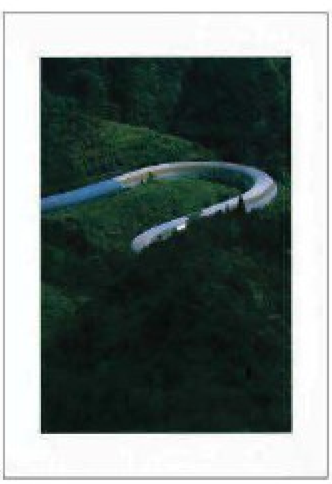
上部に少し入っているライトは鑑賞者の視線が流れやすいので、トリミングして画面から外した方が良いでしょう。その方が主役に目を向けやすくなり訴求力が高まります。画面が引き締まった印象になって効果的です。

佳作

「大蛇」

作者 ● 今井保一<iman>（新潟県）

カメラ：キヤノン EOS 7D　レンズ：EF70-200mm F4L IS USM
プリンター：エプソン PX-7V　用紙：ピクトリコ ピクトリコプロ・ソフトグロスペーパー　撮影地：新潟県南魚沼市



【講評】

面白い発見ですね。縦位置で切り取ることで、スノーシェルターが大蛇に見えたという主観的な視点をうまく表現されています。上下の空間の付け方などバランスの良い画面構成です。その質感もヘビっぽくて良いです。

【アドバイス】

画面の真ん中辺りのハイライトが気になります。光が反射しているのだと思うのですが、撮影のタイミングをずらすなどの工夫が必要でしょう。でもそうするとこの印象的な光の感じが得られなくなるかもしれません。

PICK UP

絶妙なタイミングで同化する影。輪郭のシャープさも合わせたい



佳作

「Flap of the joy」

作者 ● 谷村友紀 <yukicyo>（京都府）

カメラ：ソニー NEX-7
レンズ：Vario-Tessar T* FE 16-35mm F4 ZA OSS
プリンター：エプソン EP-306
用紙：ピクトリコ ピクトリコプロ・デザインペーパープラス
撮影地：愛知県名古屋市

【講評】

羽ばたく鳥たちとは逆方向に歩く女性のシルエットが印象的です。タイミング、ポジションともに絶妙に決まっています。この女性も描かれているのではないかと疑うほど、空間にうまく同化していて見事な仕上がりです。

【アドバイス】

鳥のイラストの輪郭がややシャープ過ぎる印象です。女性のシルエットの輪郭と同じくらい少し甘めにすることで全体にうまくなじんで、より自然に浮き上がって見えるでしょう。その方がより不思議な空間に感じれると思います。人物の辺りにも鳥が描かれていると思うのですが、背後にうまく隠れていたり、重なりが気になるものは消されたのかもしれません。人物のすぐ左下の鳥は位置が近過ぎるので、消してしまっても良かったと思います。

入選
Winning work

「Asian nights」

作者●宮崎勝宏（神奈川県）

カメラ：リコー GR　プリンター：キヤノン PIXUS MG7530
用紙：キヤノン写真用紙・光沢 プロ[プラチナグレード]　撮影地：中国

【講評】
中国でのスナップショット。足の感じが良いですね。「どこかのどかで、しかし生きる活力がすごく感じられた国」との印象を持たれたようですが、それがそのままストレートに表現されていて魅力的に感じました。色合いや光の感じがアジアンテイストで臨場感があり、その場の音や匂いなどが伝わってくるようです。

【アドバイス】
右上の商店が明るく、しかも人の顔が見えるため視線が流れやすいです。主題の足は真ん中キープで、この部分が画面に入らないようにうまくトリミングすると良いでしょう。シャドウの階調をもう少し出せるとベストです。



PICK UP

目新しいアングルが魅力。視線誘導には太い黒枠が効果的



佳作

「レントゲン」

作者●角田恒雄<NEONEO>（滋賀県）

カメラ：ニコン D500
レンズ：タムロン 16-300mm F/3.5-6.3 Di II VC PZD MACRO
プリンター：キヤノン PIXUS PRO 100
用紙：キャンソン インフィニティ・フォトグロス・プレミアム・RC
撮影地：東京都豊島区 サンシャイン水族館

【講評】
普通は見ることのないアングルからの作品です。その目新しさが評価のポイントです。モノクロ化されたことで、ディテールに目を向けやすくなり主題が一目瞭然。伝わりやすい表現になっています。血管年齢も若そうです。

【アドバイス】
GANREF上では太めの黒い枠が表示されているのですが、その方が主題に目を向けやすく効果的でしょう。もう少し抜けを良くしてハイキーさを強調できると良いです。その場合は全体を明るくしたりコントラストを上げるのではなく、シャドウはそのままで、中間調からハイライトにかけての部分を少し持ち上げるだけで十分です。被写体の胴体も明るくなって、マスク処理を行わなくても、水かきの部分がより浮き上がって見えるようになります。



佳作

「映ルノハ。」

作者●嶋谷泰毅（三重県）

カメラ：リコー PENTAX K-1　レンズ：HD PENTAX-D FA 24-70mmF2.8 ED SDM WR　プリンター：キヤノン PIXUS PRO-1　用紙：ハーネミューレ グロッシー ファインアート フォトラグ バライタ　撮影地：大阪府大阪市

【講評】
窓ガラス越しに外の景色を眺めているネコ。その視線の先には何があるのでしょう。かなり上の方を向いているので、鳥とかでしょうか。空間をたっぷりと生かした画面構成で、鑑賞者の想像力をかき立てるなど楽しい1枚です。

【アドバイス】
下側の白いラインはできればない方が良いのです。トリミングで画面から外そうとすると、ネコの首輪のリボンがギリギリになってしまいますね。個人的にはそれでもこのラインはない方が良いと思うのですが、いかがでしょう。

岡嶋和幸先生の今月のひとこと



今回の選考は神戸で行いました。過去最高の参加者数で、会場は熱気に包まれていました。女性の参加者も多く、東京開催とは違った雰囲気でした。応募作品数および全体のレベルも過去最高といった感じで、渾身の自信作があっという間に落選してしまうなど、初参加の方には刺激が強かったことでしょう。でも、他の応募作品と比較できるので、自分に足りないものなどいろいろ実感できたはず。プリントのクオリティーなど、誌面では分からない部分を間近で見られるなど、次に向けての学びも多かったと思います。

3作品が最終候補に残り、優秀賞に輝いた岩本宏子さんは徳島からの参加でした。北海道から参加の大久保克剛さんも入選と、うれしい場面に立ち合えた人もいます。吉井亜美佳さんは神戸での公開審査で昨年に続いて準優秀賞。今回もあと一歩でした。他の皆さんも、ぜひ次回チャレンジしてください。たくさんのご応募をお待ちしております。

インプレス・フォトスクール連動！

プリント部門公開審査実施中

フォトコンテスト プリント部門は公開審査を行っています。作品の当日持ち込みも可能です。ぜひともご参加ください。

- 審査日　2018年6月16日（土）
- 時間　13:30～15:30
- 会場　株式会社インプレス
  東京都千代田区神田神保町
  1-105 神保町三井ビルディング
  （23階セミナールーム）

詳細はP.163をご参照ください

写真とカメラのワークショップ



写真・文●
中原一雄
イラストレーター●
今道千里

最終回 いつもの街が見違える写真撮影の着眼点

これまでの連載でポジションやアングル、ブレやボケ、広角や望遠など撮影時に役立つ着眼点を紹介してきました。最終回となる今回は、今まで紹介したポイントをおさらいしながら身近な街中を撮影してみたいと思います。きちんとポイントを押さえられていればきっと今までとは違った街の様子が見えてくると思いますよ！





ソニー α7R Ⅲ／FE 24-105mm F4 G OSS／24mm／絞り優先AE
（F4、1/160秒、±0EV）／ISO 160／WB：オート

PRACTICE 1 ヒザを動かすだけで写真の世界観が変わる

ちょっと撮影の知識をかじった入門者ほど、一眼レフで上手に撮影するために、まずはF値やシャッター速度を考えて……という思考をしがちですが、それよりも先に考えるべきはポジションとアングルです。カメラを構える高さを表すポジションと角度を表すアングル、この2つを意識するだけで写真の世界観や被写体との関係性など多くのストーリーを表現できます。視点が面白ければ、ただシャッターボタンを押しただけでも魅力的な写真になるのです。スナップするときは、常にさまざまな視点を想像しながら歩いてみてください。

ローポジション



芝生と木だけという撮りどころが少なく見える公園も、地面スレスレの視点で捉えると歩いているだけでは決して見ることのできない特別な世界が写せます

ハイアングル



一脚にカメラを取り付けて、高い位置から俯瞰で撮影。自分が鳥になったかのような視点で街の営みを捉えることができました。ハイアングルで撮影することで、街を観察しているようなイメージを写真に加えられます

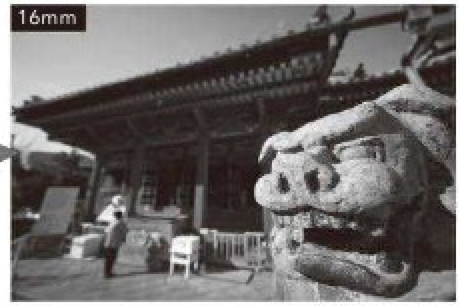
PRACTICE 2 焦点距離とF値は“情報量”で決める

ある被写体に対して広角と望遠、ボケとシャープどっちを使おうか迷ったときは画面の中の「情報量」について考えてみましょう。背景の情報量を増やしたいなら広角で寄る、情報量を減らして主役を引き立てたいなら望遠で離れると良いのです。主役のサイズを変えずに背景の写る範囲を変えられます。また、F値の大小で背景の情報量（ボケ具合）を調節して主役の目立ち具合を変えられます。時には背景の情報を残した方が主役が引き立つこともあります。何を見せたいのかが大切なのです。



焦点距離：情報の“増減”に使う





左の写真は、こま犬と神社だけでまとめた情報量を減らした写真です。要素を引き算して主役を引き立てるという考え方もありますが、ここではさらに広角側を使い、お参りする人まで写し込んで人々の信仰を見守るこま犬といったストーリーを作りました

F値：情報の“強弱”に使う





ただ花をしっかり見せることが目的であれば、F値を小さく設定した左の写真が正解でしょう。でも、この写真で描いたストーリーはオフィス街に咲く花。あえて絞って公園を歩く働く人の姿を描写したことで、撮影地のイメージを想像できるように仕上げました

PRACTICE 3 光と影を意識して視線を動かそう

写真は光でできています。そして、光があるところには必ず影が生じます。写真を撮るときはどうしても光が当たっている明るい部分に注目しがちですが、その逆の影にも着目してみましょう。光源の位置によって影の長さや向きは変わるので、時間帯のちがいで状況は一変します。例えば、背景が明るいシーンなら影を生かしたシルエット表現で被写体の形を強調したり、想像の余地を残したりしても良いでしょう。人の視線が明るい場所に動く習性を利用して、主題への視線誘導に影を利用するのも1つの手です。

日が傾く朝と夕の時間がおすすめ

晴れた日の強い光ならあらゆる場所に影が出ますが、朝夕の太陽の低い時間帯は特に形の良い影が街にあふれます。ドラマチックな写真を狙うなら、朝と夕の時間がおすすめです

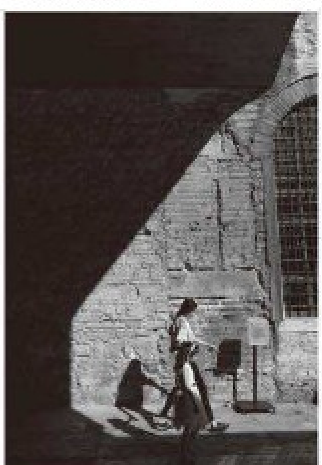


シルエットで想像させる



横断歩道を渡る人々のシルエットを主題に撮影。横断歩道の明るい色と黒いシルエットのメリハリを生かした写真です。シルエットを主題にすることで、シルエットの主がどんな人たちなのか、想像する余地が生まれます

明暗差によって視線を誘導する



強い日差しが建物に形の良い影を落としている状況で、そこを通りがかった人を撮影しました。歩いている人は小さめに写っていますが、明るい部分に視線が誘導されるため、存在感は十分に得られています



PRACTICE 4

主題と副題を考えて画面を構成する

写真の意図がうまく伝わらないと悩む場合は主題だけでなく、それを補うアクセント（副題）を入れてみましょう。例えば、街の活気を表現したいなら人を積極的に入れてみたり、季節感やその日の天気がわかるものをさりげなく写り込ませたりすることも有効です。ただし、あくまでアクセントですから、主題とのバランスに気を付けましょう。主題が弱い場合は一歩踏み込んで明確にしてみることでも鑑賞者へ伝わりやすい写真になります。



SCENE 1 人影を入れてアクセントを作る




なんとなく良い雰囲気の外国の街角。構図的にもおかしなところはありませんが、散漫な印象でアクセントがありません。そこで、通りにバイクが通ってくる瞬間を待って撮影しました。バイクが1台写っているだけで街がにぎやかな印象に変わります

SCENE 2 一歩踏み込んで主題を明確にする




観光地で全景がわかるように広角で撮影しましたが、何を撮りたいのか、見た人に伝わらない写真になってしまいました。主題を明確にするため広角のまま石碑に近づいて撮影したのが右。主題がはっきりし、光条のおかげで強い日差しの様子も伝わります

今月のひとワザ 想像力を働かせて映り込みを見つける

この視点で撮ったらどう写るだろうかと想像するクセをつけると、撮影の幅が広がります。そうして発見できるものの1つが映り込みです。映り込みは距離や角度で大きく変化するため、反射面を見つけたら、今度はカメラを眼の代わりにしてどんな映し方ができるか探りましょう。「危ない!」と錯覚させるカーブミラーを使ったこの写真は、通りを歩く人には決して見えないカメラだけの視点です。



ソニー α7R III／FE 24-105mm F4 G OSS／24mm／絞り優先AE（F5.6、1/60秒、＋1.0EV）／ISO 80／WB：オート



ハイポジションで不思議な映り込みを狙う



ミラーの位置まで手を上げてハイポジションで撮影。できるだけ多くのものを映り込ませるため広角にセット、液晶モニターで道路のつながりに違和感が出ないように気を付けて撮りました

いまさら人には聞けない 大人の光学入門

文●安藤幸司
イラスト●三木謙次

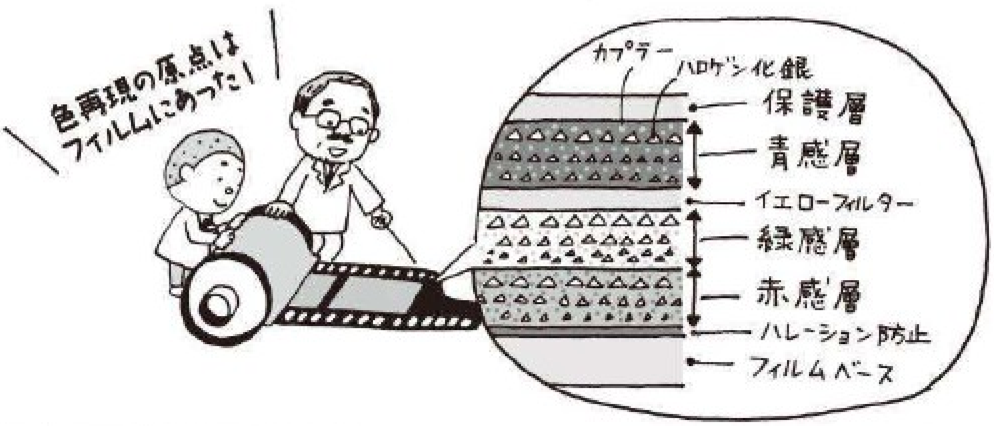




【12時間目】撮像素子のはなし②

撮像素子は画素1つ1つの受光部に集まった電荷を読み出すことで像を描いていることが分かりました。しかし、光を集めるだけで色まで再現してしまうのはどうしてでしょうか。現在の撮像素子には受光部の表面にカラーフィルターが貼り付けられており、そこから色情報を取得しているのです。その原点は、アナログのカラーフィルムにありました。では、今日はカラー画像を取得するしくみを学んでいきましょう。



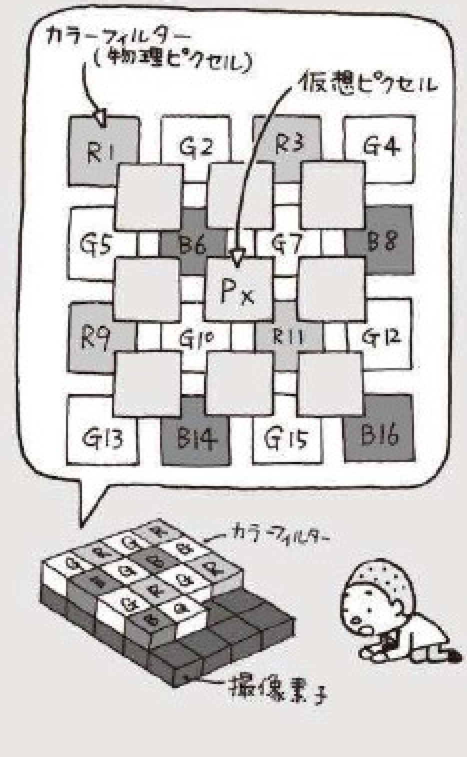


カラー画像はRGBの3原色で構成されていることは学びましたね。カラーフィルムでは、白黒フィルムと同様に銀塩を使っています。カラー情報を得るため、乳剤面が青、緑、赤の3層に分かれています。各層のハロゲン化銀の周りに色を感知する色素が付着されており、光を吸収することでハロゲン化粒による潜像が作られます。3層の乳剤は各波長に応じた3色像を得て、現像の定着過程でフィルム中の銀を洗い流して発色カプラーを残します。

単板カラー撮像素子

固体撮像素子になっても、カラーカメラではフィルムと同じようにRGB三原色手法を採用しています。現在主流になっているのは単板式固体撮像素子です。受光部の表面に3原色のカラーフィルターを貼り付けて、色情報を取得します。

デジタルカメラの撮像素子でカラー撮影を可能にしたのが、1枚の撮像素子上にマトリクス状のカラーフィルターを貼り合わせた単板式撮像素子です。各画素にはR(赤)、G(緑)、B(青)のいずれか1色のカラーフィルターが割り当てられており、1つの画素で1色の濃度だけを受け取ります。これは物理的に存在するので物理ピクセルとしましょう。このとき、1色だけの物理ピクセルでは実際の色を再現できないため、周辺の物理ピクセルと色情報を補い合い、マトリクス計算によって色を特定し、RGBの3色を重ねた仮想ピクセルを作ります。物理的には存在しませんが、この仮想ピクセルの集まりが、私たちが画像として認識しているデータなのです。





トリビア

カラー情報の得方

色情報は以下の方法で色を特定します。

- 緑(G)は、近傍のG7とG10を足して2で割る
- 赤(R)は、R11を優先してその周りの赤色情報を加味する
- 青(B)は、赤と同様の処理をする

式で表すと以下のようになります。

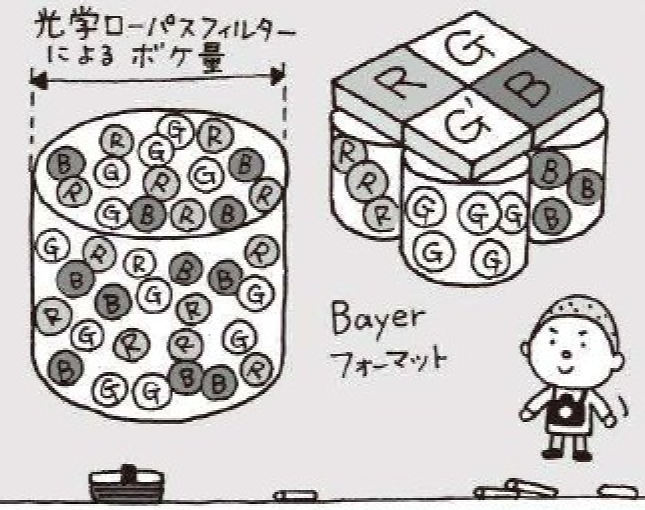
- P green = (G7+G10) / 2
- P red = (9･R11+3･R3+3･R9+R1) / 16
- P blue = (9･B6+3･B8+3･B14+B16) / 16

2種類のカラーフォーマット

単板カラー撮像素子ではカラーフィルターを配列して色情報を得ていますが、カラーフィルターを用いないで色情報を受け取る撮像素子もあります。2つの違いを詳しく見ていきましょう。

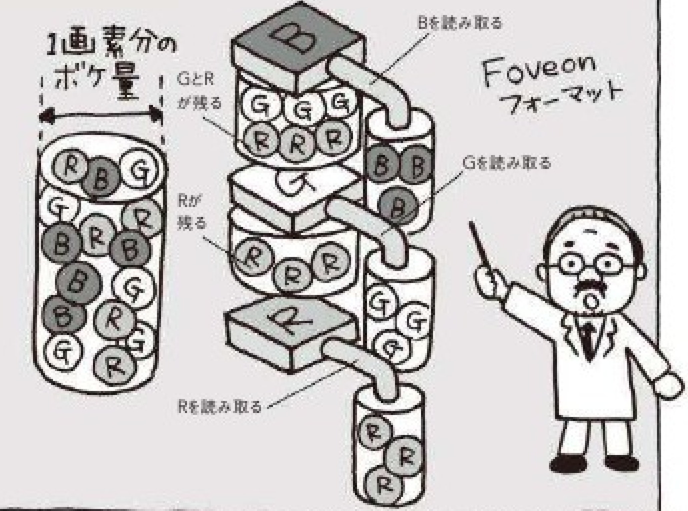
Bayerフォーマット

先に取り上げた単板カラー撮像素子は、発明者のBayer（ベイヤー）博士にちなんでBayerフォーマットといわれます。基本的なレイアウトは、素子の左上が赤（R）で始まるものです。一般的にR1つ、B1つ、G2つの4画素の範囲から色を集めて特定しますが、このとき、どうしても実際の色と同じようには再現できないこともあります。これを解決するため、カラーフィルターの前に光学ローパスフィルターを取り付け、撮像素子に光の情報が入る前に、ある程度ぼかす作業を行っていました。これを行うと当然解像度が低下します。そこで近年では、解像度を重視して光学ローパスフィルターを搭載していないカメラも増えています。



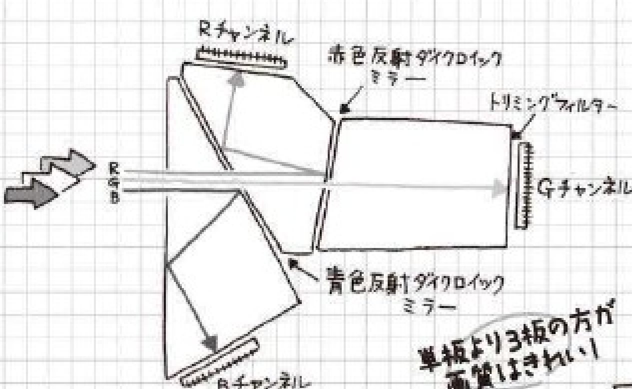
Foveonフォーマット

米国のFoveon（フォビオン）社の開発した素子は、アナログのカラーフィルムの原理を採用したものです。撮像素子に、上からB、G、Rの順に3層のフォトダイオードを配置して、それぞれの色を読み取っていきます。それぞれの層で直接色情報を得られるので、周辺の画素から色情報を集めて処理するBayerフォーマットと区別して、ダイレクトイメージセンサーと呼んでいます。3層縦構造のカラー素子なら、こと色情報に関してローパスフィルターは必要ありません。ただし、輝度信号に関しては画像処理を行っていることでしょう。それでも、1画素分のボケ量はBayerフォーマットより少ないといえ、精細な画質が得られるとされています。



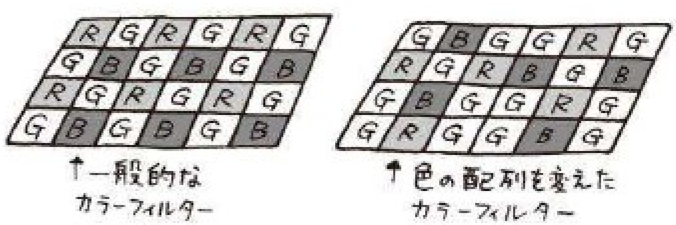
3板撮像素子のはなし

左の図で説明したとおり、現在では単板カラー撮像素子が主流ですが、単板というからには、複数の板を用いるものもあるのです。それが3板撮像素子です。下の図が3板撮像素子カメラの光学レイアウトです。3板式では、入射した光をダイクロイックミラープリズムを使って3色分解し、それぞれにモノクロの固体撮像素子を貼り付けて3色分解画像を得ています。この3色分解光学系は、プリズムの製作精度はもちろん、撮像素子の貼り付けの精度においても、高い技術が要求されます。またカメラそのもののサイズが大きくなり、もちろん価格も高価になります。その分、偽色が起きない、解像力が高い、感度が高いなどのメリットがあります。単板式では、細かい部位の色情報が曖昧になり感度が悪いデメリットがありますから、高画質が求められる放送局のテレビカメラなどには、依然としてカラー三原色画像が得られる3板撮像素子カメラが使われています。



おまけのはなし Bayerフォーマットの配列

Bayerフォーマットを採用した撮像素子では、一般的にカラーフィルターの色の配列が決まっています。下左の図のように、緑（G）が多いのは、人の目が緑を多く感知することができるからです。一般的な配列は2×2の4つの画素を1つのグループとして、Gが1つ多いものですが、この配列が異なるものもあります。例えば富士フイルムのX-Trans CMOSは6×6の36個の画素を1つのグループとした配列を採用しています。配列を複雑にすることで、実際の色を再現しやすくしています。





次号のテーマ

13時間目は……

モアレと偽色のはなし

お楽しみに！

気になるポイントをユーザー目線でチェック!! ●編集部発

デジカメNEWS調査隊

デジタルカメラ関連の新製品情報や編集部員による試用レポート、そしてお得なキャンペーンやイベント情報など。
今月も最新レンズやグッズなど旬のトピックが満載。内容盛りだくさんでお届けします!

6月 June

写真・文●桝 信康、編集部

カメラ側の設定や撮影情報を記録できる F1.2と明るい50mmの単焦点MFレンズ

CHECK

ケンコー・トキナーは、サムヤン社の上位レンズXPシリーズの新モデル「サムヤン XP50mm F1.2」を発売した。フォーカスはマニュアルのみ。電子接点を装備しており、カメラ側から絞りの調整が行える。また、撮影時の設定やその他情報をExifデータとして記録することも可能。5,000万画素、8Kに対応するため、解像力の向上、各種収差の制御を行っている。

▶サムヤン XP50mm F1.2

◎発売日：2018年5月18日 ◎実勢価格：114,000円前後

●焦点距離：50mm ●絞り：F1.2～F16 ●レンズ構成：8群11枚 ●対応マウント：キヤノンEF ●フィルター径：φ86mm ●最短撮影距離：45cm ●外形寸法(最大径×全長)約93mm×約117.4mm ●質量：約1,200g



注目

MFレンズながら電子接点を装備

電子接点によってAFレンズと同じように電磁絞りが使用できる。またExif情報も記録できるため便利だ



参考URL http://www.kenko-tokina.co.jp/

ギア操作で多方向に角度調整できる 折りたたみ可能なあおり撮影装置

CHECK

KPIは、ホースマンのあおり撮影装置「HORSEMAN VCC PRO G」を発売した。カメラやデジタルバックとレンズを組み合わせて、チルト、スイング、ライズ／フォール、シフトのあおり撮影を行う撮影装置。「同 VCC PRO」の後継モデルにあたり、あおり操作の微調整ができるギアが追加された。また、バック部の折り畳みが可能となり、運搬性も向上した。

▶ホースマン VCC PRO G

◎発売日：2018年5月18日
◎実勢価格：369,000円前後
(マウントキット：キヤノンEF/ニコンF/ソニー E)

●対応マウント：キヤノンEF、ニコンF、ソニー E、富士X/G、デジタルバック
●対応レンズ：ロダゴンデジタルレンズ、ハッセルブラッドV、マミヤ645、ペンタックス645、大判(0番シャッター /リンホフボード)
●アオリ機構：チルト前後各15°、スイング左右各15°(レンズスタンダード部)、ライズ/フォール各15mm、シフト左右各20mm(バック部)
●最短フランジバック：28mm
●モノレール：182mm(アルカスイス互換)
●外形寸法(W×H×L)：約231×260×280mm
●質量：約2.9kg



参考URL http://www.kenko-pi.co.jp/

2mを超えるハイレベル撮影ができる 高低差のある場所の設置に便利な三脚

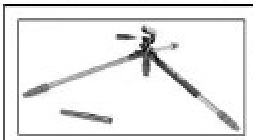
CHECK

ケンコー・トキナーは、スリックブランドのカーボン三脚「ライトカーボン E84 H」を発売した。写真家・秦 達夫氏のアイデアで生まれたという本製品は、中型の三脚ながら大型三脚よりも高い全高約2mを実現。傾斜地などでの撮影でも目の高さにカメラの位置を合わせられる。シリーズ専用のカーボンパイプを採用。空転防止のARSも備え、全ての段を一度に伸縮できる。

▶SLIK ライトカーボンE84 H

◎発売日：2018年5月18日 ◎実勢価格：70,000円前後

●全高：2,150mm ●EV下げ全高：1,830mm
●縮長：705mm ●地上最低高：330mm
●段数：4段 ●パイプ径：28mm
●最大搭載重量：5kg ●質量：約2.27kg



センターポールを外すことでローポジションにも設置が可能



参考URL http://www.kenko-tokina.co.jp/

12kgまでのカメラシステムに対応した 重心の無段階調整が可能なビデオ雲台

CHECK

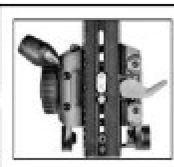
ヴァイテックイメージングは、マンフロットのビデオ雲台「ナイトロテック N12 フルードビデオ雲台」を発売した。昨年末に発売したN8雲台の上位にあたり、独自のナイトロジェンピストン機構により4～12kgの範囲でカウンターバランスを無段階に調整できる。パン・ティルトの可変フルードでパン・ティルトそれぞれのドラッグ調整が可能。三脚キット3モデルも同時発売する。

▶マンフロット ナイトロテック N12 フルードビデオ雲台

◎発売日：2018年5月18日 ◎実勢価格：86,000円前後

●カウンターバランス：4～12kg(重心高55mm時)無段階 ●水準器：あり(照明付き) ●パンバー：あり ●プレートタイプ：504PLONGRL ●カメラ取り付け：1/4"ネジ×2、3/8"ネジ×2、ビデオピン ●三脚取付け：フラットベース(3/8"メス) ●ティルト角度：－70°/＋90° ●パンドラッグタイプ：フルード可変 ●ティルトドラッグタイプ：フルード可変 ●使用温度範囲：－15℃～＋50℃ ●高さ：14.8cm ●最大耐荷重：12kg ●外形寸法(W×H×D)：約180×10.7×50mm ●質量：約2.25kg





N8の140mmよりも長い180mmのプレートが付属

参考URL http://www.vitecimagingdistribution.jp/

浅広のポケットを上部と両側面に備える撥水加工のポリエステル製バッグ

CHECK

ヴァイテックイメージングは、Loweproブランドの「Matrix BP23L」を発売した。ミラーレス＋交換レンズの収納を想定したバックパック。14インチノートPCが収納ポケットの他、上部と側面にも広めのポケットを備える。カラーはブラック基調で、ベルトやハーネスの一部が異なるブラックまたはレッドモデルを用意する。

▶ロープロ Matrix BP23L

◎発売日：2018年5月18日
◎実務価格：11,000円前後

● 外形寸法（W×H×D）：約290×490×170mm
● 内形寸法（W×H×D）：約280×280×160mm
● 質量：約0.93kg

参考URL
http://www.vitecimagingdistribution.jp/



ミラーレスカメラとレンズ1～2本が収納可能



背面メッシュ機構を大幅に改良した長時間使用でも蒸れにくいバックパック

CHECK

ラムダは、日帰り撮影向けの軽量ザック「ウォーキングザックⅡ型」を発売した。内部は1気室で、アクセスはフルオープン。背面にA4サイズのブリーフポケット、両サイドにアクセサリーポケットを用意。背の当たる部分には約5mm厚のメッシュ素材を縫製し、蒸れにくさを追求した。カラーはブラック、ネイビー、ワイン、カモフラの4種。

▶ラムダ ウォーキングザックⅡ型

◎発売日：2018年5月18日
◎実務価格：24,000円前後

● 外形寸法（W×H×D）：約300×400×150mm
● 質量：約1kg

参考URL
http://www.lamda-sack.com/



5mm厚のメッシュを採用したことで快適な着用感とフィット感が向上

角型のフォルムにポケット類を多く備え撥水・耐水素材を生地に使用したバッグ

CHECK

ハクバ写真産業は、プラスシェルシリーズの新作「プラスシェル プロス ショルダーバッグ」を発売した。サイズはL、M、S。いずれも高密度ナイロンツイルの裏面にPVC加工を施し、高い撥水性・耐水性を確保。底面は防汚・防水に優れたターポリン素材を用い、フットスタンドも用意。カラーはネイビー、オリーブ、ブラック。

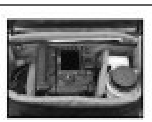
▶ハクバ写真産業 プラスシェル プロス ショルダーバッグ L

◎発売日：2018年4月26日 ◎実務価格：9,000円前後

● カメラ収納部内形寸法（W×H×D）：約340×245×150mm
● PC収納部内形寸法（W×H×D）：約325×230×15mm
● 外形寸法（W×H×D）：約360×270×220mm
● 質量：約1,2kg







一眼レフカメラ1台、交換レンズ2～3本が収納可能

参考URL http://www.hakubaphoto.jp/

クリップオンストロボや撮影傘を装着して好みの位置に固定できるアクセサリー

CHECK

ユーエヌは、クリップオン式のストロボ・LEDライトに対応したクランプバウンサー「UNX-7462」を発売した。強力なスプリングによって、1kgまでのストロボやLEDライトを柱や突起物に挟んで固定できる（固定先の幅は60mmまで）。アンブレラ通し穴も用意しており、アンブレラによる拡散光を用いた撮影にも利用できる。

▶ユーエヌ クリップオンストロボ用クランプバウンサー UNX-7462

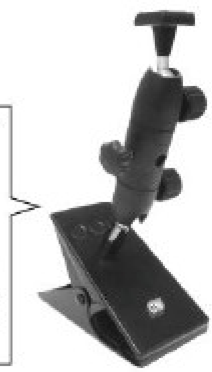
◎発売日：2018年4月20日
◎実務価格：11,000円前後

● 外形寸法（W×H×L）：70×80×130mm（クランプ部）、H180×L30mm（ボールヘッド部）
● アンブレラ通し穴：φ9.2mm
● 耐荷重：約1kg
● 質量：約550g

参考URL http://www.un-ltd.co.jp/



クリップを机の縁などに装着することが可能



LAOWA 12mmF2.8の超広角レンズをシフトレンズとして使用できるアダプター

CHECK

サイトロンジャパンは、Venus Optics（LAOWA）社のコンバーター「LAOWA マジック シフト コンバーター ニコン用」を発売した。特殊な光学系を内蔵し、イメージサークルを拡大することで、ケラレなく、LAOWA 12mm F2.8 ZERO-Dを17mmF4のソニーEマウント対応のシフトレンズ（シフト移動量±10mm）として使用できる。

▶LAOWA マジック シフト コンバーター ニコン用

◎発売日：2018年4月27日
◎実務価格：47,000円前後

参考URL
http://www.sightron.co.jp/



高価なレンズを買うことなくシフトレンズに変換が可能

スパイクの脚部でカメラをしっかり固定プレート型のホールドアクセサリー

CHECK

銀一は、約5mm厚のプレートによりカメラやストロボを保持する「platypod マックス」と「同 ウルトラ」を発売した。アルミ・チタンプレートに3/8-16インチネジやスパイク用ネジ穴を配しており、設置場所に応じてスパイクで調整をすることで機材をホールドする。ウルトラは付属のシンチストラップで柱などへの固定も可能。

▶銀一 platypod マックス

◎発売日：2018年5月18日 ◎実務価格：16,000円前後

● 外形寸法（W×H×L）：約13.1×0.5×19.3 mm
● 耐荷重：135kg

参考URL
https://www.ginichi.com/





マックス（左）は一眼レフ、ウルトラ（右）はミラーレスやコンパクトカメラに向く

編集部 耳より情報

デジカメ関連の新情報はこのほかにもまだまだ紹介しきれないほど発表されている。
ここではその中から、特に耳よりな情報をピックアップしてお届けしよう。

欧州のカメラ誌編集者・記者らがベスト製品を選ぶ TIPA主催のアワードで受賞製品が決定

●発表日：2018年4月23日

欧州のカメラ・ビデオ専門誌の団体であるTIPAは、「TIPA World Awards 2018」の受賞製品を発表した。この賞は、毎年4月1日から翌年の3月28日までに発表された写真・映像関連製品の中から、部門ごとに最優秀な製品を選出するもので、本年で28回を迎える。賞の選定には、世界の主要な写真・映像関連専門誌の編集者が参加した。



BEST DSLR PROFESSIONAL
◀ニコン
D850



BEST DSLR PRIME LENS
▶キヤノン
EF85mm F/1.4L IS USM

参考URL
http://www.tipa.com/

αシリーズを購入してキャッシュバック α7 II/α7R IIとレンズを合わせて最大30,000円

●購入対象期間：4月13日～6月17日
（α6500高倍率ズームレンズキットのみ、予約販売受付開始日の4月10日～）
●申込締切：7月2日 午前10:00

ソニーは、α7 II、α7R II、α6500やレンズキット、レンズの購入者を対象とする「αスタートアップキャンペーン」を開始した。内容は、期間内に下記の対象製品を購入したユーザーに対して最大30,000円のキャッシュバックを行うというもの。応募方法は、まずキャンペーンサイトで申込手続きをした上で、専用の応募封筒で必要書類を送付する。

●30,000円 キャッシュバック対象製品
α7R II + Vario-Tessar T* FE 24-70mm F4 ZA OSS
α7 II+ Vario-Tessar T* FE 24-70mm F4 ZA OSS

●10,000円 キャッシュバック対象製品
α7 IIズームレンズキット
α6500高倍率ズームキット
α6500ボディ
FE 12-24mm F4 G
FE 70-200mm F4 G OSS
FE 70-300mm F4.5-5.6 G OSS
FE 90mm F2.8 Macro G OSS
Vario-Tessar T* FE 16-35mm F4 ZA OSS
Distagon T* FE 35mm F1.4 ZA
Planar T* FE 50mm F1.4 ZA
Sonnar T* FE 55mm F1.8 ZA

参考URL
https://www.sony.jp/

E-PL9など4機種のユーザー向けキャンペーン 75-300mm・30mmマクロ購入でキャッシュバック

●購入対象期間：2018年4月24日～7月31日
●申込締切：2018年8月22日 午前11:00

オリンパスは、同社製カメラの登録ユーザーを対象としたキャンペーンを開始した。内容は、カメラを既に購入・登録しているユーザーが期間内に「M.ZUIKO DIGITAL ED 75-300mm F4.8-6.7 II」を購入した場合5,000円、「同 ED30mm F3.5 Macro」なら3,000円のキャッシュバックを行うというもの。応募は1人1回までなので、両者を購入した場合は同時に応募が必要。

対象カメラボディ
E-PL8 E-PL9 E-M10 Mark II
E-M10 Mark III



▲OM-D E-M10 Mark III

参考URL
https://www.olympus-imaging.jp/

タムロン主催の鉄道フォトコンテストが今年も開催 一般参加の他別部門で小・中・高校生も参加可能

●応募期間：2018年5月1日～8月24日（当日消印有効）

タムロンは、「第11回 タムロン鉄道風景コンテスト」への参加作品受付を開始した。部門は「一般の部」と「小・中・高校生の部」を用意。各部門で大賞（1名）、準大賞（3名）、審査員特別賞（3名）、入選（15名）、佳作（20名）が選ばれる。また、全応募作品から「ユーモアフォト賞」「車両写真賞」「タムロン賞」が1作品ずつ選出される。



▲第10回 一般の部 大賞「時の流れに」竹端 榮

参考URL http://www.tamron.co.jp/

アマチュア写真家を対象としたコンテストが開催 風景やポートレートなどの計7部門が応募対象

●募集期間：2018年5月1日～8月31日 ●結果発表：2018年11月20日

キヤノンマーケティングジャパンは、国内アマチュア写真家を対象とした「第52回 キヤノンフォトコンテスト」への参加作品受付を開始した。部門は「自由」「風景」「スポーツ」「乗り物」「生きもの」「ポートレート」「アンダー30」の7部門。各部門でゴールド賞、シルバー賞、ブロンズ賞、佳作を選ぶとともに全作品からグランプリを選出する。



参考URL http://canon.jp/

G Masterレンズの購入者先着1,000名が対象 レンズキャップケースがもらえるキャンペーン

●購入対象期間：2018年4月13日～6月17日
●申込締切：2018年7月2日 午前10:00

ソニーは、G Masterレンズの購入者を対象としたキャンペーンを開始した。内容は、対象レンズを購入し、キャンペーンに応募したユーザー先着1,000名に、G Masterロゴの刻印が入ったレンズキャップケースをプレゼントするというもの。応募はソニーのWebサイトにあるキャンペーン特設ページのみで、電話や郵送などでの受付は行わない。

対象レンズ
FE 16-35mm F2.8 GM
FE 24-70mm F2.8 GM
FE 70-200mm F2.8 GM OSS
FE 100-400mm F4.5-5.6 GM OSS
FE 85mm F1.4 GM
FE 100mm F2.8 STF GM OSS

参考URL https://www.sony.jp/

都内のギャラリーで東京写真月間2018が開始 「食と農」や「スリランカ」を題材として発信する

●イベント開始：2018年4月28日

日本写真協会は「東京写真月間2018」のイベントスケジュールを発表した。今年の国内展は「農業文化を支える人々 -土と共に-」をテーマに、食と農の関係を写真家の視点で表現した写真展を開催。国際展「アジアの写真家たち 2018 スリランカ」ではスリランカの写真家15名による風物、伝統文化、人々の暮らしぶりが4ヶ所のギャラリーで展示される。

参考URL http://fujifilm.jp/

富士フイルム製品の点検サービスがスタート 各部清掃や点検などのトータルメンテナンスを実施

●サービス開始：2018年4月28日

富士フイルムは、デジタルカメラ製品を対象とした新点検サービス「Xメンテナンス」を開始した。カメラやレンズの内外清掃、各部動作点検、ファームアップなど総合的なメンテナンスを行うサービス。これに伴い、従来のセンサー清掃やクリーニングチケットの販売は終了する。サービス受付は東京、大阪、福岡のサービスステーションで行われる。

サービス料金
●カメラボディ
GFXシリーズ 3,000円
Xシリーズ 2,000円
●交換レンズ
Gマウント 1,000円
Xマウント 700円

参考URL http://fujifilm.jp/

遊んで覚える写真の効果

構図かるた

かるた形式で構図のパターンを勉強しましょう。表が読み札、裏はその構図で撮影した写真を紹介。読み札からどんな構図を組み立てたら良いかを想像して遊びましょう。

ら

螺旋模様
中心ずらし
内へ引き込む

山本春花

を

追いかける
視線の先には
岩木山

山梨勝弘

わ

分かり良く
主題にするのは
映り込み

萩原俊哉

ん

ん？ 見てる？
斜めに切って
のぞき効果

木村琢磨

【デクレッシェンド構図】桜の木がだんだん小さくなっていくようアングルを調整。その先に岩木山を配置している。山に注目させる効果がある

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF24-105mm F4L IS USM／85mm／絞り優先AE(F16、1/15秒、+0.7EV)／ISO 100／WB：オート

【螺旋構図】螺旋階段の中心をあえて画面中心からずらして階段の様子が見えるようにし、強烈に引き込まれる効果を狙った

パナソニック LUMIX G9 PRO／LUMIX G VARIO 12-60mm / F3.5-5.6 ASPH. / POWER O.I.S.／12mm(24mm相当)／絞り優先AE(F2.8、1/40秒、±0EV)／ISO 800／WB：オート









【隠し構図】あえて、猫の顔の一部が隠れているときに撮影。顔を隠しているブルーシートを斜めにすると、柔らかさとかわいらしさを演出できる

オリンパス OM-D E-M1 MarkⅡ／M.ZUIKO DIGITAL ED 40-150mm F2.8 PRO／210mm(420mm相当)／マニュアル露出(F4、1/200秒)／ISO 200／WB：晴天

【映り込み構図】緑の映り込みと、小さな水草の映り込みが2つの世界を作っている。映り込みが主題になるようにその配分を多くしている

ニコン D810／AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR Ⅱ／190mm／絞り優先AE(F2.8、1/60秒、±0EV)／ISO 100／WB：晴天



熱海は歴史あるリゾート地。一時期は廃れていたが、近年人気完全復活。温泉、海の幸、美しい海、レトロな雰囲気の全てを味わえる場所として多くの人が訪れている。新幹線を使わなければ低予算で回れる点もおすすめ



富士フイルム X-T2／ライツ SUMMARIT 50mmF1.5／50mm（75mm相当）／絞り優先AE（F2、1/6,400秒、+0.7EV）／ISO 400／WB：オート

熱海から初島へと向かう観光船と港に戻るモーターボートを秘宝館のある高台から撮影。広い太平洋の中、ほぼ同じ航路を逆方向に進む2隻の船にドラマを感じてシャッターを切った

1万円で行く

鈴木文彦編 クラシックレンズでのぞいた昭和



富士フイルム X-T2／タムロン 135mmF2.8 model CT-135／135mm（202mm相当）／絞り優先AE（F4、1/4,700秒、±0EV）／ ISO 400／ WB：オート

海岸からすぐに切り立った山となる熱海の地形。海側から振り返ると、斜面にそびえる旅館やマンションが目に飛び込んでくる。望遠レンズの圧縮効果でその迫力を表現



『レンズの時間』（玄光社）の編集者兼、写真家として活躍する鈴木文彦は、クラシックレンズに明るい。今回はソニー α7と富士フイルム X-T2を携えて、オールドレンズならではの緩やかな描写を生かしたレトロ探しの旅へ出掛けた。



富士フイルム X-T2／ライツ SUMMARIT 50mmF1.5／50mm（75mm相当）／絞り優先AE（F8、1/300秒、+0.3EV）／ ISO 400／ WB：オート

熱海は干物が名産品だ。商店街を歩いていると至るところで干物作りが行われていた。雲ひとつない晴天だったため、絶好の干物作り日和だったのかもしれない



富士フイルム X-T2／ライツ SUMMARIT 50mmF1.5／50mm（75mm相当）／絞り優先AE（F1.5、1/25,000秒、+0.3EV）／ISO 400／ WB：オート

カモメの餌付けができる遊覧船サンレモ号。開放F値で撮影すればボケに頼らずにドリーミーな表現ができるのがクラシックレンズの強み。熱海とイタリアの港町サンレーモは姉妹都市になっている



富士フイルム X-T2／タムロン 135mmF2.8 model CT-135／135mm（202mm相当）／絞り優先AE（F2.8、1/6,000秒、+0.3EV）／ISO 400／ WB：オート

穏やかな波で人気の熱海サンビーチにはカモメも多く見られる。散策はできる限り荷物を少なくしたい性分だが、望遠レンズを1本持っていって良かったと思えたシーン



熱海で海鮮を食すならばここ、と言うほどの人気店。雰囲気は懐かしの食堂で混み合うため相席が基本だが、店主は気さく&気配り上手で居心地は最高。新鮮なアジ、脂の乗ったマグロなどが米を隠すほど山盛り!!

どこもかしこも洗練され過ぎた今、昭和テイストが色濃く残る熱海は貴重。熱海には幾度か訪れており、レトロな雰囲気と古いライカレンズの描写が見事にマッチし、たくさんのお気に入り写真を残すことができた。今回もクラシックレンズで撮るレトロをテーマにしようと考え、にじみやボケ味が特徴のクセ玉ライカ SUMMARIT 50mmF1.5などのレンズを用意した。

熱海駅からの移動は徒歩。移動速度が遅ければ遅いほどシャッターチャンスが増えるというのが持論で、過去に自転車雑誌で写真の連載をしていたときは「いやいや、自転車と写真の親和性は低いでしょう」と思わなくもなかった（笑）。熱海駅周辺もレトロだが、何本もの川が流れ、その周辺に商店が連なる一帯がオススメの撮影ゾーン。昼食を取った「まさる」もこの区域にある。ここから秘宝

旅のしおり

8:18	9:53	12:10	12:45	14:00	14:30	15:30	16:32	17:40	18:00	19:13	21:42
JR西荻窪駅を出発	JR熱海駅到着、街並みを撮影	「まさる」で海鮮ランチ	サンビーチでビーチ撮影	アタミロープウエイ乗車	熱海秘宝館と熱海城を観光&撮影、JR熱海駅へ徒歩で移動	JR熱海駅到着、伊東駅へ	伊東駅に到着	道の駅 伊東マリンタウンに送迎バスで移動、撮影	道の駅 伊東マリンタウンのシーサイドスパで入浴	JR伊東駅出発	JR西荻窪駅到着


日本屈指の珍スポットである、熱海秘宝館を目指すアタミロープウェイ


熱海秘宝館へ。秘宝館は刺激が強いのでレディーと一緒の際はご注意を


熱海秘宝館付近には観光施設として造られた熱海城も至近。熱海が一望できる


疲れた体はシーサイドスパで癒そう。露天風呂もあり、海風を浴びながら入浴できる

写真旅





ソニー α7／ミノルタ MC W.ROKKOR-HG 35mm F2.8／35mm／絞り優先AE(F4、1/1,250秒、+0.3EV)／ISO 200／ WB：オート

日が傾き出し、歴史を感じさせるバーバーの洒落たデザインの扉を温かく照らす。江戸時代からリゾートとして親しまれた土地だけあり、ハイカラな雰囲気

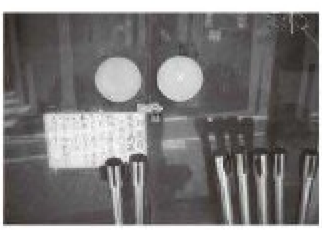


富士フイルム X-T2／ライツ SUMMARIT 50mmF1.5／50mm(75mm相当)／絞り優先AE(F1.5、1/2,500秒、+0.3EV)／ISO 400／ WB：オート

熱海駅に降りたってすぐに目に飛び込んできた喫茶店の看板。やはり昭和レトロに喫茶店は欠かせない存在。フワッとにじんだように写るズマリットで撮れば記憶の中の風景のよう

ソニー α7／ライツ SUMMARIT 50mmF1.5／50mm ／絞り優先AE(F5.6、1/400秒、+0.7EV)／ISO 200／ WB：オート

スマートボール店の入り口に貼られた心のこもった手書きの閉店のあいさつにグッときた。浴衣でスマートボールを楽しむ人々と店主のやり取りがふっと目に浮かぶようだった

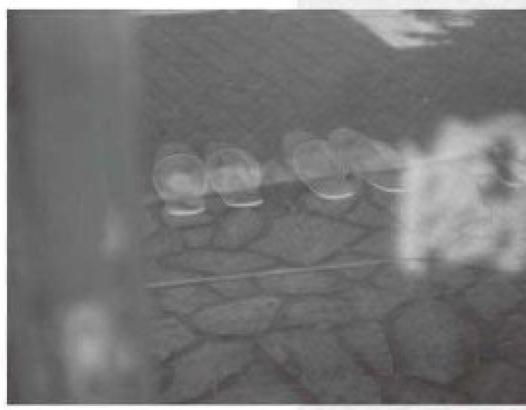



ソニー α7／ミノルタ MC W.ROKKOR-HG 35mm F2.8／35mm ／絞り優先AE(F5.6、1/1,000秒、+0.7EV)／ISO 200／ WB：オート

アタミロープウェイ乗り場の付近は漁港のような雰囲気。地魚を味わうことができる懐かしい佇まいの食堂が軒を並べる。35mm画角のレンズ＋フルサイズで広めに撮影した

富士フイルム X-T2／ライツ SUMMARIT 50mmF1.5／50mm(75mm相当)／絞り優先AE(F1.5、1/450秒、±0EV)／ISO 400／WB：オート

ノスタルジックな雰囲気の小さな旅館の入り口に並べられたスリッパをガラス戸越しに撮影。数時間後に訪れるであろう宿泊客を待っているかのようでかわいいと感じた



館までは、海沿いの散策だ。カモメの大群、初島行き客船ターミナル、廃旅館など目まぐるしく被写体がやって来るのでこれまた楽しい。そしてレトロなロープウェイに乗り主要目的地の秘宝館に到着した。内部を掲載できないのは残念だが、まあかなりエロい（笑）。秘宝館に行ったことがない方は、話のネタとしてかなり重要だと思うので、ぜひ一度は足を運んでいただきたい。

熱海駅に徒歩で戻り、伊東駅を目指す。実は最終目的地はサンハトヤの「海底温泉」に設定していたのだ。しかし、ここで大失態！日帰り入浴の受付時間を過ぎていたのだ……。1日歩き回ったのは温泉で疲れを取ってから帰る予定にしていたので、もう体力は残っていない。ヨレヨレになって歩いていると、温泉の文字が！ 送迎バスに乗って伊東マリンタウンの温泉に浸かり、帰路に着いた。

旅の明細

交通費	電車賃 西荻窪⇔伊東 往復	4,500円
	タクシー代	
	道の駅 伊東マリンタウン→伊東駅	860円
	アタミロープウェイ	600円
食事	まさるAランチ	2,000円
	おやつ	450円
シーサイドスパ入浴料、タオル代		1,310円
合計		9,760円



「巡り巡る」 曳地正刀（福島県）

カメラ：キヤノン EOS 6D　レンズ：シグマ 12-24mm F4.5-5.6 EX DG ASPHERICAL HSM

星の軌跡と神社の鳥居を組み合わせた写真。神社の鳥居という歴史と人の営みを感じられる被写体と長大な時を経てもなお空を巡り続ける星々の軌跡を組み合わせたことで、悠久の時を感じられる1枚に仕上がっています



「東京流星群」

飯塚亮介（埼玉県）

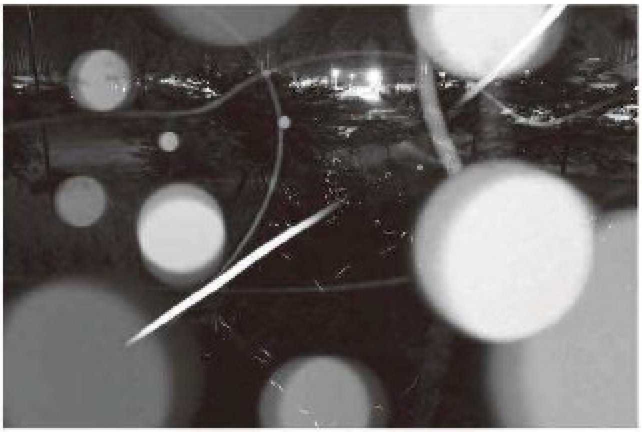
カメラ：キヤノン EOS 7D Mark Ⅱ
レンズ：EF-S10-18mm F4.5-5.6 IS STM

東京タワーを中心に据えて露光間ズームを行った写真。東京タワーから光があふれ出しているかのように想像させられる、エネルギッシュな東京の夜を感じられる写真です

「蛍雨（ほたるあめ）」 田村祐二（滋賀県）

カメラ：ニコン D500　レンズ：AF-S DX Zoom-Nikkor 17-55mm f/2.8G IF-ED

蛍の光を比較明合成することで作り上げた写真。玉ボケと光の筋を組み合わせていることで、蛍のすむ世界に誘われるようなイメージが作り上げられています

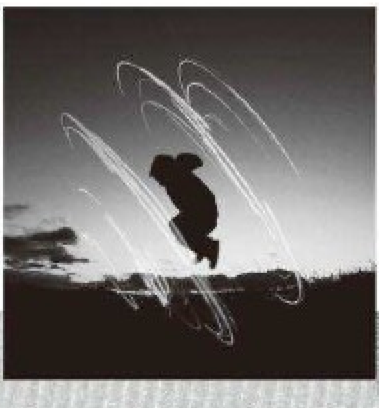


「loop the loop」

藤元麻未（岡山県）

カメラ：ソニー NEX-5R
レンズ：Vario-Sonnar T* 16-35mm F2.8 ZA SSM Ⅱ

円を描くように作った光跡と、ジャンプする子どものシルエットを多重露光で組み合わせた写真。アニメーションの演出が加わったような躍動感にあふれています



「近未来を駆ける」 布施 剛（東京都）

カメラ：キヤノン EOS 6D
レンズ：タムロン SP AF10-24mm F/3.5-4.5 Di Ⅱ LD Aspherical [IF]

高層ビル群の合間を駆け抜けるゆりかもめを流し撮りで捉えた1枚。ビルの窓明かりが筋となって流れて写ることで、都会的な夜のイメージが強く引き立っています



お題を決めて
みんなで撮る！

個性派

技術や作品性の高さを競うフォトコンテストとはひと味違うアイデアやシャッターチャンスを生かした写真のコンテスト。毎号お題を決めて募集します。撮影技術は問いません。楽しみながら撮影して、どしどしご応募ください！



「妖しい煙が蚊を誘う」

小野 真（埼玉県）

カメラ：リコー PENTAX K20D
レンズ：DA18-55mmF3.5-5.6AL

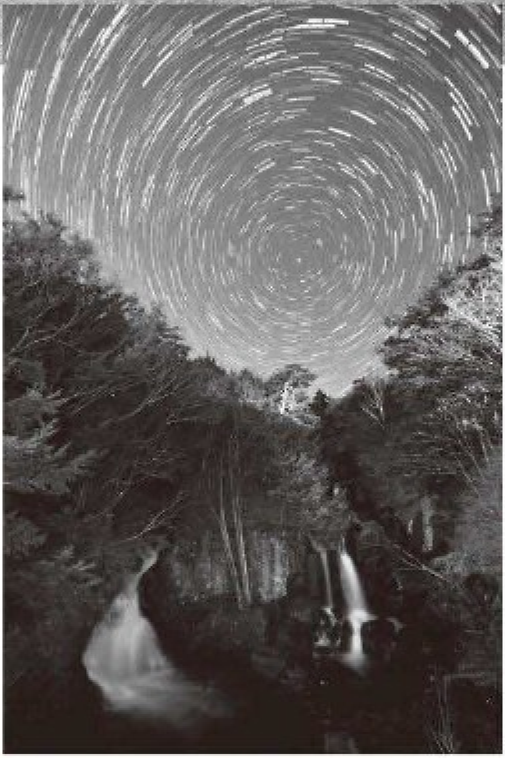
蚊取り線香から立ち上る煙にLED可変光を当てることで、色とりどりの光を見せるというアイデアが光る写真。背景を暗く落としていることで、怪しげなイメージが際立っています



「Night Stream」 佐藤達彦（大阪府）

カメラ：ソニー α7S
レンズ：コシナ ULTRA WIDE HELIAR 12mm F5.6 Aspherical Ⅱ

台湾で撮影したという夜景写真。広角パースで際立つ繁体字の道路標識に光跡が加わったことでにぎやかさが加わり、アジアの夜のイメージが強く想起される写真に仕上がっています



「星グルの滝」

宍戸明博（千葉県）

カメラ：ニコン D500
レンズ：トキナー AT-X 116 PRO DX Ⅱ

奥日光の滝を北極星を中心とした星の軌跡とともに撮影した写真。とうとうと流れる滝と夜空を巡る星の動きによって、幻想的な夜の世界が描かれています

2018.6 写真展

今月号のお題は「光跡」

流れる光を捉えた「光跡」が今月のお題です。色とりどりのさまざまな光源の動きをスローシャッターで捉えた幻想的な写真が集まりました。

「幻影カメラマン♪」

キリン（大阪府）

カメラ：ニコン D7200
レンズ：トキナー AT-X 107 DX Fisheye

人物のシルエットの頭上に写るのは飛行機による光跡。飛行機本体は写さず光跡を流星のように見立てていることで、ドラマチックな夜のイメージが作り上げられています





「曲線光跡」 こばやし まさ（京都府）

カメラ：オリンパス OM-D E-M10 レンズ：M.ZUIKO DIGITAL 14-42mm F3.5-5.6 Ⅱ R

観覧車と車の光跡を組み合わせた1枚。光跡写真は画面が騒がしくなりがちですが、止まった観覧車と光跡がうまく分離していて両者が引き立っています

8月号のお題は「鉄道」

8月号のお題は「鉄道」です。乗り物としてかっこよく撮ったもの、美しい風景と組み合わせたものなど、作品の方向性は問いません。鉄道を被写体とした写真を募集します。



募集期間：5月19日～6月10日

応募要項

● **商品**
Amazonギフト券1,080円分

● **応募方法**
写真共有SNSサイトGANREFからインターネットを通じて応募いただけます。

GANREF
https://ganref.jp/photo_contests

掲載する場合、事前にご連絡はいたしません。あらかじめご了承ください。Amazonギフト券はEメールタイプとなり、GANREFに登録されたメールアドレスに発送いたします。発送は掲載号の発売日から40日以内をめどに行います。

2018年度 フォトコンテスト 応募要項

2018年 3月選考〜 2019年 2月選考

2018年度のデジタルカメラマガジンフォトコンテストでは、3つの常設部門と、特集・季節に連動した企画部門を開催します。

応募期間

※応募締切・開始時間は当日昼12:00です
※GANREFでの入賞発表は各号の発売日昼12:00、事前の入賞連絡はありません

常設部門

デジタルフォト部門

2018年8月号選考　**2018年5月11日〜2018年6月11日**
2018年9月号選考　**2018年6月11日〜2018年7月11日**

組写真部門

2018年9月号選考　**2018年5月11日〜2018年7月11日**

プリント部門 ※公開審査実施中(次ページ参照)

2018年8月号選考　**2018年4月11日〜2018年6月11日**
2018年10月号選考　**2018年6月11日〜2018年8月11日**

企画部門

2018年の桜フォトコンテスト

2019年春掲載　**2018年3月20日〜2018年7月20日**

個性派写真展(お題:「鉄道」)

2018年8月号選考　**2018年5月19日〜2018年6月10日**



デジタルフォト部門

選考　毎号掲載

選者:高砂淳二氏

デジタルカメラで撮影された画像データ。カラー、モノクロは問いません。



組写真部門

選考　奇数月掲載

選者:小林紀晴氏

デジタルカメラまたは銀塩カメラで撮影された画像データ。複数枚の組写真。カラー、モノクロは問いません。



プリント部門

選考　偶数月掲載

選者:岡嶋和幸氏

デジタルカメラまたは銀塩カメラで撮影された、A3ノビサイズまでのプリント作品。カラー、モノクロ、出力機、用紙は問いません。

※GANREF応募ページに掲載の「応募票」をプリント作品の裏面に貼り付けて郵送してください
※作品保護のため1枚ずつスリーブに入れてください

賞金・賞品について

◎常設部門、企画部門

- 優秀賞:3万円　● 準優秀賞:1万円
- 入選:Amazonギフト券5,000円分　● 佳作:Amazonギフト券1,080円分

◎個性派写真展　● 採用作品:Amazonギフト券1,080円分

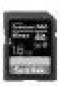
※入賞者にはGANREF経由で振込先・送信先についてのメールをお送りいたします。3カ月間振込先の返信、Amazonギフト券登録をいただけない場合、賞金・賞品をお渡しできない場合があります。賞金振込および送信は掲載号の発売日から約40日以内をめどに処理しています。

副賞について

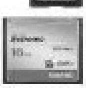
下記の部門の優秀賞受賞者にはメーカー協賛のもと以下の景品を贈呈します

◎デジタルフォト部門

エクストリーム プロ SDHCカード16GB



エクストリーム CFカード16GB



※使用機種によってどちらかを贈呈
提供:サンディスク株式会社

◎組写真部門

NEXTメッセンジャーII(グレー)+LUMI LEDライト 550 lux MUSE セット



提供:マンフロット株式会社

◎プリント部門

アウトドアプロダクツ カメラデイパック01 ブラック



提供:ハクバ写真産業株式会社

常設部門のポイント制および年間賞

◎デジタルフォト部門／組写真部門／プリント部門

フォトコンポイントは部門ごとに集計され、各入賞者(同一の投稿ネームに限る)に加算されます(ポイント数は優秀賞=4、準優秀賞=3、入選=2、佳作=1)。各部門の年間でもっともフォトコンポイントの多い方を、年間最優秀賞として2019年3月号で発表。その後、特別ギャラリーにて作品を掲載いたします。企画部門のポイントはありません。

応募規定(共通)

- デジタルフォト部門はデジタルカメラ(スマートフォンなどのモバイル機器を含む)で撮影した写真に限ります。組写真部門とプリント部門は銀塩カメラによる作品も投稿可能です。
- 応募作品は応募者本人が撮影し、著作権を持っている写真に限ります。
- 一般に公募されている雑誌、Web、企業や団体主催のコンテストとの二重投稿や類似作品の応募はご遠慮ください。他コンテストでの落選が確定した作品、応募者本人のWebまたはSNSのMyページなどで公表した作品の投稿は可能です。
- 1部門につき10点までご応募いただけます。ただし同一作品は1部門のみへの投稿に限ります。また、同じ号の同じ部門での入賞はひとり1賞までになります。
- 審査は選者と編集部が行います。
- 応募点数は、GANREFのシステム上の制限に沿います。
- **優秀賞の場合、誌面に大きく掲載されることになります。その際、リサイズ前の大きなデータの発送を編集部からメールにてお願いすることがあります。作品のオリジナルデータはなるべく保存しておいてください。**
- プリント部門において、プリント作品の取り扱いには十分注意しますが、万一の事故(紛失、破損など)について主催者はいっさい責任を負いません。
- プリント部門において応募された**プリント作品の返却は行っておりません。**
- **応募作品の著作権は、応募者(撮影者)に帰属します。**
- 被写体の肖像権、著作権などには十分に注意してください。応募者の責任ですべての問題を解決したうえで応募してください。
- **入賞作品について、応募者は、当社のデジタルカメラマガジン記事等出版物、ホームページ、広告、宣伝などで使用する著作権法上の権利について、国内外を問わず、非独占的に使用を当社に許諾するものとし、著作者人格権を行使しないものとします。**
- 応募規定に違反した場合は入賞を取り消すことがあります。
- 審査結果についての問い合わせにはお答えできません。
- 応募された作品は添削の対象となる場合があります。
- 掲載する際は、名前、都道府県名などの情報を掲載します。
- 誌面掲載時の名前はGANREFの表示名とは別に設定できます。ただし、年度内で投稿ネームを変更した場合は合算されません。
- 投稿ネームは、商標や特定の個人の権利を侵害しないものにしてください。
- 人(実在の人物であるか否かを問わず、マンガ、アニメ等のキャラクターを含む)の裸体(性器・アンダーヘア・女性のバストトップなど)を撮影、描写した写真や、暴力的なシーンを撮影、描写した写真は応募できません。
- **本応募要項は、デジタルカメラマガジン誌上で行われた過去のフォトコンテストすべてに適用いたします。不明な点は、GANREF(https://ganref.jp/)の「お問い合わせ」フォームからお問い合わせください。**

GANREF

応募はすべて本誌連動Webサイト「GANREF」から行います

https://ganref.jp/

⚠ **応募規定違反の作品は審査の対象になりません。応募前にしっかり確認をして、どしどしご応募ください。**

2018年度フォトコンテスト プリント部門について

プリント部門　投稿の手順

プリント部門の作品の郵送締め切りは偶数月の10日(必着)となります。その日が土日祝日の場合は、その前に編集部に到着するように郵送してください。

1. GANREF(https://ganref.jp/)の「コンテスト」からコンテスト名を選び、応募規定をご確認後、応募手続きを行います。GANREF登録がない場合この作業は不要です
2. 応募規定に登録されている「応募票」をダウンロードしてプリントし、必要事項を記入します。GANREFを介さない場合は下記URLから直接応募票を入手してください
3. プリントした作品の裏面に記入した応募票を貼り付け、郵送にてお送りください

郵送先

〒101-0051　東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
株式会社インプレス　デジタルカメラマガジン編集部
「フォトコンテスト応募係 プリント部門」

応募票ダウンロード

https://ganref.jp/oubo

フォトコンテスト 2018年度累計ポイント

デジタルカメラマガジン フォトコンテストの各部門ごとに、作者の累計ポイントを発表します。左ページの応募要項をご参照いただき、皆さまの自信作をぜひご応募ください。

2018年度フォトコンテスト累計ポイント結果（2018年6月号）

デジタルフォト部門（6月号現在、敬称略）

順位	氏名	都道府県	今月のポイント	トータルポイント
1	鈴木啓久<KC>	神奈川県	2	7
2	大久保克剛	北海道		6
3	本田厚子	栃木県		4
3	北野信男	岐阜県		4
3	角田恒雄<NEONEO>	滋賀県		4
3	小山 隆	大阪府	4	4
3	キリン	大阪府	3	4
3	五月女英美	岡山県		4
9	沢目和仁	埼玉県		3
9	ひろし	埼玉県	3	3
9	菊間利幸<Goro>	千葉県		3
9	JUNA	東京都		3
9	根本 勉	東京都		3
9	日夏葉月	東京都		3
9	岸田 緑<fantasia>	兵庫県		3
16	五條芳喜	茨城県	2	2
16	入 敏明	埼玉県	2	2
16	駒村優宇	千葉県		2
16	小向朋惠	東京都	1	2
16	北村謙三<dareya>	石川県	1	2
16	向 篤史<Arts@Kamui>	愛知県		2
16	田村裕二	滋賀県	1	2
16	嶋村賢二	京都府		2
16	kochan	大阪府		2
16	佐藤達彦	大阪府	2	2
16	吉井健一<ken-1>	大阪府		2
16	光mandara	大阪府	2	2
16	熊谷敬義	兵庫県		2
16	松井義徳	奈良県	1	2
16	俵山良太	岡山県		2
16	井上明	福岡県		2
16	野口重吉<カスタム命>	福岡県		2
16	森山満隆	長崎県		2
34	荒井 進<susumu>	北海道	1	1
34	笠島英雄<Syaraku>	北海道	1	1
34	青山秀行	北海道		1
34	亀田晃幸	北海道		1
34	田中 勇<isam>	栃木県	1	1
34	石澤隆男	栃木県	1	1
34	isyota	群馬県	1	1
34	momo-taro<You. Tomi.>	埼玉県		1
34	藤井愉三	千葉県	1	1
34	雑賀節子	千葉県		1
34	篠田隆宏	千葉県		1
34	Blackstreet - Atsuya Harukawa	東京都		1
34	Kata	東京都	1	1
34	momozou	東京都		1
34	深澤 裕	東京都		1
34	スズキヒロマサ	東京都		1
34	布施 剛	東京都	1	1
34	中川隆志	東京都		1
34	根岸直人	東京都		1
34	松岡光星	東京都		1
34	村田文衛	東京都		1
34	長塚信一	神奈川県	1	1
34	JYO	神奈川県		1
34	パブ	神奈川県		1
34	山本桂士	神奈川県		1
34	河村周二	新潟県		1
34	増田 寛	長野県		1
34	momonga_papa	岐阜県		1
34	杉風（さんぷう）	三重県		1
34	角田和子<wakowako>	滋賀県		1
34	如月 增	京都府		1
34	五田博一	京都府		1
34	田中雅之	京都府		1
34	西 正幸<デジカメ自由人>	京都府		1
34	心利	大阪府	1	1
34	清末裕三	大阪府		1
34	中村 勲	大阪府		1
34	西川 浩	大阪府		1
34	板野明子	兵庫県		1
34	本蔵川貞喜	岡山県	1	1
34	藤元 麻未	岡山県		1
34	ムラカミイズミ	広島県		1
34	松尾研一	愛媛県		1
34	松本貴司	福岡県		1
34	田上 徹	熊本県		1
34	有村 聡	鹿児島県		1

組写真部門（6月号現在、敬称略）

順位	氏名	都道府県	今月のポイント	トータルポイント
1	宮崎勝安	神奈川県		4
1	光mandara	大阪府		4
3	大久保克剛	北海道		3
3	榎木圭介	大阪府		3
3	隈崎勇夫	鹿児島県		3
6	林 祐也	北海道		2
6	パブ	神奈川県		2
6	北村謙三<dareya>	石川県		2
6	村松克則<えふ5.6>	静岡県		2
10	seinin	埼玉県		1
10	荻野 豊	埼玉県		1
10	角田恒雄<NEONEO>	滋賀県		1
10	如月 增	京都府		1
10	**	大阪府		1
10	長尾昌弘	大阪府		1
10	井上robert雄	大分県		1

プリント部門（6月号現在、敬称略）

順位	氏名	都道府県	今月のポイント	トータルポイント
1	大久保克剛	北海道	2	5
1	岩本栄子	徳島県	4	5
3	鈴木啓久<KC>	神奈川県		4
3	中本則昭	兵庫県	2	4
5	石川人史	愛知県	2	3
5	吉井亜美佳	大阪府	3	3
7	本田厚子	栃木県	1	2
7	多久善雄	東京都		2
7	Fallen Angel	神奈川県		2
7	パブ	神奈川県		2
7	円山 寛	神奈川県		2
7	宮崎勝安	神奈川県	2	2
7	角田恒雄<NEONEO>	滋賀県	1	2
7	キリン	大阪府	2	2
15	林 祐也	北海道		1
15	斉藤弘昌	東京都		1
15	今井保一<iman>	新潟県	1	1
15	嶋谷泰敏	三重県	1	1
15	谷村友紀<yukicyo>	京都府	1	1
15	吉井健一<ken-1>	大阪府		1
15	西川 浩	大阪府	1	1
15	冨永貴則<takabo>	兵庫県		1
15	prego	兵庫県	1	1
15	井上穂雄	大分県	1	1

フォトコンテスト プリント部門 公開審査実施中！

当日持ち込み可！ 「インプレス・フォトスクール 神保町写真教室」で選考過程を間近で！

本誌に偶数月掲載中のフォトコンテスト「プリント部門」では、公開審査を実施しています。会場は、「インプレス・ フォトスクール神保町写真教室」。当日持ち込みでの応募も可能です。選考の現場を間近で見られるチャンス！ 事前申込みは不要です。ぜひご参加ください。

2018年8月号掲載分

日時：2018年6月16日（土） 13:30～15:30
会場：株式会社インプレス 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング（23階セミナールーム）
※13:00開場。参加希望の方は神保町三井ビルディング1Fで担当者にお声がけください

参加費：無料　　選考：岡嶋和幸氏





写真は公開審査の様子。選考はプリント部門選者の岡嶋和幸氏です

自分の個性を生かした写真表現ができる、おとなのための写真教室「インプレス・フォトスクール神保町写真教室」の講座内容やお申し込みの詳細はこちら

impress PHOTO SCHOOL

https://school.ganref.jp/



ヨドバシカメラ
名物バイヤー
阿部淳一が厳選!!

今が旬のカメラグッズ

最終回



写真撮影がもっと楽しくなりますよ!!

文●編集部

蒸れにくくてカメラの操作がしやすいレインカバー

ハクバ写真産業

セーフテック カメラ レインカバープロ

▶PRICE

ヨドバシカメラ
販売価格

6,240円
（624ポイント還元）

▶SPECIFICATION

対応レンズ最大長：
全長350mm（フードを含む）
対応レンズ最大径：
直径110mm（フードを含む）
質量：約120g
素材：70D ナイロンタフタ
（表面撥水加工／裏面防水透湿加工）
カラー：ブラック

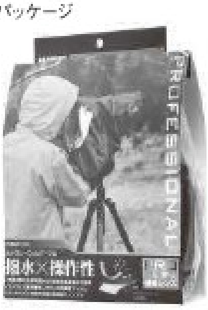


CHECK 透明ウィンドウは見やすく タッチパネルにも対応

カメラの操作は開口部から手を入れて行うが、窓が広くて扱いやすい。透明度が高いので背面モニターの視認がしやすく、タッチパネルにも対応するので、搭載モデルならさらに使いやすいだろう



パッケージ



CHECK 防水性と透湿性を両立して 蒸れにくく内部が曇りにくい

従来のレインカバーは蒸れて内部が曇ることが多かったが、セーフテックカメラレインカバープロにはナイロン生地の裏面に「防水透湿加工」が施され透湿性を高めている。表面は「撥水加工」で防水性が高く、蒸れにくく濡れにくい仕様となっている



CHECK 開口部分が大きくて 縦位置で撮影しやすい

撮影は当然縦位置で行うこともある。開口部が広く、両サイドに付いているファスナーの位置を調節することで、カメラを90°回転させても雨の侵入を防げる。背面モニターが見やすいように窓の位置を移動する



防水性と透湿性と操作性 3つを兼ね備えた優れモノ

寒さが和らぎ新緑の時期を迎え、ますます撮影が楽しくなる時期だが、暖かくなると雨に見舞われる確率も高まる。「6月には梅雨も控えておりますが、雨だからこそ撮れる写真もあるので、万全の雨対策をして撮影を楽しみましょう」。今回はハクバ写真産業のセーフテックカメラレインカバープロを紹介したい。「カメラ用のレインカバーはこれまでも存在していましたが、従来は湿気で内部が曇ることも多々ありました。今回は高性能な生地を採用することで防水性と透湿性を兼ね備えているのが大きなポイントです」。カバーを付けるとどうしても気になるのがカメラの操作性だが、しっかりと工夫がなされているという。「透明な窓の素材が柔らかく透明度も高いため背面モニターが見やすいです。それに加えて開口部が大きく開くので、縦位置／横位置を変えたり、手を入れてカメラの設定をしたりしやすいです。ファスナーも防水性が高いので安心感があります」。レンズはフードを含めて全長約350mm程度まで対応できるので、大三元レンズは一通りカバーできるだけの余裕がある。特にじっくり撮りたい風景派におすすめの製品だ。



縫い目を塞いで
防水性を高める



防水性の高い
ファスナーを採用



小物を一時保管できる
内側のメッシュポケット



ABE'S SHOOTING

月に「35日」雨が降るとまで言われる屋久島のような場所では万全の雨対策が必要です。雨に濡れて輝くヒメシャラの木はひときわ美しかったです

今売れているカメラや交換レンズはこれだ！

最新 売れ筋カメラ・レンズ通信

今人気のカメラやレンズは何だろう？ 毎月ヨドバシカメラとフジヤカメラに突撃取材を敢行！ 気になる売れ筋情報をランキング形式で紹介する。現在人気の製品がひとめで分かるので、カメラやレンズを購入する際の参考にしていただきたい。

文●編集部

ヨドバシカメラ

取材協力：新宿西口本店 カメラ総合館 東京都西新宿1-16-13桑原ビル1F
担当：阿部淳一さん

新製品 カメラランキング

注目の新製品 EOS Kiss Mが 3位で初登場

順位	動向	製品名	価格
1	STAY	ニコン D850	399,600円
2	STAY	ソニー α7 Ⅲ	248,250円
3	NEW	キヤノン EOS Kiss M ダブルズームキット	119,750円
4	UP	ソニー α7 Ⅲ ズームレンズキット	269,870円
5	STAY	キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ	377,920円
6	STAY	オリンパス OM-D E-M10 Mark Ⅲ EZダブルズームキット	97,100円
7	UP	ソニー α6500	145,160円
8	DOWN	ソニー α7R Ⅲ	399,430円
9	DOWN	キヤノン EOS 6D Mark Ⅱ	210,600円
10	DOWN	ニコン D5600 ダブルズームキット	92,060円

D850が5カ月連続首位をキープ。α7 Ⅲのボディ単体とレンズキットが共に上位に入り、D850の有力な対抗馬として存在感を高めている。「数量ベースではD850を超えていると思います。シグマのマウントコンバーター MC-11を併せて購入する方も多く、こちらも隠れたベストセラーといえるでしょう」。今月の注目は初登場3位のEOS Kiss Mだろう。「Kissブランドの強さをあらためて見せつけていますね」。ボディが8万円を切る価格帯と軽さで、ミラーレスのエントリー層をがっちり押さえている。「秋葉原や梅田といった店舗で好調で、外国人の方が観光のついでに買われるケースもあるようです」。

新製品 レンズランキング

良いレンズが 良いボディと 連動して好調に

順位	動向	製品名	価格
1	UP	ニコン AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR	243,340円
2	UP	ソニー FE 24-70mm F2.8 GM	272,700円
3	UP	ニコン AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR	285,930円
4	DOWN	タムロン 18-400mm F/3.5-6.3 Di Ⅱ VC HLD	74,610円
5	UP	キヤノン EF100-400mm F4.5-5.6L IS Ⅱ USM	253,800円

今月は売れ筋のボディの勢いに連動してレンズが売れるという傾向が見られた。「やはり良いカメラを買ったら良いレンズで撮りたくなるのではないでしょうか。ニコンの24-70mmはずっと品薄になっていますが、D850の効果が大きいと思います。3位の70-200mmも同様です。ソニーの24-70mmもα7R Ⅲとα7 Ⅲという強力なボディに引っ張られているだけでなく、現在品薄となっている24-105mmを待たずに高画質の24-70mmを買われる方もいるようです」。

ヨドバシカメラ 今月の注目はこれ！

写真メインの旅でも気軽に持って行ける超小型のドローン



DJI MAVIC AIR
販売価格 143,330円
（14,333ポイント還元）

最大の魅力は圧倒的な小型ボディです。あくまで写真撮影がメインの旅でも邪魔にならず、本気過ぎないところがポイントです。また、スマートフォンをコントローラーの一部として利用できる点もよく考えられています。飛行時の安定性も高まり、より使いやすく改良されています。

撮像素子：1/2.3型CMOS／有効画素数：1,200万画素／焦点距離：24mm相当／F値：F2.8／最短撮影距離：0.5m／運用限界高度：海抜5,000m／最大飛行時間：21分（無風時）／最大ホバリング時間：20分（無風時）／最大飛行距離：10km（無風時）／動作環境温度：0〜40℃／内部ストレージ：8GB／外形寸法（W×H×D）：約83×49×168mm（収納時）、約184×64×168mm（展開時）／質量：約430g



ヨドバシカメラ
新宿西口本店
カメラ専門チーム
マーケットイノベーター
阿部淳一さん

フジヤカメラ

取材協力：フジヤカメラ 東京都中野区中野5-61-1
担当：北原弘明さん

中古製品 カメラランキング

かつての ハイスペック機が 根強く人気

順位	動向	製品名	価格
1	UP	キヤノン EOS 6D	92,880円
2	UP	キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ	170,640円
3	UP	キヤノン EOS 7D	38,880円
4	DOWN	ソニー α7 Ⅱ	90,720円
5	UP	キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ	72,360円
6	UP	ニコン D300	25,920円
7	UP	ニコン D7100	45,360円
8	UP	ソニー α7R Ⅱ	172,800円
9	UP	富士フイルム X-T1	46,440円
10	UP	ニコン D700	60,480円

※フジヤカメラはボディのみの販売です

今月はキヤノンやニコンの一眼レフが数多くランクインしており、常に人気のあるEOS 6DやEOS 5D Mark Ⅲ、EOS 7Dだけでなく、D300やD700といった少し古いモデルが目立った。「中古市場独特の傾向ですが、多少スペックが劣っても高級機としての良いイメージが購買に結び付いているようです」。一方、ソニーや富士フイルムの人気ミラーレスも手堅くランクイン。「ミラーレスは新製品が出ると前モデルが安くなりやすい傾向がありお買い得です」。新品でも好調だったα7シリーズは中古市場でも活況。新品の最新モデルが欲しい人、中古で安く買い求めたい人の需給バランスが良さそうだ。

中古製品 レンズランキング

競り合いが続く キヤノンと富士の 人気ズーム

順位	動向	製品名	価格
1	UP	キヤノン EF24-105mm F4L IS USM	56,160円
2	DOWN	富士フイルム XF18-55mmF2.8-4 R LM OIS	32,400円
3	UP	ニコン AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED	113,400円
4	UP	オリンパス M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO	56,160円
5	UP	ニコン AF-S NIKKOR 50mm f/1.8G	16,200円

ここ最近、EF24-105mmとXF18-55mmの首位攻防が続く中、今月はEF24-105mmに軍配が上がった。「一時ランク外のときがありましたが、見事に首位に返り咲きました」。注目はニコンの24-70mmで、今回初めてランクインしている。「Eタイプの新品がよく売れているので、Gタイプがずいぶん中古市場に出ているのだと思います」。最近は定番の標準ズームが目立ち、意外性に欠ける面は否めない。今後はクセのあるレンズの登場にも期待したい。

フジヤカメラ 今月の注目はこれ！

高性能を誇る動画用カメラが破格の15万円



ブラックマジックデザイン
Blackmagic Pocket Cinema Camera 4K
フジヤエービック販売価格
（新品）154,835円

撮像素子がマイクロフォーサーズに大型化。DCI 4K記録、広いダイナミックレンジ、デュアルネイティブISO、大型の5インチモニターとなり、デジタル一眼で動画を撮るユーザーにとっては、まさにキラーカメラと言えるモデルです。この仕様で約15万円はかなりお買い得です。

イメージセンサー：M4/3／対応マウント：M4/3／記録メディア：CFast、SD、SDHC、SDXC（UHS-Ⅱ対応）／ダイナミックレンジ：13ストップ／撮影解像度：4,096×2,160（DCI 4K）、3,840×2,160（Ultra HD）、1,920×1,080（HD）／背面モニター：5インチ、1,920×1,080／外形寸法（W×H×D）：約178.1×96.0×85.5mm



フジヤカメラ
営業部
販売課 課長
北原弘明さん

掲載している販売価格は4月末現在の価格（税込）です。店頭販売価格は変動するため、掲載価格と実際の販売価格は違う場合があります。フジヤカメラの中古カメラ・レンズはすべてA（最高）ランクの販売価格です。

写真展最新情報 INFORMATION

メーカーギャラリー

（5月20日〜6月19日）

地域	ギャラリー	会場	展示
札幌	富士フイルムフォトサロン http://www.fujifilm.co.jp/		神野東子「漁〜海と生きる〜」 ペンタックスリコーファミリークラブ札幌支部写真展 フォトてるてる会いっち2「風〜季節がやさしくほほえむ写真展」 サッポロデジタルフォトクラブ作品展 山本治之「ぶな林讃歌 ー美しきぶな林の四季ー」〜6/20
仙台	富士フイルムフォトサロン http://www.fujifilm.co.jp/		富士フイルムフォトコン「日本の文化・地域」 第67回 富士フイルムフォトコンテスト入賞作品発表展「ネイチャーフォト部門・フォトブック部門」 閉館
銀座	キヤノンギャラリー http://canon.jp/		久間昌史「FOOD IS…」 桜井 秀「DRY EARTH―乾地―」 前川貴行「creation:」 島田真希「DAY AFTER DAY 神、人、人、人」 百々 武「もう一つのものづくり -MOTTAINAI ARIGATAI-」〜6/20
銀座	ソニーイメージングギャラリー 銀座 http://www.sony.co.jp/		ボブ・マーティン「Sporting Moment -The Photography of Bob Martin-」 東京写真月間 2018 アジアの写真家たち2018 スリランカ MANA 野元 学「PLANET BONIN ―楽園の記憶―」〜6/21
銀座	ニコンサロン http://www.nikon-image.com/		二川征彦「輝絶耐生」 千葉桜 洋「指先の羅針盤」 下瀬信雄「蛇目舞（ジャメヴ - jamais vu - ）」 関根大樹「反遠近法 <contra-perspective>」 井上尚久「場の知覚 Perception of Place」
銀座	富士フォトギャラリー銀座 http://www.prolab-create.jp/		フォトクラブ偕々／菅生俊雄「入賞した写真達」 第9回 TKフォトクラブ／相良美津子 英国王立写真協会 日本支部／サトウミキ「キミ、何ヲ想フ。」 Photo彩友 第8回／やえす写楽／輝きの瞬間 川島 功／日本風景写真協会埼玉支部 〜6/21
銀座	リコーイメージングスクエア銀座 http://www.ricoh-imaging.co.jp/		飯島幸永「その風土に生き抜く」
新宿	エプソンイメージングギャラリー エプサイト http://www.epson.jp/		久保 誠「海中肖像写真」 山岸 伸・南川あいく「農業女子に会いたい」 大塚和也「Objects」〜6/21
新宿	オリンパスギャラリー http://www.olympus.co.jp/		大木 哲「NOSTALGIA ―イルカの島―」 第45回 寫壇太陽作品展 東京写真月間2018 MOTOKO「田園ドリーム2018」 第37回 オリンパスズイコークラブ東京支部写真展「東京・山手線内側の情景」 薬師洋行／京都・祇園祭「神輿渡御」〜6/20
新宿	ニコンプラザ新宿 THE GALLERY http://www.nikon-image.com/	ギャラリー1	石川直樹「流星の島」 日本写真協会「アジアの写真家たち スリランカ」 石津武史「「俺は負けない!」終の住処で…」 読売写真クラブ「2018 東日本読売写真クラブ連合展」
		ギャラリー2	石川直樹「流星の島」 小谷幸夫「かたちから見えるもの」 野澤正樹「東京メランコリー」 ニッコールクラブ海外撮影ツアー作品展 悠久と微笑み溢れるタイ王国撮影ツアーと、ニコンタイランド工場見学
新宿	リコーイメージングスクエア新宿 http://www.ricoh-imaging.co.jp/	ギャラリーⅠ	森 美夫「残像残心」 川井靖元「山からのメッセージ〜光と風と雪と〜」 太田有美子「by the sea 湘南」〜6/25
		ギャラリーⅡ	ぐらふぃか展 第16回 けんとくらぶ展 川井靖元「山からのメッセージ〜光と風と雪と〜」 太田有美子「by the sea 湘南」〜6/25
品川	キヤノンSタワー キヤノンギャラリー S http://canon.jp/		ルーク・オザワ「JETLINER ZERO GLORIOUS―神業―」 藤井 保「私が見たもの、出会った人」〜7/7
六本木	フジフイルムスクエア http://www.fujifilm.co.jp/	スペース1	日本自然科学写真協会 第39回 SSP展「自然を楽しむ科学の眼 2018-2019」 眞口ヒロミ「蓮華の譜(しらべ)」 東京写真月間2018 日本写真協会賞受賞作品展 第9回 エボーニークラブ展「旬美」 島田直明「手のひらの芸術 カメオ」〜6/21
		スペース2	日本自然科学写真協会 第39回 SSP展「自然を楽しむ科学の眼 2018-2019」 秦 達夫「Rainy Days 屋久島」 山本安志「月山 四季の輝き」 大林隆司「私が観てきた小笠原の自然〜ミクロから宇宙まで〜」 ガイド会 海のシェルパ「ONE DIVE」〜6/21
恵比寿	東京都写真美術館	3F	TOPコレクション「たのしむ、まなぶ」〜8/5
		2F	内藤正敏「異界出現」〜7/16
		B1F	第43回 2018 JPS 日本写真家協会展 世界報道写真展2018 〜8/5
表参道	ピクトリコ ショップ&ギャラリー 表参道 http://www.pictorico.jp/		Lapp 舞台写真株式会社 写真展「〜Love as Photo〜」 junko suzuki「recollections -digital poem-」 東京写真月間2018 網野文絵「撮れたて野菜」
半蔵門	JCIIフォトサロン http://www.jcii-cameramuseum.jp/photosalon/		水谷章人「世界の山と世界の屋根を滑る 1967-2017」 金丸重嶺vs名取洋之助――オリンピック写真合戦 1936 〜7/1
名古屋	キヤノンギャラリー http://canon.jp/		木村芳文「手取川」 岸本 淳「葡萄色 ポルトガル」 伊藤真吾「NO EXCUSE」 久間昌史「FOOD IS…」 桜井 秀「DRY EARTH -乾地-」〜6/20
名古屋	富士フイルムフォトサロン http://www.fujifilm.co.jp/		日本風景写真協会 第15回 愛知第一支部写真展 FUJIFILM Xseries Japan主催 第10回 Xシリーズ写真展 松田マキコ「「vivido」〜 with MASA 〜」 第57回富士フイルムフォトコンテスト入賞作品発表展 第6回 セピアフォトワークショップ展 〜6/21
大阪	オリンパスギャラリー http://www.olympus.co.jp/		OLYMPUS 旅遊写真展「日本各地を行く!私のお気に入りの路線」 大阪写真月間2018：写真家150人の一坪展 井上健一「佐渡」 福田善一「なにはにはへと」〜6/21
大阪	キヤノンギャラリー http://canon.jp/		木村 惠一「車椅子からの…」 葛城和夫「四季の心模様」 大阪写真月間2018 写真家150人の一坪展 木村芳文「手取川」 キヤノンフォトクラブ大阪第2 第11回写真展 〜6/20
大阪	ニコンサロン http://www.nikon-image.com/		鈴木賀武「沼の爺さんの言い伝え」 大西 正「乗換駅」 小林マコト「東京 鋭角地」 佐藤信敏「「つばくろ」みんなの知らないツバメの世界」 二川征彦「輝絶耐生 ― Urban Forest SENDAI 2016-2017―」〜6/20
大阪	ニコンプラザ大阪 THE GALLERY http://www.nikon-image.com/		杉江輝美「海岸物語」 潮田登久子「本の景色 BIBLIOTHECA」 写真家150人の一坪展 ハイスクールフォトアワード 2018 第43回 木村伊兵衛写真賞受賞作品展 小松浩子／藤岡亜弥 〜6/20
大阪	富士フイルムフォトサロン http://www.fujifilm.co.jp/	スペース1	山下いくよ「My memory いしづち」 日本風景写真協会 奈良第二支部 第15回記念写真展「奈良悠々」 大阪写真月間「写真家150人の一坪展」 日本風景写真協会 創立15周年記念選抜展 フォト翔「四季の香り」〜6/21
		スペース2	楽々写真同好会「風景点描」 深田哲弘「花のささやき」 大阪写真月間「写真家150人の一坪展」 日本風景写真協会 創立15周年記念選抜展 第13回アイデム写真コンテスト「はたらくすがた」入選作品展 〜6/21
大阪	リコーイメージングスクエア大阪 http://www.ricoh-imaging.co.jp/		高橋真澄「風景」 写真家150人の一坪展 浅尾拓慶「静寂の森」〜6/25
福岡	富士フイルムフォトサロン http://www.fujifilm.co.jp/		詩季の会「詩季光響」 第16回 西日本写真協会 博多支部「金曜会」作品展 風景写真Award 2017展 福岡展 第10回 Xシリーズ写真展 小田部泰利「SIZEN（あるがまま）」〜6/20

桜井 秀 写真展「DRY EARTH―乾地―」

GALLERY

キヤノンギャラリー銀座／5月24日～5月30日


©桜井 秀

俳優チャールズ・ブロンソンが登場した化粧品CMに触発され、アメリカ中西部に関心を持った桜井 秀。乾き切ったこの広大な土地は、どことなく神聖な雰囲気を醸し出している。ジョン・スタインベックの小説「怒りの葡萄」は、1930年代のこの地方を舞台にした名作だが、新天地のカルフォルニアへと逃れた小作農一家のように、ドラマチックなストーリーに思いを馳せる。本展ではハイコントラストなモノクロ写真を展示する。

山岸 伸・舞川あいく 写真展 東京写真月間2018「農業女子に会いたい」写真展

GALLERY

エプソンイメージングギャラリーエプサイト／5月25日～6月7日



日本写真協会が主催する「東京写真月間」が今年も開催。国内企画展のテーマを「農業文化を支える人々」と題し、全国各地で農業に携わる女性を山岸 伸と舞川あいくが訪ねて撮ったポートレート写真が展示される。現代の農業には、単に作物を育てることだけではなく、豊富なアイデアが求められている。農業で活躍する女性は、新風を吹かせる存在ではなく、もはやその中心にいる人たちだ。

秦 達夫 写真展「Rainy Days 屋久島」

GALLERY

フジフイルムスクエア スペース2／5月25日～5月31日


©秦 達夫

50回以上に渡って渡航し、屋久島の自然を取材し続ける秦 達夫。神秘的な屋久島の森と豊かな生態系は、島独特の気象条件による。降り注ぐ大量の雨は、日本列島に沿う黒潮が噴き上げる、湿った風が生み出す。標高約900mの白谷雲水峡の中には「苔むす森」があり、秦はここへ屋久島の森のイメージを集約した。島の魅力に取り憑かれ、向き合ってきた秦が、その謎を解きほぐしていくかのように1枚1枚を紡ぎ合わせた。

内藤正敏 写真展「異界出現」

GALLERY

東京都写真美術館 2F／5月16日～7月16日

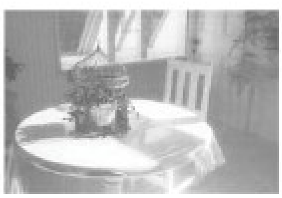

《死者供養をする老婆、恐山》（〈婆バクハツ！〉より） 1969年
ゼラチン・シルバー・プリント
東京都写真美術館蔵

民俗学を究め、どこかミステリアスな写真を発表してきた内藤正敏の世界観が垣間見える写真が一堂に会する。内藤にとって「写真がモノの本質を幻視する呪具であるとすれば、民俗学は見えない世界を視るための"もう一つのカメラ"」だった。独自の写真観のみならず、60年代後半としては実験的な、多重露光やストロボ発光など、技法にも精通した写真は資料的な価値も高い。現実の向こう側を見通そうとした思想と技術は必見だ。

坂崎幸之助 書写真展「ふわっと is this ～ハイキーな一日」

GALLERY

Island Gallery／5月19日～5月28日



デジタルカメラの撮影の楽しさは、自分の思いのままに露出を変えながら、光をコントロールできるところにある。フィルム時代にはよくあった白飛びのような「失敗」は、液晶を見ながら常に調整できるという便利さによって、大幅に少なくなった。しかし、デジタルでは意図的に露出オーバーの世界を表現することも思いのままだ。今回の展示では、ハイキーなイメージの写真で統一し、淡い光に包まれた世界を作り上げた。

松本昭子 写真展「鯨は踊る」

GALLERY

アイデムフォトギャラリー「シリウス」／6月7日～6月13日

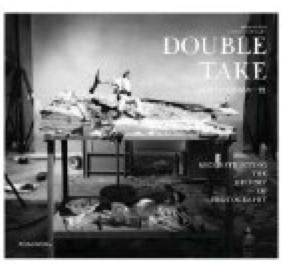


南国・フィジーで経験したダイビングとの出合いを通じて海中の美しさに魅了された松本昭子。写真家Tony Wuの話を聞き、優雅に泳ぐザトウクジラを撮ろうと南太平洋のトンガ王国へ向かった。ザトウクジラの親子が見せてくれた愛らしい姿に感動し、自らもまた回遊するかのように世界各地へと向かい、写真を撮りためてきた。ダイナミックでエレガントな泳ぎが伝わる写真からは、海中に潜り込んだかのような臨場感が味わえる。

DOUBLE TAKE ―再現された世紀の一枚―

BOOK

ヨアキム・コーティス、エイドリアン・ゾンダーレッガー／青幻舎（4,536円）

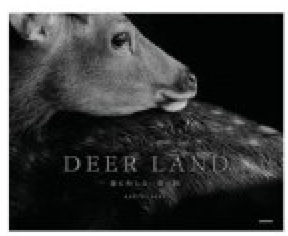


アンリ・カルティエ＝ブレッソン「サン＝ラザール駅裏」、ジョー・ローゼンタール「硫黄島の星条旗」など、誰もが一度は見たことがあるだろう写真史に残る作品を、ジオラマで再現したユニークな写真集。スイスを中心に活動する2人の写真家が、名作が撮影されたその背景にあった真実性と虚構性を、当時の写真を再構築するように問い直していく。写真に隠された「舞台裏」には果たして何があったのか。写真の本質をあぶり出す前衛的な試みに驚かされる。

DEER LAND ―誰も知らない鹿の国―

BOOK

佐藤和斗／青菁社（2,376円）



奈良公園のシンボルであり、春日大社の御使いとして古くから大事に守られてきた鹿は、現在約1,200頭におよぶという。参道や境内でゆったりと過ごしている鹿は、人間の生活と緩やかに交じり合いながらも、彼らだけの世界を構築しているようだ。彼らの個性豊かで微笑ましい光景を写し出した写真は、こっそりと彼らだけの世界をのぞいてしまったかのような感覚にさせてくれる。鹿の意外な一面を見せてくれる1冊は、動物ファンならずとも必見だ。



キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／EF70-200mm F4L IS USM／200mm／絞り優先AE(F8、1/500秒、±0EV)／ISO 800／WB：オート



日本坂道学会会長
山野 勝が暴く

大江戸坂の事件簿

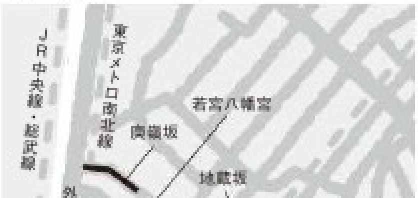
最終回 神楽坂と行元寺境内仇討ちの巻

東京都心部は意外に坂が多い。
今も昔もそこには同じ坂があり、
人々の営みが脈々と受け継がれている。
知らず知らず足を踏み入れたその坂は、
実はかの有名なあの事件の現場だったのだ！
坂道に眠る逸話を思い出しながら、
カメラ片手にスナップもまた一興。

文・山野 勝　写真・郡川正次

事件現場

現代地図



古地図



▲「市ヶ谷牛込絵図」国立国会図書館デジタルアーカイブ

JR飯田橋駅西口を出て牛込橋を渡り、外堀通りを横断すると神楽坂の長い上りになる。早稲田通りの坂で、神楽坂一、二、三丁目を縦断し、左側（南西）にある善国寺 用語解説 まで上っている。江戸時代はもっと急坂だったが、明治13年（1880年）ごろに坂上が掘り下げられたという。『江戸名所図会』の長谷川雪旦画「牛込神楽坂」を見ると、10段ほどの段坂に描かれている。そして、坂下左の町家に続き、市谷四丁目代地の先に高田八幡御旅所、さらにその先に善国寺が詳細に描写されている。

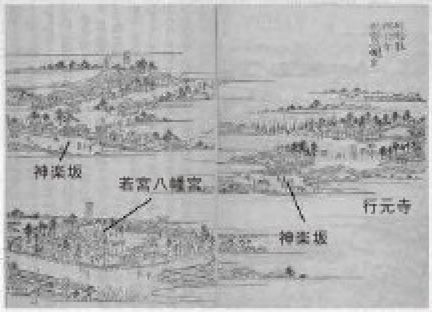
神楽坂の坂名由来には諸説ある。❶坂の途中にあった高田八幡（穴八幡）の御旅所で神楽を奏していたから、❷津久戸明神

山野 勝（やまの まさる）：1943年広島県生まれ。坂道研究家。早稲田大学政経学部新聞学科卒。講談社常務取締役の時に、『タモリのTOKYO坂道美学入門』の企画プロデュースを行う。その後、講談社コミッククリエイト代表取締役社長を経て現在はフリーとなり、朝日カルチャーセンター、NHK文化センターなどの「坂道講座」の講師を務める。日本坂道学会会長（副会長はタモリ氏）。著書に、『江戸と東京の坂』『古地図で歩く江戸と東京の坂』など



▲事件現場（現在）

行元寺跡の一部は現在公園として開放されている。標識には寺内公園の由来が記されているが、冨吉の仇討ちについては記されていない



▲事件現場（当時）

「江戸名所図会」に描かれた行元寺。古地図では「行願寺」となっているが、図会にある通り行元寺の誤りである。当時の文献にはこのような誤表記が多々見られる

（新宿区筑土八幡町2にあった）が田安（千代田区北の丸公園）から移ってきたとき、この坂で神楽を奏したから、❸近くの若宮八幡神社（新宿区若宮町）の神楽が聞こえたから、❹この坂に赤城明神（新宿区赤城元町2）の神楽堂があったからなど、いずれも神楽にちなんだもので、神楽囃子の鉦や太鼓、笛の音がよく聞こえたことに由来している。神楽坂の名は延宝年中（1673〜81年）の地図に記されている。

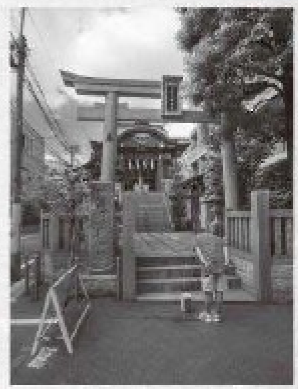
江戸時代、善国寺の先の右側（北東）に行元寺（牛頭山千手院・東叡山末・天台宗）という大きな寺があった。創建は鎌倉時代末期と推定されるという。そして、寛永9年（1632年）、3代将軍家光によって再建され、山手三十三所観音（一番）、江戸三十三所観音参り（十五番）、江戸山ノ手二十八所地蔵尊（十四番）など巡礼コースに組み込まれ、江戸市民の人気の寺だった。

天明3年（1783年）10月8日、行元寺境内で百姓の仇討ちがあった。百姓の仇討ちの初めだという。話は明和4年（1767年）9月15日にさかのぼる。当日は下総（茨城県）相馬郡早尾村（現・北相馬郡利根町）にあった村の氏神・文明大明神の祭りの日だった。早尾村の百姓・庄蔵と、同村の組頭・甚内との間で、酒に酔った上での口論が始まった。その果てに暴力沙汰になって、庄蔵は甚内に手傷を負わされた。庄蔵は怒って訴え出ようとしたが、村役人や寺の住職になだめられ、泣き寝入りをするうち、傷がもとで死亡した。一方の甚内は、詫びとして庄蔵の菩提を弔うために出家させられ、隣村の布川村来見寺に入ったが、5カ月後に寺を飛び出し、江戸へ出て武家奉公をしているという噂があった。

死亡した庄蔵には冨吉という息子がいたが、まだわずか12歳だった。冨吉は復讐を心に誓い、やがて甚内を追って江戸へ出た。江戸表二番町の栂崎（戸賀崎とも）熊太郎道場の下男となり、剣術の修行をした。悲願16年、28歳になっていた冨吉は、天明3年10月8日、仇敵の甚内と神楽坂通りでばったりと出合った。すぐさま立ち合いとなり、冨吉は行元寺の境内に逃げ込んだ甚内を討ち取って、本懐を遂げたのである。甚内は47歳だった。百姓町人の敵討ちは、事前の届け出が受理されず、事後の取り調べにより判定されることになっていた。冨吉も町奉行の裁判を受け、立派な敵討ちと認められ無罪放免となった。後に冨吉は、根来喜内という旗本に100石の禄で召し抱えられ、武士になったという。

その後、文化12年（1815年）、行元寺境内に狂歌師・大田南畝の碑文による石碑が建てられた。事実を公然と書くことは憚られたので、隠語を用いた工夫があった。碑の表には「念彼観音力　還著於本人」（観音経の一部）、裏に「癸卯天明陽月八」（癸卯天明は天明3年、陽月は10月、八は8日を指す。つまり天明3年10月8日）、「二人不戴九人讎」（二と人を合わせて天、九と人で仇となり、天を戴かざる仇は誰かと詠む）、「同有下田十一口」（同の字の下に田を付けると冨、十一口を合わせると吉。つまり冨吉）、「湛乎無水納無絲」（湛に水無くは甚、納に絲無しは内。つまり甚内）と刻まれ、「天を戴かざる仇は誰か、冨吉、甚内」というわけだ。行元寺は明治40年（1907年）に隠語碑とともに品川区西五反田に移転した。行元寺の境内の一部は、現在「寺内公園」になっている。（終）





（上）上図と同じ「江戸名所図会」に描かれた神楽坂。段坂になっており、人々でにぎわっているのが分かる

（右）若宮八幡宮。ここから聞こえた神楽囃子によって神楽坂とされた説もある。現在でも地元の参拝客がよく訪れる

用語解説

□善国寺

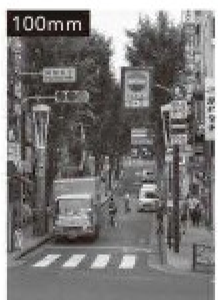
毘沙門天像で知られる善国寺は文禄4年（1595年）、池上本門寺の日惺上人によって現・中央区馬喰町に建立された。火災により、現・千代田区麹町への移転を経て、神楽坂へ移ってきた。麹町に善国寺坂の名を残している

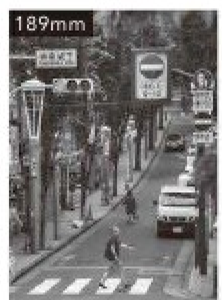
坂道の撮り方

思い切り望遠で切り取るべし！

坂道を撮るときには奥行きまで見せるために少し引いて撮りたいのだが、望遠域の焦点距離でも周辺のごちゃごちゃとした景観が入ってしまうとぼんやりした写真になってしまう。ここは思い切って焦点距離を伸ばし、看板などをぐっと引き寄せて迫力を出そう。

キヤノン EOS 5D Mark II ／ EF70-200mm F4L IS USM ／189mm ／絞り優先AE（F8、1/500秒、±0EV）／ ISO 800 ／ WB：オート





えてきて、まともになるために就いたはずの薬剤師の仕事は、結局30歳手前で辞めた。退職金でボロボロの軽のワンボックスカーを買い、そこで寝泊まりして暮らしながら、行きたくてまだ行けてなかった場所を旅した。詳しくは数えていないが、累計1500カ所以上は珍スポットを巡ったと思う。

「冒頭のまともになりたいというのは一体どこへ消えたのか？」と突っ込まれたら、矛盾しているようだが、これがまたふと我に返って苦しんでしまうのだ。

7年間働いた分の給料のほとんどを旅に注ぎ込んだ。そして何より、20代〜30代という女の人生において一番重要な時期のほとんどを旅に費やしてきた。後悔はしていない。でもときどき、街で同い年くらいの女性とすれ違うとふと思う。こんなにも珍スポットをたくさん知っていても、同年代が好む大人の遊び場のことを私は知らないのだ。こんなにも奇妙なモノをたくさん食べて、こんなにも珍しい店をたくさん訪れても、同年代の人が好むしゃれた料理や接待に使える店などを私は知らないのだ。

ヒラヒラとスカートを揺らしながら歩く美しい女性たち。一方で、ペタペタとビーサンを鳴らしながら歩く私は一体なんなんだ。一体どうしてこんなことをしているのだ。いたたまれなくなって立ち止まり下を向くと、自分の足の甲がビーサンの形にくっきり焼けしているのに気づく。子どもの頃ぶりにできたそのV字型の日焼けを見て、思わず嗤ってしまう。

まともになりたいとずっと望んでいたけれど、結局私は、まともになりきれなかったという訳だ。そして今も、どんどんまともから遠ざかっている。あのまま、まともを装っていれば、まともになりきれていたのだろうか。存在していたかもしれないパラレルな自分を考えると、手に入るかもしれなかった幸せを思って少しだけ感傷的になってしまう。

ビーサンを、ペタペタと鳴らしながら再び歩きだす。それは子どもの頃によく耳にしていた懐かしい音で、なんだかいっそう感傷は進み、すねた子どものようにぽつんとひとり歩く。



「なぜ、そこまでして、旅をするのか？」と問われたら、どうだろう。全ての理由は分からないけれど、1つだけ分かるのは「知らない世界を知ることができるから」ということだ。自分の想像できる範囲を超えた場所や物や人。普通に生きていたらまず出合うことがないそれらを知るごとに、自分の世界が広がっていく気がするのだ。

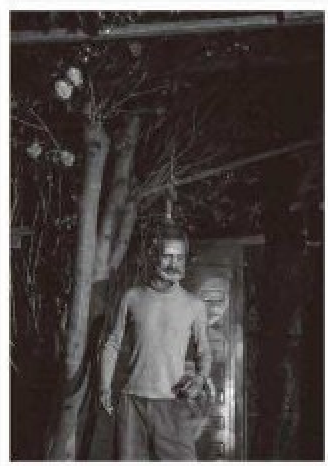
写真を見返して、旅先での出合いを思い返す。この連載で書いた、高知県にある大心劇場。数多く場所を訪れたが、やはり一番忘れられない場所であるのは変わりない。館長の小松さんが上映する前に歌う熱いフォークソングで号泣したこと。そして、この日本で小松さんしか行うことができない〝流し込み〟と呼ばれる特殊な技術を見たときに震えたこと。山奥にある映画館で、知らなかったら絶対に訪れることはないアクセスの悪さだったが、そこで出合った世界は人生を変えるような衝撃だった。今でもたまに「次はこれを上映しますよ」とお知らせのはがきが来るのがうれしい。その度に、大心劇場の前を吹き抜ける高知の風を感じるのだ。

そしてこれも連載で書かせてもらったが、首くくり栲象さん。毎日、自身の庭で首をくくるパフォーマンスを行っていた舞踏家だ。本誌を送ったあと、栲象さんから便りをいただいた。そこには

〝人間には、世間には、見えないもの、鉱物の結晶をも、この庭で、この生で、感じることができるのです。〟と書かれていた。

庭劇場で毎日首をくくる中で、誰にも見えないたくさんの世界を、栲象さんは感じていたに違いない。……実は先日、栲象さんが亡くなられたという一報を受けた。今はもう見ることができない、あの時あの庭劇場で感じた栲象さんの世界の一片を、ふとした時に思い出す。

「なぜ旅をするのか？」と問われて、もう1つ分かる理由は、対象に対しての憧れだろう。私が、珍スポットと自分自身がある部分でとても似ているのではないか、と思っている。それは、はたから見ていて不器用なところだ。でも、素晴らしい彼らと決定的に違うところがある。私は生きづらさをコンプレックスにしたまま生きているが、私が追い求めている人々は、認められても認められなくとも、ただひたすらに何かを作り続けていたり演じ続けていたりしていることだ。そのストイックさは、簡単に真似できることではない。もちろんそこにも葛藤はあるだろう。けれど、好きなことをするために全力で生きるその姿を、尊敬のまなざしで見つめているし、自分もいつかそうなれたらと思う。



ぶんぶんぶんと頭を振り、今はこれでいいのだとつぶやいて、嗤っているパラレルな自分の亡霊の横を通り抜ける。振り向いてももちろんそこには誰もいない。前を向いても誰もいない。今を生きる自分は、今ここにしかいないのだ。

この路地の先がどこへ続いているかは分からない。それでも、迷いながらでも、これからも旅をしていく。



かねはら みわ：珍スポトラベラー、珍スポットトラベラー、特殊旅作家として、全国の珍スポット・面白スポットを旅して、その様子をイベントや記事寄稿にてレポートしている。『日本昭和珍スポット大全』（辰巳出版）、『金原みわの珍人類白書』（有峰書店新社）を発売中

少しだけ日常からずれたにっぽんの姿

にっぽんパラレル紀行

終

この世界線での私

Me on this world line

写真・文・金原みわ

１人旅をしていると、未来のことよりも過去のことを思い出してしまう。誰とも話をしないことも多いので、それもしょうがないかもしれない。新しい思考が小さな点として生まれたとしても、それはすぐにどこかへ消えていく。そしてまた記憶の大海原にずぶずぶと沈んでいく。

学生の時、受験の時、就職の時。あの友人と一緒にいたら、あの恋人と一緒にいたら、あの時あの場所へ行っていなければ。人生には、あの時あの選択をしていたらどうなっていただろう、という分岐点がいくつもある。

例えば、ふらりと出かけた旅先の路地などで、他の道を歩んでいる自分を強烈に想像してしまったりする。真面目にまともに生きている自分の姿が、適当に器用に生きている自分の姿が、自分がかつて親しかった人と楽しそうに笑いあっている姿が、眼を細めると本当にそこに見えてしまう気さえする。

いろいろな道を選択してきた。けれど、選択することと、逃げることと諦めることの違いは何だろうなどと考えだすと止まらなくなる。パラレル世界で生きる自分の亡霊が、さあこっちへおいでと、嗤いながら後悔の海へと手招いてくる。

私は今「珍スポット」と呼ばれる、珍しい物・人・場所を訪れて旅をしている。珍スポットトラベラーなどという肩書きを名乗ってさまざまな活動をしているけれど、本当はずっと「まともな人間」になりたかった。

育ってきた家庭環境が少しだけ複雑なのもあって、常に「皆と何かが違う」という違和感が小さな頃から付きまとった。「あの子は変だ」と分かりにくく陰口をたたかれたり、分かりやすくいじめられたりして、その違和感に確信を持っていった。

まともになりたい。そう思って、周りに合わせて必死にまともを装うようになった。死ぬほど勉強して、安定した職業を目指して薬学部に入った。大学ではテニスサークルに入った。まともな大学生になろうと思った。卒業後に新卒で入った薬局チェーンの会社でも「まともに生きてきましたよ」というような澄ました顔をして働きはじめた。

仕事にも慣れてきた頃、同期の女子と一緒に淡路島へ行った。旅のメインイベントは「ブルーベリー狩り」というなんともかわいらしく、非常にまともな旅だった。

ところがその帰りにたまたま立ち寄ったとある場所が、私のその後の人生を大きく変えることとなった。美しい水仙が咲き乱れる観光地「立川水仙郷」である。



ガタガタと激しい急斜面を下りると、美しい海と水仙畑が一望できる広場にたどり着いた。なにやら鳥居のようなものがある。車から降りて近寄ってみると、そこには「UFO神社」という謎の神様がまつられていた。頭にハテナマークを浮かべながらその場所を後にして、水仙畑を抜けて行くと、次は「おしべとめしべの学ぶところ」と大きく書かれた謎の建物が見えてきたのだ。

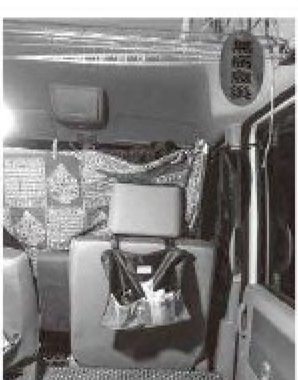
そうそこは、数ある珍スポットの中でも、間違いなく超S級の珍スポットである『ナゾのパラダイス』だったのだ。

いわゆる秘宝館的な資料を展示してある『ナゾのパラダイス』は、薄暗い館内に足を踏み入れると、壁中びっしりと館長の卑猥な格言が貼られていた。いたるところにまるで雨後のタケノコのように男性のシンボルが乱立している。その中心に立ちぐるりと見回すと、目に入る情報が全て性に関わるものであった。その瞬間、身体中にビリビリと電撃が走った気がした。展示物の１つ１つが、今まで訪れたことのある資料館とは全く異なるものであり、端々から狂気すら感じる。でも、すべてが未知のものであった。「こんな世界があったなんて」私はいたく感動していたのだ。こんな世界があるということを誰も教えてくれなかった。

ひとり興奮する私と相反して、一緒に訪れていた女子はみるみる顔面から血の気が引いていった。刺激が強すぎるモノの連続に、どうやら本当に気分が悪くなってしまったらしい。「ごめん、ちょっと先に出とくね」と言い残し、顔面蒼白となった彼女は本当に出て行ってしまった。まともなら私も追いかけて一緒に帰るべきだったかもしれないが、私はその圧倒的な空間からなかなか離れられずにいた。

ナゾのパラダイスを訪れてから、まるで何かに取りつかれたかのように、休日になれば珍スポットを訪れるようになった。大阪の珍スポット、近畿の珍スポットなどはすぐに行き尽くして、東海、関東、四国、九州、東北とどんどんとその範囲を拡大していった。最初は気心の知れた友人や当時の恋人を連れて行っていたが、そのうち誘うのも申し訳なくなり、１人で巡るようになった。

ただ巡るだけでは何も残らないと思い、ブログや写真展やイベントで盛んに発表するようになった。金原みわと名乗り、長文の記事を寄稿するようになった。ありがたいことに珍スポットに関係する仕事が増



写真と文学 ——世界を視るメディア

Takahiro Bessho
別所隆弘

最終回
「世界の断絶と写真という小さな窓」



ニコン D810／AF-S NIKKOR 50mm f/1.4G ／50mm ／絞り優先AE(F16, 1/200秒、−1.0EV)／ISO 100／WB：オート

10m先も見えないような濃霧の中で迷っているうちにたどり着いた美しい朝もやの光景。本当に見たのか、もはや記憶さえ定かではない場所の「記録」

大学での最初の授業のことをいまだによく覚えている。広い構内の南東にあった教室は年月を経た建造物特有のカビと木の懐かしい匂いで満たされていて、小さな窓から斜めに入る光が舞い上がる埃を輝かしく照らしていた。それは新しいデジタルカメラで撮影された、とても古い写真を見ているような光景だった。目の前のすべてはクリアに存在しているのに、その光景はどうしようもなく遠く懐かしいという不思議なアンビバレント。その教室の中に、幾分個性的な哲学科の学生たちが、落ち着かなさげに座っていた。強い自意識を持て余し、空回りする思考に後ろ髪を引かれるままにそこに集まった人々。私もその中にいたことが、今はもう信じられないような、そんな場所。そこに音もなく入ってきた講師は、50代後半くらいの印象だった。教室の懐かしい匂いがそのまま形を取ったかのような、穏やかな沈鬱さをたたえた人物が最初に発した言葉を、20年も経つのによく覚えている。

「さて、授業を始めましょう。この林檎の色を、私に教えてください」そう言って、4月にしてはよく熟した赤い林檎を教卓の上に置いた。色彩の褪せた教室の中で、その鮮烈な赤はまるで血のようで、今の私なら夢中で写真に撮るだろう。だが、当時の私にそのような趣味はなく、それ以上に、ただ圧倒されていた。穏やかに思われたその講師が、まるで我々全員を試してでもいるような悪辣な表情でぶつけてきたその質問こそが、哲学の根本的な問いの1つ、人間の認識の限界を問う質問だからだ。

18世紀、フランスの哲学者のルネ・デカルトは、哲学史上最も有名な1文を発した。「我思う、ゆえに我あり」ラテン語では「cogito ergo sum」で表されるその文は、「方法的懐疑」と呼ばれるあらゆるものを否定した先に残った、たった1つの「哲学的基盤」を明確にした1文として歴史に残っている。周りにある物事を我々は認識できないとデカルトは言う。中国の道教で「胡蝶の夢」という話にあるように、我々の人生で出会うすべては、もしかしたら蝶が見ている夢なのかもしれない。でもその「夢」を見ている主体である「蝶＝私」だけは、どのようにしても否定できない。そのようにしてデカルトは、あらゆる思考の中核に、その存在を消すことのできない「私」を見出したのだ。しかしその「私」は、決して「私」の外には出ていけない。発明と同時に、我々は「自分」に閉じ込められる運命を背負うことになった。

そう、私が19歳の時に直面した問いとは、この問いなのだ。私が認識している「赤」と、あなたが認識している「赤」は、どのようにしても互いに伝えられない。その不可能性を認識すること、「当たり前」と思っているすべての真実や事実を疑うこと、それこそが哲学という学問の責務であり、そして愉楽であることを、その講師はニヤニヤと煙に巻くような笑いとともに我々に伝えたのだった。そして最後に、まるで忘れていたことを思い出したかのように、講師はふと言う。「私ね、色盲なんです。赤っていう色がどんな色なのか、私には分からないんですね」そう言い残して、講師は風のように教室を後にした。後に残された我々はただ茫然と見送るしかない見事な幕引きだった。よく練られた罠のように、その講師はまだ何も知らない若者を学問の深淵に引きずり込んだのだ。ニーチェならあの有名なセリフでも言ったことだろう。「おまえが長く深淵を覗くならば、深淵もまた等しくおまえを見返すのだ」

1年の授業の後、講師は私にこんなことを訪ねた。「ビンゲラップ島を知っていますか？」物事のイロハ

※原作は1967年に出版

“写真を1枚撮るたびに世界は確実に開かれていく”

も分かっていない大学1年生だ。もちろん知るわけがない。その島は、イギリスの学者が当時ある著書の中で初めて明らかにした、生物学的に極めて珍しい人々が住んでいることが判明した島だった。島の住人のおよそ10人に1人が色覚異常である島。一般的な発現率が3万人に1人であることと比べると、その島の発現率は極端に高い。彼がなぜそのような島についての質問をしたのか、本意は分からない。ただ、彼にとって「色」とは、世界と自分との最初の断絶、あるいは交流を考察する契機だったのだろう。

2015年、このピンゲラップ島の住民たちを主題にした撮影がベルギーの写真家サンヌ・デ・ヴィルデによって行われた。デ・ヴィルデはその試みの中で、島の人々が見ている「色のない世界」を、色のある世界で生きている我々に見せようと試みている。その試みに私は深く衝撃を受けた。彼女の写真は、私がやりたかったことを、具体的かつ社会的に意味のある形で実現していたからだ。私が写真で行おうとしていることのすべては、「私はあなたと、何1つ通じ合うことができないかもしれない、だからこそ素晴らしいのではないか」ということだった。我々が自明と思っているこの世界に満ちる色ですら、我々は自分が見ている状態を互いに確認することができない、そういう魂の牢獄の中で生きている。でもだからこそ、壁に閉ざされたそれぞれの魂が、届くか分からない小さな窓を通じて、自分の見ている世界を他者に見せようとする。その独自の色の付いた「窓」こそが、そう、写真だ。私が見ている色は、もしかしたらあなたが見ている方向からは逆光で黄色が濃いかもしれない。でも、その差異こそが、次の何かを生み出す。真実が何1つ疑われることもなく正しいものであると固定される限り、写真は現実のコピーを目指すしかなくなる。だが、実は我々はすべて違う現実の中に生きているとするならば、写真はこの世界が広がりと多様性に満ちていることの証明になる。真実は1つではない。1枚の写真が撮られるたびに、世界はまた1つ増えていくだろう。この世界は我々1人1人に開かれた場所であるということを、私はなんとしても知りたかったのだ。

12回のモノクロページでの連載は、私にはとても楽しい機会だった。色の付いたものとして撮ってきた写真が、モノクロになると見え方が違う。初回のゲラが届いたとき、その差異が面白かった。結局12回の連載は、最初に感じたその「差異」が私の考える「写真」という表現のどこにあるのかを探る試みであったように思う。伝わらないこと、違うこと、差異と断絶こそが表現の根源にある動機であり、可能性であり、希望だということ、そのことを私はずっとテーマを変えて話していたに過ぎなかった。

最終回を迎えるにあたり、そうした試みの源泉が、ずいぶんと古い私自身の記憶に結びついていたことに気付いた。哲学講師があの時悪辣な表情で問うた林檎の色。「色とは、なんなのだろう？」という問い。その問いの答えを、写真家となった今の私が探している。かつてG・ガルシア・マルケスは、『百年の孤独』をこのような形で書き出した。

「長い歳月が流れて銃殺隊の前に立つはめになったとき、恐らくアウレリャノ・ブエンディア大佐は、父親のお供をして初めて氷というものを見た、あの遠い日の午後を思いだしたにちがいない。」

—G・ガルシア＝マルケス「百年の孤独」
鼓 直（訳）、新潮社、2006年※、P.12

この文学史に刻まれる書き出しが示すのは、たった1文の中に過去と現在、さらには未来の予兆までも宿すことができるということだ。あたかも光を宿した真っ黒なフィルムのネガのように、あるいはダイナミックレンジの最も底に記録された暗い光のように、写真や映像も含めた、すべての意味を生成する「テクスト」は、その最初の試みの中に自らの過去と未来のすべてを含んでいるのかもしれない、そんなことを思いながら、この連載を終えたい。



G・ガルシア＝マルケス
「百年の孤独」
鼓 直（訳）、新潮社、2006年

マルケスが語る、呪われしブエンディア一族の百年史。定められた宿命の元に生きる一族を、南米独特の魔術的リアリズムで描く20世紀最高の小説の1つ



ソニー α7R Ⅲ／FE 16-35mm F2.8 GM／19mm／絞り優先AE（F4、1/1,000秒、+0.3EV）／ISO 100／WB：晴天

その光景を見たのは、私と隣にいた少年だけ。少年も私もカメラを持っていた。彼がどうこの瞬間を撮ったのか、いつか語り合える日が来ることを願って

2018.6 Digital Camera Magazine PRESENT

01 バンガード
VEO 2 235AB

**ツイストロックで設置が簡単
コンパクトな自由雲台付きの
超軽量トラベル三脚**

カラー：ブラック／素材：アルミ／全高：145cm／最低高：18cm／縮長：40cm／段数：5段／耐荷重：6kg／質量：約1.4g

提供：株式会社ガードフォースジャパン http://www.vanguardworld.jp/



1名様

02 ハクバ写真産業
セーフテック カメラレインカバー プロ

**強力な防水性を発揮しながら
内部が蒸れにくい優れもの
操作性を損ねないレインカバー**

素材：70D ナイロンタフタ（表面撥水・裏面防水透湿加工）／対応レンズ最大長：350mm（フード含む）／対応レンズ最大径：φ110mm（フード含む）／質量：約120g

提供：ハクバ写真産業株式会社 http://www.hakubaphoto.jp/

▶ 製品の詳細はP.164をチェック!



1名様

03 ADATA
Premier Pro SDXC UHS-I U3（64GB）

**V30規格対応で毎秒最大
30MBのビデオ記録が可能
写真も動画も保存できるSD**

最大転送速度：95MB/秒／最大書き込み速度：90MB/秒／UHSスピードクラス：UHS-I(U3)／SDスピードクラス：Class10

提供：エイデータテクノロジージャパン株式会社 http://www.adata.com/jp/



1名様

04 thinkTANKphoto
トラベルポーチ3点セット

**散らかるカメラバッグを整理整頓!
軽いメッシュ素材で収納しやすい
トラベルポーチの3サイズセット**

カラー：ブラック／素材：アクリル／外形寸法（W×H×D）：約200×100×10mm（大）、約100×100×10mm（中）、約100×70×2mm（小）

提供：銀一株式会社 https://www.ginichi.com/shop/



1名様

05 DNPフォトイメージング
アルミ製作品額 ギャラリー II 木目調ブラウン（A4）

**割れにくいアクリル前面板を採用
Vカットのマット台紙が写真を引き立てる
木目調のシックなフォトフレーム**

対応サイズ：A4／外形寸法（W×H）：約369×456mm／質量：約1,100g

提供：株式会社ケンコー・トキナー http://www.kenko-tokina.co.jp/

2名様





2名様

06 サンディスク
エクストリーム SDHC UHS-I（32GB）

**最大90MB/秒の読み取り速度と
最大40MB/秒の書き込み速度を
実現した高速・高性能カード**

読み取り速度：最大90MB/秒／書き込み速度：最大40MB/秒／UHSスピードクラス：UHS-I(U3)／SDスピードクラス：Class10

提供：サンディスク株式会社 http://www.sandisk.co.jp/

応募要項

応募締切 2018年6月19日（火）

雑誌公正取引競争規約の定めにより、この懸賞に当選された方はこの号のほかの懸賞に入選できない場合があります。

デジタルカメラマガジンでは下記の内容でWebアンケートを実施しています。そちらにお答えいただいた方の中から、プレゼント抽選を行います。当選者はデジタルカメラマガジン2018年8月号にて発表いたします。

応募の流れ ※ご応募には「CLUB IMPRESS」への登録が必要です

❶ GANREFにアクセス ▶▶▶ https://ganref.jp/dcm/
❷「読者プレゼント申込」をクリック
❸「プレゼント応募ページへ」をクリック
❹ Webアンケートに回答

読者プレゼントの発送は掲載号の発売日から約40日後をめどに処理させていただいております。

アンケート内容 ご希望のプレゼント／住所／年齢／都道府県／役職／業種／職種／メインで使っているデジタルカメラの機種名／お使いのフォトレタッチソフトや画像管理ソフト／購入したいカメラ用品／お持ちのパソコンのOS／お持ちのプリンターのメーカー名と機種名／カメラ歴／メールによるお知らせの可否／本誌の記事内容について（[表紙]6月号表紙 多相航路 中原一雄[TECHNIQUE] EF LENS Technics／イカロスの翼／写真を1,000倍楽しむためのプリントテクニック［特集1］真夏の夜の撮影大全99［SPECIAL GALLERY］MICHIKO 2018 ワタシテキ 佐藤倫子／富士山に魅せられた二人のアマチュアフォトグラファー 新・富士山景 成瀬 亮×橋向 真［新製品レビュー］タムロン 70-210mm F/4 Di VC USD［連載］Impressive TRAIN Journey／プリントすると写真が上手くなる／写真家の源流をたどる／詩的憧憬／Dramatic Circus／Twelve Islands／みんなのPhotoshop RAW現像教室／酒場の情景／夜光都市 Another World／土木系マニアの視点／日本の絶景 写真家2人の着眼点／世界の猫に恋して／PRO's SIGHT PROが見た風景／私の写真を変えたLENS／写真家フォトレッスン 茂手木秀行×夜景／写真とカメラのワークショップ／大人の光学入門／構図かるた／1万円で行く写真旅／個性派写真展／阿部淳一が厳選! 今が旬のカメラグッズ／大江戸坂の事件簿／にっぽんパラレル紀行／写真と文学／写真家のお昼ごはん／ルーク・オザワの世界ヒコーキ見聞録［EVENT REPORT］2018 SPRING デジタルカメラマガジンDAY 工場夜景写真家 小林哲朗のニコン D850で楽しむ夜景撮影 in 杭瀬／Nikon Lens フォトツアー 弘前で花筏を撮る／カメラグランプリ2018［GALLERY INFORMATION］creation: 前川貴行［特集2］はじめてのハーフNDフィルター活用術［フォトコン］6月号フォトコンテスト［TOPIC&INFORMATION］デジカメNEWS調査隊／写真展最新情報／最新売れ筋カメラ・レンズ通信／読者プレゼント／編集後記）／今月号の誌面でいちばんよかった写真／現在気になるデジタルカメラの機種名／これから欲しいレンズの製品名／好きな写真家／好きな被写体／撮影した写真のおもな使用法／本誌を知った理由／今月号を購入した理由／本誌購入の頻度／本誌へのご意見、ご感想

デジタルカメラマガジン2018年4月号
DIGITAL CAMERA MAGAZINE PRESENT 当選者発表

❶バンガード「VEO 2 AM-234」
麻生光子（大阪府）

❷peak design「キャプチャー V3 シルバー」
大河航太朗（静岡県）

❸フォースメディア「世界登山」
飯塚亮介（埼玉県）／辻 泰幸（大阪府）／田代海霞（佐賀県）

❹クロスフォレスト「Canon EOS 7D Mark II／6D用 ガラスフィルム ラウンドエッジ Glass Film CF-GCC7D2」
山之内 徹（秋田県）／亀井俊道（茨城県）／岸田 学（滋賀県）

❺ケンコー・トキナー「スタンドポッドGX-N」
加藤大輔（千葉県）／渡木 健（東京都）

❻サンディスク「エクストリーム microSDHC UHS-I（32GB）」
石川 登（神奈川県）／山崎大輔（新潟県）



最終回

野口純一の森の行動食ランチ

写真家のお昼ごはん

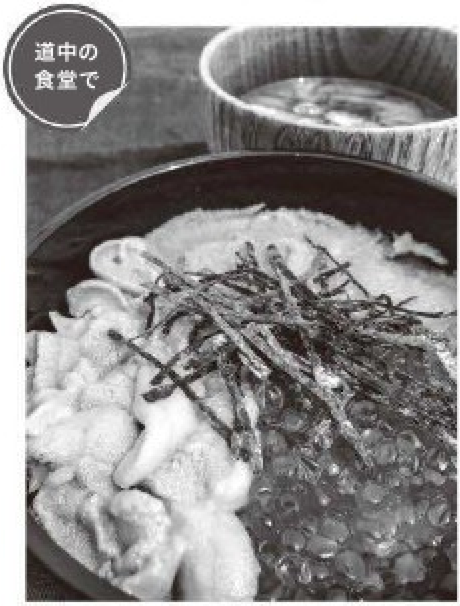
ついつい撮ってしまうランチの写真、どうしたらもっと上手に、おいしそうに撮れますか？ 教えてプロの写真家さん！



Apple iPhone SE ／4mm(29mm相当)／プログラムAE(F2.2、1/860秒、±0EV)／ ISO 25／ WB：オート



移動中に食した海鮮丼。常時持ち歩いている麻布を敷いて海鮮の鮮やかさを強調



Apple iPhone SE ／4mm（29mm相当）／プログラムAE（F2.2、1/860秒、±0EV）／ ISO 25／ WB：オート



大福、ナッツとドライフルーツ、干し芋、羊羹、黒糖、飴が最近の定番



かつて定番行動食だったクッキーは多量の水を要するので二軍落ちだ

野生動物を撮影するために夜明けから日没まで森で過ごすことも多い。森には食堂もなく食料を現地調達するのも難しいので、その間に必要な食事と万が一に備えた非常食を携行することになる。メニューは暑い時期に腐らず、酷寒でも容易に凍らず、なおかつ食中に欲する水が少量で済むものを選びたい。飲料水は結構な重量なのと、ケガをした際の洗浄にも使える貴重品なので、できる限り消費を抑えたいのだ。結果1年を通じてメニューはほぼ同じ、数種類のナッツとドライフルーツを混ぜたものや干し芋、黒糖などを1口分ごとに小分けし、密閉できるビニール袋を二重にして携行している。これは常時ヒグマが徘徊する北海道の森でできる限り食料の匂いを出さないため。特にヒグマの撮影中はそのテリトリー内での食事となり、食料を広げている最中にヒグマと遭遇したら非常に思わしくない状況に陥るので、一度に全部口の中に入れられる分だけ小出しにできる状態にしている。もちろん森の中で小皿などを出すことはないので、いつものように手のひらに乗せて撮影した。食事というのが憚られる量だが、この一粒一粒がこの後の行動の一歩一歩を生み出す力に変わってゆく。その大切な一粒の存在感を強調しつつ、森の中であることを伝えるため、接写しながらも周囲の状況を写し込める画角の広さが重要だ。ただし撮影距離が非常に近いため、カメラや自分、また木々の影が写らないよう注意しよう。そして自然環境の中での撮影は周囲の状況への気配り、自身の安全確保を忘れずに！

HOW TO SHOOT!

携行機材は望遠系なので、接写しつつ背景も広く取り込めるiPhoneで撮影。被写体との距離は数cmなので画面にiPhoneの影が写らず背景の森が分かる向きを探る。カメラと被写体を手持ちするので撮影の自由度は高い。



SPICES

手にしているのは1回分の食事。これを下向きに撮ると分量の少なさが強調されてしまいわびしいことこの上ない。メインカットでは接写でナッツのボリューム感を出し、背景の木々を写して森の中で食べる珠玉の一粒一粒を表現した。



実際に食べる直前の本人目線だが、少量過ぎて切ない

デジタルカメラマガジン

2018年5月19日発売

6
2018
June

2018年7月号は 6月20日(水)発売

次回予告

内容は変更することがあります。ご了承ください。

［特集1］

SS（シャッタースピード）完全攻略

低速 VS 高速 シャッタースピードの基本を知る

［人気連載］

写真家 中井精也 × たんぽぽ 川村エミコの カメラって楽しいね！

STAFF

AD	平岡和之（ビーワークス）
デザイン	荒牧春香／久米雄次郎／廣谷 汐／須磨裕子／関 いづみ／古賀 瞳（ビーワークス）
写真撮影	加藤丈博
用紙	第一紙業株式会社 国際紙パルプ商事株式会社
印刷製本	図書印刷株式会社
生産管理	飯田 武
広告営業	株式会社インプレス
広告部	清水栄二／高橋伸行／田中真一郎 野原大輔／五十嵐敦子
出版営業	吉田和彦／原 浩史／岩織康子 岩本琢磨／村田哲史／飯沼昭敬
制作進行	島村正人
編集協力	赤池淳子／山崎理佳
編集	牧浦裕介／杉本律美／佐久間太郎
デスク	武間俊樹／白石由佳
副編集長	上田大輔
編集長	福島 晃

発行人●土田米一
編集人●小川 亨
発行所●株式会社インプレス
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町一丁目105番地
https://book.impress.co.jp/
販売●株式会社インプレス　出版営業部
TEL 03-6837-4635
広告●株式会社インプレス　営業部
ad-sales@impress.co.jp
https://ad.impress.co.jp/

落丁・乱丁本はお手数ですが下記までお送りください。
送料弊社負担でお取り替えさせていただきます。
但し、古書店で購入されたものについてはお取り替えできません。

TEL 03-6837-5016　FAX 03-6837-5023
info@impress.co.jp

内容に対する質問は、インプレスブックスのお問い合わせフォームより入力してください。
https://book.impress.co.jp/info/
上記フォームがご利用頂けない場合のメールでの問い合わせ先
info@impress.co.jp

本誌の内容に関するご質問は、お問い合わせフォーム、メールまたは封書にて書名・お名前・電話番号と該当するページや具体的な質問内容、お使いの動作環境などを明記のうえ、お問い合わせください

雑誌コード　16453-06

Printed in Japan

ルーク・オザワの

世界ヒコーキ見聞録

THE RECORDS OF PLANES

ヒコーキと美しき世界の風景



キヤノン EOS 7D Mark II／ EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM ／286mm（457mm相当）／絞り優先AE（F5、1/100秒、±0EV）／ ISO 1000／ WB：オート

FLIGHT 010 | LOS ANGELS SUNSET

アメリカ西海岸にあるロサンゼルス国際空港で美しい夕焼けに出合った。赤い夕空を見ると心が和む前にアドレナリンが全開して闘争心が湧き上がってくる。夕焼けは刻々と色が変化し、明るさも変わっていく。最高潮の瞬間にヒコーキは来るのか、絡むのか、そしてどう切り取るのか、すべては自己判断で立ち位置を決定する。そもそも今日はきれいな夕焼けになるという根拠はなかった。ただ、空に色が付きはじめてから移動していては間に合わないので、まだ西日がまぶしいうちに撮影ポイントに移動してその瞬間を待つことにした。空が赤くなるかどうかは運次第だったが、今日は「来た来た来たー」という感じで見事に真っ赤に染まった。狙うのは大型機の777（トリプルセブン）だ。機体が滑走路にタッチダウンする直前にパイロットは機首上げをする。そのタイミングを狙ってシャッターを切った。今回もダウンタウンはおろか近くのビーチにも行くことはなかった。

SHOOTING MEMO

撮影ツアー定番のハンバーガーランチ



僕と一緒にロサンゼルスに行く撮影ツアーでのいつものシーン。定番ハンバーガーをテイクアウトして、公園でヒコーキを見ながら至福のランチタイムを楽しんでいる

はじめての

〔目で見た以上のドラマチックな風景が撮れる〕

ハーフNDフィルター活用術

特集2



オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱ／M.ZUIKO DIGITALED 12-100mm F4.0 IS PRO ／12mm（24mm相当）／絞り優先AE（F7.1、1/60秒、+0.7EV）／ISO 320／WB：太陽光／ハーフND4使用

長野県須坂市豊丘5大桜の1つ、弁天さんのしだれ桜。空を見ると"環水平アーク"と呼ばれる虹の一種がかかっているのに気づいた。しだれ桜と輝度差があり過ぎて桜に露出を合わせると虹が白く飛んでしまうので空の部分にND部分を当てて環水平アークを映し出した

写真・文●伊達淳一

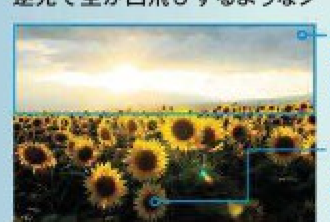
輝度差を埋めてドラマチックな表現ができるフィルター

ハーフNDフィルターは、夜明けや日没前後の風景など輝度差の大きなシーンの撮影に威力を発揮する撮影アイテムだ。通常のNDフィルターとは違って、光量を落とす効果があるND領域はフィルターの一部分だけで、それ以外はほぼ光を素通しする透明領域。シャドウ基準の露出では白飛びしてしまう部分にフィルターのND領域がうまく重なるように撮影することで輝度差を縮め、白飛びや黒つぶれを抑えられる効果がある。

その一方で、撮像センサーの性能が向上し、画素数だけでなく、感度やダイナミックレンジ特性も良くなってきたので、RAW現像すれば、3段くらいアンダー露出の写真もさほど画質には影響を与えず適切な階調に補正できる。ということは、白飛びしないように意図的にアンダー露出で撮影し、RAW現像時に暗い部分だけを明るく補正すれば、ハーフNDフィルターを使わなくても、輝度差の大きなシーンも白飛びや黒つぶれを抑えることは可能だ。

ただ、夜明け前、日没後は、空と地表で3段以上の露出差があるケースも珍しくなく、ハーフNDフィルターを使ってできるだけ画面内の輝度差を抑えて撮影することで、フィルターを使わないよりも調整できる幅が大きく広がり、それだけ表現の自由度とクオリティを高めることができる。また、マスクを使ったレタッチを信条的に良しとせず、リバーサルフィルム撮影と同様、撮って出しの仕上がりにこだわる人にとっても、ハーフNDフィルターは必携のアイテムだ。

逆光で空が白飛びするようなシーン



太陽があってヒマワリに露出を合わせると空が白く飛んでしまう

空に露出を合わせるとヒマワリは黒くつぶれてしまう

太陽を画面内に大きく入れた写真。ヒマワリが明るくなるように撮ると太陽がある空は白飛びしてしまう

そういときに使いたいのがハーフNDフィルター!!



一部が暗くなっているので部分的に露出を落とすことができる

ハーフNDフィルターを使うと空もヒマワリもばっちり



空の部分をハーフNDフィルターで光量を落とすことで階調を出し、ヒマワリと共存した写真が撮れた

ハーフNDには効果的なシーンと効果がないシーンがある

効果的なシーン



ハーフNDフィルターが最も適しているのは、夜明け前や日没後など、空と地表の輝度差が大きく、しかも、花畑や岩場など地表に見せたい被写体が存在するシーンだ。また、水面のリフレクションを強調する他、PLフィルターでは偏光ムラが起こってしまう光線状況で青空を暗く落としたいときにも、ハーフNDフィルターの使用は効果的だ。逆に、輝度差がさほど大きくなく、そのまま撮影しても白飛びや黒つぶれの恐れがないシーンは、ハーフNDフィルターの出番はない。雲が浮かぶシーンも、下手にハーフNDフィルターで空の明るさを落とすと、白い雲の輝きが失われ、抜けの悪い仕上がりになりやすいので要注意だ。

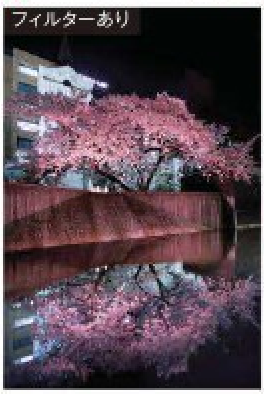
◆ 夕日の空を出しつつ地面もしっかりと見せる


フィルターあり


フィルターなし

ハーフNDで空の明るさだけを落とすことで、手前の波の明るさを変えることなく、夕焼けの赤みを強調できた

◆ リフレクションの明るさをそろえる


フィルターあり


フィルターなし

水に被写体が映り込むリフレクション。そのまま撮影すると映り込み部分が暗く写ってしまう。ハーフNDフィルターを使うことで実像と映り込み部分の明るさをそろえることができる

効果がないシーン

輝度差の境目に建物があったり、境界線がまっすぐでない場合



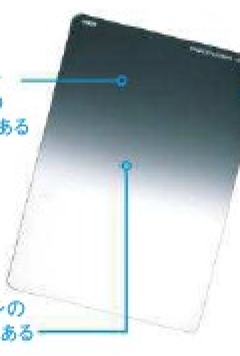
◆ NDが掛かった風車が暗くなってしまった



ハーフNDフィルターを空の部分に使うことで空の階調は出たが、空にある風車まで暗くなった

ハーフNDは一般的に角型フィルターが使われる

PLフィルターなど、一般的なフィルターは円形タイプがほとんどだが、ハーフNDフィルターは角形タイプが主流だ。円形タイプもあるが、グラデーションの境目を上下に調節できないので、明暗の境目が画面中央になるような構図で撮影するしかなく、作画の大きな制約になってしまう。一方、角形タイプの多くは縦に長い長方形なので、撮影したい構図に応じてグラデーションの境目を上下にずらし、画面の明るい箇所にND領域を合わせて減光することが可能だ。角形タイプをレンズに装着するには、フィルター幅に合ったフィルターホルダーを使用するのが基本だ。



➡ P.180
➡ P.180



ホルダーを使ってフィルターを左右で挟み込み固定をする。PLは専用品が用意されている

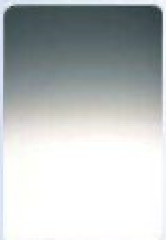
丸型のハーフNDフィルターもある



ケンコー　R-ハーフND4
（実勢価格：1,300円～1,800円前後）
ちょうど真ん中から半分がNDになっている。49～58mmまで対応

グラデーションの違いで境目の表現が変わる

ソフトタイプ



グラデーションが滑らか

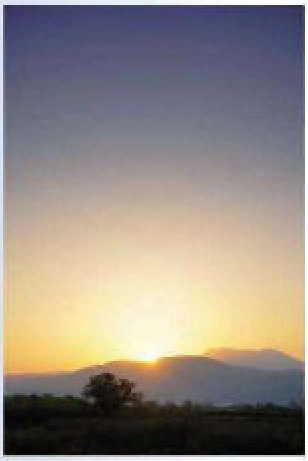
ハードタイプ

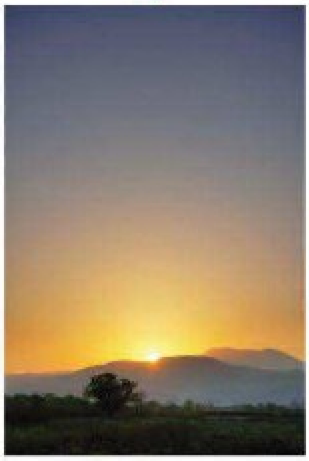


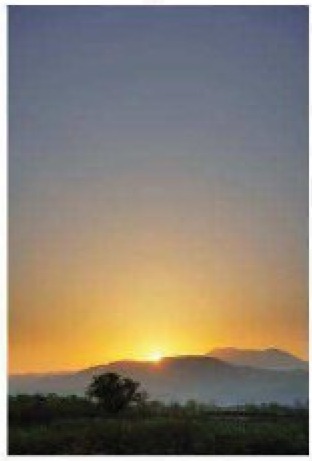
リバースタイプ



境目が濃くて上に行くほど薄い







ハーフNDフィルターが適しているのは、水平線や地平線のように明暗の境目が直線的なシーンだ。しかし実際には、明るい空の部分に山や木々、建物などが重なっていることが多いので、明るい部分だけにND効果をかけるのは難しく、不自然な仕上がりになることもある。そこで、ハーフNDフィルターは、ND領域と透明領域を画面中央でクッキリ分けるのではなく、緩やかに濃度が変化する、いわゆるグラデーションを持たせている。グラデーションの変化が緩やかな「ソフト」、急激な「ハード」の他、ND領域のグラデーションの変化が通常とは逆に中央で最も濃く、周辺ほど薄くして、日の出・日没シーンに特化した「リバース」、さらにND領域を大幅に狭め、太陽の周囲だけを強力に減光する「ホライズン（センター）」など、撮影するシーンに応じて、さまざまなグラデーションタイプが用意されている。

濃度の違いも用意されている

一般的なNDフィルターと同様、ハーフNDフィルターにもさまざまな濃度（ND2～ND16）が用意されている。製品名にGND8（0.9）など通常の表記に加え、小数点付きの謎の数値が併記されていることも多い。前者はいわゆる露出倍数で、後者の（）内の数値は光学濃度（OD：Optical Density）を表していて、1段分の減光効果が得られる濃度が0.3、2段分の濃度が0.6と、ODを0.3で割れば減光効果の段数が求められる。ちなみに、NDフィルターを重ね掛けした場合の減光効果は、それぞれのフィルター濃度を足し算、もしくは露出倍数をかけ算すれば算出できる。



ND 4　ND 8　ND 16

濃度表記の違い

製品	段数	露出倍数	光学濃度
ハーフND2	1	2	0.3
ハーフND4	2	4	0.6
ハーフND8	3	8	0.9
ハーフND16	4	16	1.2

中国製の登場で熱くなったハーフNDフィルター市場

ハーフNDはフィルム時代から存在した撮影アイテムだが、加工技術の向上で蒸着でも滑らかなグラデーションを実現できるようになり、ここ数年で高品質なガラス製ハーフNDフィルターが登場している。中でも注目なのがKANIやNiSiといった中国のメーカーで、SNSや個人のブログで品質の高さが口コミで拡散。わずか2年足らずで、プロ・アマ問わず、感度の高い風景カメラマンの定番アイテムとなりつつある。老舗のCokinもさらなる高品質を実現した新シリーズを発売するなど今最もHOTなアクセサリーだ。

フィルターサイズに注意しよう

角形フィルターで最もポピュラーなのが100mm幅のサイズで、フィルター径が82mm以下のレンズに対応するホルダーも用意されている。82mmを超えるフィルター径やフロントフィルターが装着できない超広角レンズ向けに150mm幅もしくは170mm幅の角形フィルターが用意されている。ホルダーは各レンズに合わせた専用品となるが、KANIのホルダーはレンズ側アタッチメントのみを買い足すことで、さまざまなレンズと150mm幅ホルダーを共用できる。



100×150mm　150×170mm

初めての1枚で買うのならソフトのND8がおすすめ

ハーフNDフィルターには、グラデーションのタイプ、濃度、サイズなどさまざまな種類があるが、それらを全部そろえるとなると、かなり高額の出費になってしまう。とりあえず1枚、ハーフNDフィルターを買うなら、ソフトタイプのハーフND8フィルターがおすすめだ。グラデーションが緩やかなので、太陽の高度が低いシーンは減光効果は弱めになるが、水平線や地平線のように明暗の境目が直線的でないシーンでも、ND領域と透明領域の境目が不自然になりにくいので、ハーフNDフィルター入門には最適な1枚だ。

《ハーフNDフィルターを使って写真を撮ってみよう》

01 » ハーフNDフィルターをレンズに装着する

NiSi 100mmシステムフィルターホルダー V5 PROを例に紹介

❶ レンズにアダプターリングを装着する



KANIやNiSiはフィルター径が82mmのレンズは直接アダプターリングを装着可能。他のサイズならステップアップリングを併用して装着。Cokinはフィルター径に応じたリングを使用する

❷ ホルダーをアダプターに組み合わせる



ホルダー（前枠）のつまみを引き上げながら、アダプターリングに突起を引っかけるように装着する。確実にホルダーが固定されたことを確認してから手を離す

❸ ホルダーにフィルターを上から挿入する



フィルターは上からゆっくり下に差し込む。フィルターに表と裏はないのでどちら側でも良い。PLフィルターは専用のものが用意され、使用する場合はアダプターリングに装着する

前面にフィルター径のないレンズは専用のホルダーを使う

● 前面に径があるタイプ



● 前玉が突出するタイプ



画角が15mm相当以下の超広角レンズは前玉が突出していてフロントフィルターが装着できないので、各レンズ専用のフィルターホルダーを使うことになる。150mm幅もしくは170mm幅の角形フィルター（NDやハーフND）を使用することができる。

ホルダーにはフィルターを複数枚入れることができる

● ホルダーにはフィルターを入れるスリットがある

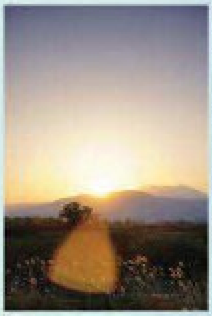


● ハーフND+NDの組み合わせ



フィルターホルダーには、2〜3枚の角形フィルターが装着できる。ND1000などの高濃度NDフィルターとハーフND、もしくはNDやハーフNDを重ねて、より強い減光効果を得ることができる。フィルターを装着する枠は追加で増やすこともできる。

レンズによっては逆光時にフレアが出るものもある



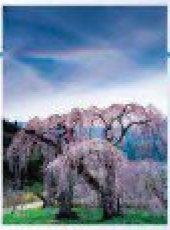
太陽を入れて撮影したときにレンズ面や鏡筒内の部品に反射した光がハーフNDフィルターに面間反射して、ゴーストとして写り込んでしまうケースがある。正面からのぞき込んで反射が多いレンズはコーティングが優秀なハーフNDフィルターを使いたい。

02 » 必ずフィルターのあり、なしの2枚の写真を撮ろう

ハーフNDフィルター購入直後は、ハーフNDフィルターを使うことが主目的になり、ハーフNDフィルターを使った効果が分かるように撮影してしまいがちだ。そのため、ハーフNDフィルターを使うときは必ずフィルターなしの写真も撮影し、フィルターのあり、なしをその場で見比べてみよう。下の作例では夕空の明るさが落ちてススキを明るく再現できてはいるが、あり、なしを見比べると、奥のススキが暗くなっているのに気づく。グラデーションの境目が少し下過ぎることが分かる。

フィルターを使って画像が不自然なときは角度を調整する

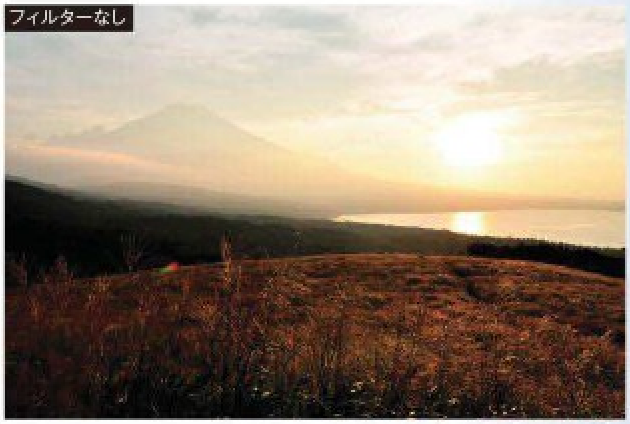
右の写真のようにハーフNDフィルターを使って境目に不自然さを感じるなら、フィルターの位置や濃度の選択に再調整の余地がある、ということだ。自分の設定を見直してみよう。



フィルターあり

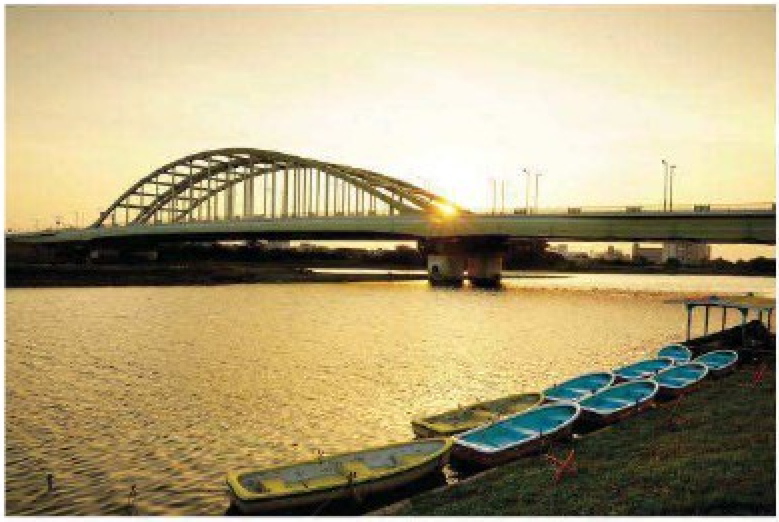


フィルターなし



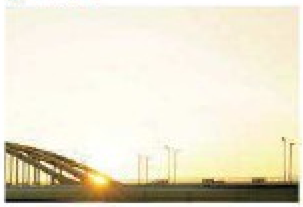
03 » フィルター効果の境目を自然な印象にしよう

ハーフNDフィルター使いこなしの最大のポイントは、フィルターの位置だ。ファインダーやライブビューを見ながら、ハーフNDフィルターを上下（長辺）方向に動かし、画面内の明るい部分がうまく減光されるように、フィルターの位置を微調整するのだが、これが意外と難しい。というのも、ソフトタイプのハーフNDフィルターは緩やかに濃度が変化するので、濃度の境目は最もND効果が弱く、太陽が地平線近くにあると、太陽の明るさを十分に抑えられないのだ。また、ハードタイプのハーフNDフィルターは濃度の境目がクッキリとしているので、フィルターの位置が少しでもずれると、地表近くの空が不自然に明るくなる場合や、逆に地表近くが暗くなることもある。いずれも、撮影した写真をすぐに確認し、境目が不自然ならフィルターの位置や角度を微調整、という手順を繰り返すしかない。ハーフNDフィルターはホルダーを使わず手持ちでも使えるが、微調整をするためにホルダーと三脚があった方が便利だ。



ソニー α7R Ⅲ／Vario-Tessar T* FE 16-35mm F4 ZA OSS／16mm／絞り優先AE（F13、13秒、−1.7EV）／ISO 100／WB：オート

◆ 上過ぎ

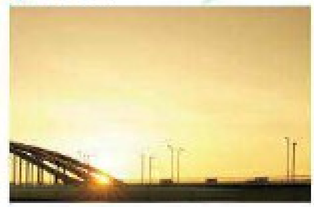


◆ ベスト



◆ 下げ過ぎ

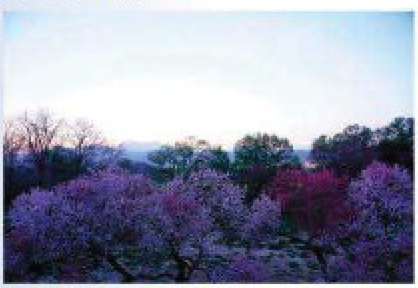
橋まで暗くなってしまっている



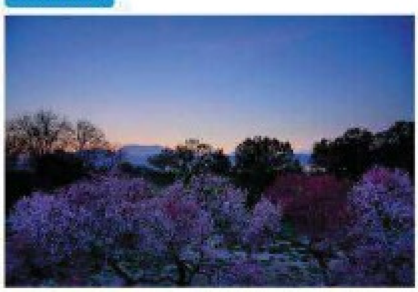
◆ ハーフNDフィルターを重ねてより強い効果を発揮させる

夜明けや日没前後は、空と地上の明るさがかなり異なり、ND8程度のハーフNDフィルターでは輝度差を十分に縮められないことがある。そんなときはハーフNDフィルターを重ねがけすると、より強い減光効果を得ることができる。また、長秒露出になるときは、黒い紙などで明るい部分を遮光してシャッターを切り、全体の露光秒数の8割が過ぎたあたりで黒い紙を外すと、ハーフNDフィルターと同様の効果になる。

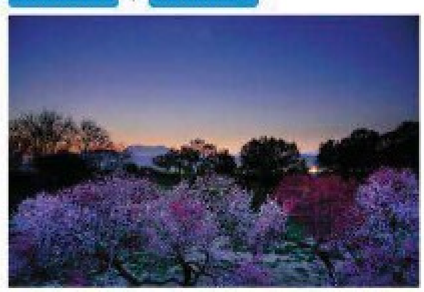
フィルターなし



ソフトND8



ソフトND8 ＋ ソフトND4



◆ 絞りと画角でハーフNDの境目はどう変わるのか？

フィルターを装着した状態で絞りを変えて撮影すると、絞り込んで撮影した方がハーフNDフィルターの境界がわずかにクッキリとするが、その差はごくわずか。それよりもレンズの画角による違いの方が大きい。望遠になるほどフィルターの一部分しか使われないので、ND効果は弱くなり、グラデーションも緩やかになる。中望遠〜望遠レンズでは、ハード、もしくはリバースタイプの方がハーフND効果を引き出せる。

ソフト



24mm



105mm

105mmの方がグラデーションが緩やかになり、24mmのときにはある濃度の濃い部分がほとんどなくなっているのが分かる

ハード



24mm



105mm

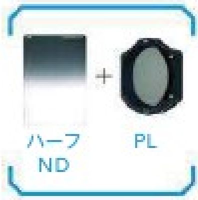
ハードでもソフトと傾向は同じで望遠になるほどグラデーションが緩やかになる。105mmではソフトの24mmによく似た傾向になる

04 » 複数のフィルターを組み合わせて使ってみよう



ソニー α7R Ⅲ／ FE 24-105mm F4 G OSS ／34mm ／
絞り優先AE(F8、1/40秒、+1.3EV)／ ISO 100／ WB：オート

PLフィルターの偏光ムラを目立たなくする



太陽の角度やレンズの画角によっては、PLフィルターの効果がほとんど得られなかったり、青空の濃さがムラになったりする。いわゆる偏光ムラだ。こうした場合には、ソフトのハーフND4フィルターを使って、青空の明るさを落とすと偏光ムラを多少補正できる。

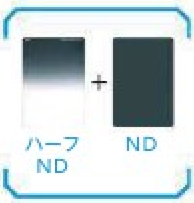


空の青さを強調したい



右側だけが濃くなり違和感がある

輝度差をなくしつつ波を滑らかに表現する



夜明けや日没前後は、空と地上の明るさがかなり異なり、ND8程度のハーフNDフィルターでは輝度差を十分に縮められないことがある。そんなときはNDを重ね掛けすると、より強い減光効果を得ることができる。構図はフィルターを外した状態の方が決めやすい。



ソニー α7R Ⅲ／
Vario-Tessar T* FE
16-35mm F4 ZA OSS ／
16mm ／絞り優先AE(F13、
13秒、−1.7EV)／
ISO 100／ WB：オート



レタッチして明暗を調整して仕上げよう

ハーフNDを使っても効果が十分得られないことがある。こういう場合はレタッチして調整してみよう。フィルターなしに比べて、撮影時にハーフNDフィルターで輝度差を縮めておくことで、レタッチによる階調へのストレスを最小限に抑えられる。



ソニー α7R Ⅲ／
Vario-Tessar
T* FE
16-35mm
F4 ZA OSS ／
16mm ／
絞り優先AE
(F13、13秒、
−1.7EV)／
ISO 100／
WB：オート

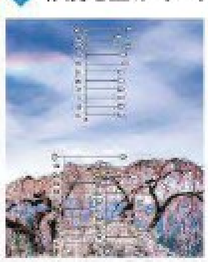
❶ ハイライトとシャドウを変更して階調をフラットにする





Photoshop CCのCamrea Rawで開く。ハイライトとシャドウを変更しできるだけ軟調にする。明瞭度も下げて、かすみの除去と自然な彩度を強調するのがポイント

❷ 彩度を上げてメリハリをつける





マスクやブラシを使って微調整してもいいが、大まかな部分補正ならNik CollectionのViveza 2のコントロールポイントが簡単だ。明るさや彩度などを微調整してイメージに近づける



ソニー α7R II／キヤノン EF16-35mm F4L IS USM ／24mm ／マニュアル露出（F8、30秒）／ ISO 400／ WB：太陽光

ハーフND 16 ソフト　ND 1000

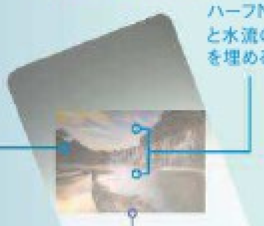
明け初める空と流麗な滝の競演

——藤原嘉騎

NiSi Soft nano GND 1.2　NiSi IR ND1000

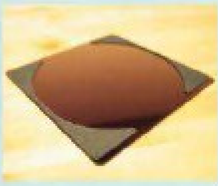
日の出直前。1日の中で最も美しく、最も空の色が変化する時間帯だ。日の出30分前には機材の設置を完了し、目まぐるしく移り変わる空を収める。暗くなりがちな滝や水面の部分と明るい空の輝度差をなくすため、❶6段分の減光を行うソフトハーフNDフィルターを斜めにして空の部分に当てている。このとき、画角の左に入る階段もND部分で覆い、人工物が目立たないようにするのがポイントだ。さらに、空に流れる雲と鏡面のように滑らかな水面を捉えるため、❷10段分の減光を行うNDフィルターを重ねて、マニュアル露出で30秒の長時間露光を行った。レンズ側にND、被写体側にハーフNDを装着し、ハーフNDの境目を調整しやすくしている。しっかりした三脚でブレを防ぐが、三脚使用時は手ブレ補正をオフにし、シャッターブレを軽減するためレリーズまたはタイマー設定で撮影を行う。

FILTER WORK



フィルターを重ねたときの反射光を防ぐ

フィルターを重ねると、フィルター間で光の反射や光線漏れが起こり、ゴーストやフレアの原因となる。光線漏れ防止のスポンジが貼り付けられたNDを使い反射光を防いでいる



FILTER

❶ ソフトハーフNDで滝との輝度差を埋め空の色を出す

今回は写したい地上の部分と空との境目が直線にならないため、境目がグラデーションになっているソフトハーフNDフィルターを選択。森や石垣には緩やかなグラデーションを重ね、目立たないようにした





TECHNIQUE

❷ ND1000で10段分減光し30秒間露光する

ハーフNDのみでも良いのだが、30秒露光すれば水面が滑らかになり人の目では見ることのできない不思議な光景を表現できる。さらに滑らかになった水鏡が空のグラデーションを美しく映し出す





ハーフND 8 ソフト / ND 400

大雲海の波に昇る太陽の光を滑らかに捉える

――廣島宗毅

フォーマットハイテック Soft Edge Grad ND0.9 / ケンコー ND400 プロフェッショナル





キヤノン EOS-1D X ／ EF16-35mm F4L IS USM ／16mm ／マニュアル露出（F8、32秒）／ ISO 100 ／ WB：オート

早朝の地平線まで広がる大雲海が、まるで波のように山肌に打ち寄せては引いていく動きを再現できないかと考えた。雲海は動きが遅いので、ND400を使って30秒の長時間露光を行い雲海の動きを捉えた。NDフィルターだけでは明るい太陽と空が露出オーバーになるため、**◆レンズ前でハーフNDフィルターを手持ちでかざし白飛びする箇所を減光させ、全体の露出が合う**ように撮影している。

FILTER TECHNIQUE

◆手持ちでハーフNDを動かし境目を自然にする

被写体により濃淡の境目が目立つこともあるハーフNDは上下にフリフリと動かすことで自然な効果が期待できる。手持ちならホルダー不要で設置が楽な上、初期投資が少なく済むのがうれしい。傷の心配がないようレンズ側にフェルトを付けている

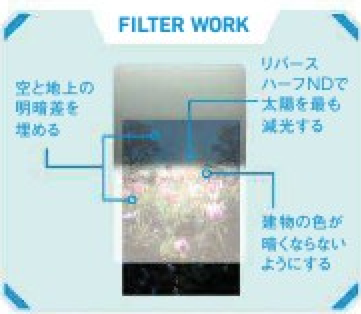


ハーフ ND 8 リバース

港町に昇る朝日を浴びるチューリップ

――山村周平

KANI HT PRO +MC Reverse GND0.9

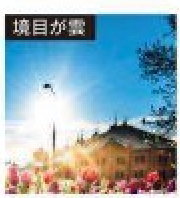


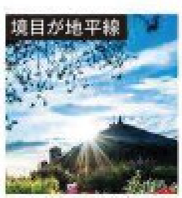
春の横浜みなとみらいには花が咲き誇る。朝日が昇る瞬間の躍動感ある花の風景と、横浜らしさを表現するため、赤レンガ倉庫の向こうに太陽が昇る場所を選んだ。空と地上の露出差を埋め、空の白飛びを防ぐためハーフNDフィルターを使用。朝日が直射していたので境目部分の減光が強いリバースタイプを選択した。**◆地上から建物が飛び出す構図となるため、ハーフNDの境目が不自然にならない位置で調整した。**

FILTER TECHNIQUE

◆ハーフNDの境目を雲の切れ目に置く

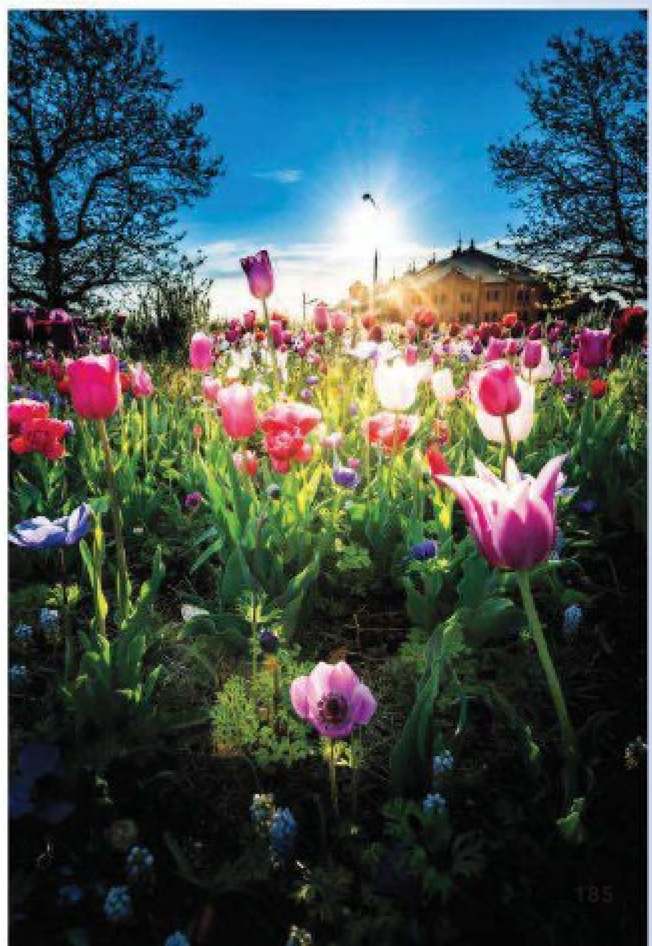
赤レンガ倉庫の向こう側に入ってきた雲を活用して境目を自然にしようと考えた。フィルターの境目を雲の切れ目付近にずらすことで、主役のチューリップはもちろん、赤レンガ倉庫の露出も確保でき、よりロケーションを表現することができる





境目を地平線に合わせると建物がつぶれてしまい、全体の印象が暗くなる

ニコン D800 ／ AF-S NIKKOR 16-35mm f/4G ED VR ／19mm ／マニュアル露出（F13、1/160秒）／ ISO 400 ／ WB：オート



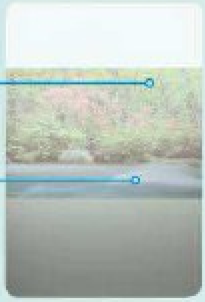
ハーフ
ND
2
ソフト

夕暮れた森で絹のような水流を描く

館野二朗　Cokin NUANCES GND2

FILTER WORK

長秒露光して
暗い森を明るく写す



ハーフNDを
川側に掛けて
水の白飛びを防ぐ

PLフィルターを前付けできるホルダーが便利

100mm幅ならほとんどのメーカーのフィルターが使えるフォーマットハイテックのホルダーを愛用。PLフィルターを前付けでき、状況に応じて着脱が簡単なところも気に入っている



森や林などで強い光がまばらに入っていると視線が落ち着かないため、なるべく露出差のない時間帯を選んでの撮影。必然的に日が落ちた後となるが、暗くなった森を明るく鮮やかに見せたい。そこでまずF6.3で撮影したが、思った以上にシャッター速度が速くなり、水流が勢い良く描かれてしまった。ここでは川の流れも重要なポイントの1つなので、水流の質感を繊細に描写したい。そのため❶**F値をF7.1まで絞って2.5秒のシャッター速度を稼ぎ、川の流れを滑らかな糸状に表現した**。しかし勢いの強い水流部分では長秒にすることで白飛びが起こってしまう。そこで❷**ソフトハーフNDフィルターを下向きに掛けて流れに沿わせ、白飛びを回避**している。グラデーションが緩やかな1段分のソフトハーフND2を選択し、対岸の草にもわずかに重ねることで、境界面が目立たないようにした。

FILTER

1 暗い場所でもF値を絞ってシャッター速度を長くする

刻一刻と夜が迫り、露出決定が難しい時間帯。森を明るく撮るだけならF値を小さくしても良いが、F6.3、ISO 320だと下のようにシャッター速度が速くなってしまった。F値を絞り、ISO感度も下げて2.5秒を稼いだ

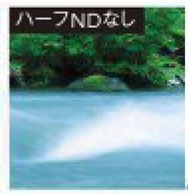

1/15秒

TECHNIQUE

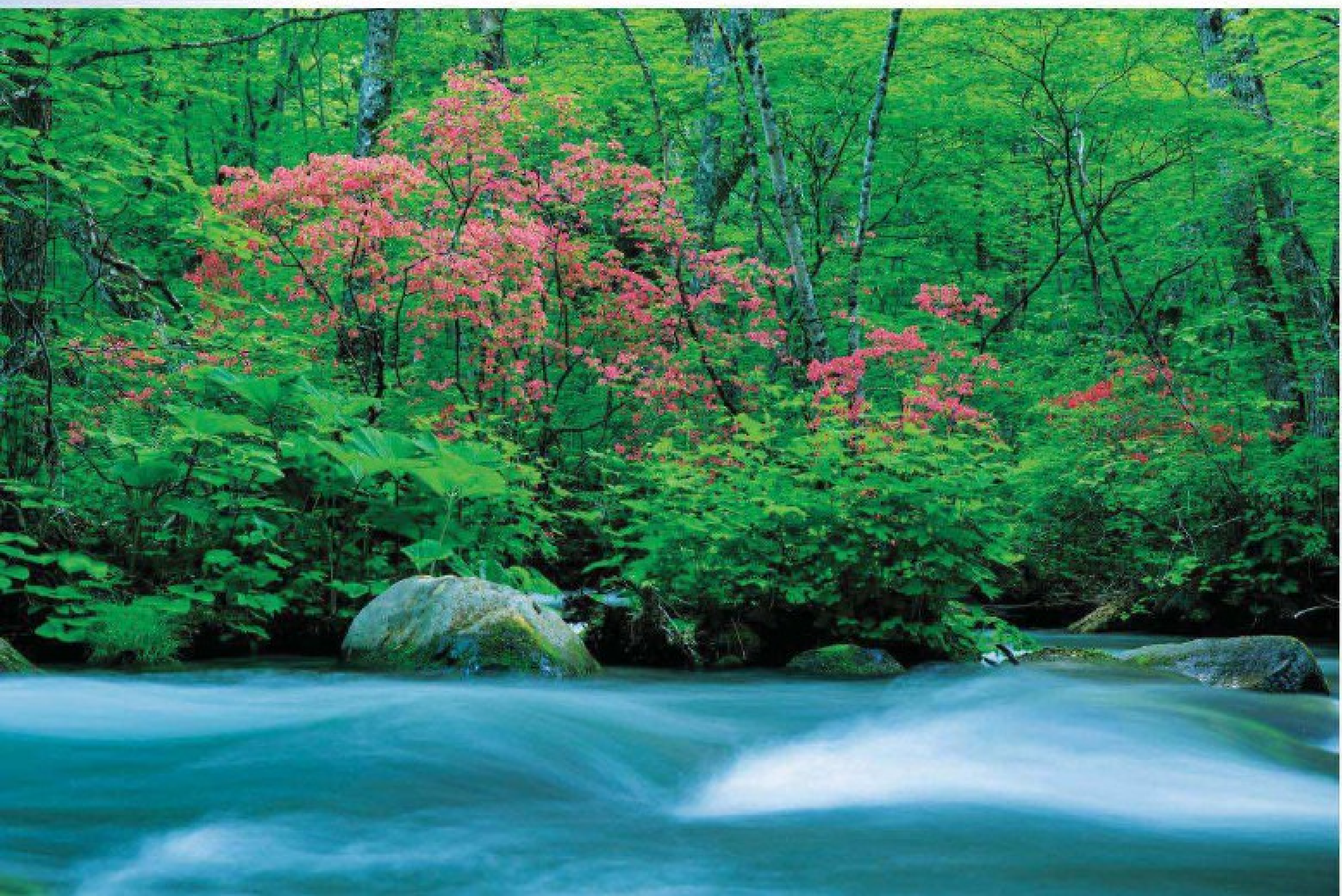
2 ハーフNDを川側に掛けて水流の白飛びを防ぐ

暗い時間帯でも白波立った水流は明るく、シャッター速度が長くなると白飛びが目立つ。1段分減光するND部分を川側に掛けることで、繊細な水の動きと質感を捉えることができた


ハーフNDあり


ハーフNDなし

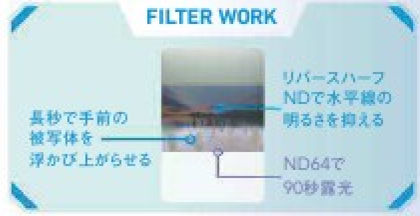
キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF24-70mm F2.8L Ⅱ USM ／65mm ／マニュアル露出(F7.1、2.5秒)／ ISO 250／ WB：オート



ハーフND 8 リバース　ND 64

夏の湖に古桟橋跡を浮かび上がらせる

―― 近井直行　NiSi Reverse nano GND 0.9　NiSi IR ND64





キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／シグマ 12-24mm F4 DG HSM | Art ／12mm ／マニュアル露出(F13、90秒)／ ISO 100／ WB：オート

夜明け前の支笏湖畔。湖面を滑らかに、かつ空のグラデーションと前景の古桟橋のディテールを残すため、NDに加えリバースタイプのハーフNDを用いた。◆構図を決めたら前景をLEDライトで照らし、一番目につく所にピントを合わせる。ピントを合わせてからNDフィルターを装着して90秒の長秒となるよう露出を調整し、最後に境目が不自然にならないよう気を付けてハーフNDを重ねた。

FILTER TECHNIQUE

◆ 手前の被写体をライトで照らしてピントを合わせる

夜明け前や日暮れ時にNDやハーフNDを使用して長秒を得る場合、ライブビューの画質が低下しやすくピント合わせが非常に困難だ。必ずフィルター装着前にピント合わせを行う。ホットシュー搭載型のLEDライトは両手を空けてピント合わせができ便利だ



▲Godox 36 LEDビデオライト

ハーフND 8 ソフト　ストライプ

かすんだ空に覆われた幻想的なポピー畑

―― 藤原嘉騎　Cokin 121s ND8　LEE ミストストライプ



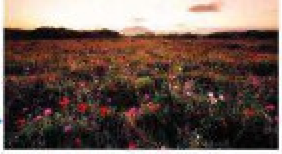
朝焼けの時間帯、かすみがかる幻想的な風景をミストストライプフィルターで表現した。まずはソフトハーフNDフィルターを空の明るい部分に掛け、空とポピー部分の露出差をなくす。◆ファインダーをのぞきながらかすみを掛けたい部分にミストストライプフィルターを合わせる。手前の被写体がかすみがかると遠近感がおかしくなるのと、望遠域では白色が濃く太く写り込むため、16mmの焦点距離で奥行きを出した。

FILTER TECHNIQUE

◆ ストライプフィルターで中央を飛ばしかすみを演出する

ミストストライプフィルターはフィルターの中央に半透明の白い線が入っており、かすみがかったような写真を表現することができる。手前に被写体がないフラットな広角域で撮影できる撮影場所が必要だが、ひと味違った幻想的な表現が可能だ

ストライプなし



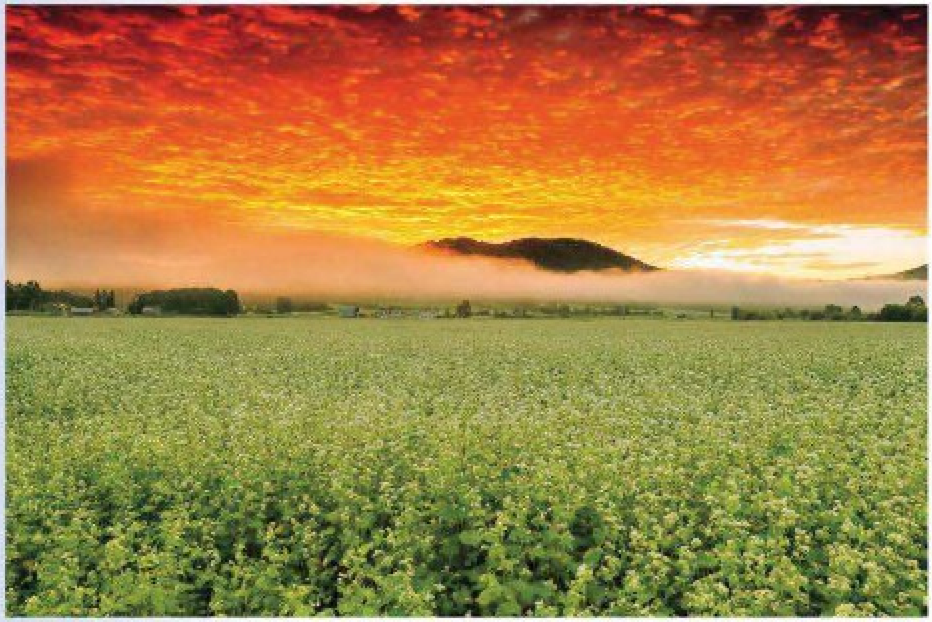


キヤノン EOS 6D ／ EF16-35mm F4L IS USM ／16mm ／マニュアル露出(F8、2.5秒)／ ISO 100／ WB：くもり

ハーフND 8 ソフト

わずかな時間しか訪れない朝焼けを一瞬で切り取る

―― 廣島宗毅　フォーマットハイテック Soft Edge Grad ND0.9



キヤノン EOS-1D X ／ EF24-70mm F2.8L II USM ／28mm ／絞り優先AE（F6.4、1/64秒、±0EV）／ ISO 800 ／ WB：オート



ドラマチックな朝焼けを迎えた幌加内町（ほろかないちょう）のソバ畑。濃い朝霧の切れ目から素晴らしい朝焼けの予感がし、霧や人家が少なくソバ畑と朝焼けが構図に入る場所を探した。運良く見つけたが時間がない。三脚は諦め、**◆カメラとハーフNDを手持ちして朝霧から空に向けて減光**。手ブレと画像処理を考えてISO 800まで感度を上げ、最低限のF値でシャッター速度を稼いだ。構図や露出はライブビューで確認している。

FILTER TECHNIQUE

◇ 10秒タイマーに設定してカメラを手持ちする

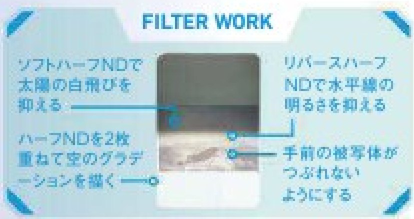
一瞬を切り取るため、まず10秒のセルフタイマーを設定。ピントと露出を合わせ、シャッターボタンを押してからライブビューで10秒以内に構図を決定し、自動でシャッターを切った。右手でカメラを持ち、左手でハーフNDをかざしている



ハーフND 8 ソフト　ハーフND 8 リバース

朝空のグラデーションと太陽を同時に捉える

―― 近井直行　NiSi Reverse nano GND 0.9　NiSi Soft nano GND 0.9



季節外れの大雪が降った室蘭チキウ岬灯台の朝。海霧の中を太陽が昇り、逆光での撮影となった。水平線付近はとても明るく、水平線より手前は暗いという輝度差がある中で、前景のディテールを残すためにハーフNDを使うが、**◆ソフトとリバースを組み合わせてハードとは違う表現を狙った**。前景の目につく所にピントを合わせ、リバースを先に装着し、水平線にしっかりと境目を合わせてからソフトを重ねた。



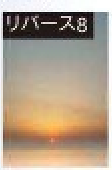
キヤノン EOS 6D ／タムロン SP 15-30mm F/2.8 Di VC USD ／15mm ／マニュアル露出（F16、1/80秒）／ ISO 100 ／ WB：オート

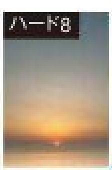
FILTER TECHNIQUE

◇ ソフトとリバースの2枚のハーフNDを重ねる

最も明るい太陽付近はソフトで、2番目に明るい水平線はリバースで減光し、中央部の白飛びを抑えつつ夜明けの空のグラデーションを残している。それぞれの特徴を生かし、ハードで一様に減光されるのとは異なる表現を狙った







ハーフND 8 ソフト　カラー

雲間からのぞく太陽をドラマチックにする青い空

――藤原嘉騎　Cokin 121s ND8　Cokin リアルブルー





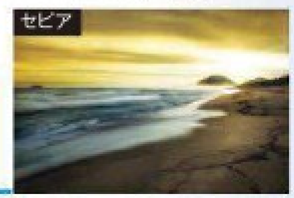
キヤノン EOS 6D ／ EF24-70mm F4L IS USM ／24mm ／マニュアル露出（F16、4秒）／ ISO 100 ／ WB：太陽光

角型フィルターは、別々の効果を重ね掛けすることで独創的な写真を作り出すことができる。カラーフィルターは独創的な色を演出するのにおすすめだ。ここではまずハーフNDを使い、長時間露光で滑らかな波の動きを表現している。さらに**◆ブルーのハーフカラーフィルターを重ねて雲の質感を重厚にし、空の色を深い青にする**ことで、雲の隙間からのぞき出した太陽をより印象的に見せている。

FILTER TECHNIQUE

◆イメージした色を作って被写体の印象を変える

カラーを変えればまた違う雰囲気の写真になる。撮影対象が完全な水平でない場合は境界を自然にするためカラーフィルターを手持ちで使用し、境界部分にカラーフィルターを合わせシャッターが下りるまでゆっくりと動かすと良い



ハーフND 8 リバース

明暗を調整して作る落日のスポットライト

――山村周平　KANI HT PRO +MC Reverse GND0.9



横浜港大さん橋から撮影。富士山に沈む夕日と週末の街のにぎわいを望遠レンズで圧縮した。ハーフNDを用いて夕日と街並みの明暗を調整して撮影し、**◆夕日が街並みをスポットライトのように照らすイメージでRAW現像する**ことで、人の動きを強調し躍動感を出した。フィルターを使用して適正露出を得た画像から引き算的に明度を落としていけば、画質を劣化させることなくそれを表現することができる。

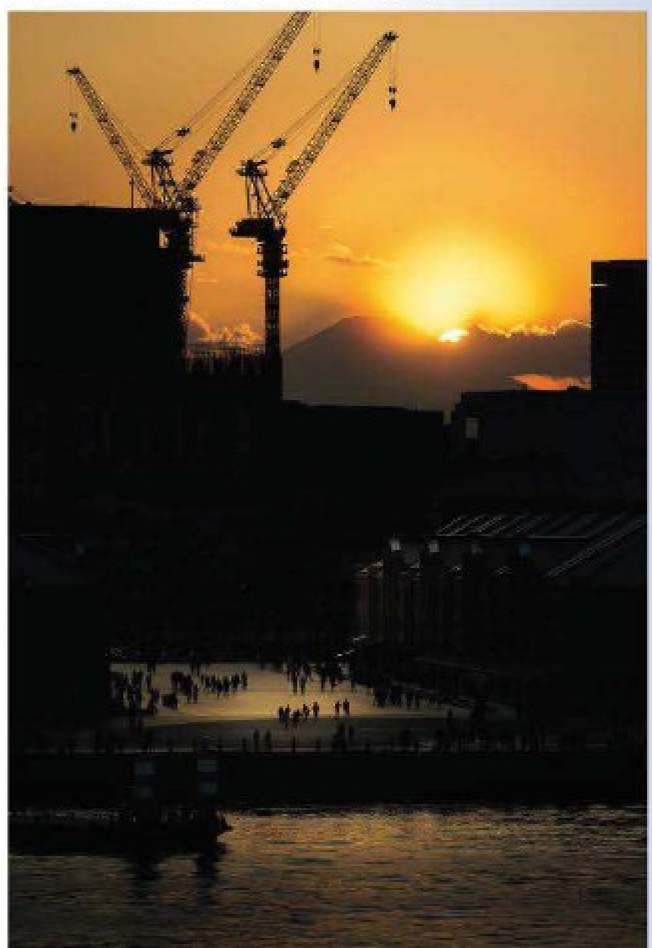
FILTER TECHNIQUE

◆RAW現像で広場以外の露出を下げる

PhotoshopのCamera Rawの段階フィルターを使って、ハーフNDで明るく撮れた前景の街全体の露光量を一度下げる。街の人の動きは強調したいため、円形フィルターを使って中央の広場を囲い、この部分だけ露光量を元に戻すことで、まるで夕日が広場を照らすスポットライトであるかのように演出している



ニコン D800 ／ AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR Ⅱ ／ 200mm ／マニュアル露出（F8、1/100秒）／ ISO 400 ／ WB：オート



3ブランド製品チェック！

ガラス製 ハーフND

価格 使い勝手 性能



ハーフNDを購入しようと思っても、ガラス製や樹脂製などたくさんの製品があって選ぶのは至難の業。ここではガラス製を扱う人気3社を紹介したい。それぞれに特徴があるが、装着時の使い勝手やホルダーの特徴が撮影時の手間にも関わるので、じっくり検討してお気に入りのメーカーを見つけてほしい。

文 • 伊達淳一

バリエーション豊富でワンタッチ着脱が便利

NiSi

価格の安さ	★★★★
装着のしやすさ	★★★★
ゴースト耐性	★★★½

フィルター



ガラス自体がやや黄みがかっているが、実写では問題ないレベルだ。赤みのあるゴーストがわずかに出る場合があるものの、価格と品質のバランスは抜群。フィルター厚は約2.04mm

● 装着価格　39,600円前後

ソフト、ミディアム、ハード、リバースとグラデーションの種類が豊富。ミディアムが他社のソフトに相当し、NiSiのソフトはより淡いグラデーションとなる。ホルダー枠とレンズ側のアダプターがワンタッチで着脱でき、高濃度NDフィルター使用時、一時的にNDフィルターを外してピント合わせや構図の確認がしやすい。ガラスが厚めの他社フィルターも比較的スムーズに装着できる。遮光スポンジはホルダー側ではなく高濃度NDフィルターに貼られている。

POINT

PLフィルター調整ダイヤルが便利



100mmホルダーには86mm径のPLフィルターが同梱されており、これをアダプターに装着できる。アダプターの側面2カ所にフィルターを回転させるダイヤルがあるので、ハーフNDフィルターやNDフィルターを装着した状態でPLフィルターの効きを調節することができる

デフォルト装着枚数が多く着脱がラク



デフォルトのフィルタースロットは3枚分。超広角レンズでホルダーを斜めにしてもケラレにくい。角型フィルターを装着する前枠はフィルターを付けたままでも枠のつまみを引っ張ればワンタッチでアダプターから着脱できて便利だ

ホルダー



▲100mmホルダー



▲150mmホルダー

取り付け方

❶ レンズにアダプターを装着する



ホルダーの装着はワンタッチなので、先にレンズ側にステップアップリングを装着したアダプターを装着する。ステップアップリングは67、72、77mmに対応

❷ つまみを引っ張ってホルダーにはめる



ホルダー側のつまみを引っ張りアダプターにはめ込む。かっちりはまったらつまみを離して固定。確実な装着を確認するのが鉄則だ

ホルダーの汎用性が高く価格のお得感も魅力

KANI

価格の安さ	★★★★½
装着のしやすさ	★★★½
ゴースト耐性	★★★

フィルター



ガラス自体の色が薄いので色かぶりしにくく、自然なグラデーションが特徴。強い光源がある場所では黄色の濃いゴーストが出ることがある。フィルター厚は約2.01mm

● 装着価格　33,100円前後

SNSや個人ブログなどの口コミで徐々に人気が高まっているブランドで、色かぶりの少なさや自然なグラデーションが得られ、価格的にもお得感があるのが魅力。太陽を画面内に入れると面間反射が出やすいレンズもあるが、同社のNDフィルターをレンズ側のスロットに併用することで低減可能だ。ホルダーはフィルターが抜け落ちないことを重視しているので、他社のフィルターは少し入れにくい。150mm幅のフィルターホルダーも充実している。

POINT

ホルダー側の遮光スポンジで反射を防ぐ



フィルター間からの迷光を抑える遮光スポンジがホルダー側に貼られており、フィルターを密着させる仕組み。出荷時に装着可能なフィルターは2枚だが、もう1枚増やせるパーツを同梱。専用PLフィルターも付属している

150mmホルダーを他のレンズで使える



レンズ専用の150mmホルダーに95、86、82、77mm径のステップアップリングを取り付けられ、複数のレンズで共用できるのがKANIの強みだ。超広角レンズ用にホルダーを購入し、径の小さなレンズにも使うことができる

ホルダー



▲100mmホルダー



▲150mmホルダー

取り付け方

❶ 先にアダプターをホルダーに固定



ホルダー側のねじを緩め、ステップアップリングを装着したアダプターをはめて固定する。ねじでの固定がやや手間取るのでレンズ装着前がおすすめだ

❷ ホルダーごとレンズに回し付ける



アダプターを装着したホルダーごとレンズに回し付ける。外すときもアダプターごと外した方が傷などの心配がない

※☆の数は最大5個　※装着価格は100mmホルダーにソフトハーフNDフィルターを1枚装着した場合の価格

ガラスのクオリティーが抜群で高級感のあるラインアップ

Cokin

価格の安さ	★★★
装着のしやすさ	★★★☆
ゴースト耐性	★★★☆

※☆はNUANCES EXTREMEの評価

現行のNUANCESシリーズに加え、6月にNUANCES EXTREMEシリーズを発売予定。どちらのシリーズも価格は高めだが、ガラスの透明度やコーティングにこだわった作りだ。NUANCES EXTREMEは強化ガラスを採用し、ガラス厚が薄くなって他社ホルダーとの親和性が向上した。ホルダーは厚みのある樹脂フィルターも装着できるが、厚み2.0mmクラスのフィルターには少し固定が緩め。ホルダー前面にPLフィルターを装着できるのが便利で、着脱も容易だ。

フィルター



NUANCES EXTREMEは約2.06mmと従来より薄くなったが、強化ガラス採用で高い耐久性を実現。側面からの内面反射を抑える墨塗り処理も施された

●実勢価格　65,200円前後

ホルダー



▲100mmホルダー



▲130mmホルダー＋ユニバーサルリング
※超広角レンズを使用する場合

取り付け方

❶ レンズにアダプターを装着



フィルター径ごとに用意されているアダプターをレンズに回し付ける。レンズ側にぴったりとはまり取り付けも行いやすい

❷ ホルダーをスライドさせてはめ込む



アダプターの外枠がホルダー側の溝に沿うようにスライドさせてはめ込む。手順は楽だが、フィルターを付けたままでは扱いにくい

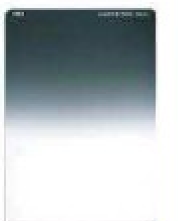
POINT

フィルタースロットの追加は工具を使わず簡単に行える



他社ホルダーでは付属の工具を使って差し込み部を追加するが、Cokinの100mmホルダー「EVOフィルターホルダー」は工具を使わず手回しのねじで簡単にフィルタースロットの数をカスタマイズできる。フィルタースロットは1～3個まで増減可能だ

NUANCES EXTREMEは強化ガラス採用で耐久性が向上



新製品のNUANCES EXTREMEでは強化ガラスを採用。撥水・撥油コート加工も施されている。グラデーションは少しソフトになり、リバースやセンターを追加。透明部分で面間反射が起こりやすくなったがND部分でのゴーストは目立ちにくくなっている

レンズ専用ホルダー一覧

NiSiとKANIはレンズ専用の150mmホルダーが充実 Cokinはユニバーサルリングで超広角レンズに対応

各社100mmホルダーはレンズアダプターおよびステップアップリングでさまざまなフィルター径に対応できるが、前玉が突出していてフィルターを取り付けられない超広角レンズではレンズ専用の150mmホルダーを使用する。Cokinはユニバーサルリングでこれに対応することになる。NiSiとKANIでは右の通りレンズ専用ホルダーをラインアップしている。

	NiSi	KANI
オリンパス M.ZUIKO DIGITAL ED 7-14mm F2.8 PRO	○	○
キヤノン EF11-24mm F4L USM	○	○
キヤノン EF14mm F2.8L II USM	○	−
キヤノン TS-E17mm F4L	○	−
コシナ ZEISS Distagon T* 2,8/15	−	○
コシナ フォクトレンダー HELIAR-HYPER WIDE 10mm F5.6 Aspherical	○	−
サムヤン 14mm F2.8 ED AS IF UMC	○	○
シグマ 12-24mm F4 DG HSM | Art	○	○
シグマ 14mm F1.8 DG HSM | Art	○	○
シグマ 14-24mm F2.8 DG HSM | Art	−	○
シグマ 20mm F1.4 DG HSM | Art	○	○
ソニー FE 12-24mm F4 G	○	○
タムロン SP 15-30mm F/2.8 Di VC USD	○	○
トキナー AT-X 16-28 F2.8 PRO FX	○	−
ニコン AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED	○	○
ニコン PC NIKKOR 19mm f/4E ED	○	−

PRICE LIST

※5月上旬時点のアマゾン価格による

NiSi

ハーフND		サイズ（mm）	
種類	濃度	100×150	150×170
ソフト	4 / 8 / 16 / 32	18,800円	27,800円
ミディアム	4 / 8 / 16	18,800円	27,800円
ハード	4 / 8	18,800円	27,800円
リバース	8	18,800円	29,600円
	16	18,800円	

- 100mmホルダー スタンダードセット　20,800円
  （PL、82mmアダプター、67/72/77→82mmステップアップリング）
- 100mmホルダー ランドスケープセット　25,000円
  （NC PL、82mmアダプター、67/72/77→82mmステップアップリング）
- 150mmホルダー　19,400円～
- 100mm フィルターケース（6枚収納）　5,200円
- 150mm フィルターケース（6枚収納）　5,300円
- 角型フィルター初級セット　70,000円
  （ソフト、ND、PL、100mmホルダー、82mmアダプター、67/72/77mmステップアップリング、ケース、バッグ、クリーナーセット）
- 角型フィルター中級セット　100,000円
  （ソフト、リバース、ND×3、PL、100mmホルダー、82mmアダプター、67/72/77mmステップアップリング、ケース、バッグ、クリーナーセット）
- 角型フィルター上級セット　140,000円
  （ソフト、ハード、リバース、ND×4、PL、100mmホルダー、82mmアダプター、67/72/77mmステップアップリング、ケース、バッグ、クリーナーセット）

KANI

ハーフND		サイズ（mm）	
種類	濃度	100×150	150×170
ソフト	4 / 8 / 16	17,300円	26,300円
ハード	8	17,300円	26,300円
リバース	4 / 8 / 16	17,300円	26,300円

- 100mmホルダー　15,800円
- 100mmホルダーセット　19,300円
  （PL、82mmアダプター、67/72→82mmステップアップリング）
- 150mmホルダー　19,300円～
- 150mm対応レンズ専用アダプター　8,800円～
- フィルターケース（100/150mm対応）ソフトタイプ 角型フィルター用　3,480円
- フィルターケース（150/170mm対応）ソフトタイプ 角型フィルター用　4,800円
- 100mmフィルターセット　80,800円
  （ソフト、リバース、ND×2、PL、100mmホルダー）
- 150mmフィルターセット　94,800円
  （ソフト、リバース、ND×2）

Cokin

※ハーフNDはNUANCE EXTREMEの販売予定価格

ハーフND		サイズ（mm）	
種類	濃度	100×143.5	130×170
ソフト	4 / 8 / 16	45,360円	62,640円
リバース	4 / 8 / 16	45,360円	62,640円
センター	4 / 8	45,360円	62,640円

- 100mmホルダー（EVOフィルターホルダー L）　17,062円
- 130mmホルダー（X-PROフィルターホルダー）　8,727円
- 100mmホルダー用アダプターリング　2,827円～
- 130mmホルダー用アダプターリング　6,500円～
- ユニバーサルリング　9,360円

from STAFF

—— An Editor's Postscript

佐久間太郎 Taro Sakuma

▶ パナソニック LUMIX G9 PRO



「カープは鯉の季節まで」と言われた時代がありましたが現在首位。3連覇のかかった今年も出だしは良さそう。先発投手の調子が悪い中でも打ち勝てるのが今の強さ。同郷で思い入れのある丸佳浩の離脱がショックでしたが、若手がすくすくと育つのが見ていて楽しいです。広島はさすがに遠くとも、馴染みの神宮球場で、きっと今年も雨に濡れたウィンナー盛りを食べに行くと思います。それでは、交流戦明けに自分も上昇気流に乗っていることを祈念して長いシーズン頑張ります。

杉本律美 Ritsumi Sugimoto

▶ ニコン D500



今月は刺激的な企画が盛りだくさん。まずはデジタルカメラマガジンDAY、取材する側のはずが自分も夢中で撮影してしまいました。煙突を入れようと欲張ったせいか構図に納得がいかず、先月の特集に習ってレタッチを。第2特集ではハーフND活用術をたっぷり学び、特別対談ではどうして写真を撮るのか、という私達にとって根源的な問いに改めて向き合った気がします。モノクロ連載が最終回を迎える中、光学入門は続投に。次号からの新連載にもご期待ください♪

白石由佳 Yuka Shiraishi

▶ キヤノン EOS 80D



鉄道博物館で旧型車両に向かってカメラを構える1歳の甥。誰が教えたわけでもなく、ファインダーのないミラーレス機をぴったりおでこにくっつけて踏ん張る。その目には何も見えていないはずなのに巨匠の雰囲気を醸し出します。みうらじゅんさんの写真集「アイノカテゴリー」には、哀愁漂うおじさまたちが一様に同じ腰つきでカメラを構える姿が収録されていましたが、日本男子にはDNAレベルで「カメラの構え方」が刷り込まれているのかもしれないですね。

武間俊樹 Toshiki Takema

▶ ヨンヌオ YN14mm F2.8N



小誌5月号の記事を読んで以来、気になる存在となったヨンヌオの14mm。18mmからのズームしか持たない自分には未知の領域! シャープな写りが楽しくてすっかりはまりました。日常使いには向かないレンズですが、57,000円なら……。このレンズを携えて東京の絶景が楽しめる人気スポット、世界貿易センタービル展望台に行きました。駅直結という抜群の立地に加え、ぐるりと一周できるのが魅力! 私は写真に集中しましたが、ムーディーな館内はデートにも良さそうです。

上田大輔 Daisuke Ueda

▶ リコー GR



実家に帰ってやってきたのはイチゴ狩りとワインの工場見学。いわゆる試飲ですな。山梨県出身ということもあるのかないのか分からないけど、ワインはあまり酔うことなく飲めます。飲むのはもっぱら赤ワインで、一時期コンビニの格安ワインにはまってボディや飲みやすさなどをエクセルでまとめていたのですが、一周したあとその評価を信じて買ってみたら大しておいしくなかったということがあり、それ以来、ワインの味は一期一会として楽しむようにしています。

島村正人 Masato Shimamura

▶ ニコン D500



浅草に行ってきました。昼間は観光客などでとても混んでいますが夜は少し静かになりスナップ撮影にはいい時間帯になります。浅草駅は洋風の外壁をしており、関東では初の百貨店併設ターミナル駅です。がそこは浅草、駅のそばには多くの飲み屋がありついつ三軒もハシゴをしてしまいました。三軒寄っても5,000円以内なのはさすが浅草価格ですね。仲見世通り、墨田川など昼間の風景とまた違う顔を見せる夜の浅草も魅力的なのでみなさんもぜひ行ってみてください。

牧浦裕介 Yusuke Makiura

▶ 富士フイルム X-T2



今号でいくつかのモノクロ連載が最終回です。中原さんの「写真とカメラのワークショップ」は、初心に帰ってもう一度自分らしい視点を考えようという話。別所さんの「写真と文学」は、自己と他者の認識の差異はどうしたって埋められないけれど、写真や文学は自分が世界をどう認識しているかを示す窓になり得るという話。前者はテクニカル、後者はメンタルの話ですが、自分の視点をどう示すかという点で2つは共通しています。その他最終回も素敵なのでぜひ読んでみてください。

福島 晃 Akira Fukushima

▶ ソニー α7R Ⅱ



GWは東京カメラ部で楊向真さんと藤原嘉騎さんと対談、さらに川崎市市民ミュージアムで中井精也さんとトークイベントを行いました。最近、土日は編集作業よりもトークイベントの方が多いのではないかと疑ってしまうほど。書いたり、話したりすることは嫌いではないけれども、やっぱり撮影している方が楽しい。という訳で、仕事と称して書籍用の比較カットを撮って来ました。露出を変えたり、WBを変えたり、シャッター速度を変えて撮る作業用ですが、それでも楽しい1日でした。

デジタルカメラ
マガジン